

# 北陸自動車道遺跡調査報告

## ——上市町土器・石器編——

神田遺跡	飯坂遺跡
正印新遺跡	江上A遺跡
下経田遺跡	江上B遺跡
中小泉遺跡	東江上遺跡

1982年3月

上市町教育委員会

# 北陸自動車道遺跡調査報告

## ——上市町土器・石器編——

神田遺跡	飯坂遺跡
正印新遺跡	江上A遺跡
下経田遺跡	江上B遺跡
中小泉遺跡	東江上遺跡

1982年3月

上市町教育委員会



玉類



小形仿製鏡



弥生時代中期の土器



弥生時代後期の土器



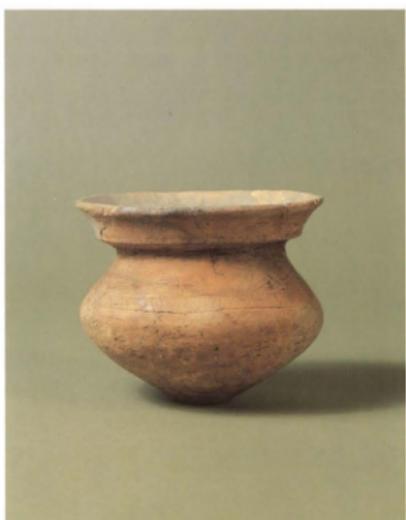
弥生時代後期の小形土器



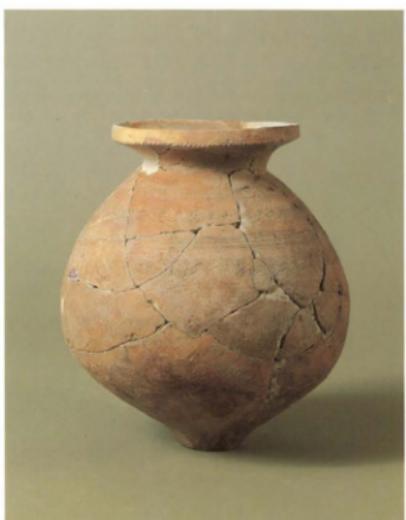
長 頸 壺



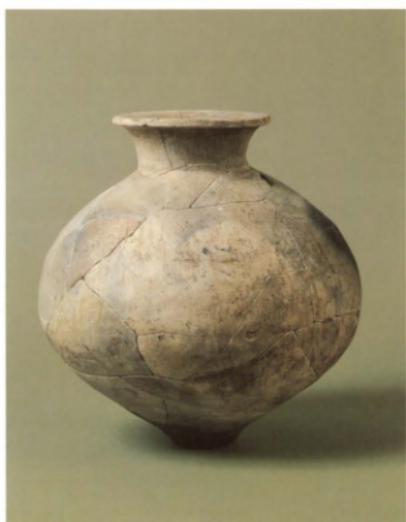
台 付 壺



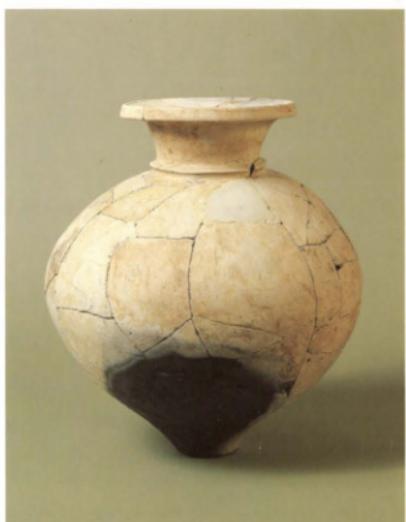
壺



壺



壺



壺

# 北陸自動車道遺跡調査報告

## —— 上市町土器・石器編 ——

神田遺跡	飯坂遺跡
正印新遺跡	江上A遺跡
下経田遺跡	江上B遺跡
中小泉遺跡	東江上遺跡

## 例　　言

1. 本書は、高速自動車国道北陸自動車道（上市工事区）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、昭和53・54年度に実施し、報告書は、遺構編、土器・石器編、木製品・総括編の三部作として編集する計画であり、56年度に第一分冊遺構編を刊行している。本書は、第二分冊の土器・石器編である。
3. 本書に収録したのは、富山県中新川郡上市町に所在する下記の八遺跡である。

かくでん　しりょうかんしん　しきょうじゆ　せきとう　いわがれ　たんざか　じょうじ　じょうじょう

　神田遺跡・正印新遺跡・下経田遺跡・中小泉遺跡・飯坂遺跡・江上A遺跡・江上B遺跡・東江上遺跡。
4. 本書の刊行は、日本道路公団（新潟建設局）の委託を受けて、上市町教育委員会が行い、出土遺物の整理及び本書の編集は、富山県埋蔵文化財センターが実施した。
5. 本書の作成にあたって、遺物整理・実測・製図などの業務は、下記の者が担当した。

富山県埋蔵文化財センター　橋本　正・岸本雅敏・狩野　睦・酒井重洋・宮田進一・神保孝造・久々忠義・橋本正春（以上調査担当者）、上野　章・山本正敏・池野正男・松島吉信。

有馬明吉・大丸久仁・阿部浩一・山村郁明・荒井和樹・栗山周哉・栗山都也・麻柄幸子・高木場万里・杉崎容子・土田節子・土田ユキ子・坪田和子・坪田信子・矢後知恵子・山口チズコ・清水由美子・須藤順子・中溝治代・小竹富佐子・山口玲子
- 富山大学学生：賛　元洋・北野博司・楠　正勝・吉田秀則・荒川　史・木原　光・田上浩幸・遠山昌和・中川涉・西田昌功・林　浩明・原田和幸・松田知幸・森　秀典・横山貢広・宮田佐和子・甫出そのみ・武藤　秀・吉田由香・坂口美智子・江幡和子。
6. 本書は、調査担当者が編集・執筆を行い、執筆分担は下記のとおりである。

I　宮田進一、II　橋本正春、III　酒井重洋、IV　狩野　睦、V　岸本雅敏、VI　久々忠義、VII　宮田進一、橋本正春、VIII　岸本雅敏。
7. 本書に掲載した写真的撮影は、株式会社チューエツ写真部に委託した。
8. 写真図版の縮尺は、原則として三分の一である。それ以外の縮尺のものは、それぞれに別に記した。
9. 遺物番号は、遺跡単位で土器・石器・鉄器ごとに一連番号を付した。
10. 遺物の出土区・出土遺構については、すでに刊行した『北陸自動車道遺跡調査報告——上市町遺構編——』を参照されたい。
11. 遺物の分類は、遺跡ごとに行い、統一をはかけていない。
12. 遺物整理、本書の作成にあたって、多くの諸機関・諸氏から指導と助言をうけており、それは今後も続くはずである。したがって、この点に関する記述は、総括編において行うのが適切であると考え、本書では割愛した。
13. 本書の標題中の道路名称は、引用の煩雑さを避けるため、略称を用いている。

## 目 次

I	下経田遺跡	1
II	神田遺跡	2
III	正印新遺跡	4
IV	中小泉遺跡	7
V	飯坂遺跡	9
VI	江上A遺跡	11
VII	江上B遺跡	16
VIII	東江上遺跡	19

# 表

表 1 神田遺跡珠洲觀察表	26	表11 飯坂遺跡土師器杯觀察表	39
表 2 神田遺跡土師質小皿觀察表	27	表12 江上 A 遺跡弥生土器觀察表	40
表 3 正印新遺跡弥生土器・土師器觀察表	28	表13 江上 B 遺跡土師器觀察表	64
表 4 中小泉遺跡弥生土器・土師器觀察表	33	表14 江上 B 遺跡珠洲觀察表	68
表 5 中小泉遺跡須恵器觀察表	35	表15 江上 B 遺跡土師質小皿觀察表	70
表 6 中小泉遺跡珠洲觀察表	35	表16 江上 B 遺跡渡來銭觀察表	71
表 7 中小泉遺跡土師質小皿觀察表	36	表17 東江上遺跡須恵器觀察表	75
表 8 飯坂遺跡弥生土器觀察表	37	表18 東江上遺跡土師器觀察表	80
表 9 飯坂遺跡須恵器觀察表	39	表19 東江上遺跡珠洲觀察表	81
表10 飯坂遺跡珠洲觀察表	39		

# 図版

図版 1 下経田遺跡	図版21 中小泉遺跡
図版 2 神田遺跡	図版22 中小泉遺跡
図版 3 神田遺跡	図版23 中小泉遺跡
図版 4 神田遺跡	図版24 中小泉遺跡
図版 5 神田遺跡	図版25 飯坂遺跡
図版 6 神田遺跡	図版26 飯坂遺跡
図版 7 正印新遺跡	図版27 飯坂遺跡
図版 8 正印新遺跡	図版28 飯坂遺跡
図版 9 正印新遺跡	図版29 飯坂遺跡
図版10 正印新遺跡	図版30 江上 A 遺跡
図版11 正印新遺跡	図版31 江上 A 遺跡
図版12 正印新遺跡	図版32 江上 A 遺跡
図版13 正印新遺跡	図版33 江上 A 遺跡
図版14 正印新遺跡	図版34 江上 A 遺跡
図版15 正印新遺跡	図版35 江上 A 遺跡
図版16 正印新遺跡	図版36 江上 A 遺跡
図版17 正印新遺跡	図版37 江上 A 遺跡
図版18 正印新遺跡	図版38 江上 A 遺跡
図版19 中小泉遺跡	図版39 江上 A 遺跡
図版20 中小泉遺跡	図版40 江上 A 遺跡

图版41	江上A遗跡	图版69	江上A遗跡
图版42	江上A遗跡	图版70	江上A遗跡
图版43	江上A遗跡	图版71	江上A遗跡
图版44	江上A遗跡	图版72	江上A遗跡
图版45	江上A遗跡	图版73	江上A遗跡
图版46	江上A遗跡	图版74	江上A遗跡
图版47	江上A遗跡	图版75	江上B遗跡
图版48	江上A遗跡	图版76	江上B遗跡
图版49	江上A遗跡	图版77	江上B遗跡
图版50	江上A遗跡	图版78	江上B遗跡
图版51	江上A遗跡	图版79	江上B遗跡
图版52	江上A遗跡	图版80	江上B遗跡
图版53	江上A遗跡	图版81	江上B遗跡
图版54	江上A遗跡	图版82	江上B遗跡
图版55	江上A遗跡	图版83	江上B遗跡
图版56	江上A遗跡	图版84	江上B遗跡
图版57	江上A遗跡	图版85	江上B遗跡
图版58	江上A遗跡	图版86	江上B遗跡
图版59	江上A遗跡	图版87	江上B遗跡
图版60	江上A遗跡	图版88	江上B遗跡
图版61	江上A遗跡	图版89	江上B遗跡
图版62	江上A遗跡	图版90	江上B遗跡
图版63	江上A遗跡	图版91	東江上遗跡
图版64	江上A遗跡	图版92	東江上遗跡
图版65	江上A遗跡	图版93	東江上遗跡
图版66	江上A遗跡	图版94	東江上遗跡
图版67	江上A遗跡	图版95	東江上遗跡
图版68	江上A遗跡	图版96	東江上遗跡

# I 下経田遺跡

## 1. 出土遺物

遺物はすべて遺構に伴なわない。弥生時代後期末～古墳時代はじめの遺物はX18～26, Y23～26区に集中して出土しているが、他の遺物は散在した出土状況を示す。

### A 縄文時代（図版第1の1～12）

1は波状口縁の深鉢で、口縁部に細い2段RLの縄文を施す。2は浅鉢で、口縁部に2条の幅広沈線を引き、屈曲部に連続刻みを施して円形圧痕文をそえる。3は外反する口縁を持つ浅鉢である。4は胸部屈曲する深鉢で、口頭部に3条の幅広沈線を施し、その間を2段RLの縄文をこらがす。5は胴屈曲部に1条の幅広沈線を施す深鉢である。6は注口土器の頸部で、平行な沈線をS字状沈線で区切り縄文を施す。7は波状口縁の波頂部で、沈線で楕円形を描く。8は2段RLの縄文が縱走する深鉢の口縁部である。9はヘラで内外面を丁寧に仕上げた深鉢の口縁部である。10は沈線で縄文帯と無文帯をつくる深鉢の胴部である。11は胴上半に沈線と磨消し縄文を施し、胴下半に2段LRの縄文を施す壺である。12は接合部が擬口縁状になっている深鉢である。1～7は後期後半に属し、1・4・6は井口第1期（橋本他1980）、2・3・5は井口第Ⅲ期、7は井口第Ⅳ期にあたる。11は後期前半にあたるか。

### B 弥生時代後期後半～古墳時代初頭（13～22）

13は口径16.5cmの鉢で、口縁内外面にヨコナデ、胴部内外面にハケメを施す。口縁は外反し、外底面はヘラで丁寧に仕上げる。14は口径15.8cmの甕で、口縁内外面にヨコナデ、胴部外面にハケメ、内面にナデを施す。15は口径11.5cmの壺で、口縁部にヘラミガキを行う。16は口径13.9cmの甕で、直立する口縁部に6条の凹線文を施す。17は口径14cmの壺で、口縁部は外反し、端部を内に直立さす。18は口径19.6cmの甕で、口縁内外面にヨコナデを、胴部にハケメを施す。19は口唇部を両端に張り出でて内傾気味になる甕の口縁である。20は壺の口縁で、内外にハケメを施す。22は底部で、外側・外底面にヘラケズリを、内面にハケメを施す。上記の土器群は滑川市魚駒遺跡（上野1973）。魚津市佐伯遺跡（上野1979）に類例が求められ、当該期に属する。

### C 平安時代（23・24）

23は口径10.8cm、器高3.1cmの須恵器杯で、体部は外へ開き、外底面にヘラキリ痕を残す。24は高台罐部をやや内にまげ、体部はしっかり立ち上がる須恵器杯である。23・24は立山町法光寺谷1号窯（藤田1974）・佐伯遺跡（山本1979）に類例があり、9世紀前半に属するものと考えたい。

### D 中世（25～37）

土師質土器（25～29） 口径により25・26、27・28、29と3つに分かれる。25は口縁部外面にヨコナデを行なうが、段を持たず、罐部が丸くなる。26～28は口縁部内外面をヨコナデをする。体部には段をもたない。29はやや内脛ぎみの口縁の罐部に面を取る。25～28は16世紀に比定したい。<sup>註1</sup>

珠洲（30～37） 30～33は内面にオロシメを持つ鉢である。31・32は口縁端部に7条の横目波状文を施す。34・36は細い条線状のタクキメを持つ甕の胴部である。珠洲編年（吉岡1981）では、30・31はV期（15世紀後半）に属す。

## 2. まとめ

遺物は、縄文時代後期、弥生時代後期後半～古墳時代初頭、平安時代はじめ、室町時代、安土桃山時代のものがある。その時代的中心は、弥生時代後期後半～古墳時代初頭にあると考える。本遺跡は縄文時代～近世初めまでの間、遺物散在地としての性格を持ちつづけていたことがわかる。

（宮田進一）

註1 富山市白鳥城跡では、26～28の類例が16世紀後半に位置づけられている（藤田1981）。石川県土師質土器の編年によれば、25～28の類例が16世紀前葉～中葉に比定されている。（西柳1980）。

## II 神田遺跡

### 1. 出土遺物

遺物の種類では、土器・石器・その他がある。土器は、土師器（古墳時代）・須恵器（奈良～平安時代）・珠洲・土師質小皿・中国製磁器・越前（中世）・陶磁器類（中～近世）があり、石器は砥石（中世）がある。その他では、中世に属する鉄滓・フィゴ羽口などがある。遺物は、できるかぎり遺構ごとにまとめ、実測不可能なものでも写真で示すようにした。遺物量は、他遺跡と比較すると少ない。土師器・須恵器は、表面が摩滅しており、他から流されてきた可能性がある。中世の遺物は、中央建物群を中心に西寄りに集中していた。近世以後の遺物は、1・2層（表土）から出土した。

#### A 古墳時代（図版2の31～38）

古墳時代に属するものでは、土師器の壺（31）・甕（32・35）・高杯（34・36・37）・蓋（33）・鉢（38）などがあり、すべて摩滅した小破片である。31は、壺の底部で、35は「く」の字口縁の甕である。33は、蓋と考えた。これらの土器は、器形などから古墳時代と考えたい。

#### B 奈良～平安時代（図版2の1～24）

ここで扱うものは、須恵器と土師器であるが、後者は数点で、しかも小破片であるため、図示、説明は略した。

須恵器は、杯身（1～4・6～12）・杯蓋（13・14）・甕（15）・甕（17～22）・高杯（16）の器種があり、土師器と同じ出土状況である。1～4・11・12は、高台のつく杯身で、6～10は無高台のものである。1は、大型品である。杯蓋は、つまみがつくと思われ、口縁端部内面は丸く終わる。15は、甕体部破片で、クシ状具による連続波状文を持つ。器肉は、薄く、胎土・焼成は良い。17～23は、甕体部破片で、17は壺かもしれない。これらの須恵器の時期は、7C後半～8C前半と考えている。1は、7C中頃かも知れない。

土師器甕胴部破片24は、古墳時代の土師器と別に扱った。時期は不明であるが、須恵器に伴うと考えている。

5は、高台のつく杯で、図などは須恵器の項で扱っているが、次に述べる特徴から須恵器と断定はしていない。<sup>内</sup>底面に釉がみられる。高台は、長く直線的に外方へ伸び、須恵器杯1～4などは異なる。

#### C 中世（図版3～5）

遺物の種類では、土器・石器・その他があり、土器は珠洲・土師質小皿・磁器がある。石器は、砥石がある。

珠洲には、甕・壺・鉢の器種があり、法量や器形などから細分できる。甕（44・45・49）は、他の器種に比べて大型である。44・45は、口縁端部が薄く伸び、折り返すように下方へ垂れ下がる。壺は、中型壺（42・46）と小型壺（47・48）の2種がある。中型壺は、体部最大径が上位にあり、頸部が長く上に伸びる器形をとる。41～43は、内面にアテ具痕が残っている。41・43は車輪状で、42は同心円文である。小型壺も同様の器形となる。47は、肩上部にクシ状具による連続波状文をもち、底部は回転糸切りで、48は頸部下に連続刺突文をめぐらす。鉢は、内面にオロシメをもつ擂鉢（50～54）とそうでないもの（こね鉢）（55～63）に分ける。擂鉢は、小型品が多く、細かなオロシメの間隔は広く、また、オロシメが交差する。器形は、平坦な底部から斜め上方に伸びる体部がそのまま口縁となり終わる。体部と口縁部が内側するものと直線的となる2者がいる。口縁端部は、垂平で凹むものが多く、口縁部内外面は指によるヨコナデで凹む。底部は、板目でカキ消す。51は、オロシメが密であるが、互に交差する。54は、口縁端部が丸くふくらみ、太いオロシメ間隔は密である。こね鉢は、擂鉢と同じ器形となるが、口縁端部が平坦なものに丸味をもつ（57・61・62・65）がある。口縁端部が大きく内側するもの、直線的に広がり大型となるものもみられる。50は、口縁端部と体部外面に連続波状文をもつ。56は、回転糸切り底で、他のものは板目でカキ消している。鉢の中で片口がみられるものは、少ないとと思われる。66～71は、壺・鉢の底部である。68・71は、回転糸切り底で、67は回転

糸切り底で、鉢底部と考えられる。49は、甕体部破片で、四角の区画の中に「十」字を浮び上がらせる刻印を押す。

これらの特徴をまとめると、甕は口縁が薄く下方へ垂れ下がる。中型壺は、肩が張る器形である。また、内面にアテ具痕を残すものがある。小型壺は、肩部に波状文・刺突文をめぐらす。擂鉢は、小型品が多く、細かいオロシメが広い間隔をもって平行あるいは交差してみられる。こね鉢は、擂鉢と同じく、平坦な底部から直線的に開き口縁となるものと内側する器形となる。口縁端部は、凹む・丸い・平坦なものがある。底部は、壺・鉢で回転糸切り底と静止糸切り底の両者がみられ、前者が多い。となる。この特徴は、珠洲編年〔吉岡1981〕の第1段階第I期にあたる。その中で、41~43の内面にアテ具痕を残すものについて吉岡氏は、I期の中でも特に古く初期のものとしている〔吉岡1981〕。鉢50・51・62~65は、II期並行のものとし、ここでは珠洲の大半のものをI期としておく。鉢54は、III期と考えている。

土師質小皿は、器形・法量から4大別できる。口径が小さく浅い器形で、口縁端部が外開きするもの。丸い体部に平坦な糸切り底がつき、口縁部が直立するもの。浅い器形で、口縁部が直立するもの。口径が大きく、深い器形となり、端部がさらに細かく分かれるもの。以上である。81・82・131は回転糸切り底である。口縁部は、ヨコナデされ端部を面取りするもの、丸くするものなどがあるが、ここでは細分しなかった。部厚いつくりのものは少ない。

これらの土師質小皿は、珠洲と同時期と考え、第1段階（I~II期）を想定している。県内では、入善町じょうべのま遺跡〔橋本1974〕に類似するが、しかし、近接し、非常に近い時期に當なされたと考えられる立山町若宮B遺跡〔狩野他1982〕とは類似点が少ない。これが、時期差を表わすのかどうかは不明である。

128は、盤状で脚（高台）のつく器形をもち、土師質小皿に似るものである。ここでは同期のものとして扱った。

磁器は、青磁と白磁の2種があり、器種では、碗・杯・皿・合子蓋がある。青磁碗（131~136・137・140）は、口縁端部が屈曲して外開きし、内面に文様をもつものと口縁端部が変化しないものがある。青磁皿（137・138）は、底面が平坦で口縁端部が斜め上方に伸びる器形である。杯は、口縁部が斜め上方に伸びる器形の147と口縁が広く開く148がある。148は断面にウルシが付着しており、色調は黄白色である。合子蓋141は、白磁で、シノギ文が外面にみられ、小型である。その他に次の特徴がある。青磁碗では、外底面にゆをかけない。青磁皿は、クシ状具による列点文・猫搔文・シノギ状の文様がみられる。前者は、龍泉窯系、後者は、同安系青磁とみる。皿は、青磁碗と同様の文様をもち、同安窯系とみられる。これらの磁器類は、珠洲と同時期に使用され、九州の編年では、III期1小期〔横田・森田1978〕にある。その他のもとのとして、砥石・スリ石？・フイゴ羽口・鉄津があり、いずれも中央建物群近くから出土し、珠洲と同時期と考えられる。

#### D その他の時代

越中瀬戸がある。器種では、湯飲み茶碗・茶碗・皿・擂鉢などがあるが、すべて破片である。

中世に属する遺物をまとめると次のようになる。完形品は少ないので、他時代の遺物に比べて量的に一番多く、神田遺跡の中心時期といえる。遺物の種類として、珠洲・七姫質小皿・磁器その他があり、これらすべてが同一時期ではない。珠洲では、I~III期までの資料があり、中心時期はI期である。土師質小皿は、珠洲I・II期並行とみる。磁器は、九州編年ではIII期1小期であるが、珠洲I・II期にわたり使用されたと考える。内面にアテ具痕を残す初期の珠洲がある。となる。

立山町若宮B遺跡とは、珠洲の甕の接合資料がある・建物群のあり方・遺跡同志が接近する・珠洲、磁器などが類似する点などから密接な関係にあったと考えられるが、珠洲の中心時期・土師質小皿の器形や特徴がやや異なる。これらについては、今後の課題としたい。

（橋本正春）

註1 この点に関しては、吉岡康鶴氏の教示による。

註2 この点について、狩野一聰・酒井重洋両氏の指摘による。また、神田遺跡と若宮B遺跡の共通性などについては、橋本 正氏の指摘、教示による。

### III 正印新遺跡

#### 1. 出土遺物

出土遺物には、縄文時代晚期、弥生時代前・中・後期、古墳時代初頭、平安時代、中・近世のものがある。

遺物は、大きく下層から7・8層に弥生時代前・中期、3・5層に弥生時代後期～古墳時代初頭、その上層から、中・近世の陶器の順で出土した。出土遺物は、時代ごとに大別しその特徴を示すこととした。また、土器は、器種ごとの大別とし、種類の細別は、示唆するにとどめた。遺構内の遺物は、遺構ごととせず分類では一括している。出土遺構等は、表を参照していただきたい。

##### A 縄文時代の遺物

縄文時代の土器（64）、2～4単位の工字文様を施し胴下半は縄文（R L）となる。口縁は、5～6単位の突起が付けられ小波状となる。大洞A'式期〔林1965〕かそれ以降のものと思われる。

##### B 弥生時代の遺物

弥生時代前期の土器（25）壺の口縁部で端部に貝殻腹縁によりX状の刻み目、頭部に6条の押圧沈線を施す。遠賀川式土器〔佐原1966〕と思われる。

弥生時代中期の土器（1～24・26～63・63～93）壺・甌・鉢がある。

壺A（6～8・11～23・26・55・56・73～76）平口縁のものが大半でその特徴から数種みられる。6・19は、大形の壺で胴部がやはり口縁が逆「ハ」の字状に広がる。端部は、幅広となり格子目状の刻み目を施す。7・8・11は、中・小形の壺で口縁が大きく外反するもので、口縁内外面、端部には、刻み目・沈線を施す。この壺は、中形の甌口縁部と判別がつきにくく1部甌が含まれるかもしれない。器形は、11にみられ胴下半部にふくらみをもつ。その他に口縁端部の断面が三角形状となる17・18がある。

壺B（52～54・59～61・91）細頸壺と思われ、横目により格子目・刻み・押し引き・波状文様などを描くもので朱塗りされる59・91がある。

甌は、平口縁のものだけがみられ、器形・口縁部の特徴から7～8種みられる。

甌A（3・28・31・32・36・41～46・50・56・65～72・93）口縁が、「く」の字状に外反する甌で胴部のはる5がある。3・28・31・32・36・45・93は、胴部のあまりはらないもので口縁部内面に羽状の刻み目を施す3・28・36・41・45などがみられる。28・31・67・72は、胴部下半にヘラケズリをもつ。35・37・40～46は、頭部のくびれが小さく「く」の字状、丸みをおびて外反する口縁をもつ。また、端部に刻みや押圧を施す40・41・44・46がある。56は、胴上部、口縁部内面に備目文様を描く甌。50は、把手で中形の甌に付けられる。この例は、戸水B遺跡〔湯尻1975〕にみられる。

甌B（2・9・27・29・30）胴上部に最大径をもち、口縁が短かく外反するもので端部には、刻み目を施す9・30と四線を2～3条引く9・27がある。また、27・29は、胴上部に右下り・左下りの連続する刻みを施す。

甌C（1・37・39・47）胴部があまりはらない胴の長い甌で細かいハケメを施す。

甌D（33・34）口縁端部が小さく内曲するもので、押圧により小波状とする33がある。

甌E（62・63・70）胴がやはり小さく外反する口縁の63と鉢状の広口の62がある。いずれも荒い条痕が施される。63は、口縁端部に刻み目、62は口縁内面に指頭圧痕を施す。

鉢（48・51）逆「ハ」の字状に外開きとなるもので、口縁が肥厚し格子目状の刻みを施す。また、口縁上部から2個1対の穴があけられる。48は、椀状の小形鉢で内外面ともヘラミガキが行なわれ朱塗りされる。口縁部は、2個1対の穴があけられている。

弥生時代後期から古墳時代の土器（92・94～216）壺・甌・高杯・器台・台付壺・鉢・蓋がある。

**壺A**（113・114・127～133・137・138） 球形に近い頭部に複合口縁の付く壺。113・132・138は、頭部が短かく口縁の立つもので三日月状のヘラ記号を施す138がある。127・128・130は、やや長めの頭部で口縁の立つもので、中には、口縁がやや外反する130がある。114・129は、頭部がやや開き口縁が外反する。137は、口縁部が長く直立する。

**甌B** 139は、わゆるバレス形土器とよばれる東海系の土器〔久永1965〕で、竹管・ヘラ等により押圧・羽状の刻み目を施し、丹念にヘラミカギが行われる。外面は、文様部分をのぞき朱塗りされる。

**壺C** 131は、ソロバン玉状の頭部に長い頭部と複合口縁の付く甌。

**壺D** 96・140は、逆「ハ」の字状に外反する口縁をもつ壺。大形の96と中形の140がある。

**壺E** 134～136 平口縁の長頭甌で頭部の長い134・135と短かい136がある。

**壺F** 117・209～212 台付壺で、「ハ」の字状の器形に台の付く117・210・212とソロバン玉状の209、ややまるみをもつ211がある。台部は、細めのラッパ状に広く脚部が付くと思われる。

**甌**は、複合口縁のもの甌Aと平口縁の甌Bがある。

**甌A**（118・141～164・170・189） 器形・口縁部の特徴から7～9種がみられる。

118・141～149・151・152・154～161は、口縁部が外反するもので、145・152は、口縁が小さく内ぞりとなる。158～161は、口縁が丸みをおびて外開きとなる。118・141～144・151は、口縁がやや長く内ぞりし外反する。また頭部は145・152・160・161の胸中央部に最大径をもちやや胴長な器形となる。

146・149・150・162～164は、口縁が直立し、胴上部に最大径をもつ。149・150・162は、口縁に数条の凹線が施される。163は、口縁が立ちやや内へはいる。最大径は、口縁部となる。154～156は、口縁端部をつまみ上げる。外反する156と直立する155・154がある。147・148・153・170・189は、大形の甌で口縁部が外反する147・148・170と口縁部の断面が三角形で立つ158・189がある。

**甌B**（167～169・171～173） 167・168は、「く」の字状に外反する口縁部で、胴下半に最大径をもつ。頭部は、球状となる167と、やや胸中央がはる168がある。その他に、小さく「く」の字状に外反する172と口縁部が最大径に近く胴長となる172、台付の甌173がある。

**高杯**（92・95・97・98・111・112・120・125・127・201・203・205・206・208・213・214・216・217） 全器形を知るものは、2点のみであるが、棒状脚に杯部が付くAと、ラッパ状に聞く脚部に杯部が付くBがある。

**高杯A** 有段棒状脚の97・126・205・206と棒状脚で無段の204がある。また、95・126は、脚部に刻み目を施す。

**高杯B** ラッパ状に聞く脚部に杯部が付く203がある。

**杯部**（95・111・112・195・200・201）は、体部が長く「U」字状の突手の付く95や杯部がやや内脣しながら聞く195がある。脚部は、ラッパ状に広がる92・120・208・213・214と棒状脚のものがある。208・214は、台付壺の脚と思われる。

**器台**（119・121・191～193・207・207） ラッパ状に聞く脚部に杯部の付く器台A（202・207）と複合口縁で棒状脚となる器台B（119・191～193）、やや太めの有段脚をもち、明りょうな棱をもつ器台C（121）がある。

**鉢**（194・196～199） 小形のものと、中形のものがある。

**鉢A**（194・196） 丸みをもち外反する口縁の鉢で、台の付くものがあるかもしれない。

**鉢B**（197～199） 小形の椀状のもので口縁が小さく外反する197。199とそうでない198がある。

**蓋**は、つまみ部分が1点出土している（174）。こしきは、底部と思われる177が1点出土している。その他に底部に穿孔される186がある。また、底部は、凹底となるものが多い。

### C その他の土器 (250~290)

平安時代と思われる須恵器 (251・260~262)・系切底の土師質土器がある。251は底面にヘラ切り痕を残す。S D02から出土している。252は、S K29から炭化物・炭化米とともに出土した。250・264は、土師質小皿でそれぞれ S D02と S D01から出土している。また、珠洲 (256~259)・鉄さい (253) なども出土している。

近世の遺物としては、越中瀬戸・古伊万里などの陶磁器類 (263・265~290) 皿・壺・椀・すり鉢・茶入等が出土している。これらの多くは、S K26・S D01と2層から出土している。272・275は、外底部にそれぞれ「七」・「十」と墨書きされている。263は、S E35出土の古伊万里染付椀である。出土した遺物の大半は越中瀬戸と思われ、263・272・265・280・286・287・288以外はすべてそうである。

これらの遺物は、いずれも近世と思われ越中瀬戸 (九佐衛門窯) [橋本1979] に似るところから江戸時代中ごろと思われる。

### D 石 器

剥片・石核・ビエスエスキュー (1~5)・石庵丁状石器 (34~36)・石錐 (38)・砥石 (40・41)・加工痕のある37・39・42が出土している。6~17・19~24は、安山岩の剥片で5cmほどの平坦な石核 (18・25~27) から剥離されたと思われる。また、剥片には、接合関係を示す13~15がある。

石器には、ビエスエスキューが5点ある。縦長の剥片の両端を敲打する5と剥片の両端を加工し横長にする1~4がある。約1mほどの範囲から集中して8層から出土した。

**石庵丁状石器 (34~36)** 硬砂岩製で偏平な剥片から横長の原材を作り、両端から小さく剥離調整を施し、端部は横方向に磨かれる。端部は、断面「U」字状となり磨り切り工具状となる。35は、製品と未製品・原材、36は原材の接合関係を示す。この石器は、次場遺跡上層からも出土している。また、江上B遺跡でも同様の原材がある。ここでは、石庵丁状石器としたが、その特徴から稲の穂つみ具とは、考えがたく石庵丁の未製品もしくは、純石状の石器と考えておきたい。

37・42は、河原石に剥離を加えたもの。38は、三角形状の剥片端部に加工を行ない石錐としている。砥石は、小形で粘岩質の40と硬砂岩製の41がある。40は表面が風化し使用痕等は観察できない。いずれも3・5層から出土している。

### 2.まとめ

弥生時代前期に位置づけられる遠賀川式土器 [佐原1966] は、約500mはなれた中小泉遺跡で2点出土しており、いずれも高杯の脚部で、富山県下では、はじめての出土である。また、条痕文系の土器は、近年県下で天王山式系土器・橢円文土器などとともに佐伯遺跡 [上野1979]・須川遺跡 [上野1974] などでも発見されており、これらの土器を含めて今後の問題となろう。

弥生時代中期の土器は、石塚遺跡 [上野1972]・小松遺跡 [橋本1968] に代表される畿内第3様式併行期により近いと思われる52・53・58・59などもみられる。また、歛田遺跡 [荒木1968]・戸水B遺跡 [湯尻1975] など畿内第IV様式併行期の凹線文土器に近い9・29などがある。器形については、かなりの器種がみられ、時間的な幅を加味しなければならないだろう。

弥生時代後期の土器群は、いわゆる次場上層 [橋本1968]・猫橋II式 [浜岡1968]・柳田 [谷内尾1973] などに代表される弥生時代後期の土器と、月影式 [高堀・吉岡1966] とされる古墳時代に位置づけられる149・150・162がある。また、壺・甕などの口縁部特徴からもかなりの種類がみられ、時期幅をもつと思われる。また、弥生時代後期の土器を大量に出土した江上A遺跡の土器群、周辺地域との比較が必要となろう。以上のことを加味して今後の検討課題としておきたい。

(酒井重洋)

## IV 中小泉遺跡

### 1. 出土遺物 (図版19~24)

出土遺物は、弥生時代・古墳時代・奈良時代・中世・近世に属する。遺物量は全体的に少なく、弥生時代から中世のものが主体を占める。遺標より検出したものは、大半が弥生時代・古墳時代初頭に属し、若干中世のものがある。

#### A 弥生時代 (図版19~21・24)

遺物には、土器・石器・小形仿製鏡がある。

前期 (1・2) S D33出土の高杯脚部2点がある。器形は破片のため不明だが、2点ともほぼ似た器形になるとと思われる。文様は2例とも5条の沈線を引くが、手法的に(1)はクシ状工具による押圧、(2)はヘラ搔きと、相異点がある。なお、1の高杯の沈線と類似した手法をもつ壺が、正印新遺跡より1点検出されており、遠賀川式 [佐原1966] に比定されると思われる。

#### 中期 (3~40) 器種は壺・甕・鉢・高杯の4種類がある。

壺は、口縁部の破片が大半で、形状により、A・(3・8・9・10・18)「く」の字状で弧状に外反する。B・(7・19)受け口状に伸長するに大別でき、Aはさらに緩く外反 (8~10)、大きく外反 (18) に分類できる。これらの土器のうちには、口唇部に指頭圧痕 (3)、外面にクシ状工具による刻み (8~10・18)。口縁部外面に鋸歯状の沈線を引く (19)、頸部に簾状文を施すものがある (18)。

甕は、口縁の形狀によりA・(4・5・11・14~17)「く」の字状に外反する。B・(20~23) 受け口状ないし、受け口状に近いに大別でき、さらにAは緩く弧状に外反 (4・5・11・14~17)、大きく弧状に外反 (13)、直線的に外反 (12・23・24) に分類できる。これらの甕のうちには、口唇部に指頭圧痕をもつ (5)、内面にクシ状工具による刻みをもつ (4・11・13)、外面にクシ状工具による刻みをもつ (21) ものがある。調整は、内外面ともハケメであるが、(12) は他よりも粗く条痕状となる。

その他の器種には、逆「ハ」の字状に緩く彎曲する鉢 (6) と、脚部が短かく、重量感のある高杯の脚 (25) ある。これらの土器群の時期は、遺物が量的に少なく、器形全体をうかがえない点より、一概に言えないが、近接した正印新遺跡の土器群とやや似た様相もあり、畿内第III・IV様式に比定できよう。

弥生時代後期から古墳時代初頭 (図版21) 中期と同じく遺物は量的に少ない。土器の器種は、壺・甕・鉢・高杯・蓋がある。

壺は、口縁部が逆「ハ」の字状に外反する (44)。ゆるく外反する (49)。直立した頸部に有段状の口縁部がつく (53)。逆「ハ」の字状に緩く外反する長頸壺 (41・47)。ほぼ直立する長頸甕 (48) がある。(44) は口縁部外面に凝凹線文を施す。

甕は、「く」の字口縁の (45・50・51)、複合口縁の (42) がある。(44) は口縁部外面にクシ状工具による刻みが巡る。

鉢54は、丸みをもち、口縁が若干内反する。

蓋は、直線的にひろがる (46)。やや彎曲しながらひろがる (55) がある。つまみの形狀は、逆台形 (46・55)、円柱状の (52) がみられる。

高杯 (56) は、棒状の脚部破片で、器形はうかがえない。

以上この土器群の時期は、弥生中期同様判断できないが、器形及び調整等より、多少の時期幅をもつと思われるが、一応塙崎I~II式 [吉岡1976] に比定できよう。

その他土器以外の遺物として、磨製石斧・小形仿製鏡が各1点出土した。磨製石斧1はS D46より出土した、大形

蛤刃式石斧の半次品で、丁寧に磨かれており、胴中部の欠損面を敲打により再加工を加えている。石質は片麻岩系の石材で、重量がある。時期は出土状態等より、弥生時代中期に属すると考えたい。

小形伪製鏡（11）は、S D39の肩部より单独出土した完成品で、遺存状態はよい。鏡面は凸レンズ状を呈し直径7.1cm、様端の厚さ0.45cmをはかり、幅広の平縁をめぐらす。平縁の内側は、直行化した柳葉文帶、S字状の変化した圓文、戴手状の圓文等が配され、赤色顔料が付着している。紐は大きく径1.7cm、高さ0.85cmをはかる。時期は出土状況より弥生時代後期と考えたい。

#### B 古墳時代から奈良時代（図版22・71～76）

須恵器の腰脛部破片（75・76）と杯（71～74）がある。（73・74）は底部内外面の調整より7世紀後半、（71・72）は奈良時代前半に比定されよう。

#### C 中世（図版22・23）

中世に属するものには、珠洲・土師質小皿・青磁（141～144）、白磁（145～146）、瀬戸系陶器（149～151）、染付（147・148）がある。

珠洲には壺・壺・擂鉢の器種が認められる。

壺は、口縁面に階段状圧痕を残す（81）。口縁部が若干外反し、丸みをもつ（82）。丸みをもった口縁部を、「く」の字状に屈折させる（83）。口唇先端を嘴状に拡張し、体部径が器高より大きく、すんぐりとした器形がある（84）。

壺は、口唇下端部をつまんで肥厚させた（85）。口唇先端を嘴状に拡張した（86）がある。なお、体部には櫛目状文（86）、櫛目波状文（87・93）を施したものもみられる。

擂鉢は、A・体部にふくらみをもつ（95～98）と、B・ほぼ底部から一直線に立ち上がる（99～105）に分類される。さらにAは、小型で口唇端部内面をかるくつんだもの（95）、細密なオロシ目をもつもの（96～98）がある。Bは、全体的に中太ないし太目のオロシ目をもち、口唇部内面に明瞭な棱がつくものが多い。（102・103）—S D01出土は口唇基部をつよく押えて、先端を嘴状に拡張したもので、その上に櫛目波状文を施す。

以上これら珠洲の時期は、口縁部形態ならびに体部の形態等より、珠洲編年（吉岡1981）に対比すれば、壺については、（81・84）がII期（13世紀）、（82・83）がIV期（14世紀）ないしV期（15世紀）に比定される。また壺は、（86）がI期（12世紀）に近いものと思われる。（86）はIII（13世紀）～IV期に比定されよう。擂鉢は（95～98）がII期、（99・100）がIV期（101～103）がV期比定できよう。なお（95）は、II期よりI期に近いものかもしれない。

土師質小皿は、法量が7.6～15.0cm、器高1.3～2.5cmとバラエティーに富む。遺構から出土したものは（112・119・124・133）で、S D01より出土した。器形は全体的に、体部に明瞭な棱をもつものは少ない。口縁はゆるく立ち上がり、さらに外側へ開くものが多く、（120～124）のように、口唇内面をヨコナデにより若干くぼませ、端部をねあげた例もある。底部は手捏による指頭圧痕を残すものが多い。これら上師質小皿の時期は、S D01出土の珠洲との出土状況等より、（112・119・124・133）の土師質小皿はV期に比定されよう。また、他の上師質小皿も、器形及び口縁部の形態より大半がV期ないし、それに近い時期のものと思われる。

#### D その他の遺物（図版24）

その他の遺物としては、近世の越中瀬戸（151～157）、時期不明な砥石（2～4）、煙管（12・13）がある。

#### 2.まとめ

遺物は、弥生時代前期・中期・後期、古墳時代初頭・古墳時代末、奈良時代・中世、近世と多期にわたり、いずれも断片的な資料であるが、県内では初めての、弥生時代前期の遠賀川式土器、弥生時代後期と考えられる、小形伪製鏡の出土は、出土状況とあわせて注目される。また中世に関しては、珠洲及び土師質小皿もII期（13世紀）・V期（15世紀）の資料を加えることとなった。

（狩野 謙）

## V 飯 坂 遺 跡

### 1. 出 土 遺 物

遺物には、縄文土器・弥生土器・須恵器・上師器・珠洲系陶器がある。列挙したうち、弥生土器が大部分を占める。

#### A 縄文時代（図版25）

縄文土器が数点ある。1は楕形の浅鉢である。外面に横円の工字文風の沈線文を施す。2は深鉢である。口縁部外側に沈線による横円の工字文を施し、口唇部に貝殻腹縫による波状の押しひきをめぐらせる。胴部外面には条痕文を施す。上記の1・2は、晩期末の大洞A式に並行する土器である。3は台付鉢の台部である。外面には連弧文を施す。晩期初頭の八日市新保式の土器である。これらは、遺跡の南東隅の最下層から出土したものである。

#### B 弥生時代

弥生土器には、天上山式系統の中期の土器と、後期の土器がある。二者のうち、後期の上器が圧倒的に多い。

天王山式系統の土器（図版25） おもに3号方形周溝墓の周溝内、及び埴丘下層の単純包含層から出土した。

4は壺である。胴部上半は、RLの縄文地に沈線文を施す。5~11は甌を考える。5・8は内傾ぎみに外反する幅広の複合口縁をもつ。5は無筋のRの縄文を口縁部と頸部の外側に施す。内外面ともに無文の8は、器形からひとまずこの系統の土器とみなしておく。6・11は複合口縁の外側に弧状の沈線文をもつ。7は外反した口縁の端部を丸く内側に折りませる。口縁の内外面にRLの縄文を、頸部外面に結節の縄文を施す。9は複合口縁の外側にRLの縄文地をつくり、更に沈線文を施す。10は外反する口縁の端部を内側に屈折させ、複合口縁となす。口縁部外面にRLの縄文を施す。破片（12~20）は、縄文地に曲線ないし直線の沈線文を施す。上記のうち、3号方形周溝墓下層の単純包含層から出土したものは、4~7・9・11・13・16・17である。

後期の土器（図版26~28） おもに方形周溝墓群とその周辺から出土した。方形周溝墓に伴うものとそうでないものがある。器種には、壺・甌・高杯・器台・鉢・蓋がある。そのうち壺が大部分を占める。甌が少いのは、飯坂遺跡が方形周溝墓群を中心とする遺跡であるためと考えられる。

壺 便宜上、器形から壺A~壺Gにわける。壺A：玉ネギ形の胴部に外反する口縁部をもつもの。これには、壺A<sub>1</sub>；大形の胴部に外反する大きな口頭部をもち、口縁が複合口縁となるもの（62・67）、壺A<sub>2</sub>；中形の胴部にやや短い口縁部をもつもの（53・54）、壺A<sub>3</sub>；小形の胴部に輻広の複合口縁をもつもの（57・58）の3種類ある。壺A<sub>1</sub>の62は、頸部に突帯をもち、口縁端に幅をもつ。口唇部の上端は内傾する。67も62とはほぼ同じ口頭部をもつが、口唇部の下端が下方にのび、断面は横位のT字状をなす。壺A<sub>2</sub>の53は口縁が丸く外反し、端部を直立ぎみにつまみあげる。54は短い口縁部が強く外反し、口唇部の上端が内傾する。壺A<sub>3</sub>の58は輻広の口縁部外面に擬凹線を施す。壺A<sub>1</sub>は、胴部の外面を丁寧にヘラミガキ調整するもの（54・58・62）とハケメ調整するもの（52）、内面を全面にわたってハケメ調整するもの（53・62）と上半をヨコナデ、下半をハケメ調整するもの（54・58）など調整に差異がみられる。なお、口頭部の長い壺A<sub>1</sub>（61・67）は、頸部の内外面をヘラミガキする。

壺B：球形の胴部と典型的な複合口縁をもつもの（69）。口縁部を欠く68も、胴部の形状は69に近似する。

壺C：口縁部が頸部から直線的にのび、外反するもの（56・66）。口縁部は下記の壺Dほど長くない。また外反度は強くない。口縁端部はわずかに内傾する。66の胴部内面はヘラケズリする。

壺D：球形ないしナツメ玉状の胴部と長い口頭部をもつもの（70・71・75・76・80）。いわゆる長頭壺である。これには、口頭部が直立ぎみのもの（70）とやや外反するもの（その他）とがある。また口縁部の形態には、a種；頸部から直線的にのび、端部が肥厚しないもの（71・76）、b種；ゆるく外反する口縁の端部をつまみあげ、口唇部に幅をもつもの（70）、c種；口縁端近くで屈曲して直立し、幅のある複合口縁となるもの（75・80）などのバラエティーが

ある。壺Dは、外面ハケメ調整を基調とするが、中には更にヘラミカキするもの（75）もある。胴部内面の調整手法には、ハケメを施すものとヘラケズリするもの（71・75・80）との2種がみられる。

壺E：いわゆる細長頸壺である（77～79）。口頸部の破片がある。外面は縱方向のヘラミカキを丁寧に行う。

壺F：玉ネギ形の胴部と直線的に外反する口頸部をもつもの（83）。胴部は壺Aと同じである。口頸部は壺D・Eに比べて短い。底部は平底であるが、わずかにあげ底となる。

壺G：球形の胴部と「く」の字状に外反する口縁をもつもの（108）。底部は平底であるが、ほとんど丸底に近い。

壺H：「く」の字状に外反する口縁が屈曲して直立するもの（55・93）。口縁端部は幅をもち、複合口縁となる。

壺I：装飾性に富む台付無頸壺である（81）。81は壺の副下部の破片である。

**壺** 壺A：外反する幅広の複合口縁をもつもの（94・100）。100は口縁部外面に擬凹線を施すが、94は無文である。胴部外面をヘラケズリする。壺B：「く」の字状に外反した口縁の端部が幅の狭い複合口縁となるもの（99・101）。口唇部の下端がのび、そりかえる壺B<sub>1</sub>（99）と、口唇部を直立ぎみにつまみあげた壺B<sub>2</sub>の2種がある。壺C：「く」の字状に外反する口縁が複合口縁とならないもの（95）。壺D：頸部から強く外反した口縁が屈折し、短い口縁端部が直立ぎみに立ちあがって受け口状の複合口縁となるもの（52・104～107）。口縁部の外面に斜めのキザミを連続的に施す。

**鉢** 頚部が丸く屈曲して口縁部が直線的に外反するもの（98）、口縁が受け口状に立ちあがるもの（97）、小形で丸底の椀形を呈するものの3種ある。97は口縁部外面に擬凹線を施す。

**高杯** 3種にわける。高杯A：浅い椀形の杯部と「ハ」の字状に開く脚部をもつ（110）。杯部・脚部ともに段をもたない。高杯B：いわゆる棒状有段の高杯である（111）。脚柱は円筒形を呈し、脚台部には段をもち円孔を穿つ。粘土帶を貼りつけた脚端部はわずかに浮きあがる。高杯C：内脛ぎみの杯部をもち、口縁部は屈曲して外く外反する（112）。脚部は、端部を欠く末広がりとなる。円孔を穿つ。

**器台** 受部との接点から「ハ」の字状に開く脚台部をもつ（109）。複合口縁の64・65は、器台の受部とみてよい。

**B 古代・中世**（図版29）

**須恵器** 151～154は広口壺、155・156は杯蓋である。下記の土師器とともに平安時代前期のものと考えておく。157は6世紀末の杯身である。立ちあがりは短い。外底面をヘラケズリする。161・162は壺の破片である。

**土師器** すべて無高台の杯底部である（163～168）。外底面に糸切り痕をとどめる。

**珠洲系陶器** 155～157は壺の体部、160は壺の口縁部、158・159は擂鉢の口縁部である。室町時代とみておく。

## 2.まとめ

出土土器の大部を占める弥生土器は、方形周溝墓群が形成される以前の天王山式系統の土器と、方形周溝墓群の形成時期の上器とに分かれる。前者は、3号方形周溝墓の埴丘の下からその単純包含層が確認され、多くはこの層から出土した。方形周溝墓との層位関係から、この土器を弥生時代中期におくことができる。

方形周溝墓群の形成期の土器には、口縁端部が短くかつ口唇部上端が内傾する古い様相のものと、幅広の複合口縁に擬凹線を施す新しい様相のものとが含まれており、一定の時期幅が認められる。塙崎遺跡の土器編年（吉岡1976）と対照すれば、塙崎I・II式にはほぼ対応すると考えられ、弥生時代の後期後半から終末期と言うことができる。

（岸本雅敏）

註1 方形周溝墓に伴うものは、次のとおりである。1号方形周溝墓；78、2号方形周溝墓；59、3号方形周溝墓；53・62・65・67・84・90・93・97・111・112、5号方形周溝墓；58・102、7号方形周溝墓；75・80、8号方形周溝墓；70。

註2 中には、壺108のような丸底に近いものもみられ、塙崎田式以降に下るものも若干含まれている。

註3 筆者は、別稿でもふれた〔岸本1982〕とおり、塙崎II・III式の段階は、まだ古墳（前方後円墳・前方後方墳）出現以前の弥生時代終末期と基本的には考えている。富山県・石川県地方に古墳が出現するのは、土器編年でいえば、塙崎III式の末ないし吉府クルビ式の段階に到ってからであろう。古墳発生に関するこの考えは、都出比呂志氏の見解〔都出1979〕と同じ立場に立っている。

## VI 江上 A 遺跡

### 1. 出土遺物

弥生時代、平安時代、室町時代の土器・石器がある。平安時代の土器は底面が回転糸切りの土師器605（S D12）と須恵器699であり、室町時代の土器は珠洲甕700である。砥石76は凝灰岩質で平安・室町時代いずれかに属する。

弥生時代のものは、図示したものの他に遺物整理箱約40箱に及び、S D01を中心とする溝・穴から多くの木製品に混って出土した。弥生土器は一応遺構ごとに配列したが、S D01とS D02、S D01とS D03、S D01とS D03とS D05、S D02とS D04、S D02とS D03とS D23、S D01とS K27、S D01とS K28は互いに接合するものがある。またS D01内でも、A・B・C・D区間、B・D・E区間で接合するものがあり、上層と下層でも接合する場合が多い。

S D01A区南端とF区では、土器の出土量がB・C・D区に比べて比較的少なく、多くが発掘区内の遺構に関係するものと考えられる。

石器は、玉類・石庖丁形石器・磨石・擦石・敲石・砥石があり、玉生産に関係するものが多い。

#### A 弥生時代（図版30～69 表12）

後期に属するものが圧倒的な量を占めるが、中期の土器が若干量混っている。

**中期の土器**（図版66・69） 上下交互の連続刺突と沈線を施す壺802～803、沈線で平行あるいはシクザク形の文様を描く805～807、縦文を施す804・805・807～811からなる第I群と、外反する口縁部の内側に櫛状具による羽状刻みを施す631・632・812・813、口縁部が小波状になる630からなる第II群がある。

第I群は東北地方天王山式〔坪井1953〕に、後者は石川県の小松式〔橋本1968〕に比定できる。

**後期の土器**（図版30～68） 壺・甕・鉢・高杯・器台・蓋・小形土器の器種があり、口縁部・胴部の特徴、文様、整形手法の違いなどから、各々は数種にわけられる。色調は黄褐色、灰色、赤灰色などを呈するものがあり、二次的加熱を受けて変色しているものも多い。胎土は赤色酸化砂粒、白色砂粒、金雲母などを含むものが多い。

**壺 A類**（1～7・34～41・43～48・59・61・381・403・405・406・417・421～424・426～429・560・573・603・608・624・625） 球形の胴部に外反する口縁部がつくもの。口縁部が角ばり口唇部が斜め上に向く・37～39・560（A<sub>1</sub>）、口唇部が幅広になり横を向く5・34～36（A<sub>2</sub>）、口縁部が内側に段をなして短かく立ち幅狭の複合口縁となる2～4・40・43～45・403・406・417・421・422・424・426・427・603・608（A<sub>3</sub>）、口縁部が細長くのびた幅広の複合口縁となる6・7・41・46～48・59・61・423・428・429・624・625（A<sub>4</sub>）がある。

A<sub>1</sub>・A<sub>2</sub>は胴部の張りが強く胴部外面へラミガキ内面ハケ、A<sub>3</sub>は胴部が丸味のあるものが多く、胴部内外ハケのものと、外面へラミガキ内面へラミガキとヘラケズリのものがある。6は胴部外面ハケ内面へラケズリとなる。

**B類**（8・60・407～410・613） A類の小形のもの。口縁部がA<sub>2</sub>に近い408（B<sub>1</sub>）、A<sub>3</sub>に近い407（B<sub>2</sub>）、A<sub>4</sub>に近い8・60・409・410・613（B<sub>3</sub>）がある。口縁部胴部とも内外面へラミガキのものが多い。

**C類**（9・404） 卵形の胴部に、広い口頭部がつく広口壺。口縁部はA<sub>1</sub>に近い。胴部内外面ハケを施す。

**D類**（28・30・31・42・415） 大形で球形の胴部にやや直立する頭部と複合口縁がつく。頭部と胴部の境に凸帯をめぐらす。口縁部がA<sub>3</sub>に近い28（D<sub>1</sub>）A<sub>4</sub>に近い30（D<sub>2</sub>）がある。D<sub>3</sub>は胴部の張りが強く凸帯を刻み、胴部外面へラミガキ内面下半へラミガキをするのに対し、D<sub>2</sub>は胴部が丸みがあり凸帯を刻まず、胴部内面下半をヘラケズリする。

**E類**（26・27・413・414・416・425） そろばん玉状に張る頭部にやや内傾ぎみに立つ頭部と複合口縁のつくもの。口縁部がA<sub>3</sub>に近い26（E<sub>1</sub>）とA<sub>4</sub>に近い414・425（E<sub>2</sub>）がある。胴部外面ハケ内面ナデのものが多い。

註1 19cm×40cm×63cmの深柵にきっちりつめた場合。

註2 S D01は6区にわけて、区名で呼んだ。南からB・S PまでをA区、B・C・S P間をB区、C・S PとS D05の合流点までをC区、D・S PまでをD区、S D03との合流点までをE区、それより北がF区である。

註3 脇土・色調については土器1個について説明していない。絶括編で総括的に扱いたいと考えている。

**F類** (25・29・32・55~57・430・582・623) 球形の胴部に直立する長い頸部と複合口縁がつくもの。口縁部がA<sub>3</sub>に近い25 (F<sub>1</sub>) とA<sub>4</sub>に近い29 (F<sub>2</sub>) かかる。25は胴部の張りが強く外面へラミカキ内面ナデとハケ, F<sub>2</sub>は胴部が丸く外面ハケ内面へラケズリを施す。32は胴部最大径が下位にあり, 機構波状文を施す古い様相をもつ。

**G類** (10~24・33・49~54・58・372・377~379・411・412・418~420・561・572・583・586・595・606・616~622) 球形あるいは卵形の胴部に, 円筒状の口頭部がつく長頭壺。頭部がやや短かく, 脇部と頭部境がなだらかな12・411・583・618・619 (G<sub>1</sub>), 長い頸部が胴部との境でくの字に屈曲するもので, 口縁部が角ばる10・11・13・14・16・49~52・378・418~420・561・606・617 (G<sub>2</sub>), 外反する頸部が口縁部でやや内傾する15・17・20~24・53・54・595・620~622 (G<sub>3</sub>), 口縁部が丸みのある14・19・372・377・412・616 (G<sub>4</sub>) などがある。胴部内面は, G<sub>1</sub>はナデとハケ, G<sub>2</sub>・G<sub>4</sub>はハケ・ナデとヘラケズリ, G<sub>3</sub>はヘラケズリのものが多い。

頭部に1条の沈線をめぐらす10・21・49・50・52・411・606・621や, 口縁部に2~3条の凹線をめぐらす53・54・411・620がある。また, 記号文や範描文 (11・20・23・24・617・620) を施すものが多い。

**H類** (62~69・431) 球形あるいはそろばん玉状の胴部に, 細長い口頭部がつく細長頭壺。胴部外面へラミカキ内面ナデとハケが多い。そろばん玉状の胴部で口縁部が丸い62 (H<sub>1</sub>), そろばん玉状の胴部に複合口縁がつく63 (H<sub>2</sub>) 胴部が球形で, 口縁部に数条の凹線をめぐらす64 (H<sub>3</sub>) がある。69は把手をつける。

**I類** (70~76・380・497~499) 台付壺を一括する。内傾する胴上部と粘土帯の貼付けや連続割込みを施す胴下部に円筒状脚柱がつく装飾性の強い70・71・76 (I<sub>1</sub>), 飾りのない72~75・380 (I<sub>2</sub>), H<sub>1</sub>類に脚のつく497 (I<sub>3</sub>) 桶状の胴部に脚のつく498・499 (I<sub>4</sub>) などがある。380は片側に把手がつく。

**變 A類** (120~125・374・382・383・432~434・440~446・574・636・639・640) 口縁部がくの字に外傾するもので, 口唇部が平坦である。胴部最大径が口径を越えないものが多いたが, 432・433・440は胴部が口径を越える。口縁部内外ハケ胴部外面ハケ内面へラケズリが多い。口唇部にハケや押圧を施す125・383・440・636がある。433・440は口縁部・胴部内外面ハケを施す。

**B類** (77~81・85・86・90・144・146・147・149~154・375・453~455・460・461・578・633・641~643) 口縁部がくの字に外傾するもので, 胴部最大径が口径より大きいもの。口唇部は面をなして横をむき, 強いヨコナデによって凹むものや, 1~2条の凹線を残す144・145・150・453・460がある。口縁部は内外面ヨコナデ胴部は外面ハケ内面へラケズリを行うものが多い。81・85・86のように口縁部にハケを残すものがある。

**C類** (82・88・126・127・132~134・136・145・234・435・436・448・451・452・562・563・569・585・589・610・637・638) 口縁部がゆるく外反するもので, 口縁部内外ヨコナデ胴部外面ハケ内面ハケ (一部ヘラケズリ) のもの。胴部最大径が下位にある435 (C<sub>1</sub>), ほぼ中位にある82・88・610 (C<sub>2</sub>) がある。

**D類** (83・84・87・89・128~131・135・137~143・447・449・450・456~459) 口縁部がくの字に外反するもので, 口縁部内外面ヨコナデ胴部外面ハケ内面へラケズリのもの。胴部最大径がやや上位にあるものが多い。口縁部が外反する多くのもの (D<sub>1</sub>), 口縁部がやや内弯する142・143・457・459 (D<sub>2</sub>), 口縁部が凹線風で胴部最大径が口径を越えない137~140 (D<sub>3</sub>) などがある。

**E類** (91~96・148・155~174・194・196~197・200・206~208・210・211・373・462・463・473・565・566・570・579・584・590・634・635・644・646~649・652・658) 口縁部内側に段をもって口縁部がわずかに立ち輪狹の複合口縁となるもの。胴部内面をヘラケズリするものが多いが, ハケの91・92・95・170・373もある。96・203・635・647は口縁部のアゴが丸みをもつ。206~208・211・212などは2~3条の平行沈線をめぐらす。

**F類** (97~116・175~193・195・201~205・209・212~217・376・384~392・437~439・464~472・474~484・564・567・568・571・577・580・596・604・611・614・645・650・651・654~657・659~662・827) 幅広の複合口

縁部となるもの。E類と区別しがたいものが多い。胴部内面はヘラケズリが徹底する。口縁部がやや短かめで直立する105・176・178・376・389・437・465・469・571・614・651(F<sub>1</sub>)や幅広く外傾する101・102・104・110~116・388・483・484・568・577・604・611(F<sub>2</sub>)S字状に屈曲する186・187・189・190・195・567・596・655(F<sub>3</sub>)などがある。F<sub>1</sub>には口縁部に3~5条の平行沈線をめぐらす107・474~477・482・564・659~661や刻みを施す478・479・481・580・662がある。F<sub>3</sub>には胴上部に連続刻みを施すものが多い。F<sub>2</sub>は口縁部や胴上部に沈線や刻み等の文様を施すことが少ない。

**G類(117~119・235)** 口付のものを一括した。口縁部がくの字外反の117・118と複合口縁の119があり、胴部内面はナデとハケを施す。235は大形で把手をつけ、胴部は内面ヘラケズリである。

**鉢 A類(218~233・395・487~492・494・591・613・626~628)** 口縁部が内側する218(A<sub>1</sub>)、口縁部がくの字に外反し平らな口唇部が斜め上を向く219・220(A<sub>2</sub>)、口唇部が幅広くなつて横をむく233・591(A<sub>3</sub>)、口縁部が内側に段をもつて輪狹の複合口縁となる221~223・230・488(A<sub>4</sub>)、幅広の複合口縁となる224~229・231・232・489~491・613・626~628(A<sub>5</sub>)がある。胴部内外面ナデとヘラミカギを行う。A<sub>5</sub>には直立する口縁部に4~5条の平行沈線を施す224・225と外反して8条の平行沈線を施す226がある。A<sub>1</sub>~A<sub>2</sub>は平底のものが多いが、A<sub>4</sub>に丸底や底部の小さなものがある。

**B類(250・251)** 口径約40cmの大形のもの。胴上部に把手がつく。口縁端部がA<sub>2</sub>に近い251(B<sub>1</sub>)、A<sub>4</sub>に近い250(B<sub>2</sub>)がある。252は口縁部に3条の凹線をめぐらす。胴部外面ハケ内面ナデ、ハケとヘラケズリがある。

**C類(236~249・496・587・653)** 壺・壺の胴部下半の形態で、底部を穿孔する壺形のもの。胴部外面ハケで内面はハケだけの236~240・248、ハケかナデとヘラケズリの241~247・249がある。また底部が平底の284(236・245)丸底に近い238・248がある。

**高杯 A類(252~254・258・259・265・272~274・277~280・284・295~299・500・501・504・505・514・663)** 杯部が中位で屈曲して口縁部が外反するもので、脚部は円筒状の脚柱とハの字に開く脚台からなるもの。口縁部と体部の比が1:3となる。口縁端部が肥厚し脚端部に粘土帯を貼付ける258・259・500・501(A<sub>1</sub>)、口縁端部が肥厚せず脚端部に貼付けない252・253(A<sub>2</sub>)がある。A<sub>1</sub>は杯部に一对の環状把手がつくものが多い。A<sub>2</sub>は口縁端部及び脚端部に面をとるものと丸いものがある。

**B類(260~262・300~304・397)** 杯部が中位で屈曲して口縁部が外反するもので、脚部は円筒状の脚柱と段をもつ脚台からなるもの。口縁部が直立ぎみで肥厚した口唇部が内傾する261(B<sub>1</sub>)、やや幅広の口唇部が斜め上を向く260(B<sub>2</sub>)、口縁部の反りかえりが大きい262(B<sub>3</sub>)がある。それぞれの脚端部は、粘土帯を貼付けるもの、反るもの、面をなすものと変化に富む。

**C類(255~257・266~271・275・285~294・502・503・512~513・515~517・576・598・612・664~667)** 杯部が中位で屈曲して口縁部が外反するもので、胴部がラッパ状に開くもの。口縁部の反りが大きく太い脚柱が杯部との接合部からハの字状に開く257・287(C<sub>1</sub>)と口縁部の反りが小さく(口縁部と体部の比が1:4)、比較的細い脚柱とハの字状に開く脚台の256・502(C<sub>2</sub>)がある。口唇部が平坦で外を向く265・271や、口縁部がやや内屈する267・268などがある。C<sub>1</sub>は口縁部が肥厚するものとしないものがあり、脚部にハケを残すものが目につく。

**D類(263・264・305~312・519~521・581・670・671)** S字状スタンプ文や横状具による刺突文・丹塗などを施す装飾性の強いもの。264は杯部が下位で屈曲して口縁部が大きく外反するもの(口縁部と体部の比が1:1)で、横を向く口唇部に4本単位の粘土帯を5箇所に貼付ける。

**E類(276・396)** 口縁部が幅広の複合口縁となるもの。体部は丸みをもつ。

**F類(283・506~511・518・597)** 皿状の杯部で脚部がラッパ状に開くもの。器台にすべきかもしれない。

**器台 A類** (324・325・327~330・332・398~400・526~529・532・668) 受部が中位で屈曲して口縁部が外反するもので、脚部は円筒状の脚柱と段をもつ脚台からなるもの。口縁部や脚台部が直線的に聞く327~330・398・400・526・527 (A<sub>1</sub>) と強く反りかかる382・399 (A<sub>2</sub>) がある。A<sub>1</sub>には口縁部や脚台部に数条の平行沈線をめぐらす329・398・400がある。口縁端部が丸いものや面をなすものがある。脚柱と受部の接続がゆるやかな327~330・527と段をなす393・400など違いがある。

**B類** (326・331・525・530・533・669) 受部が中位で屈曲して口縁部が外反するもので、胴部がラッパ状に聞くもの。口縁部が直線的で短く (口縁部と体部の比が1:5), 太い脚柱部の326 (B<sub>1</sub>) と、口縁部の外反度が強い (口縁部と体部の比が1:2) 331・525 (B<sub>2</sub>) がある。

**C類** (313~316・318・321・323・522~524・531・535) 皿状の受部とハの字状に聞く脚部からなるもの。脚柱部がやや筒状となり、口縁端部が丸い316 (C<sub>1</sub>), 平らな口縁部が斜め上を向いて面をなす313~315・522・523 (C<sub>2</sub>), 複合口縁となる318・323・524・535 (C<sub>3</sub>) がある。C<sub>3</sub>は口縁部に2~3条の平行沈線をめぐらす。

**D類** (317・319~333・534・607) やや浅い受部と太く高い脚部からなるもの。脚部に2~3段の透しをいれる。口縁部が短く立つ317や、口縁部に粘土帯を貼付けて複合口縁とする320などがある。321は口縁部に2個一対の円形浮文を5か所に貼付ける。

**蓋** (334~337・536~538・672~679) ハの字状に聞く形が多く、ハケとナデで整形する。頂部を穿孔する537・672~674・677 (A) と穿孔しないもの (B) があり、Bには皿をふせたような335、頂部が筒状にのびた334・676、頂部が環状になる536・537・675、つまり部を横に穿孔する337・679がある。高杯や器台の脚部内面に煤の付着したものがあり、蓋に転用したものであろう。

**小型土器** 口径が5cm前後のものと10cm前後のものにわかれる。前者はナデ (手づくね) で後者はハケ・ヘラケズリで整形するものが多い。壺・甕・鉢・高杯の器種がある。

**壺** (368~370・493・495・551・592・593・691・694・697) 壺A類の小形の691の他は、胴部中位で屈曲して口縁部が内傾する無頸壺である。壺 (342・344~354・401・542・543・692) 口縁部がくの字に外反する344~350・352・354、複合口縁となる342・351・353・692、その中間的な340・352・542・550などがある。鉢 (340・341・343・355~367・371・402・544~550・552~559・588・594・599・601・602・615・629・682~690・695・696・698) 脚のつく365~367・555~559・588・695とつかないものがある。前者は体部が内彎するものが多い。後者にはゆるく内彎するもの、斜め上へのびるもの、頸部で屈曲して複合口縁となる550・552・553などがある。把手1個をつけた鉢340は壺64と併出し一対になる。高杯 (281・282・539・693) 高杯C類に近い282・539、B類に近い693がある。

**丹塗土器** (2・3・8・60・66・70・254・255・264・326・329・332・395・403・407・509・520・521・523・622) 壺・鉢・高杯・器台の器種に丹塗を施すものがある。

**被籠土器** (25・29・814・815・403・411) 壺の胴部に白く痕跡をとどめるものが6点ある。

**切痕をもつ土器** (303・816・817) 鉄器などの鋭利な刃物でつけた切痕をもつ土器片がある。軽石製砥石41・42にみる切れ込みに共通する特徴である。

**ヘラ描文** (23・24・32・62・318・419) 壺の胴上部・頸部、器台の口縁部内面に印される。

**竹管文** (11・20・422・425~427・617・620) 壺の頸部に印され、2~5個単位のものがある。

**スタンプ文** (264・305~308) 高杯の脚部と口縁部内側に印される。S字形に限られる。

**把手** 断面円形の環状のものが多いが、断面四角形の338・680や、胸部に貼りついた540・541・681や棒状の339がある。

底部（393・394・575・600・605・609・701～801） 瓢や壺の底面はハケを施すものが多いが、葉脈状の708・709、沈線の729がある。776は焼成後の穿孔である。台付のものは直線に開くものと外反ぎみに開くものがある。

#### B 石器（図版70～74）

**玉類**（1～40） 勾玉・管玉・小玉がある。完成品もしくはそれに近い1～19、未成品の20～40、原石の78～93がある。玉類はSD03からの出土が多い。勾玉 硬玉（1・3・5）滑石（2・4）製がある。2はやや扁平なもの。

**小玉** 水晶（6）硬玉（7）製がある。6は穿孔途上にある。菅玉 碧玉（8～14・16～19）鉄石英（17）製がある。8・9・10は光沢があり完成品。後は孔が貫通しなかったり外面に稜線を残す。太さが2.5mm（8）の細いものから1cm（19）の太いものまである。未完成品のものは断面が四角形で、整形のための調整剥離や擦痕をもつ。碧玉（21・24～28・30・32・33・37）と鉄石英（20・23・29・31・34）製は管玉用、硬玉（35～40）は勾玉用であろう。原石（78～93） 鉄石英・碧玉は大形のものがあり、硬玉は径2cmの河原石が混る。その他水晶、めのうの剥片がある。

**石庵丁形石器**（41） 片面に自然面を残す剥片を用い、鋭利な側刃に光沢のある擦痕を残す。歯こぼれ状の小剥離がみとめられる。青緑色を呈する。滑川市魚飼遺跡〔橋本他1973〕に類例がある。

**磨石・擦石・敲石** 蛇紋岩の扁平な河原石の側刃や平坦面に光沢や擦痕を残す磨石（46～48・60）、河原石の側片や平坦面に擦痕（52～54・58・59・61～64）や凹み（61・62）敲打（54～61・64）を残すものがある。擦痕と凹み（61・62）擦痕と敲打（54・59・61・63・64）を合せものが多い。緑色の玄武岩質のものが多く（54・58・59・60～64）砂岩・蛇紋岩のものもある。54は石斧の転用の可能性がある。

**砥石** 軽石（42～45）泥岩（49～51）砂岩（65～75・77）製のものがある。軽石製は平坦な面をもつ45、彎曲した面をもつ43、深い切れ込みのある41・42がある。鉄器用であろうか。泥岩製は灰色を呈しきめが細かい。平坦な面に擦痕をとどめる。砂岩製は黄白色を呈し大形のものがある。平坦な面をもつ65～68・71～74、溝状の筋をもつ65～67・72、敲打による凹みをもつ69～71・77がある。

#### 3.まとめ

弥生時代後期の土器群は、富山県内では小杉町開山遺跡〔橋本1970〕高岡市下佐野遺跡〔上野1967〕水見市柳田遺跡〔上野1972〕、石川県では柳田うわの遺跡溝状遺構A〔八谷尾1973〕次場遺跡上層〔橋本1973〕出土の土器群に共通した様相をもつ。北陸地方の弥生時代後期は、大きく前半（猫橋I式）と後半（猫橋II式・次場上層式）にわけられており〔橋本1966〕、本遺跡の主体的な土器群は後半期に位置づけられよう。この時期の土器は、畿内第V様式（壺G）山陰地方（凹線文や館衛文壺410、平行沈線を施す器台329・400）伊勢湾地方（台付甕117、構造文壺3、口縁部がS字状に近い甕384・385・187）との共通性が指摘されており、本遺跡でも同様である。

さて、本遺跡後期土器群は、口縁部や副部の形態や整形手法など細部についてみると数種の違いをみとめる。口縁部では①口唇部が斜め上に向いて面をなすもの（壺A<sub>1</sub>・A<sub>2</sub>・B<sub>1</sub>・C、甕A・B・鉢A<sub>2</sub>・高杯B<sub>2</sub>）、②口縁部内側に段をなし幅狭の複合口縁となるもの（甕A<sub>3</sub>・B<sub>2</sub>・D<sub>1</sub>・F<sub>1</sub>・甕E・鉢A<sub>3</sub>）、③幅広の複合口縁となる外反ぎみのもの（壺A<sub>4</sub>・D<sub>2</sub>・E<sub>2</sub>・F<sub>2</sub>、甕F、鉢A<sub>4</sub>）がある。

副部内面の整形では、①ハケだけのもの（壺G<sub>1</sub>・甕C<sub>1</sub>）、②ハケと一部ヘラケズリのもの（壺G<sub>2</sub>・甕C<sub>2</sub>）、③ヘラケズリだけのもの（甕G<sub>3</sub>・甕C<sub>3</sub>）がある。また、副部最大径が①下位にあるもの（壺B<sub>2</sub>・甕C<sub>1</sub>）、②中位にあるもの（甕C<sub>2</sub>）③上位にあり丸味のあるもの（壺B<sub>2</sub>・H<sub>2</sub>・甕C<sub>3</sub>）がある。文様についても①2～3条の凹線②4～5条の平行沈線のものがある。中期から古墳時代の土器群の変化を通して、これらの違いはおむね時間的な流れの中で変化していくものと考えられる。すなわち、それぞれの特徴の組み合せによって2～3段階の時期区分が可能と考えられる。県内及び周辺地域の遺跡の状況との比較が必要であり、総括編で細かく検討してみたい。（久々忠義）

## VII 江上日遺跡

### 1. 出土遺物 (図版75~90)

#### A 繩文時代 (図版75・76)

遺物には、繩文土器・打製石斧・磨製石斧・砥石・凹み石・叩石がある。大部分はSD030より出土した。

繩文土器1~9には、口唇部に压痕を加えた1、平行沈線と列点文の下に斜位の2段LRの縄文を施した2、条痕文上に平行沈線と列点文を組み合せた4、口縁に数条の平行沈線を引き、その間に縄文をこころがす6、条痕文の9がある。2は中期後半、1・3~9は晩期前半にならうか。打製石斧1~8には、短背形のもの1~3・5、撥形のもの4・6~8がある。4・7は撥形で刃部がやや凹む。1~8は後・晩期のものか。13は定角形の磨製石斧で、中期に属する。その他、砥石14~19・凹み石20・叩石22があり、砥石は時代不明である。

#### B 弥生時代 (図版76)

弥生土器の大部分はSD030より出土した。11~13・15・16は壺の、14は甕の口縁部であろう。口縁部は、縄文の上に連弧文・指頭压痕・刺突文・列点文を施す。11は口唇部をヘラで割り、連弧文と平行沈線文を組み合せる。15のように口唇部内外に縄文だけを施すものもある。縄文は2段RLのもの11~14と2段LRのもの15・16がある。20は細い縄文を施す。上記の土器群は、魚津市佐伯遺跡〔上野1979〕に類似し、中期の天王山式に比定できる。(宮田進一)

#### C 弥生時代後期後半から古墳時代初頭 (図版76~82)

遺物は、土器・石器があり、多くのものは溝内から出土した。

土器は、壺・甕・鉢・高杯・器台・蓋の6器種に分ける。壺は、長頸壺31・57、台付長頸壺67、広口壺58・60、無頸壺66、中型壺59・61・62・64・65、小型壺(ミニチュアを含む)63・68の6種がある。

長頸壺は、口縁部の形から、直線的に上方へ伸びるもの、やや斜め上方に伸びるものに分けられ、さらに端部がそのまま終わるものと複合状となるものの2者が合わさりみられる。胴部は、球形で大きく張るものと比較的小さなものがある。この他に、丸形の胴部で長く伸びるものもある。甕は、「く」の字口縁のもの80~85と複合口縁85~104・106~120の基本的2種があり、これに複合口縁で脚がつく台付甕105が加わる。鉢は、小平底の底部から体部が斜め上方に伸びて口縁となる鉢141~146・153~155、同様の器形で底部に穴を持つ瓶の2種がある。前者は、口縁部の形により直線的に終わるもの141・144、内彎して終わるもの142・145、「く」の字口縁のもの153、複合口縁のもの143・154・155に分ける。この他、台付鉢146があり、内彎する口縁を持つ。高杯は、完形品が少なく脚部の形で、棒状脚171・172・177・180・192と「ハ」の字に開きのある174~178・181~185・188~191に2大別できる。棒状脚のものは、杯部が平らで、外面に棱をもって強く屈曲して口縁部となる。口縁部は、中程まで立ち上り、大きく外反する。脚は、長い筒状の棒状脚に丸味をもつ大きく外開きする脚幅がつく。脚幅部は、低く大きく開き端部が複合口縁となるかはね上るもの171・172、外面に段をもち、「ハ」の字状に広がり、端部が複合状となり水平に伸びるもの173・186・192がある。「ハ」の字状の脚は、柱状部からゆるく開き、端部がそのままのもの176~178・181~185・188~191・193と複合状となるもの174・175がある。この他に、杯部と脚が同様の型で小型のもの193がある。器台は、器受部と脚が同じ形となるもの176~178・181~185・188~191・193・201と器受部から浅く大きく開き、「ハ」の字の脚がつくもの194・202~205がある。後者の口縁端部は、複合状となり、上下につまみ出される。蓋161~168は、基本的には笠形で直線的に伸び、逆台形のつまみがつく器形である。つまみは凹むものが多く、穴があけられるもの166もある。この他に、高杯の杯部と似る器形のものがあるが、全器形が不明なため、ここでは高杯の中で扱っておく。ただ、壺の口縁の可能性があるものもあり、断定できない。

これらの土器の特徴をまとめると次のようになる。長頸壺の頭部内外面は、ハケメが目立ち、胴部内面は、ヘラケ

ズリが目立つ。口縁部・頸部外面に文様を持つ。複合口縁となる壺の外面には、クシ状具による平行線文がみられる壺では、丹塗り例・大型品は少ない。甕は、口縁部・胴部外面に「ノ」の字文を持つものがある。胴部外面をハケメで整形するものは少なく、胴部内面をヘラケズリするものが多い。鉢は、瓶とそうでないものの2種がある。高杯は、棒状脚例が多く、棒状有段脚もみられる。大型品は少なく、丹塗り例は少しみられる。器台は、高杯に比べて量的に少なく、蓋は、他の器種に比べて多い。壺・甕の底部に葉脈状文122~124・127~129、「×」形の126をもつものがある。器種では、壺・甕・鉢に台がつく例がみられる。小型土器がみられる。

石器は、玉未成品と加工痕のあるものの2者がある。玉未成品では、管玉と勾玉の未成品がある。前者は、碧玉で後者はヒスイでつくられている。時期は、弥生時代後期後半から古墳時代初頭頃と考えられる。この他に、横長削片を用い、側面に打圧による剥離を加え、一見打製石斧とみられるものがある。時期・性格・用途は不明であるが、一応ここで扱った。

土器の時期は、上記の特徴などから塚崎II式頃〔吉岡1976〕が主体を占める。それに先行する塚崎I式・小杉町岡山遺物〔橋本1970〕などと類似点も見出せる。また、時期・距離的に近い江上A遺跡〔久々1981(本書取録)〕の遺物群とは、類似点も多いが異なる点も見られる。ここでは、遺物群の特徴をまとめる事とし、時間差・地域差・性格について、今後の課題としたい。

#### D 中世 (図版83~90)

遺物には、株洲、土師質土器、越前、中国製白磁・青磁、銅錢、瓦質火鉢、行火、鐵鎌があり、建物群周辺及び溝から多く出土した。遺物の数量は、株洲・銅錢が多く、その他はわずかである。

株洲 甕 (221~238) 口径44cm前後のものと67cm前後のものとの大・小がある。

口縁部の形態によりA~C類に分かれる。A類は長い口縁が深く屈折するもので、小型である。条線状のタタキが頸基部のやや下った所から右下りに始まるもの221と頸基部直下から平行に始まるもの222がある。B類は短い口縁が屈折し、端部に丸みのあるもので、大型のもの227・228と小型のもの223・224・226・227がある。タタキは、頸基部直下から平行に始まり、やがて右下りになる。227・228は口縁端部がやや肥厚している。C類は短い、肥厚した口縁が水平に屈折するもの225・229で、小型である。タタキの方向はB類と同じである。口径は不明だが、230~234はC類に含まれよう。A類の量はB・C類に較べて少ない。

壺 (240~250) 口径10cm前後のものと24cm前後のものとの大・小がある。

小型の壺には、口縁がやや直立するもの240、直立した口縁の端部を肥厚したもの243、口縁が外反するもの241、外反する口縁の端部外削りで面をとるものの242がある。肩部には右→左へと柳目波状文を描く。

大型の壺は外反する口縁の端部外削りで面をもつ。248は頸基部よりやや下った所からタタキを始める。249は、胴部がやや丸くなり、頸基部直下よりやや右下りにタタキを始める。壺の外底面には250以外静止糸切り痕がある。

鉢 (253~282) 口縁端部の形態によりA~F類に分かれる。

A類は端部外削りで面を取るもの253・281で、先端近くでやや内彎する。内面にはオロシメを施さない。B類は、端部がやや丸くなるもの254で、オロシメを持たない。C類は端部を水平にするもので、オロシメを持つもの255と、持たないものの256がある。D類は端部外削りで面をとるもの257~261で、オロシメを施す。258は口縁がやや内彎し、端部が鋭くなっている。E類は端部を強く押しつけて水平にし、その上に柳目波状文を施すもの262・263・265で、内面にオロシメを施す。F類は端部内削りで面をとるもの264で、他の破片より、内面にオロシメを施すことがわかる。内面のオロシメは、C・D類よりE・F類の方が太く、多く施されている。その点から考え、266~268・280・282はC・D類に、269~273はE・F類に属する。確認できた鉢の外底面には、253の回転糸切り痕以外、すべて静止糸切り痕が残る。甕・鉢の断面に付着している漆は、土器の接合に用いられている。

珠洲編年〔吉岡1981〕に従えば、甕A類はⅡ期（13世紀前半）、甕B類はⅢ期（13世紀後半）、甕C類はⅣ期（14世紀）となろうか。片口甕240は、直立する口縁と回転糸切りの底部により、Ⅰ期（12世紀後半）に属すると考えられるが、甕にⅠ期のもののがなく、糸切り痕をもつ土師質小皿がないことから、Ⅰ期の終りからⅡ期の初めと考えたい。鉢A類も甕240と同様にⅠ期の終りからⅡ期の初めに考えておく。甕249はⅢ期、鉢B・C類はⅡ期となろう。鉢D類はⅢ期あるいはⅣ期の一部を、鉢E・F類はⅣ期あるいはⅤ期（15世紀前半）の一部を含むと考えられる。

土師質土器 皿（290～310） 口径9cm以下のものと11cm以上のものがある。

口縁部の形態によりA～F類に分かれる。A類は体部がやや丸みをもって立ち上がり、口縁に段を持たず、端部が肥厚するものである。大型のもの300・301・305・306・310と小型のもの290・291・296・297がある。出土例が一番多い。296・301は端部の器厚が薄い。B類は体部が低く立ち上がり、口縁部にヨコナデによる段をつけ、内面の周縁に1条の沈線を巡らすものの293・297・299で、小型である。C類は体部がやや開きぎみに立ち上がり、口縁部にヨコナデによる3段をもつ。大型のもの303・304・308と小型のもの294がある。303・304は内面の周縁に1条の沈線を巡らす。D類はやや肥厚した口縁部にヨコナデによる段をもち、端部に面をもつもの293で、小型である。E類は口縁端部を強くナデるもので、大型のもの307と小型のもの292がある。F類は体部が外反して立ち上がり、端部で外へ屈折するもの309で、大型である。

土師質土器は外底面に回転糸切り痕を残さないことから、13世紀以後に上限が求められる。D類は、安田城跡〔久々1979〕に類似し、13世紀のものか。F類は石川県白山橋遺跡〔四柳1980〕に類似が見られ、16世紀前半であろう。その他の大半のものは、13世紀～15世紀であろうか。

中国製白磁（315～317） 315は口縁端部が口禿になった皿で、体部外面の下位から底部にかけて施釉されていない。太宰府編年〔横田他1978〕によれば、白磁皿Ⅲ期にあたり、13世紀中葉～14世紀中葉になろう。317は、露胎の内面にロクロ成形痕を残す壺の破片を打ちかいたものである。

青磁（318～323） 龍泉窯系の碗には、内外無文のもの320と鎬蓮弁のあるもの322・323がある。13世紀中葉～14世紀中葉になろうか。321は茶色味の強い同安窯系の碗である。稜花皿319や内底面を打ちかいた318がある。

銅錢（1～216） 総出土枚数は595枚である。その内訳は、S K106から559枚、S K088から27枚、S D014から3枚、S D066から1枚、K17Y43区から1枚（寛永通宝）、出土区不明6枚（1枚寛永通宝）である。寛永通宝以外の銅錢は、北宋銭及びそれ以前の渡米錢である。明錢を含んでいない点から、銅錢の流通は、14世紀後半を下らない。S K106出土のものは、大半が北宋銭である。数量的には、皇宋通宝・熙寧通宝・元豐通宝等が多い。

その他、瓦質火鉢（251）、越前（326）、灰釉・鉄釉の瀬戸（331～339）、断面に漆付着の美濃（347）、右製の行火、鉄鎌があり、行火・鉄鎌以外は、室町時代後半に属する。染付の古伊万里（348～351）、唐津（352・353）、越中瀬戸（330・341～347・354～357）があり、近世以後のものである。

## 2.まとめ

遺物には、縄文時代中期・晚期、弥生時代中期、弥生時代後期末から古墳時代初頭、鎌倉時代～室町時代、近世以降のものがあり、遺物が集中しているのは、弥生時代後期末から古墳時代初頭と中世である。土器の編年的位置づけ、遺物と遺構との関係等、本遺跡をとりまく諸問題は、今後の課題としたい。

（宮田進一）

註1 ここで述べた鉢とは、吉岡康輔氏の分類した片口鉢類〔吉岡1981他〕のことである。しかし、この片口鉢類には片口でない鉢をも含んでいるので、ここでは、片口を含めて鉢と呼んでおく。

註2 甕222は、胴上半の平行タタキよりⅢ期に属すると考えられる。

註3 外底面に回転糸切り痕を持つ土師質小皿は、神道遺跡（本書所収）・若宮B遺跡（狩野1982）から一応珠洲Ⅰ期（12世紀後半）からⅡ期に下限とすると考えられる。

註4 銅錢の計測には、富山県教育科学センター研究室谷本頼充氏の協力を得た。記して謝意を表する。

註5 瓦質火鉢類が15世紀より日常用器のセットに加わる〔吉岡1981〕。

## VIII 東江上遺跡

### 1. 出土遺物

出土した遺物の大部分は、7世紀末から8世紀初頭にかかるものである。これには、須恵器・土師器・製塙土器・磁石がある。このほか、中・近世の陶磁器が若干ある。

#### A 古代

##### (1) 須恵器 (図版91~94)

須恵器には、蓋A・蓋B・蓋X・杯A・杯B・椀A・擂鉢・壺・甕・円面鏡がある。列記した器種のうち、食器類すなわち供膳用の蓋A・蓋B・杯A・杯Bが大部分を占めている。

蓋 蓋A・Bは杯蓋である。内面に身受けのかえりをもつものを蓋A、かえりが消え屈曲する縁部をもつものを蓋Bとする。これらは、法量によって、蓋A I (1~7; 口径約18cm)・蓋A II (8~9; 口径約16cm)・蓋A III (10~19; 口径約13cm)・蓋A IV (20~21; 口径約10cm)にわけることができる。蓋Bも同様に、蓋B I (22~34)・蓋B II (35~48)・蓋B III (49~56)とする。

蓋Aには、かえりの先端が口縁端部の下方に出るものはない。かえりをもつ杯蓋としては終末期の型式である。蓋Bの口縁端部には、鋭い嘴状のものが多いが、直立ぎみに屈曲するもの(28・55)や、強く内屈し断面が逆三角形を呈するもの(23)もある。後二者はかえりの消滅直後の型式であろう。蓋A・蓋Bとともに、頂部をとどめる個体はその外側をヘラケズリする。内面は、ヨコナデのみを行うものと、ヨコナデのちナデを行うものとの二種がある。蓋A 22点について西区と東区との出土比をみると、西区6点、東区16点で、1:3の比率となる。また、蓋Aと蓋Bとの出土比は、およそ2:3である。蓋Aでは蓋A IIIが、蓋Bでは蓋B IIが主体を占める。なお、蓋X(57)はいわゆる薬蓋の蓋である。

杯 杯は、高台をもたないものを杯A、高台をもつものを杯Bとする。杯Bが蓋Aないし蓋Bと組みあう有蓋であるのに対し、平底の杯Aは『正倉院文書』にみえる「片杯」に相当し、基本的には無蓋であると考えられる<sup>11</sup> (西1979)。

杯Aは、蓋A・Bと同様に法量から、杯A I (欠如)・杯A II (58・59)・杯A III (60~72)・杯A IV (73~77)にわけれる。形態的には、a種：底部にやや丸味をもつもの(61・66・72・76・77)、b種：平底のもの(その他)との二種がある。それぞれの径高指数(器高/口径×100) (小笠原他1976)は、a種では平均値34.6、b種では杯A II 22.2、杯A III 24.7、杯A IV 28.3である。このようにa種の指数がもっとも高く、b種では杯A II→杯A III→杯A IVと口径が小さくなるほど指数が高い。なお、椀A IV (78)の指数は34.5であり、杯A a種の平均値とほぼ同じである。整形・調整では、内底面をヨコナデするものと、ヨコナデのちナデを行うものがある。

杯Bは、法量から杯B I (79~81・83)・杯B II (90~93・100~102)・杯B III (103・111~114・122~126・133)・杯B IV (134~144)にわける。高台は底部と体部の境よりもやや底部中央寄りにつけられ、ために高台の外側でひとたび屈曲して体部が外反するものが多い。この屈曲点は棱となる。高台の端面には、内傾するもの(116)、水平のもの(95・118など)、外傾するもの(93・102など)の三種類ある。内、後二者が大部分を占める。内底面は、ヨコナデを基調とするが、ヨコナデのちナデするものがある(96・102)。外底面は、丁寧にヘラケズリするもの(95)がわずかにある。径高指数は、杯B I 26.2 (口径は復原推定)、杯B II 25.6、杯B III 30.3、杯B IV 41.6である。杯Bでも、杯B I →杯B III→杯B IVと口径の小さい杯B IVがもっとも指数が高い。

杯Aと杯Bとの出土比は21点:68点で、ほぼ1:3である。また、蓋A・Bと杯A・Bとの出土比は、56点:89点で、2:3である。ちなみに、無蓋と考えられる杯Aを除外し、蓋A・Bとそれらと対をなすと考えられる杯Bとの比は、56点:68点で、6:7となり、上述の推定をほぼ裏づける比率となる。

**壺** 出土点数が少く、かつ破片が多いので、器種分類は行わない。完形に近い145は、体部外面にカキメを施し、底部外面を不定方向に静止ヘラケズリする。152・153は短頸壺、158・159は台付壺の底部及び高台部である。

**甕** 口縁部（162・163）・体部の破片が若干ある。復元したものは、西区の大溝S D05の底から出土した1個体のみである（164）。器高91.4cmの大甕である。体部は頭部以下全面にわたって、外面を平行タタキメ、内面を同心円文でうめる。

**円面甕**（161） 外堤の径17cm、脚台の径23.8cm、高さ8cmの大形品である。海部と陸部との境には内堤をもたない。陸部と脚台部との境に突帯をもつ。脚台の端部は大きく外方へふんばる。脚台部に十字形のスカシをもつ。陸部は焼成時の焼けひずみによって中央が盛りあがっているが、使用痕がみられ、甕として機能したことが窺える。

### （2）土師器（図版95・96）

土師器には、甕A・甕B・甕C・壺・高杯・椀がある。列記した器種のうち、煮沸形態である甕A・甕B・甕Cが計20余点あり、大部分を占める。供膳形態では、椀1点があるほか杯・蓋の類はまったく存在しない。

**甕** 形態・法量から便宜上、三つの器種にわける。甕A；大形の長甕（201～205；口径19.6cm～24cm、器高約24cm～27cm）、甕B；中形の長甕（206～211；口径16cm～19.6cm、器高21.5cm～23cm）、甕C；小形の丸甕と長甕（212～217；口径12cm～14.4cm、器高13.8cm～16cm）である。形態的には、いずれも口縁部が「く」の字形にゆるく外反し、端部を丸くおさめる。甕A・甕Bが基本的に長甕であるのに対し、甕Cは長胴ぎみのもの（213）と、球形の胴部をもつ丸甕（212）との二種がある。3器種ともに成形・調整の上では変わらない。すなわち、①粘土紐巻きあげにより成形したと考えられ、それを示す接合痕ないし凸凹を器面にとどめるものがある。②口縁部は内外面ともに横方向にナデる。③胴部外面は縱方向にハケメ調整する。④胴部内面は横方向ないし斜めにハケメ調整する。⑤前記の③・④のハケメ調整はしばしば口縁部にも及ぶ。以上から明らかなとおり、東江上遺跡の甕には、奈良時代以降の甕にみられるカキメ・ヘラケズリ・タタキメ・同心円文がまったく認められず、須恵器の製作技法が未だ導入される以前の段階のものである。

**壺** 219は内黒の小壺である。外面はハケメ調整、内面はナデる。230は形態・法量ともに甕Aと共通するが、口縁部が丸く外反し、胴部内面をハケメのちヘラミガキすることから、ひとまず壺と考えておく。218は遺跡外（トレンチ）出土のもので、上記の土器群に伴うものではない。

**高杯** 1点ある（221）。杯部の内面は内黒である。脚部の上半と杯部の外表面はハケメ。脚端部の外表面はナデる。

**椀** 1点ある（220）。断面は半円形を呈する。厚手である。ロクロ成形した形跡はない。外面にわずかにハケメ。

**土製支脚** 2点ある（222・223）。いずれも上半を欠く。上下両端が太い棒状のものである。外面をハケメする。

### （3）製塙土器（図版96）

東区の堅穴住居S K19内及びその周辺から破片が出土した。せいぜい数個体であったと推定される。ラップ状に開く口縁部・細長い胴部・尖り底をもつ「小形棒状尖底」の能登式製塙土器〔近藤1962〕と考えられる。近藤義郎氏の分類による「城ヶ崎タイプ」〔近藤1962〕、橋本澄夫氏の分類によるC類〔橋本1976〕中の「尖底a類」〔橋本1981〕に該当する。本遺跡から汀線まで直線距離にして約5kmあり、この遺跡で土器製塙が行われたとは考えがたい。おそらく、煎熬容器であった製塙土器を、そのまま塙の運搬容器として利用し、この遺跡に搬入したものであろう。

## B 中世・近世

東区の土塙S K18から珠洲系陶器の擂鉢の破片（251）及び土師質小皿（234）が出土した。前者は、吉岡康暢氏による珠洲陶の最新の編年〔吉岡1981〕に従えば、そのⅢ期にはほぼ該当し、13世紀中頃ないし後半の所産と考えられる。これと共に伴した土師質小皿の年代についても同様である。上記のはか、遺構に伴わない珠洲系陶器の破片が若干ある（252～254）。また、近世の川S D27の底から越中瀬戸が数点出土している。

## 2. まとめ

### A 須恵器について

須恵器の大部分は、供膳形態の蓋A・蓋B・杯A・杯Bである。蓋には、内面にかえりをもつ蓋Aと、もたない蓋Bがある。型式学的には新旧の関係にあるこの二者は、同時期にしばしば共存している。窯跡・宮殿址・集落跡において確認されていることである。例えば、富山県下では富山市金草1号窯〔岡崎・藤田1970〕、小矢郡市西蓮沼新堤窯、県外では大阪府陶邑古窯址群中のT K217号窯〔田辺1966〕、平城宮跡 S D1900 Aなどにおいてそうである。また、蓋A・Bと杯A・Bとの共存関係を想定することにも、無理はないと考えてよい。したがって、上記の土器群は、飛鳥・藤原宮の土器編年〔西1978〕でいえば、飛鳥Ⅳ期・V期に該当し、7世紀の第4四半期から8世紀の第1四半期の土器と考えることができる。絶対年代でいえば、およそ A D675年頃から A D715年頃ということになる。土器のこうした年代観に大過なければ、この遺跡の存続期間は、せいぜい40年前後と推定することができる。遺構をみたとき、掘立柱建物群に、数期にわたる建て替えがみられないことは、その傍証といえるだろう。

### B 土師器について

土師器でもっとも注目されるのは甕である。いずれも口縁部を横方向にナデ、胴部の外面をハケメ調整する。この種の甕は、長胴化の傾向を除けば、製作技法上は古墳時代以来の伝統的な甕であり、いわば「古墳時代的な甕」といえる。事実、古墳時代後期の甕との間に大きな技術的差異は認められない。

一方、奈良時代以降の甕は様相が一変する。すなわち、長甕という点では形態的に変わりないが、成形・調整技法では以下の諸特徴をそなえている。<sup>34</sup> ①口縁部の内外面を、回転力をを利用してヨコナデする。したがって、旧来は丸くおさめていた口縁端部が、内側に向って尖りぎみとなる。②胴部上半の外面には、回転力を利用したハケメつまりカキメを横方向に施す。③胴部下半から底部にかけて、外面には平行タタキを、内面には同心円文を施す。④胴部外面の中ほどには、しばしばヘラケズリを行う。このように、ロクロ技法・タタキ技法、新たなヘラケズリ技法の採用という諸点から、明らかに須恵器の製作技法によって生産されているのである。また同様の製作技法は、もう一つの煮沸形態である土壙にも等しく認められる。こうした現象は、須恵器生産と土師器生産を分離してみると、土師器生産に生じた大きな技術革新として評価できる。しかし、今一つ看過しえない現象がある。すなわち、この種の形態・技法をもった甕・土壙は、一方では窯窓において須恵器としても焼成・生産されているのである。したがって、この事実からすれば、須恵器生産と土師器生産を二分して捉え、前者から後者への技術体系の一方的な伝播・流出を想定することはむつかしい。<sup>35</sup>

ひるがえって、東江上遺跡の土師器に舟形目を転すれば、すでにふれたとおり土師器の供膳形態がまったく欠如しているという事実が浮かぶ。換言すれば、供膳形態は須恵器によって占められていたということである。この時期に畿内では、暗文を多用する土師器の杯・碗類が供膳形態としてなお大きな比重を占めており、きわめて対照的である。前記のことは、東江上遺跡に限られた現象ではなく、7世紀末から8世紀代の北陸地方では、——黒色土器の椀・杯が若干あることを捨象すれば——かなり一般的なあり方であったと考えられる。こうした点から、すでに7世紀末において北陸地方では、須恵器生産の優越性を否定できず、土師生産は、土師器固有の機能である煮沸形態（甕）には限られるほどの壊滅的状況にあったと推論できるであろう。だとすれば、上述の須恵器の技法による甕・土壙も、奈良時代に割って土師器生産が須恵器生産体制のなかに包括・併存され、新たな土器生産体制の下に生産されたもの<sup>36</sup>と考えられよう。つまり、旧来の土師器生産の一定の解体とその新たな再編成<sup>37</sup>、この時期になされたと考えるのである。また、その再編成には、在地の有力豪族あるいは首長層（都司層）の関与が介在したと考えている。その成立時期が奈良時代初頭である点に注目すれば、新たに成立したこの土器生産体制は、いわば地方における「律令的土器生産体制」の成立として捉えるべきであろう。<sup>38</sup>

（岸本雅敏）

註1 西 弘海氏のこの見解は、奈良時代の土器について『正倉院文書』の分析から導き出されたものである。年代的には7、8世紀の文にある本道跡の土器にこの見解を適用するのは、不適当と思われるかもしれない。しかし、内面にかえりをもつ蓋と組みあう平底の杯（西氏のいう杯G）が、飛鳥Ⅳ期にはほとんど消滅している（西1976）ことから考えれば、飛鳥Ⅳ・Ⅴ期に該当する本道跡の土器に西氏の見解は適用しうると考える。

また、本文中で、杯Aが「基本的に」無蓋と述べたのは、実際の使用の場においては、ときに有益として現われた蓋然性を考慮したからである。

註2 ただし、杯A・Bいずれかを判別しえない口縁部の破片を拾取しているので、この数値には、今後若干の変動が生ずるかもしれない。一つの傾向を示すものとして、本文ではとりあげた。

註3 本書の遺構編（岸本1981）では、土器の縦年の位収は、飛鳥Ⅳ期に限定した。しかし、その後土器を整理・検討した結果、飛鳥Ⅳ期に限定することは困難であり、飛鳥Ⅳ・Ⅴ期と幅をもたせて考えたい。ここに修正しておく。上記の判断材料としては、蓋Aと蓋Bとの比土比率がおよそ2:3であること、また蓋B・杯A・Bの土器型式が、飛鳥Ⅳにはとうてい限定できないことを挙げておく。

註4 筆者が蓋Cと呼んだ小形甕では、奈良時代以降、本文中に掲げた①～④の技法のすべてが、必ずしも採用されてはいない。特に、タタキ技法は欠如していることが多い。富山県砺波市高沢島II遺跡の出土土器（神保1978）はその好例である。

註5 須恵器の製作技法によるこの新たな甕は、北陸地方に普遍的に分布しており、奈良時代の北陸地方における土師器甕の地域性となっている。この種の甕は、平安時代以降には、東北地方にも波及しているが、その出現の故地が北陸地方にあることは、本文から明らかである。以上二つの理由から、この種の甕を、橋本 正氏の提唱に従って「北陸型の土師器（長）甕」と呼ぶことにする。

なお、橋本 正氏は、口頭において前記の事実をしばしば強調され、上記の用語をすでに使用されていることを明らかにしておく。

註6 例えば、富山県下の窯跡では、大門町小杉流連窯跡地内AM16遺跡第2号窯跡〔上野・池野1980〕、小矢部市手平岡山3号窯〔伊藤1981〕等において認められる。前者は、その出土須恵器が、平城宮の土器罐年〔小笠原他1976〕の平城宮日に併行することから、AD730年頃にはすでに、こうした現象が生じていたことを示している。

註7 須恵器生産から土師器生産への一方的な技術伝播・流出にとどまっていたものであれば、この種の甕は、あくまで土師器にのみ見出されるはずである。しかるに、須恵器としても焼成されているのであるから、須恵器生産組織のなかにおいても、この種の甕が製作できることは、十分推論できることである。この関係は、尚工人集団の緊密な技術交流を想定する（吉岡1967）だけでは、説明しきれない面をもっている。

以上述べたように、奈良時代以降には、土師器生産への新技術の導入にとどまらず、須恵器工人が土師器の生産に関与した形跡が認められるのである。このことから、農業共同体内に存在した土師器工人の消滅なし須恵器生産組織への吸収をただちに考えないにせよ、出来の土師器生産・須恵器生産が再編成され、両者を包括した新たな土師器生産組織・流通機構が整備されたと考えざるをえない。

8世紀末以降、余切り技法を採用了した土師器が出現する背景には、上に想定したような段階が前提条件として存在したと考えている。

註8 吉岡康輔氏は、石川県三浦遺跡中層の土器について、「供器・防寒形態は須恵器、煮沸形態は土師器」という器種による明瞭な機能分化がみとめられる」ことを、すでに指摘されている〔吉岡1967〕。また、高島忠平氏も、北陸地方の奈良時代に食器が須恵器に限られ、全国にみると特異な現象であると述べている〔高島1964〕。

註9 甕以外の器種の生産をまったく否定しようとするものではない。土師器生産が字に煮沸形態の甕によって占められるまでに後退している点を強調するにすぎない。ここでいう土師器生産の後退は、須恵器生産の優越性と表裏一体の関係にある。

註10 同じ形態・製作技法をもつ土器を、施成段階で土師器と須恵器とに焼き分ける。「焼き分け」が存在したと考えている。焼き分けを必要とした理由は、その器種が甕と場にはば張られていることからも明らかなことおり、煮沸形態のみは耐火性の土師器として焼成焰焼成せざるをえなかったためと考える。

註11 この点に関しては、田中琢・浅香年木尚氏の論考〔田中1967・浅香1971〕から多くのことを学んだ。

付記 本道跡では出土していない新種の「北陸型長甕」について譲々述べたのは、これが本道跡出土の甕ときわめて対照的であるため、これを採りあげることによって、逆に本道跡の甕のもつ意味を浮上させようと思閑したからにほかならない。東江上遺跡の土師器の甕は、本文・註で述べた北陸型土師器甕の出現前夜の土器として位置づけられるのである。

## 参考文献

- ア 浅香年木 1971 「第4章第2節 平安期の窯業生産をめぐる諸問題」『日本古代手工業史の研究』法政大学出版局
- 荒木繁行・吉岡康輔 1970 「金沢市畠田弥生遺跡調査予報」石川考古学研究会誌 第13号
- イ 伊藤隆三 1981 「富山県小矢部市平桜岡山3号窯跡」小矢部市教育委員会
- ウ 上野 章 1967 「高岡市下佐野遺跡」「大境」3号 富山考古学会
- 上野 章 1972 「弥生時代付古式土師器」『富山県史』考古編
- 上野 章 1973 「弥生式後期末及び古式土師器」『富山県滑川市魚射遺跡発掘調査報告書』滑川市教育委員会
- 上野 章 1974 「高岡市頭川遺跡」大境 第5号 富山考古学会
- 上野 章 1979 「天王山式土器」『富山県魚津市佐伯遺跡発掘調査概要』富山県教育委員会
- 上野 章・池野正男 1980 「富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第2次緊急発掘調査概要」富山県教育委員会
- オ 大塚初重 1963 「島根県出雲市知井宮遺跡の調査」『考古学集刊』第2巻1号
- 小笠原好彦・西 弘海 1976 「A 平城宮I~VIIの大別 2 土器 V章 考察」『平城宮発掘調査報告Ⅶ』奈良国立文化財研究所
- 小笠原好彦・西 弘海・吉田恵二 1976 「3 土器 IV章 遺物」『平城宮発掘調査報告Ⅶ』奈良国立文化財研究所
- キ 岸本雅敏 1981 「東江上遺跡」『北陸自動車道遺跡調査報告——上市町遺構編——』上市町教育委員会
- 岸本雅敏 1982 「遺跡のあり方と性格」『北陸自動車道遺跡調査報告——魚津市編——』富山県教育委員会
- ク 久々忠義 1981 「江上A遺跡」『北陸自動車道遺跡調査報告——上市町遺構編——』上市町教育委員会
- コ 近藤義郎 1962 「能登式製塙土器の研究」『日本塙業の研究5』日本塙業研究会
- 近藤義郎 1980 「日本塙業史の考古学的研究」『日本塙業大系 原始・古代・中世』日本塙業研究会
- サ 佐原 真 1958 「近畿地方」「弥生式土器集成——本編2——」
- 佐原 真・田辺昭三 1966 「弥生文化の発展と地域性——近畿——」『日本の考古学III』河出書房
- シ 徳保孝造 1978 「土師器 5 高沢島II遺跡」『富山県砺波市柏原野遺跡群子備調査概要』砺波市教育委員会
- ス 杉原莊介 1968 「伊勢湾地方」「弥生式土器集成——本編2——」
- タ 高島忠平 1974 座談会「北陸の莊園と両遺跡」の席上での発言。『富山県埋蔵文化財調査報告書III 井波町高瀬遺跡・人善町じょうべのま遺跡発掘調査報告書』所収 富山県教育委員会
- 田中 琢 1967 「畿内と東国——古代土器生産の觀点から——」日本史研究 90号 日本史研究会
- 田辺昭三 1966 『陶邑古窯址群I』平安学園
- ツ 都出比呂志 1979 「前方後円墳出現期の社会」考古学研究 103号 考古学研究会
- 坪井清足 1953 「福島県天王山遺跡の弥生式土器」史林 36-1
- ニ 西 弘海 1978 「土器の時期区分と型式変化」『飛鳥・藤原宮発掘調査報告II』奈良国立文化財研究所
- 西 弘海 1979 「奈良時代の食器類の器名とその用途」『研究論集V』奈良国立文化財研究所

- 八 橋本澄夫 1966 「弥生文化の発展と地域性——北陸——」『日本の考古学 III』河出書房
- 橋本澄夫 1968 「石川県小松市八日市地方遺跡の調査」石川考古学研究会々誌 第11号
- 橋本澄夫・荒木繁行 1969 「金沢市寺中遺跡の第1次調査」石川考古学会々誌 第12号
- 橋本澄夫 1973 「次場遺跡」「羽咋市史」原始・古代編
- 橋本澄夫 1976 「珠洲市の集落遺跡と土器製塙遺跡」「珠洲市史 第1巻」珠洲市
- 橋本澄夫 1981 「内浦町の土器製塙遺跡と製塙土器」「内浦町史 第1巻」内浦町
- 橋本 正 1970 「廻山遺跡——小杉町廻山遺跡緊急発掘調査報告書——」富山县教育委員会
- 橋本 正・上野 章・舟崎久雄 1973 『富山県滑川市魚舟遺跡発掘調査報告書』滑川市教育委員会
- 橋本 正・酒井重洋・久々忠義 1980 『富山県井口村井口遺跡発掘調査概要』井口村教育委員会
- 橋本正春他 1979 『富山県立山町埋蔵文化財子備調査概要』立山町教育委員会
- 浜岡賢太郎 1968 「北陸地方 I」「弥生式土器集成——本編2——」
- 林 謙作 1965 「縄文文化の発展と地域性——東北——」「日本の考古学II』河出書房
- ヒ 東森市良 1971 「九重式土器について」考古学雑誌 第57巻第1号
- 久永春男 1966 「弥生文化の発展と地域性——東海——」「日本の考古学III』河出書房
- 水見高等学校歴史クラブ 1964 「富山県水見地方・考古学遺跡と遺物」
- フ 藤田富士夫 1974 「富山県立山古窯跡群」月刊考古学ジャーナル №97 ニュー・サイエンス社
- 藤田富士夫 1981 『白鳥城跡試掘調査概要』昭和55年度富山市埋蔵文化財調査報告2 富山市教育委員会
- ヤ 谷内尾曾司 1973 「柳田うわの遺跡」「羽咋市史」原始・古代編
- ユ 湯尻修平他 1975 「金沢市戸水B遺跡調査報告書」「県立西高校建設関係埋蔵文化財発掘調査報告書」石川県教育委員会
- ヨ 横田賢次郎・森田 勉 1978 「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」「九州歴史資料館研究論集4」
- 吉岡康暢 1967 「第3章 遺物」「加賀三浦遺跡の研究」石川県教育委員会・松任市教育委員会
- 吉岡康暢 1976 「IV 総括 1 土器編年と遺構の年代」「北陸自動車道関係埋蔵文化財調査報告書II」石川県教育委員会
- 吉岡康暢 1981 「珠洲」「日本やきもの集成4」平凡社
- 吉岡康暢 1981 「北東日本海域における中世陶磁の流通」月刊文化財 № 215
- 四柳嘉章 1980 「中世雜器——土師質土器——の編年」「西川島I」「穴水町教育委員会

別 表

表1 神田遺跡珠洲観察表

番号	器種	出土区	法 量				成 形 · 調 整				備 考	
			口 径	体 部	脚 底	器 高	外 面	内 面	口縁部	体 部	頂 部	
42	壺	S K103	16.0				タテキ					内斜アテ真 裏アリケシ
44	甕	X22-34 Y21-25	32.8				ヨコナデ		脚底み切 り?	ヨコナデ 底状丸あり	ヨコナデ	ヨコナデ 底部に波状文 あり
45	甕	X16-24 Y18-26	48.0				ヨコナデ	タテキ		ヨコナデ		脚部压扁 アテ真底
46	壺	X22-24 Y18-20	22.6				タテキ					アテ真底 脚部压扁
47	壺	S K103	15.2	6.0	11.6	ヨコナデ			脚底み切 り?			
48	壺	X18-20 Y21-25	4.4				ヨコナデ 新底丸あり			ヨコナデ		
50	擂鉢	X22-34 Y21-25	23.0	5.0	9.5	ヨコナデ 底部に波状文 丸	ヨコナデ	ナテと脚底 具	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁周間に波状文 底部厚木切り
51	擂鉢	X22-28 Y17-25	28.8	9.2	12.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ナテと脚底 具	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	毛曲のオシメ
52	擂鉢	X16-17 Y26-30	27.4				ヨコナデ			ヨコナデ		片口オロメ
53	擂鉢	X22-34 Y18-20	29.0				ヨコナデ			ヨコナデ		オシメ
54	擂鉢	X22-24 Y21-25	48.5				ヨコナデ			ヨコナデ		オシメ
55	擂鉢	S B-003	20.6	10.2	8.4	ヨコナデ	ヨコナデ	ナテ?	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
56	擂鉢	X22-24 Y16-20	17.8	7.4	8.6	ヨコナデ	ヨコナデ	脚底み切 り? 壁状具	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
57	擂鉢	X22-34 Y18-20	24.2				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	
58	擂鉢	X22-24 Y21-25	21.2				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	片口
59	擂鉢	X21-22 Y21-20	25.4				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	
60	擂鉢	X16-20 Y 8-10	24.0				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	
61	擂鉢		24.0				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	
62	擂鉢	X22-24 Y21-15	27.0				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	
63	擂鉢	X22-24 Y16-20	30.4				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	
64	擂鉢		32.6				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	
65	擂鉢		37.4				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	施底不良
66		X22-34 Y18-25		9.2			ヨコナデ	ナテ		ヨコナデ	ヨコナデ	
67				11.0			ヨコナデ	脚底み切 り?		ヨコナデ	ヨコナデ	
68				10.2			ヨコナデ	脚底み切		ヨコナデ	ヨコナデ	
69		X22-34 Y21-25		8.6			ヨコナデ	脚底具		ヨコナデ	ヨコナデ	
70		X21-24 Y18-20		8.8			ヨコナデ	脚底具		ヨコナデ	ヨコナデ	
71		S B-006					ヨコナデ	脚底み切		ヨコナデ	ヨコナデ	

表2 神田遺跡土師質小皿觀察表

番号	出土区	法量	成形・調整				備考	
			外 面		内 面			
			口径 口径部	器高 口縁部	底 底部	口縁部		
81		9.6	1.8	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
82		8.0	1.8	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
83	S XIIII	10.0	1.7	ヨコナデ		ヨコナデ		
84	S H003	14.0	2.4					
85	S B012	8.7	2.0	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
86	S B010	8.6	1.4					
87	S B010	13.8	3.8	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
88	S IIIII	8.0	1.9	ヨコナデ		ヨコナデ		
89	S D113	15.2	2.2	ヨコナデ		ヨコナデ		内面エヌ付
90	S H006	7.8	1.1	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
91	S B006	9.2	1.2	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	指標点あり
92	S H006	9.4	1.6	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ	
93	S H006	8.8	1.5	ヨコナデ		ヨコナデ		
94	S XIIII	8.0	1.1			ヨコナデ	ヨコナデ	
95	S XIIII	10.0	1.6	ヨコナデ		ヨコナデ		
96	S A607	12.6	2.4	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	5日600に伴 うきか
97	X22-24 Y23-25	8.0	1.2					
98		8.0	1.4					
99		8.6	1.6					
100	X26 Y16	8.0	1.8	ヨコナデ				内面エヌ付
101	X22-24 Y23-25	8.0	1.5	ヨコナデ		ヨコナデ		内面クリ
102	X22-24 Y23-25	9.4	1.7	ヨコナデ				
103	X22-24 Y16-18	9.0	1.8	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	
104	X22-24 Y18-20	9.2	1.4	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
105	X22-24 Y18				9.4	1.9		
106	S B013 ?				8.6	2.0		
107					9.0	2.0		
108	X26 Y16				9.0	1.6	ナデ	ヨコナデ
109	X22-24 Y23-25				7.4	1.4	ヨコナデ	ヨコナデ
110					8.0	1.3		
111	X22-24 Y23-25				7.8	1.2		内面エヌ付
112					8.0	1.3	ヨコナデ	ヨコナデ
113							ナデ	ナデ
114	X22-24 Y23-25						ヨコナデ	ヨコナデ
115					9.6	1.4	ヨコナデ	ヨコナデ
116					8.4	1.5	ナデ	ナデ
117	X27 Y15						ヨコナデ	ヨコナデ
118	X22-24 Y15				9.0	1.7	ヨコナデ	ヨコナデ
119					9.0	1.7	ヨコナデ	ヨコナデ
120	X22-24 Y16-20				14.0	2.5		
121	X18-24 Y16-20				13.8	2.8	ヨコナデ	ヨコナデ
122	X27 Y15				18.0	2.5	ヨコナデ	ヨコナデ
123	X22-24 Y16-20				16.0	3.6		
124	X18-20 Y23-25				14.0	1.7		
125	S B011 ?				15.6	2.0	ヨコナデ	ヨコナデ
126	X22-24 Y18-20				14.0	2.2	ヨコナデ	ヨコナデ
127					17.2	3.4		
128					12.8	1.6		

表3 正印新遺跡弥生土器・土師器観察表

番号	器種	出土区	法 量			成 形 · 調 整						備考			
			口 径	体部径	脚底径	器 高	口 植部	肩 上 部	脚 下 部	脚・底 部	口 植部	脚 上 部	脚 部	脚・底 部	
1	甕	S.K31	13.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ナデ				外面にスズ付看
2	甕	S.K33	14.6				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				外面上にスズ付看 口縁にハケ先で削み
3	甕	S.K35	24.0				ハケメ								外面上にスズ付看 内面にハケ先で削み
5	甕	S.K36	23.4	29.6	9.4	37.4	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	外曲にスズ付看	
6	甕	S.K34		44.0	10.0		ヨコナデ ハケメ ナデ	ハケメ	ハケメ	ナデ ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ		
7	甕	S.K31	16.2				ナデ				ナデ				口縁内側にハケ先で削み
8	甕	S.K34	16.0								ハケメ				外面上にスズ付看 口縁に文様の刻み
9	甕	S.K34	16.5				ヨコナデ ナデ				ヨコナデ ナデ				外面上にスズ付看 口縁にハケ先で削み
11	甕	X12-Y20 8号-块		29.0	9.5		ハケメ ハケメ ハクメ ヘラミガタ ヘラミガタ	ハケメ			ハケメ ハケメ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	
12	甕		12.0												外面上にスズ付看
13	甕	X7-B Y31 7号	13.6				ヨコナデ				ヨコナデ				外面上にスズ付看
14	甕	X36-20 Y26-30 2-3号	14.0				ハケメ								口縁内外面に削み 削出し洗槽
15	甕	X12-Y30 8号	13.0				ハケメ				ナデ				口縁にテヌ及び丸 頭形
16	甕	X8-Y20-31 7号	16.0				ヨコナデ ハクメ ヘラミガタ				ヨコナデ ナデ				外面上に花紋
17	甕		17.6				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				外面上にスズ付看
18	甕	X7-B Y31 7号	18.0												
19	甕	X5-10 Y31-35 2-3号	18.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				
20	甕	X14-15 Y27-28 6号	14.0												外面上にスズ付看 口縁外側に削み、内 面削り洗槽
21	甕	X9-10 Y30 6号	18.0				ハケメ								口縁内側に指標痕
22	甕		17.6				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				外面上にスズ付看
23	甕	X17-18 Y25-36 6号	18.2				ナデ				ナデ				
24	甕	X6-7 Y30-32 7号	15.7				ヨコナデ				ヨコナデ ハケメ				口縁に斜めに削み 削出物只見断続 背面にスズ付看
25	甕	X11-12 Y45-46 6号	16.0				ヨコナデ ナデ				ヨコナデ ナデ				背面にスズ付看 背面にスズ付看 背面にスズ付看
26	甕	X5-10 Y31-35 7号	26.6				ナデ				ナデ ハケメ				口縁にテヌの後、地下 背景をむ
27	甕	X16-17 Y31-33 7-8号	22.5	31.7	9.5		ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	外面上にスズ付看 削上縁に削み	
28	甕	X8-9 Y30 8号	14.5	17.0			ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	外面上にスズ付看 口縁内側に削み	
29	甕	X16-19 Y31-35 7号	16.5				ヨコナデ ナデ				ヨコナデ				外面上にスズ付看 口縁に削み
30	甕	X18-19 Y31-32 7-8号	17.3	21.1							ヨコナデ ナデ ハケ				口縁にハケ先で削み 外面上にスズ付看
31	甕	X8-9 Y30 8号	12.7	16.2	5.2	24.0	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ ハケメ ハラカタ	ヨコナデ ハケメ ナデ	ハケメ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	外面上にスズ付看	
32	甕	X11-Y28-39 8号-块	16.8	18.8	7.4	27.0	ハケメ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ ハケメ	ハケメ ハケメ	ハケメ ハケメ	ハケメ	外面上にスズ付看	

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整						備 考	
			口 極	体部極	脚底極	器 高	外 面			内 面				
							口頸部	胸上部	脚下部	脚・底部	口頸部	胸上部	脚下部	
33	甕	X 6 - 13 Y 31 - 33 7号	15.0								ハケメ ナダ			口縁外に脚底底板
34	甕	X 9 - 10 Y 33 - 33 7号	17.4											口縁外にスヌ付有
35	甕		14.5	13.8			ヨコナダ	ハケメ ナダ			ヨコナダ	ハケメ ナダ		外面にスヌ付有
36	甕	X 7 - 8 Y 38 - 39 8号	19.5				ヨコナダ				ヨコナダ			口縁内側にヘアによる凹み
37	甕	X 7 - 8 Y 33 7号	20.0				ヨコナダ	ハケメ			ヨコナダ	ナダ		外面にスヌ付有
38	甕	X 8 - 9 Y 30 8号	14.8				ヨコナダ	ハケメ			ヨコナダ	ハケメ	マダ	外面にスヌ付有
39	甕	X 8 - 10 Y 35 - 33 7号	13.4	12.4			ヨコナダ	ハケメ	ハケメ		ヨコナダ	ハケメ	ハケメ	片端にスヌ付有 内面に脚底底板
40	甕	X 11 - 12 Y 36 - 39	16.2	17.5		16.0	ヨコナダ	ハケメ	ハケメ				ハケメ	外面にスヌ付有
41	甕	X 8 - 11 Y 39 - 32 7号	17.2				ヨコナダ				ヨコナダ			外面にスヌ付有
42	甕	X 11 Y 25 8号	17.6				ヨコナダ				ヨコナダ	ハケメ		外面にスヌ付有
43	甕	X 12 Y 41 5号	17.0				ヨコナダ				ヨコナダ			外面にスヌ付有
44	甕	X 8 - 9 Y 30 8号	20.0											外面にスヌ付有 口縁内に脚底底板
45	甕	X 8 - 9 Y 30 8号	19.0				ナダ ハケメ	ハケメ			ナダ	ハケメ		ハケメ(先)より右羽執持 脚底底板の内側に凹み 外面にスヌ付有
46	甕	X 12 - 13 Y 30 8号	18.0	17.5			ヨコナダ	ハケメ	ハケメ		ヨコナダ	ハケメ		口縁に脚底底板 縫縫の内側に凹みによる 底溝 外面にスヌ付有
47	甕	X 4 - 8 Y 38 8号	11.0	11.6	5.0	11.5	ヨコナダ	ナダ			ヨコナダ		ハラケヌリ	外面にスヌ付有 外縁舟型
48	甕	X 12 Y 29 8号	9.4	9.3	3.6	7.0	ヘラミガキ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ハケメ	ハケメ	外縁と内縁と脚底底板 内縁のヘラミガキによる 底溝 外面にスヌ付有
51	甕	X 8 - 10 Y 31 - 33	26.0											口縁にハラミガキで脚底 底溝の内側に凹み 底溝の内側に凹み
62	甕	X 12 - 13 Y 30 8号	25.5	24.4			ナダ 赤鉄	赤鉄	赤鉄		赤鉄 錆斑江州	赤鉄	赤鉄	外面内に脚底底板 外面にスヌ付有
63	甕	X 12 - 13 Y 30 8号	23.1	31.0			赤鉄	赤鉄	赤鉄		ナダ	ナダ	ナダ	内面にスヌ付有
64	甕	X 12 Y 29 8号	12.8	15.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	丸の織文	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナダ		外面にスヌ付有 内縁と脚底底板は3 基底か
91	壺	S D 02		14.5				ハケメ			ナダ	ハケメ		外縁舟型
92	高杯	S D 04			18.0					ヘラミガキ ヨコナダ				ヨコナダ 脚底底板に7-8cm で舟型
93	甕	X 17 Y 40 8号 S D 03	14.2	13.8	6.0	14.5	ヨコナダ ハケメ	ハケメ	ハケメ ナダ	ヨコナダ ハケメ	ハケメ ナダ	ナダ	ナダ	外面にスヌ付有
94	甕	S D 03	20.6				ハケメ	ハケメ			ハケメ	ナダ		外面にスヌ付有
95	高杯	S D 03	27.2				ミガキ	ミガキ			ヨコナダ ミガキ	ミガキ		靴つ半が付く
96	甕	S D 03	25.5				ヨコナダ				ヨコナダ ハケメ ナダ			
97	高杯	X 12 Y 40 8号 S D 03				22.6				ヘラミガキ				外面にスヌ付有
98	高杯	S D 05	24.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケメ					
111	高杯	S D 10	24.2				ヘラミガキ			ヘラミガキ				
112	高杯	S D 05 X 18 - 19 9号 S D 10 X 7 Y 30	25.0				ハケメ	ハケメ		ヘラミガキ	ヘラミガキ			

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整						備 考	
			口 径	体部径	脚底径	器 高	外 面			内 面				
							口部部	肩上部	肩下部	脚・底部	口部部	肩上部	肩下部	脚・底部
113	壺	S D05 X18-19 Y25-34 B105 27-6 T30-S1	12.7				ハケメ ハラミガキ ココナデ	ハケメ		リコナデ ハラミガキ ナダ	ハケメ			
114	壺	S D10	13.8	20.5	4.8	23.8	ヨコナデ ハラミガキ ヘラミガキ	ハケメ	ハラミガキ ココナデ 底面	ヨコナデ ナダ	ナダ	ハケメ	ハケメ	
117	刮拭器	S D11 X8 Y4 5層			19.0			ヘラミガキ		ナダ			竹管による削除	
118	甕	S D11	25.5				ハラミガキ		ヘラミガキ				外蓋にスス付着	
119	器 台	X12-15 2-3層 B104	24.0				ハケメ ハラミガキ			リコナデ ヘラミガキ				
120	高 杯	S D10							ハラミガキ ハケメ			ハラミガキ ハケメ		
121	器 台	S D14							ナダ ハケメ			ハラミガキ ハケメ	外蓋にスス付着	
126	高 杯	S D14 X16 Y40 3-4層							ヘラミガキ				裏抜型にキサナあり	
127	壺	X14-15 5層	13.6				ヨコナデ ハケメ			ヨコナデ ハメ				
128	壺	X8 Y45 一級	13.7				ヨコナデ ハケメ			ヨコナデ ハラミガキ ナダ				
129	壺	X8 Y45	13				ヨコナデ ハケメ			ヨコナデ ナダ				
130	壺	X13 Y59	13.8				ヨコナデ ハラミガキ			ヨコナデ ハラミガキ ナダ				
131	壺	X7 Y48	18.8	34.0			ヨコナデ ハケメ	ハケメ		ヨコナデ ナダ			ヘラミガキ	
132	巻	X9 Y45 一級	12.4				ヨコナデ ハケメ			ヨコナデ ナダ			山腹内面に陶質付着	
133	壺		21.5	5.5			ハケメ ナダ ナダ	ハケメ ナダ ナダ	ハケメ ハラミガキ 底面	ハラミ ハラミガキ ナダ	ハケメ ヘラミガキ ナダ	ハケメ ヘラミガキ ナダ		
134	壺	X16-20 Y45 50 2-3層	14.0				ハケメ ハラミ	ハラミ		ハラミ ナダ	ハラミ ナダ	ヘラミガキ	ヘラミガキあり	
135	壺	X11-12 Y42-44	14.0	20.5			ハケメ	ハラミ		ハケメ	ハケメ			
136	壺		12.5	17.0	5.0	23.8	ハケメ ハラミ	ハラミ	ハケメ ナダ	ナダ ハケメ	ハラミ ナダ	ハラミ ナダ		
137	壺	X10-22 Y40-50 X12-13 Y29-30	12.5				ハケメ ハラミガキ	ハラミガキ		ハラミ ナダ	ハラミ ナダ			
138	壺	X11-12 Y42-44	11.8	30.8	6.5	31.5	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ 圓弧	ヨコナデ ナダ	ハラミ ナダ	ハラミ ナダ	ヘラミガキあり	
139	壺	X11 Y47 3層	19.8	30.2	5.6		ヨコナデ ナダ ハラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ ナダ	ハラミ ナダ	ハラミ ナダ	支撐用孔その他の大きめの穴開きによる工縫を複数	
140	壺	X8 Y45 一級	17.2				ヨコナデ ハケメ			ヨコナデ ハラミ				
141	甕	X8 Y45 一級	16.5				ヨコナデ ハケメ			ヨコナデ ナダ			外蓋にスス付着	
142	甕	X11-15 Y41-45 2-3層	19.5				ヨコナデ ハケメ			ヨコナデ ナダ				
143	甕	X8 Y45 一級	19.5				ヨコナデ ナダ			ヨコナデ ナダ				
143	甕		21.5				ヨコナデ ハケメ			ヨコナデ ナダ				
145	甕	X15 Y55-56 3層	15.4										外蓋にスス付着	
146	甕	X14-25 Y32-34 3層	16.0				ヨコナデ ハケメ			ヨコナデ ハラミガキ			外蓋にスス付着	
147	甕	X10 Y47 3層	21.8				ヨコナデ ナダ			ヨコナデ ナダ	ハケメ		外蓋にスス付着	
148	甕	X10 Y49 3層	26.2	33.6			ヨコナデ ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ハケメ		外蓋にスス付着	

番号	器種	出土区	法量				成形・調整						備考	
			口径	体部径	脚底径	器高	外 国			内 国				
							口頭部	尻上部	尻下部	脚・底部	口頭部	尻上部	尻下部	脚・底部
149	甕	X10 Y48 3層	11.2								ヨコナダ タメ			
150	甕	X10 Y47 3層	11.2	11.3	10.0		ヨコナダ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ナダ	ヨコナダ ハケメ	ナダ	ナダ	ナダ
151	甕	X16-20 Y41-50	16.8	14.0	4.5		ヨコナダ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ナダ	ヨコナダ ナダ	ハケメ	ナダ	ヘラケズリ
152	甕	X14 Y32 3層-8	16.0	19.0			ヨコナダ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナダ ハケメ	ハケメ	ハケメ	
153	甕	X14-15 Y31-52 3層	15.5				ヨコナダ ハケメ				ヨコナダ ハケメ			
154	甕	X11-12 Y41-43	15.5				ヨコナダ ハケメ				ヨコナダ ハケメ			外側にスス付着
155	甕	X12 Y41 5層	17.0				ヨコナダ ハケメ				ヨコナダ ハケメ			外側にスス付着
156	甕	X16 Y43 3層-16	16.8				ヨコナダ ハケメ				ヨコナダ ハケメ			
157	甕	X19 Y45	18.0				ヘラミガキ				ヘラミガキ			
158	甕	X11-15 Y41-45 1-2層	16.8				ヨコナダ ナダ	ナダ			ヨコナダ ハケメ			外側にスス付着
159	甕	X16-20 Y40-59	12.0				ヨコナダ ナダ				ヨコナダ ナダ			外側にスス付着
160	甕	X5-19 Y45-59 5層	14.2	15.5			ヨコナダ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナダ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	
161	甕	X13 Y50	14.0	16.5			ヨコナダ ハケメ				ヨコナダ ナダ			内外面にスス付着
162	甕	X16 Y57 3層	17.0	21.5	3.2	26.5	ヨコナダ ナダ	ハケメ ナダ	ハケメ	ハケメ	ヨコナダ ナダ	ヘラケズリ ヘラケズリ	ヘラケズリ	内外面にスス付着
163	甕	X26 Y34	18.2	17.2			ヨコナダ ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ヨコナダ ナダ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	
164	甕	X15 Y57 3層	17.2	22.8	5.4	27.0	ヨコナダ ナダ	ハケメ ナダ	ハケメ ナダ	ハケメ ナダ	ヨコナダ ナダ			外側にスス付着
165	甕	X14-15 Y51-53 5層	12.5	11.7	3.0	12.3	ヨコナダ ナダ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ 脂油付着	ヨコナダ ナダ	ハケメ	ハケメ	ヘラケズリ
166	甕	X12 Y42 6層	19.2				ナダ ハケメ	ハケメ			ナダ ハケメ	ハケメ	ハケメ	外側にスス付着
167	甕	X13-14 Y30	15.2	16.5			ヨコナダ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナダ ナダ	ハケメ ナダ	ハケメ ナダ	ハケメ ナダ	
168	甕	X8 Y45 -地	15.2	18.4			ヨコナダ ハケメ	ハケメ			ヨコナダ ナダ	ハケメ	ハケメ	外側にスス付着
169	甕	X11-15 Y36-40 3-5層				25.8	ヨコナダ ナダ	ハケメ			ヨコナダ ナダ	ハケメ	ハケメ	外側にスス付着
170	甕	X10 Y47 3層				26.2	33.6	ヨコナダ ナダ	ハケメ	ハケメ	ヨコナダ ナダ	ハケメ	ハケメ	外側にスス付着
171	甕	X6-10 Y41-45 3-4層				12.0		ハケメ	・		ヨコナダ ナダ	ハケメ		外側にスス付着
172	甕	X12 Y42 5層				19.2				ヨコナダ ナダ	ハケメ	ナダ ハケメ	ハケメ	外側にスス付着
173	台付甕	X10 Y59 2-3層								ハケメ	ハケメ		ハケメ	ハケメ
189	甕	X15 Y54 3層	16.4				ヨコナダ ハケメ				ヨコナダ ハケメ			外側にスス付着
190	器 台		21.5				ヨコナダ ヘラミガキ				ヨコナダ ヘラミガキ			
191	器 台	X15 Y49 3層	25.8				ヨコナダ ヘラミガキ				ヨコナダ ヘラミガキ			
192	器 台	X7 Y30 3層	25.9				ヘラミガキ				ヘラミガキ			
193	器 台	X11-12 Y41-43 X15 Y40 3層	20.5				ヨコナダ ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヨコナダ ヘラミガキ			ヘラミガキ

番号	器種	出土区	法量				成形・調整						備考		
			口徑	体部径	脚底径	器高	外面			内面					
							口頭部	脚上部	脚下部	脚・底部	口部	脚上部	脚下部	脚・底部	
194	鉢	X17-18 Y30	18.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			
195	高杯	X14-15 Y50-53 5層	23.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	1.5mm	1.5mm	1.5mm	外面にスス付帯	
196	鉢	X17-18 Y30	22.8				ハケメ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			
197	鉢	X23-24 Y30-31 3層	11.8	11.0	3.5	5.7	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
198	鉢	X 8 Y53 2層	12.5		5.5	6.0	ナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	円底	ナデ	1.5mm	1.5mm	1.5mm	
199	鉢	X14 Y32 3層-16	12.7	13.2			ヨコナデ	ヘラナデ	ナデ		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		
200	高杯	X13 Y50	24.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ		スス付帯	
201	高杯	X16-20 Y46-50 2-3層	23.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			
202	器台	X13 Y40 5層-16	26.7				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ		スス付帯	
203	高杯	X16 Y46 5層-16	26.5		17.0	20.0	ヨコナデ	ヘラミガキ		ヘラミガキ ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ナデ	ヨコナデ ヨツ穴	
204	高杯	X17 Y38 3層-16	28.2		19.0	22.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	ヨツ穴	
205	高杯	X10 Y40-50								ヘラミガキ			ナデ	外面内張り	
206	高杯	X 7 Y45 2層								ヘラミガキ			ハケメ ナデ		
207	器台	X15 Y41 3層-16			17.4					ヘラミガキ			シボリ ナデ ハケ		
208	器台	X 8 Y45 3層-16			14.8					ハケメ ナデ			シボリ ナデ ハケメ	スス付帯	
209	台付長首 壺	X15 Y40 3層-16		10.3			ヘラミガキ	ヘラミガキ		ナデ	ヘラミガキ				
210	台付長首 壺	X12-13 Y46-50		19.4			ヘラミガキ	ナデ			ナデ				
211	台付長首 壺	X11 Y40 3層-16	8.8	15.0	12.3	19.0	ヨコナデ ハケメ	ハケメ ハケメ	ナデ ハケメ	ヨコナデ ハケメ	ハケメ ハケメ	ハケメ ハケメ	シボリ ナデ	側面の複合部は板 土師をうり蓋をすら	
212	台付長首 壺	X11-12 Y42-44	8.0	20.8			ヨコナデ ハケメ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ		ヨコナデ ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	シボリ ナデ ハケメ 外付帯は4单位 内付帯は4单位	
213	高杯	X 9 Y45 1段			18.5					ハケメ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ			ヘラミガキ ナデ ヨコナデ	
214	高杯	X16 Y46 2層-16			17.3					ヘラミガキ	ヘラミガキ ヨコナデ			ヘラミガキ ナデ	内付帯にスス付帯

表4 中小泉遺跡 弥生土器・土師器観察表

番号	器種	出土区	法 量				成 形 一 調 整						備 考	
			口 径	肩部径	脚底径	器 高	外 面			内 面				
							口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	
1	高杯	S D33									ハケメ			フタモト氏による評定を引く
2	高杯	S D33									ハケメ			ヘラ幅による丘陵の風貌を示す
3	甕	S D33	13.4			6.9	ヨコナダ・ ハケメ・テ ラ・ガタ	ハケメ・ヘ ラ・ガタ		ヨコナダ	ハケメ			指摘無し
4	甕	S D33	15.2			2.9	ヨコナダ							外側にスス付箋・内 側にシラフ付箋によ る判別
5	甕	S D33	22.0	19.7	6.2	27.5	ヨコナダ	ハケメ	ハケメ	ヨコナダ	ハケメ	ハケメ		指摘無し・外側にス ス付箋
6	甕	S D33	22.4			8.5	ハケメ	ハケメ		ハケメ	ハケメ	ハケメ		内・外側にスス付箋
7	甕	S D36	15.4			3.0	ハケメ							一つは茎丸、二つは 水道
8	甕	S D36	14.1			2.8	ヘラ・セキ							口縁部にクシ付箋によ る判別
9	甕	S D36	21.0			5.0					ハケメ			クシ付箋による判 別
10	甕	S D36	16.9			5.2	ヨコナダ	ハケメ		ヨコナダ	ハケメ			クシ付箋による判 別
11	甕	S K56	16.1			2.0	ヨコナダ							内面にクシ付箋によ る判別
12	甕	S K56	19.8	21.4	8.8	29.8	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ナダ	
13	甕	S D29	19.0			3.8	ヨコナダ			ヨコナダ	ハケメ			内・外側にスス付箋・ 内側にシラフ付箋によ る判別
14	甕	S D39	18.2			6.1	ヨコナダ・ ハケメ			ヨコナダ	ハケメ			内・外側にスス付箋
15	甕	S D39	15.2	13.6		11.7	ヨコナダ・ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナダ	ハケメ	ハケメ		内・外側にスス付箋
16	甕	S D36	16.4	14.4	5.6	14.8	ヨコナダ・ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナダ	ハケメ	ハケメ		内・外側にスス付箋
17	甕	S D36	20.0			7.6	ハケメ	ハケメ	ハケメ					外側にスス付箋・内 面に指揮痕
18	甕	S D27	14.0			1.9								クシ付箋による判 別・外側に指揮痕
19	甕	S D27	16.0			2.6								外側に指揮痕による判 別
20	甕	X35 Y41 1号	20.0	19.0		10.8	ヨコナダ・ ハケメ	ハケメ		ヨコナダ	ハケメ	ハケメ		外側にスス付箋
21	甕	X16 Y42 2号	19.0			5.0	ヨコナダ・ ハケメ			ヨコナダ	ハケメ			外側にスス付箋・内 側にシラフ付箋によ る判別
22	甕	X30 Y17-20	17.0			2.6	ヨコナダ			ヨコナダ				外側にスス付箋
23	甕		21.0			5.0	ヨコナダ・ ハケメ	ハケメ		ヨコナダ	ハケメ			外側にスス付箋・口 縁部に中凹みとなる
24	甕	X13 Y56 1号	16.0			4.2	ヨコナダ	ハケメ		ヨコナダ	ハケメ			内・外側にスス付箋
25		X34-35 Y36-40 2・3号												重量感がある
26	甕	S D33				5.2	3.0			ハケメ			ナダ	内・外側に指揮痕があ る
27	甕	S D33				7.0	3.4			ハケメ				外側にスス付箋
28	甕	S D33				9.6	3.8			ハケメ			ハケメ・ナ ダ	内・外側にスス付箋
29	甕	S D33				6.6	2.0			ハケメ			ハケメ・ナ ダ	内・外側にスス付箋
30	甕	S D33				6.7	4.5			ヘラ・ガタ				外側にスス付箋

番号	器種	出土区	法量				成形・調査						備考	
			口径	腹部径	脚底径	器高	外面			内面				
							口部部	脚上部	脚下部	脚・底部	口部部	脚上部	脚下部	
31		S D33				5.8	5.6			ハケメ				ハケメ・サ デ
32		S D35				5.0	3.6			ナゲ				ハケメ・脚 底がある
33	甕	S D36				6.0	7.0			ハケメ				ハケメ・サ デ 内外面にスス付着
34		S D36				7.4	3.8			ハケメ				
35		S D26				7.2	3.8			ハケメ				ナゲ 内底面に作成痕があ る
36		S D26				9.8	4.3			ハケメ				ナゲ
37		S K66				7.4	7.8			ハケメ・サ デ				ナゲ 内外面にスス付着、 脚底部に2箇所穴を穿 た。
38		X13-15 Y26-30 2・3層				7.4	3.5			ハケメ				ナゲ 外面にスス付着、 脚底部に2箇所穴を穿 た。
39		X17 Y41 1層				5.6	3.5			ハケメ				ナゲ 外面にスス付着
40		X21-25 Y 2・3層				5.8	1.9							
41	長頸甕	S D36	15.0			6.3	ヨコナメ・ ハケメ			ヨコナメ・ ハケメ				
42	甕	S D26	16.0	14.0		7.0	ヨコナメ	ハケメ		ヨコナメ	ナゲ			背面にスス付着、口 縁部内側に2箇所穴を穿 た。
43		S D26				15.1	1.7							ナゲ 狹い底上部によ る作成痕が見られる
44	壺	S D27	15.2				4.8			ヨコナメ・ ハケメ				底の範囲無
45	甕	S D27	18.2			3.0	ヨコナメ							外面上にスス付着
46	壺	S D27	12.4			4.3	ヨコナメ・ ハケメ・ヘ タシガキ			ヨコナメ・ ハケメ				
47	長頸甕	S D24	19.0			7.6	ヨコナメ・ ハケメ・サ デ			ヨコナメ・ ナゲ				
48	長頸甕	S D26	11.2	17.0		18.9	ハケメ	ハケメ		ハケメ	ハケメ・ナ デ			
49	甕	S D27	14.0			7.6	ハケメ・ヘ タシガキ			ヘラミガキ				
50	甕	S D27	15.8	16.0		13.7	ヨコナメ・ ハケメ			ヨコナメ・ ハケメ	ハケメ			外面上にスス付着
51	甕	S D26	17.0			4.2	ハケメ	ハケメ		ハケメ	ヘラミガキ			外面上にスス付着
52	壺	S D48				3.7	ヘラミガキ・ ハケメ			ヘラミガキ	ハケメ			
53	壺	X31-35 Y31-35 2・3層	10.2			6.6	ヨコナメ・ ハケメ			ヨコナメ・ ハケメ	ヘラミガキ			
54	鉢	X28 Y21 2層	12.0			4.2	6.0	ヘラミガキ		ヘラミガキ				
55	壺	X13 Y41 1層	12.4			4.8	ヨコナメ・ ハケメ			ハケメ				
56	高杯	S D46								ヘラミガキ				
57		S D36				4.5	4.0			ハケメ・サ デ				ハケメ・サ デ 基盤がある
58		X31-35 Y35-40 2・3層				3.4	1.8			ハケメ・サ デ				ナゲ
59	云紋					2.1	1.9			ハケ				外面上にスス付着

表5 中小泉遺跡須恵器観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考	
							外面				内面					
			口径	体部径	脚底径	器高	口縁部	体部	脚部	脚・底部	口縁部	体部	頂部	脚部		
71	杯	X19 Y60	10.8		7.0	4.1	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ		
72	杯	X15 Y48	11.0		6.0	4.0	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ		
73	杯	X31-36 Y36-40			11.2					ヨコナデ ヘラケズル				ヨコナデ ナダ		
74	杯	X20 Y172			9.1					ヨコナデ ヘラケズル				ヨコナデ ナダ		

表6 中小泉遺跡珠列觀察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考	
							外面				内面					
			口径	体部径	脚底径	器高	口縁部	体上部	体下部	脚・底部	口縁部	体上部	体下部	脚・底部		
81	甕	X31-35 Y31-35	48.7			8.0	ヨコナデ	タクキ			ヨコナデ	タクキ			口縁内面に階段状凹 凸を残す	
82	甕	X26-30 Y41-45	35.7			5.2	ヨコナデ	タクキ			ヨコナデ	タクキ				
83	甕	X25 Y76	60.0			7.0	ヨコナデ	タクキ			ヨコナデ	タクキ				
84	甕	X35 Y41-45 X46 Y46-50 S E52	56.0	61.6	24.0	45.6	ヨコナデ	タクキ	タクキ	静止系切削	ヨコナデ	タクキ	タクキ ナダ	ナダ	口縁各部を複数に切 削	
85	甕	X15-30 Y45-30	13.0			4.5	ヨコナデ				ヨコナデ					
86	甕	X31-36 Y36-40	11.2			8.6	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			口縁先端に横筋に切 削	
87	甕	S D-04			17.6	13.4	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			体上部に無理透狀況 あり	
88		X13 Y45			5.8	4.3		ヨコナデ	静止系切削			ヨコナデ	ヨコナデ			
89		S E51			9.8	8.0		タクキ ヨコナデ	静止系切削			ヨコナデ	ヨコナデ			
95	擂 体	X18 Y34	16.1			5.8	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			口縁内面につまみだ した跡をもつ	
96	擂 体	X40 Y37-38	30.8			6.6	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ				
97	擂 体	X31 Y41-45 X32 Y45-49 S K-22	36.8		12.3	15.4	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	静止系切削	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		
98	擂 体	X31-35 Y31-36	31.0			11.0	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ				
99	擂 体	X26-30 Y26-26	23.4			6.4	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ				
100	擂 体	X30 Y45	35.0			3.0	ヨコナデ				ヨコナデ					
101	擂 体	X20 Y26	29.0			4.5	ヨコナデ				ヨコナデ					
102	擂 体	S D-05	43.4			8.1	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			口縁部に横筋後状大 あり	
103	擂 体	S D-05	31.8			9.0	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			口縁部に無理透狀況 あり	
104	擂 体	X23-30 Y14-15	30.2			16.6	6.9			ヨコナデ	静止系切削		ヨコナデ			
105	擂 体	X13-15 Y26-30				14.8	7.8			ヨコナデ						

表7 中小泉遺跡土師質小皿觀察表

番号	出土区	法量	成形・調整				備考	番号	出土区	法量	成形・調整				備考					
			外 面		内 面						外 面		内 面							
			口徑	器高	口縁部	底 部					口縁部	底 部	口縁部	底 部						
111	X25 Y41-45	10.1	2.2	ヨコナギ		ヨコナギ														
112	S D61	9.4	1.4	ナギ	ナギ	ヨコナギ	ナギ													
113	X20 Y31	8.2	1.6	ヨコナギ		ヨコナギ		口縁内外面に 入火付着												
114	X26-30 Y21-25	10.0	2.0	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ナギ	口縁内外面に 入火付着												
115	裏板	9.6	2.0	ヨコナギ	複雑な模様	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ												
116	X19 Y43	9.2	1.3	ナギ		ナギ														
117	X25 Y41-45	10.0	1.5	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ナギ													
118	X19 Y43	9.0	1.5	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ナギ													
119	S D61	7.6	1.7	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ナギ													
120	X26-30 Y21-25	10.2	2.3	ヨコナギ		ヨコナギ														
121	X25 Y21-25	12.0	1.7	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ		口縁内外面に 入火付着												
122	X26-30 Y21-25	12.0	1.7	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ														
123	X26 Y37	12.0	1.5	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ナギ													
124	S D61	10.0	1.2	ヨコナギ		ヨコナギ														
125	X16-20 Y30-40	12.0	1.6	ヨコナギ		ヨコナギ														
126	X21-27 Y41-45	8.6	1.7	ヨコナギ	ナギ	ハサ ヨコナギ	ナギ													
127	X20 Y41	12.2	1.9	ヨコナギ		ヨコナギ														
128	X21-25 Y31-35	10.0	1.5	ヨコナギ	複雑な模	ヨコナギ														
129	X15 Y47	12.6	2.5																	
130	X25 Y41-45	13.0	2.0	ヨコナギ	複雑な模	ヨコナギ														
131	X15 Y33	18.0	2.2	ヨコナギ		ヨコナギ														
132	X16-20 Y31-45	14.0	2.0	ヨコナギ	複雑な模	ヨコナギ	ナギ													
133	S D61	15.0	1.9	ヨコナギ		ヨコナギ														
134	X16-20 Y21-25	10.6	1.7	ヨコナギ	複雑な模	ヨコナギ	ナギ	口縁内外面に 入火付着												
135	裏板	14.0	2.3	ヨコナギ		ヨコナギ		口縁内外面に 入火付着												
136	X17 Y46	14.0	2.2	ヨコナギ		ヨコナギ	ナギ													
137	X21-26 Y41-45	13.0	2.5	ヨコナギ		ヨコナギ														

表8 飯坂遺跡弥生土器観察表

番号	器種	出土区	法 量				成 形				調 整				備 考	
			口 径	胴上面	胴下部	器 高	外 面		内 面		口頭部	胴上部	胴下部	脚・底部		
							口頭部	脚部	脚底	脚・底部						
51	壺	XII-12 YII-12 2層	18.0				ヨコナデ		ヨコナデ ハケメ						口輪部・脚上半に キサリあり	
52	壺	XII-25 YII-67 5層	16.5				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ				口輪部・脚上半にキ サリあり	
53	壺	1号方形 周縁溝	14.5	25.4			ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ			
54	壺	XII-25 YII-68 5層	14.0	24.5			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヨコナデ	ハケメ			
55	壺	XII-25 YII-68 5層	15.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ					
56	壺	XII-25 YII-67 5層	14.0				ヨコナデ	ハラミガキ			ヨコナデ	ナテ			口輪内面と外観は方 便性	
57	壺	XII-25 YII-68 5層	11.6				ヨコナデ				ナテ				内面口輪と外観は方 便性	
58	壺	5号方形周溝 周縁内	9.0	12.8		10.7										
59	壺	2号方形周溝 周縁内	11.0				ヨコナデ									
60	壺	XII-22 YII-53 3層	13.0				ヨコナデ				ヨコナデ					
61	壺	XII-25 YII-70 5層	12.2				ヨコナデ				ヨコナデ					
62	壺	2号方形周溝 周縁内	24.0	36.6	6.6	40.0	ヨコナデ ハラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ			
63	壺	XII-15 YII-40 3・4層	14.2				ヨコナデ				ヨコナデ				口輪に円形の組み あり	
64	壺	XII-25 YII-67 5層	22.2													
65	壺	3号方形周溝 周縁内	22.0				ヨコナデ ハラミガキ				ヘラミガキ					
66	壺	XII-25 YII-75 5層	13.5													
67	壺	3号方形周溝 周縁内	25.0				ヨコナデ ハラミガキ	ヘラミガキ			ヨコナデ ハラミガキ					
68	壺	XII-15 YII-2 2層		23.6	5.8								ハケメ			
69	壺	XII-15 YII-2 2層	13.8	23.6	6.4	26.8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ			
70	壺	8号方形周溝 周縁内	14.0	18.0	5.5	26.5	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ナテ	ナテ	ヨコナデ ハケメ	ハケメ				
71	壺	XII-15 YII-49 1・2層	9.8	16.4	3.0	推定 26.5	ヨコナデ ハケメ	ハケメ		ハケメ	ヨコナデ ハラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	スヌ付箋		
72		7号あるいは8号 方形周溝内			3.6				ハケメ						ヘラミガキ	
73		7号あるいは8号 方形周溝内			3.4										基盤のみ	
74		XII-25 YII-67 5層			5.0				ヘラミガキ						ヘラミガキ	
75	壺	7号方形周溝 周縁内	14.2	19.2	4.0	25.5	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ ナテ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	スヌ付箋		
76	壺	XII-25 YII-67 5層	13.5				ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ ハケメ								
77	壺	XII-20 YII-38 3層	10.0				ヘラミガキ				ヨコナデ ハラミガキ					
78	壺	1号方形周溝 周縁内	8.2				ヨコナデ ハラミガキ				ヘラミガキ					
79	壺	XII-20 YII-44 1・2層	8.2				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハラミガキ					
80	壺	7号方形周溝 周縁内	14.2	19.2	4.0	25.5	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ ナテ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	スヌ付箋		

番号	器種	出土区	法量				成形・調整						備考	
			口径	脚部径	脚底径	器高	外周面			内周面				
							口周部	脚上部	脚下部	脚・底部	口周部	脚上部	脚下部	脚・底部
81	壺	X22 Y45 3層						ハラミガキ		ハケメ				
82	壺	X23-22 Y70-71 1・2層	11.8				ヨコナデ ハケメ			ヨコナデ ハケメ				
83	S.D26内	10.5	17.0	5.0	17.0		ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ナダ	ナダ	ハケメ	ナダ	ハケメ	内・外周スリガ
84	3号方形周溝 墓溝内				4.5					ナダ				ナダ
85	X23-25 Y66-67 5層				5.0					ハケメ				ハケメ
86	第3文化壺				6.0									
87	X16-22 Y74-76 1層				2.0					ハケメ				ハラケズリ
88	X15-30 Y40-45 1層									ナダ				ハケメ 直接摩?
89	X30-35 Y45-50 2層				5.4					ナダ				ハケメ
90	3号方形周溝 墓溝内				4.5					ハケメ				ナダ
91	X30-34 Y41-51 1・2層				2.5					ハケメ				ハケメ 外底面にハラ配りあり
92	壺	X25 Y50-53 1・2層			2.2					ハラミガキ				
93	壺	3号方形周溝 墓溝内	13.5	18.5	4.5	22.0	ヨコナデ ハケメ	ハケメ		ヨコナデ ハケメ	ナダ	ナダ		脚上に記号あり
94	甕	X24-25 Y3-4 3-5層	13.0	12.2	1.5	11.5	ヨコナデ			ヨコナデ	ハラケズリ	ハラケズリ		
95	鉢	X19-22 Y50-52 2層	15.2				ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ ナダ	ハラケズリ			
96	鉢	X16-17 Y49 3層	17.8				ヨコナデ	ハラミガキ	ハラミガキ	ヨコナデ	ハラミガキ	ハラミガキ		
97	高杯	3号方形周溝 墓溝内				21.5	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ナダ			
98	甕	X15-16 Y56-53 4層				26.0	ハラミガキ	ハラミガキ		ハラミガキ	ハラミガキ			内底口沿端部に万字 り模あり
99	甕	X11-22 Y68 3-3層	16.8	17.8	4.3	2.2	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ	ハラケズリ			
100	甕	X15-16 Y53 1・2層	16.0	15.0			ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハラケズリ	ハラケズリ		
101	壺	X5-7 Y82-96 2層			16.4		ヨコナデ ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ハラケズリ			
102	鉢	3号方形周溝 墓溝内				7.4	3.0							外底丹生り
103	壺	X21-30 Y40-45 2層	13.2				ハケメ			ヨコナデ ハケメ				
104	甕	X21-25 Y73-75 3層			18.3		ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ナダ			内底にナサシあり
105	甕	S.D27内				17.5		ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		内底部・脚上に ナサシあり
106	壺	X23-25 Y66-67 5層	11.6				ヨコナデ			ヨコナデ				内底にナサシあり
107	壺	X21-25 Y66-67 3層			19.5		ナダ			ナダ				内底にナサシあり
108	壺	X5-7 Y45 2層	15.8	22.5	3.0	24.2	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	孔1つあり
109	高杯	X25 Y32 1・2層				14.0			ヨコナデ					ヨコナデ
110	高杯	X26-27 Y29-71 1・2層	15.8		13.8	13.2	ヨコナデ ハラミガキ			ヨコナデ	ヨコナデ	ハラミガキ	ヨコナデ ハラミガキ	

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考	
							外面				内面					
			口径	体部径	底径	器高	口縁部	肩上部	胴下部	脚・底部	口縁部	肩上部	胴下部	脚・底部		
111	高杯	3号方形壇内 5.25M				23.0				ヘラミガタ					脚部に凹凸有り	
112	高杯	3号方形壇内 5.25M				27.5			ヘラミガタ	ヘラミガタ	ヘラミガタ	ヘラミガタ	ヘラミガタ			

表9 飯坂遺跡須恵器観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考	
							外面				内面					
			口径	体部径	底径	器高	口縁部	体部	頂部	底部	口縁部	体部	頂部	底部		
151	壺	X35 Y15		9.0			ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			体部内面に2条の沈凹有り	
152	壺	X35 Y15 2層			18.2		ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			体部内面の上方に1条の沈凹有り	
153	壺	X35 Y15 1層		15.0			ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部内面の中央に3条の沈凹有り	
154	壺	追瓶					ヨコナデ				ヨコナデ					
155	壺	X35-Y35-40 2層					ヨコナデ				ヨコナデ					
156	壺	X35 Y45 2層		12.0			ヨコナデ				ヨコナデ					
157	杯	X35 Y32 1・2層				推定 3.0	ヨコナデ	ヨコナデ ヘラミガタリ				ヨコナデ				

表10 飯坂遺跡珠洲觀察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考	
							外面				内面					
			口径	体部径	底部	器高	口縁部	体部	頂部	底部	口縁部	体部	頂部	底部		
155	甕	X35 Y50 1層					各種凹テク ナメ				円形アマ夷 模				体部端部	
156	甕	X35-45 Y45 1層					各種凹テク ナメ				円形アマ夷 模				体部端部	
157	甕	X35 Y45 1・2層					各種凹テク ナメ				円形アマ夷 模				体部端部	
158	擂鉢	X35 Y46 1層					ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ ヒオロシメ			口縁部端部	
159	擂鉢	X36 Y36													口縁部端部 口縁部内面に墨跡痕 及丸	
160	甕	X35 Y38					ヨコナデ	各種凹テク ナメ			円形アマ夷 模				丸縁部端部	

表11 飯坂遺跡土器観察表

番号	出土区	法量	成形・調整				備考	番号	出土区	法量				成形・調整				備考				
										外面		内面		外面		内面						
			底径	器高	口縁部	底部				口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部					
163	X35 Y34	4.3 5	ヨコナデ	赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		166	X34 Y34	5.6	ヨコナデ	赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ						
164	X35 Y34	5.3	ヨコナデ	赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		167	X35 Y34	5.9	ヨコナデ	赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ						
165	X35 Y33	4.4	ヨコナデ	赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		168	X35 Y33	6.0	ヨコナデ	赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ						

表12 江上A遺跡弥生土器観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調合						備考	
			口径	胴部径	脚底径	器高	外 脊			内 脊				
							口頭部	脚上部	脚下部	脚・底部	口頭部	脚上部	脚下部	
1	壺 A	SDBR区下層	14.0	29.0	5.0	29.5	ヨコナデ ハケ ヘラミガキ ヘラミガキ	ハケ ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ 脚底	ヘラミガキ ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	
2	壺 A	SDBR区・B区	11.0	22.0			ヨコナデ ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	脚上部にヘラ模文
3	壺 A	SDBR区中層	13.5	21.5	4.5	24.0	ヨコナデ	ハケ	脚底	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	口頭部に連続足込み 脚上部に横筋・脚上部無
4	壺 A	SDBR区・C区 B区下層	14.5	22.0			ヨコナデ ハケ ヘラミガキ ヘラミガキ	ハケ ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ 脚底	ヘラミガキ ハケ	ハラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	
5	壺 A	SDBR区	11.0	22.0	4.0	18.5	ヨコナデ	ハケ → ハラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ 脚底	ヨコナデ	ハラミガキ → ハラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	口頭部にも集の波捺
6	壺 A	SBR	14.5				ヨコナデ ハケ		ハケ	ヨコナデ	ハラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	脚上部にヘラ模文
7	壺 A	SDBR区中層	19.0	19.0	3.5		ヨコナデ ヘラミガキ ヘラミガキ		ハラミガキ ヘラミガキ	ナデ	ヨコナデ ヘラミガキ ヘラミガキ	ナデ	ナデ	
8	壺 B	SDBR区下層	13.5	11.0	1.5	11.5	ヘラミガキ ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ 脚底	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	外腹・口縁部内腹 底
9	壺 C	SDBR区中・下層	19.0	23.5	4.0	34.0	ヨコナデ ハケ	ハケ ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヨコナデ ハケ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	脚上部に1条の波捺
10	壺 G	SDBR区下層 B区下層	13.5	18.0	3.5	27.0	ヨコナデ ハケ	ハケ ハケ	ハケ ハケ	ヨコナデ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	脚上部に1条の波捺
11	壺 G	SBR	14.0	16.0	4.0	25.0	ハケ	ハケ	ハケ	ヘラミガキ ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	表面に竹管文
12	壺 G	SDBR区・B区	14.5	23.0	4.5	30.5	ハケ ヘラミガキ ヘラミガキ	ハケ ヘラミガキ ヘラミガキ	ハケ ヘラミガキ	ヘラミガキ ハケ	ナデ	ハケ	ハケ	
13	壺 G	SDBR区上層	13.5	19.0			ハケ	ハケ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ	
14	壺 G	SDBR区下層	14.0	19.5			ヨコナデ ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	
15	壺 G	SDBR区	11.5	19.5			ヨコナデ ハケ	ハケ → ナゲ	ハケ ナゲ	ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	脚上部に点による附 み
16	壺 G	SBR	12.0	22.0	4.0		ハケ	ハケ	ハケ	ハケ ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	
17	壺 G	SBR	13.5	22.0			ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ハケ	ハセ	ハセ	ハセ	
18	壺 G	SBR	15.0				ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ハセ	ナデ	ナデ	ナデ	
19	壺 G	SDBR区	13.0	19.0	3.5	28.0	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	脚上部にヘラ模文
20	壺 G	SDBR区・B区	13.0	19.5	5.5	30.0	ヨコナデ ハケ ヘラミガキ	ハケ → ヘラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	ヨコナデ ハケ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	脚上部に竹管文
21	壺 G	SBR	14.0	16.0			ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ハラミガキ		ハラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	脚上部に1条の波捺
22	壺 G	SDBR区上・中層 B区下層	12.5				ヨコナデ ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	
23	壺 G	SDBR区	13.0				ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ハラミガキ		ハラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	脚上部にヘラ模文
24	壺 G	SDBR区 C区下層					ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ハラミガキ		ヨコナデ ハラミガキ	ヨコナデ ハラミガキ	脚上部にヘラ模文
25	壺 F	SDBR区・C区 B区	17.5	22.5			ヨコナデ ハケ ヘラミガキ	ハケ → ヘラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	ヨコナデ ハラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	被蓋土層
26	壺 E	SBR SDBR	14.0	23.0			ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ ハラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	
27	壺 E	SBR	20.5	4.0			ハケ	ハケ	ハケ	ハラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	
28	壺 D	SDBR区中層 SDBR区下層	19.5	38.5	9.0	46.5	ヨコナデ ハケ ヘラミガキ	ハケ → ヘラミガキ ヘラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ	ヨコナデ ハラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	口縁部に3条の波捺 脚上部に横筋・脚上部無 した点
29	壺 F	SDBR区中層 B区下層	16.5	20.0	4.5	29.0	ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ ハラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	被蓋土層
30	壺 D	SDBR区中層	22.0	36.0			ヨコナデ ハラミガキ	ハラミガキ ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヨコナデ ハラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	ハラミガキ ヘラミガキ ナデ	脚上部に内卷

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 金						備 考	
			口 径	脚部径	脚底径	器 高	外 国			内 面				
							口部頭	脚上部	脚下部	脚・底部	口部頭	脚上部	脚下部	
31	壺 D	S DORAK 中・下層 A区中層	30.0	6.0			ハケ	ハケ			ハケ	ハケ→ ナゲ		
32	壺 F	S DORAK	23.0	8.5			ハケ	ハケ	ハケ→ ナゲ	凹底	ナゲ	ナゲ	ナゲ	脚部に2条の沈れ 脚上部に高底
33	壺 G	S DORAK中層	18.0	2.5			ハケ	ハケ			ハケ	ハケ		
34	壺 A	S DORAK上層	15.0				ヨコナゲ	ハケ			ヨコナゲ	ナゲ		口縁部に浅縦割込み
35	壺 A	S DORAK中層	14.5				ヨコナゲ	ハケ→ ナゲ	ハケ		ヨコナゲ	ハケ		
36	壺 A	S DORAK	15.5				ヨコナゲ	ハケ			ヨコナゲ	ナゲ		脚上部に浅縦割込みと沈れ
37	壺 A	S DORAK中層	12.0				ヨコナゲ				ヨコナゲ			口縁部に沈れ
38	壺 A	S DORAK下層	16.0				ヨコナゲ				ヨコナゲ			
39	壺 A	S DORAK上層	11.0				ヨコナゲ ハケ→ ヨコナゲ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ		
40	壺 A	S DORAK	14.5				ヨコナゲ ナゲ	ハケ			ヨコナゲ ハケ	ナゲ		
41	壺 A	S DORAK	14.5				ヨコナゲ	ハケ			ヨコナゲ ハケ			
42	壺 D	S DORAK下層	15.0				ヨコナゲ ハラミガキ				ヨコナゲ ハケ→ ヨコナゲ	ナゲ		脚部に刷毛を行した 凸面
43	壺 A	S DORAK D区中層 C・D区下層	17.0				ヨコナゲ				ヨコナゲ ハラミガキ			口縁部に2条の沈れ
44	壺 A	S DORAK下層	12.0				ヨコナゲ ハラミガキ				ヨコナゲ ハケ→ ナゲ			
45	壺 A	S DORAK	16.5				ヨコナゲ ハケ				ヨコナゲ ハケ			
46	壺 A	S DORAK中層 C区下層	14.5				ヨコナゲ ハラミガキ				ヨコナゲ			
47	壺 A	S DORAK中層 F区下層	15.5				ヨコナゲ				ヨコナゲ			口縁部に刷毛
48	壺 A	S DORAK C区下層	21.5				ヨコナゲ ハラミガキ	ハケ→ ハラミガキ			ヨコナゲ ハケ	ハケ		
49	壺 G	S DORAK	16.5				ヨコナゲ ハケ				ヨコナゲ ハケ			脚部に1条の沈れ
50	壺 G	S DORAK中層	13.5				ヨコナゲ ハケ	ハケ			ヨコナゲ ナゲ			脚部に1条の沈れ
51	壺 G	S DORAK中・下層 C区下層	13.0				ハケ→ ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ		ハケ	ナゲ		
52	壺 G	S DORAK F区	11.0				ヨコナゲ ハケ	ハケ			ヨコナゲ ハケ→ ナゲ	ハケズリ		脚部に1条の沈れ
53	壺 G	S DORAK下層 S DORAK上層	15.5				ヨコナゲ ナゲ				ヨコナゲ ナゲ	ハラケズリ		口縁部に3条の凹痕
54	壺 G	S DORAK	15.5				ヨコナゲ ハケ	ハケ			ヨコナゲ ハケ	ハラケズリ		口縁部に3条の凹痕
55	壺 F	S DORAK中・下層 E区中層	13.5				ヨコナゲ ハケ				ヨコナゲ ハケ			口縁部に3条の凹痕
56	壺 F	S DORAK下層	14.0				ヨコナゲ ハケ				ヨコナゲ ハケ			
57	壺 F	S DORAK	17.0				ヨコナゲ ハケ	ハケ			ヨコナゲ ハケ	ナゲ		
58	壺 G	S DORAK	20.0				ヨコナゲ ハケ				ヨコナゲ ハケ			
59	壺 A	S DORAK F区	11.0				ヨコナゲ ハラミガキ	ナゲ			ヨコナゲ ナゲ	ナゲ		
60	壺 B	S DORAK下層 C区下層	14.0				ヨコナゲ ハラミガキ				ヨコナゲ ハラミガキ	ハラケズリ		外縁・口縁部内側 凹痕

番号	器種	出土区	法量			成形・調整						備考		
			口径	側部径	脚底径	器高	外周			内周				
							口部	脚上部	脚下部	脚・底部	口部	脚上部	脚下部	脚・底部
61	壺 A	S.D41B区下層	26.0				ヨコナヂ			ヨコナヂ			上端部に5条の伏筋	
62	壺 H	S.D41A区	8.5	15.5	2.0	18.0	ハケ→ ヘラ↓セキ	ハサ↓↑ ヘラ↓ガキ	ハケ→ ヘラ↓ガキ	ヨコナヂ	ナヂ	ハケ		
63	壺 H	S.D41A区	9.0	19.0	4.0	24.5	ヨコナヂ ハサ→ ヘラ↓セキ	ヘラ↓ガキ	ヘラ↓ガキ	ヨコナヂ	ナヂ	ハケ	脚部に凸筋	
64	壺 H	S.D41上層	6.5	14.5	3.0	21.5	ヨコナヂ ハラ↓ガキ	ハサ	ハケ	ヨコナヂ ナヂ	ハケ	ハケ	口縁部に5条の凸筋	
65	壺 H	S.D41 S.D41A区下層	11.0				ヘラ↓ガキ			ヘラ↓ガキ				
66	壺 H	S.D41B区下層 S.D41C区下層	10.0				ヘラ↓ガキ			ヘラ↓ガキ ナヂ			内面と口縁部内面を 削除	
67	壺 H	S.D41B区 S.D41C区 S.D41D区	9.0				ヨコナヂ ハサ→ ヘラ↓ガキ			ヨコナヂ ナヂ				
68	壺 H	S.D41E区					ヘラ↓ガキ	ハサ			ナヂ		側部に複数凹み付 した凸筋	
69	壺 II	S.D41B区下層		16.5	2.0		ハサ→ ヘラ↓セキ			ナヂ	ハケ		側部に把手付く	
70	壺 I	S.D41B区下層	9.0	20.5	22.5	25.5	ヨコナヂ ヘラ↓ガキ	ハサ→ ヘラ↓ガキ	ハサ→ ヘラ↓ガキ	ヨコナヂ	ハケ	ハケ	ナヂ ハサ ヨコナヂ	
71	壺 I	S.D41C区下層	8.0	16.0	19.0	24.5	ハサ→ ヘラ↓セキ	ヘラ↓ガキ	ヘラ↓ガキ	ヨコナヂ ヨコナヂ	ヨコナヂ	ハケ	ハケ	
72	壺 I	S.D41	6.0	13.5			ヘラ↓セキ	ヘラ↓ガキ	ヘラ↓ガキ	ヨコナヂ	ナヂ	ハケ		
73	壺 I	S.D41B区上層	13.5	17.5			ヨコナヂ ハサ→ ヘラ↓ガキ	ハサ	ヘラ↓セキ	ヨコナヂ	ヘラ↓セキ	ヘラ↓ガキ	口縁部に1条の伏筋 側部に2条の複数凹み 3本筋付く(内2本付く)	
74	壺 I	S.D41B区	11.0	18.0			ヨコナヂ ハサ→ ヘラ↓ガキ	ヘラ↓ガキ		ヨコナヂ	ナヂ			
75	壺 I	S.D41	12.0	21.0			ヘラ↓セキ	ヘラ↓ガキ		ヘラ↓ガキ	ヘラ↓ガキ			
76	壺 I	S.D41B区下層 S.D41C区下層		20.5			ヘラ↓ガキ			ナヂ			側部に斜面を4カ所 に削除	
77	甕 B	S.D41E区中層	16.0	22.0		31.5	ヨコナヂ	ハサ	ハケ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	頂上面に過剰削込み	
78	甕 B	S.D41B区下層	17.0	22.5	6.0	29.0	ヨコナヂ	ハサ	ハケ	ヨコナヂ	ハサ→ ヘラケズリ			
79	甕 B	S.D41B区下層	13.0	15.0			ヨコナヂ	ハサ	ハケ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
80	甕 B	S.D41E区下層	13.0	14.0			ヨコナヂ	ハサ	ハケ	ハサ	ヨコナヂ	ヘラケズリ		
81	甕 H	S.D41D区下層	14.0	16.0	3.0	20.5	ヨコナヂ	ハサ	ハケ	ハサ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
82	甕 C	S.D41C区 D区中・下層	17.0	21.0			ハサ	ハサ	ハサ	ハサ	ハサ	ハサ	ヘラケズリ	
83	甕 D	S.D41E区下層	15.0	18.5			ヨコナヂ	ハサ	ハサ	ヨコナヂ ハサ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
84	甕 D	S.D41D区中層	18.5	24.0		30.5	ヨコナヂ	ハサ	ハサ	ヨコナヂ	ハサ	ヘラケズリ		
85	甕 B	S.D41D区下層	14.0				ハサ	ハサ		ハサ	ハサ			
86	甕 B	S.D41E区	10.5	12.5			ハサ	ハサ		ハサ		ヘラケズリ		
87	甕 D	S.D41C区	13.0	14.5	3.5	18.0	ヨコナヂ	ハサ	ハサ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
88	甕 C	S.D41D区中層	17.5	22.0	3.0		ヨコナヂ	ハサ	ハサ	ヨコナヂ	ハサ	ヘラケズリ		
89	甕 D	S.D41B区下層	20.0	25.0			ハサ	ヨコナヂ	ハサ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
90	甕 B	S.D41A区	12.0	12.5	3.0	13.0	ヨコナヂ	ハサ	ハサ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		

番号	品種	出土区	法 量				成 形 調 整						備考	
			口径	腹部径	脚底径	幕高	外 面			内 面				
							口頂部	肩上部	脚下部	脚・底部	口頂部	肩上部	脚下部	脚・底部
91	甕 E	S DOLAK 下層	17.0	16.0			ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ	
92	甕 E	S DOLAK 上層	16.5	23.0			ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ→ナデ			
93	甕 E	S DOLAK 区	18.0	23.0			ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ→ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	口縁部に通縫孔
94	甕 E	S DOLAK - B区	18.0	21.0	4.0		ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
95	甕 E	S DOLAK 区中層 D区下層	20.0	25.0			ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ハケ	ハラケズリ	脚上部に通縫孔
96	甕 E	S DOLAK	15.5	15.0	4.0	18.0	ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		口縁部に「魚の尻縄」
97	甕 F	S DOLAK H層	12.5	13.0	2.5	16.5	ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
98	甕 F	S DOLAK	15.0	15.0	5.0	16.0	ヨコナデ ハシ	ハケ			ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
99	甕 F	S DOLAK H層	19.5	17.0	5.0	18.0	ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
100	甕 F	S DOLAK 区上層	20.0	21.0	5.5	25.5	ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
101	甕 F	S DOLAK 中層	18.5	20.0	3.5	23.5	ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
102	甕 F	S DOLAK 中層	19.0	18.0	5.0	21.5	ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
103	甕 F	S DOLAK 区上層	18.5		4.0		ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
104	甕 F	S DOLAK	19.5	17.5			ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
105	甕 F	S DOLAK 上層	13.0	15.5			ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
106	甕 F	S DOLAK	17.0	18.0			ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ハラケズリ		
107	甕 F	S DOLAK	17.0	20.5			ヨコナデ ハシ ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		口縁部に「魚の尻縄」
108	甕 F	S DOLAK 区	18.5	20.0			ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ			脚上部に通縫孔
109	甕 F	S DOLAK 区	20.5	21.5			ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		脚上部に通縫孔
110	甕 F	S DOLAK H層	19.0	16.5			ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ナデ			
111	甕 F	S DOLAK H層	18.0	17.0			ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
112	甕 F	S DOLAK 区	16.5	13.5	4.0	14.5	ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ハラケズリ		脚上部に「魚の尻縄」
113	甕 F	S DOLAK	18.0	15.0	3.5	15.0	ヨコナデ ハシ	ハケ	ハケ		ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
114	甕 F	S DOLAK			14.0	4.0					ハケ	ハラケズリ		
115	甕 F	S DOLAK 区上層			16.0	5.5		ハケ	ハケ			ハケ	ハラケズリ	
116	甕 F	S DOLAK H層	34.0	38.5	12.0	39.5	ヨコナデ ハケ	ハシ	ハケ	ハケ	ヨコナデ ハラケズリ	ハラケズリ		
117	甕 G	S DOLAK	19.0	21.0	7.0	21.0	ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ ナデ	ナデ	ナデ	口唇部、脚上部に通縫孔
118	甕 G	S DOLAK 区	15.5	18.5			ヨコナデ ハケ		ハケ		ヨコナデ ナデ	ナデ	ナデ	
119	甕 G	S DOLAK 区	15.0	14.5	10.5	18.5	ヨコナデ ハシ		ハケ	ハケ	ヨコナデ ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	ハケ	
120	甕 A	S DOLAK	20.5				ヨコナデ ハシ				ハケ	ハラケズリ		

番号	品種	出土区	法 量				成 形・調 整						備 考
			口 径	脚部径	脚底径	器 高	外 面			内 面			
							口部部	脚上部	脚下部	脚・底部	口部部	脚上部	脚下部
121	甕 A	S D01EX	16.5				ヨコナヂ ハケ			ハケ	ヘラケズリ		
122	甕 A	S D01EX下層	22.0				ヨコナヂ ハケ			ハケ	ヘラケズリ		
123	甕 A	S D01EX	19.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		
124	甕 A	S D01EX上層	13.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		
125	甕 A	S D02CE	17.0				ハケ	ハケ		ハケ	ヘラケズリ		
126	甕 C	S D01EX	16.0	15.5			ハケ	ハケ		ヨコナヂ	ハケ		
127	甕 C	S D01EX	17.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	イヂ ハケ		
128	甕 D	S D01EX区	12.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		
129	甕 D	S D01EX下層	15.0	16.0			ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		
130	甕 D	S D01EX上層	14.0	16.0			ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		口縁部に 1 条の凹痕
131	甕 D	S D01EX中層	15.5				ヨコナヂ ハケ			ハケ	ナヂ ヘラケズリ		
132	甕 C	S D01CE区下層	14.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ハケ		
133	甕 C	S D01CE区中層	18.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ハケ		
134	甕 C	S D01CE中・下層	19.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ハケ		
135	甕 D	S D01EX下層	18.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		
136	甕 C	S D01EX下層	17.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ハケ		
137	甕 D	S D01EX区下層	17.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		
138	甕 D	S D01EX区下層 CE下層	14.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		
139	甕 D	S D01EX中層	19.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		口縁部に 3 条の凹痕
140	甕 D	S D01EX中層	17.5	17.5			ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		口縁部に 2 条の凹痕
141	甕 D	S D01EX下層	19.5	15.5			ハケ	ハケ		ヨコナヂ	ヘラケズリ		
142	甕 D	S D01CE区中層	18.5	16.5			ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		
143	甕 D	S D01EX	19.5	20.5			ナヂ	ハケ		ヨコナヂ	ヘラケズリ		
144	甕 B	S D01EX上層	15.0				ヨコナヂ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		口縁部に 1 条の凹痕
145	甕 C	S D01CE区 S D01EX	15.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ ナヂ ナヂ	ハケ		口縁部に 1 条の凹痕
146	甕 B	S D01EX CE下層	18.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		
147	甕 B	S D01EX	16.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		
148	甕 E	S D01CE区下層	16.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		
149	甕 B	S D01CE区 CE下層	18.0	20.5			ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ナヂ		
150	甕 B	S D01EX下層	17.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		口縁部に 1 条の凹痕

番号	器種	出土区	法量				成形・調整						備考	
			口径	脚部径	脚底径	脚高	外面			内面				
							口頭部	脚上部	脚下部	脚・底部	口脚部	脚上部	脚下部	
151	縹 B	S DOLAK下層	13.5				ヨコナギ			ハケ	ヘラケズリ			
152	縹 B	S DOLAK上層	15.0	16.0			ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
153	縹 B	S DOLAK D区下層	14.5				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
154	縹 B	S DOLAK	14.5				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ハケ	ヘラケズリ		
155	縹 E	S DOLAK区下層 C区下層	16.0				ヨコナギ ハケ			ハケ				
156	縹 E	S DOLAK下層	20.0				ヨコナギ			ヨコナギ				
157	縹 E	S DOLAK下層 S DOLAK	14.0				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ ナデ				口脚部に1箇の凹部
158	縹 E	S DOLAK区	14.0	16.5			ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
159	縹 E	S DOLAK	15.5				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
160	縹 E	S DOLAK下層	16.0				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
161	縹 E	S DOLAK下層	19.0				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ ハケ	ヘラケズリ			
162	縹 E	S DOLAK中・下層	16.5				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
163	縹 E	S DOLAK	16.5				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
164	縹 E	S DOLAK	13.0	13.0			ヨコナギ ハケ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ ヘラケズリ			
165	縹 E	S DOLAK上層	21.0				ヨコナギ ヨコナギ			ヨコナギ	ヨコナギ			
166	縹 E	S DOLAK区上層	18.5				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
167	縹 E	S DOLAK	16.0				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
168	縹 E	S DOLAK	15.5				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
169	縹 E	S DOLAK下層	18.5	15.0			ヨコナギ ハケ			ヨコナギ ハケ				
170	縹 E	S DOLAK区中・下層 D区下層	17.0				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ ハケ				網上板に道統刻み
171	縹 E	S DOLAK	18.0	20.0			ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
172	縹 E	S DOLAK下層	23.0				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
173	縹 E	S DOLAK	22.5				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ ナデ ハケ				
174	縹 E	S DOLAK上層	17.5				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
175	縹 F	S DOLAK	16.0				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
176	縹 F	S DOLAK下層	15.5				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
177	縹 F	S DOLAK	17.0				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ ナデ				
178	縹 F	S DOLAK中層	14.0				ヨコナギ			ヨコナギ ナデ				
179	縹 F	S DOLAK区	13.5				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			
180	縹 F	S DOLAK区	15.0				ヨコナギ ハケ			ヨコナギ	ヘラケズリ			

番号	器種	出土区	法 量				成 形 調 整						備 考	
			口 径	則部径	脚底径	高	外 面			内 面				
							口頭部	脚上部	脚下部	脚・底部	口頭部	脚上部	脚下部	
181	甕 F	S D01B区上層 S D01C区中層	14.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ			
182	甕 F	S D01J層	16.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ			
183	甕 F	S D01D区中層	16.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ			
184	甕 F	S D01C区中層	18.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ			
185	甕 F	S D01T層	19.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ			
186	甕 F	S D01D区下層 CIC7層	18.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ			脚上部に通紋孔み
187	甕 F	S D01A层下層	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ			
188	甕 F	S D01A区	15.0				ヨコナデ				ヨコナデ			
189	甕 F	S D01A区	17.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ			脚上部に通紋孔み
190	甕 F	S D01D区下層	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ ハラケズリ			
191	甕 F	S D01C区下層	15.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ			
192	甕 F	S D01	17.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ナデ			脚上部に通紋孔み
193	甕 F	S D01D区下層	17.5	16.5			ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ			脚上部に通紋孔み
194	甕 E	S D01A区	19.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ナデカ			脚上部に通紋孔み
195	甕 F	S D01上層	19.5				ヨコナデ				ヨコナデ ハラケズリ			脚上部に通紋孔み
196	甕 E	S D01C区下層	16.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ナデ			口縁部に通紋孔み
197	甕 E	S D01A区	16.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ			口縁部に通紋孔み
198	甕 E	S D01C・D区	15.0				ヨコナデ ハケ				ヨシナデ			口縁部に通紋孔み
199	甕 F	S D01D区下層	17.5				ヨコナデ				ヨコナデ			口縁部に通紋孔み
200	甕 E	S D01C区下層	13.5				ヨコナデ				ヨコナデ			口縁部に通紋孔み
201	甕 F	S D01	16.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ			口縁部に上条の凹織
202	甕 F	S D01C区	19.0				ヨコナデ				ヨコナデ			口縁部に4条の凸織
203	甕 F	S D01D区下層	18.0				ヨコナデ ハケカ				ヨコナデ ハラケズリ			口縁部に上条の凹織
204	甕 F	S D01E・F下層	17.5				ヨコナデ ハケカ				ヨコナデ			口縁部に4条の凸織
205	甕 F	S D01	15.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ			口縁部に4条の凸織
206	甕 E	S D01C区下層 D区下層	23.5				ヨコナデ				ヨコナデ			口縁部に3条の凹織
207	甕 E	S D01B区 D区下層	30.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ			口縁部に3条の凹織
208	甕 E	S D01C区	26.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ			口縁部に3条の凹織
209	甕 F	S D01D区下層	18.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ			口縁部に3条の凸織
210	甕 E	S D01C区	14.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハラケズリ			口縁部に3条の凸織

番号	器種	出土区	法 量				成 形 調 整						備 考	
			口 径	胴部径	脚底径	器 高	外 面			内 面				
							口 頸 部	胴 上 部	胴 下 部	脚 底 部	口 頸 部	胴 上 部	胴 下 部	
211	甌 E	S D01A区下層	19.0				ヨコナヂ				ヨコナヂ			口縁部に1条の花継
212	甌 E	S D01B区下層	17.5				ヨコナヂ	ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		口縁部に1条の花継
213	甌 F	S D01C区	17.5				ヨコナヂ				ヨコナヂ	ヘラケズリ		口縁部に1条の花継
214	甌 F	S D01A区	14.0				ヨコナヂ				ヨコナヂ	ヘラケズリ		口縁部に1条の花継
215	甌 F	S D01B区下層	14.0				ヨコナヂ				ヨコナヂ	ヘラケズリ		口縁部に1条の花継
216	甌 F	S D01A区	14.5				ヨコナヂ				ヨコナヂ			口縁部に1条の花継
217	甌 F	S D01B区下層	16.5				ヨコナヂ	ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ		口縁部に1条の花継
218	鉢 A	S D01B区上層	16.0		5.0	9.0	ナヂ	ナヂ	ナヂ		ナヂ	ナヂ	ナヂ	
219	鉢 A	S D01B区下層	19.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
220	鉢 A	S D01A区下層	17.5		5.0	9.5	ヨコナヂ	ハケ	ナヂ		ヨコナヂ	ナヂ	ナヂ	
221	鉢 A	S D01B区中層 C区下層	18.5	17.5			ヨコナヂ	ナヂ	ナヂ		ヨコナヂ	ナヂ	ナヂ	
222	鉢 A	S D01C区 C区中層	17.0	15.5	4.0	9.0	ヨコナヂ	ヘラミガキ	ハケ	回転	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部に連続刻み
223	鉢 A	S D01F区下層	18.5				ヨコナヂ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナヂ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
224	鉢 A	S D01E区下層	19.5	15.5	3.5	12.0	ヨコナヂ	ハケ→ ハケ→ ハケ→	ヘラミガキ		ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	口縁部に1条の花継
225	鉢 A	S D01B区下層	23.0	19.0	5.0	11.0	ヨコナヂ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ハケ	ヘラミガキ	口縁部に1条の花継
226	鉢 A	S D01B区下層	25.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ			口縁部に1条の花継
227	鉢 A	S D01E区上層	21.0	16.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	腹面内面上方と内曲に月差
228	鉢 A	S D01E区下層	19.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ		
229	鉢 A	S D01	20.0	15.5			ヨコナヂ	ヘラミガキ			ヨコナヂ			
230	鉢 A	S D01E区	18.0				ヨコナヂ							口縁部に1条の花継
231	鉢 A	S D01A区下層	18.0	14.0	3.0	8.0	ヨコナヂ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナヂ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
232	鉢 A	S D01C区下層	15.5				ヨコナヂ				ヨコナヂ			腹面に2個1対の穴
233	鉢 A	S D01C区下層	24.0	21.5			ヨコナヂ	ナヂ			ヨコナヂ	ヘラミガキ		
234	甌 C	S D01C区中層 D区	24.0	4.0			ハケ	ハケ→ ヘラケズリ			ハケ→ ヘラケズリ	ハケ		輪上面に輪縫文と通輪削み
235	甌 G	S D01A区中層 D区			34.0		ハケ	ハケ	ハケ		ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	輪上面に輪縫文と通輪削み 鋏刃付く
236	鉢 C	S D01F区下層	16.5	9.0	6.0		ハケ	ハケ		回転	ハケ	ハケ	ハケ	
237	鉢 C	S D01B区下層	18.0		2.0	13.5	ハサ	ハケ	ハセ		ハセ	ハセ	ハセ	
238	鉢 C	S D01C区	20.0		5.0	10.0	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ハケ	
239	鉢 C	S D01B区下層	20.5		3.0	12.5	ハケ	ハケ	ハセ		ハケ	ハセ	ハセ	
240	鉢 C	S D01X13 Y42 X26 Y27 X16 Y12 Z8	18.5		2.0	10.5	ハケ	ハケ	ハセ		ハセ	ハセ	ハセ	

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整						備 考	
			口 径		脚部径	脚底径	外 表			内 面				
			口 窓	脚窓			口部窓	脚上部	脚下部	脚・底部	口部窓	脚上部	脚下部	
241	鉢 C	S D01C区中層	16.5		4.0	12.0	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ハラケズリ	
242	鉢 C	S D01B区中層	18.5				ハケ	ハケ	ハケ	ハラケズリ	ハケ	ハラケズリ	ハラケズリ	
243	鉢 C	S D01B区	20.0		3.0	13.5	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハラケズリ	ハラケズリ	
244	鉢 C	S D01B区	14.5		1.5	15.5	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハラケズリ	ハラケズリ	
245	鉢 C	S D01B区上・中層	15.5		5.0	14.5	ヨコナデ	ナデ	ハケ	円窓	ヨコナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	
246	鉢 C	S D01B区中層	18.0		4.5	14.5	ナデ	ナデ	ナデ		ヨコナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	
247	鉢 C	S D01B区下層	17.5		3.0	15.5	ハケ	ハケ	ハケ		ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	
248	鉢 C	S D01E区上層	17.5		6.0	15.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ	平窓	ハケ	ハケ	ハケ	
249	鉢 C	S D01D区下層	16.0				ヨコナデ	ハケ			ハケ	ハラケズリ		
250	鉢 B	S D01A区 S D01B区 S D01C区 S D01D区 S D01E区	36.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ			口縁部に3条の凹縫 筋を有する
251	鉢 B	S D01A区 S D01B区 S D01C区 S D01D区 S D01E区	38.0		8.5	23.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ
252	高杯 A	S D01A区 S D01B区 S D01C区 S D01D区 S D01E区	28.0	20.0	19.5	20.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	シレル	ハケ 口に軸用 径4.5cm
253	高杯 A	S D01E区上・下層	27.5	22.0	18.5	21.0	ヨコナデ	ハケ	ハラミガキ	ハラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハラケズリ 大4.5cm
254	高杯 A	S D01A区 S D01C区	24.0	18.5	17.5	20.0	ヨコナデ	ハラミガキ	ハラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	外縁と内面を有 る大3.5cm
255	高杯 C	S D01E区中・下層	16.0	13.5	10.0	11.5	ヨコナデ	ハクミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	外縁と内面を有 る大3.5cm
256	高杯 C	S D01E区中層	22.5	19.0	15.0	16.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラケズリ 大4.5cm
257	高杯 C	S D01A区 S D01C区	23.5	18.5	16.5	19.5	ヨコナデ	ハケ	ナデ	ハケ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ハラケズリ 大4.5cm
258	高杯 A	S D01E区下層	31.0	23.5	21.5	25.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハラケズリ 大4.5cm
259	高杯 A	S D01E区 S D01E区 S D01E区	30.0	23.5	24.0	26.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハラケズリ 大4.5cm
260	高杯 B	S D01E区上層	27.5	21.0	21.0	22.5	ヨコナデ	ナデ	ハケ	ヘラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ナデ	ナデ ヨコナデ
261	高杯 B	S D01E区中層	29.0	25.0	21.0	24.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハラミガキ	ハラケズリ 大4.5cm
262	高杯 B	S D01E区中層 S D01E区 S D01E区	31.0	19.5	20.5	22.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ	ハラケズリ 大4.5cm
263	高杯 D	S D01E区												断面に直角斜面 大2.5cm×4.5cm
264	高杯 D	S D01D区 S D01E区 S D01E区	30.0	13.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		内縫に直角斜面 大2.5cm×4.5cm
265	高杯 A	S D01E区中・下層 S D01E区	26.0	22.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ					
266	高杯 C	S D01E区	28.0	21.5			ヨコナデ	ヨコナデ	ハケ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	直に軸用
267	高杯 C	S D01E区中・下層	26.5	21.5			ヨコナデ	ヨコナデ	ハケ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
268	高杯 C	S D01C区 S D01A区 S D01E区	26.0	21.0			ヨコナデ	ヨコナデ	ハケ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ	口縁部に1条の浅縫 大4.5cm
269	高杯 C	S D01E区上・下層	27.0	22.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
270	高杯 C	S D01A区 S D01E区上層	24.0	21.0			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	

番号	器種	出土区	法 量				成 形 · 調 整				備 考	
			口 径	脚部径	脚底径	器 高	外 面		内 面			
							口面部	脚上部	脚下部	脚・底部		
271	高杯C	SDBII	27.0	24.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ しばり	口面部に1条の沈線 穴4カ所
272	高杯A	SDBIE区上層	25.5	20.0			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	
273	高杯A	SDBI	30.0	22.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
274	高杯A	SDBIA区M SK28 SK29	31.5	25.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハサ	
274	高杯C	SDBIE区下層	27.5	21.0			ヨコナデ	ヨコナデ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキへラケズリ	
275	高杯E	SDBID区中・下層	19.5	14.0			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	
277	高杯A	SDBIB区上層 C区上層	28.0	22.5			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
278	高杯A	SDBIS区中層	27.0	20.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
279	高杯A	SDBIE区下層	25.0	18.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキへラケズリ	
280	高杯A	SDBIB区下層 C区上層	27.5	20.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ ナダカ	
281	小型高杯	SDBIA区上層	12.0	9.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
282	小型高杯	SDBIE区上層	14.0	10.5			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ
283	高杯F	SDBIC区下層	16.0				ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	
284	高杯A	SDBIB区中層			21.0				ヘラミガキ		ハサ	蓋に軸用 穴4カ所
285	高杯C	SDBIC区中層			16.5			ハケ→ ヘラミガキ			ヘラケズリ ヨコナデ	
286	高杯C	SDBIEC			17.0			ハサ ヨコナデ			ヘラケズリ ヨコナデ	蓋に軸用 穴4カ所
287	高杯C	SDBIB区下層			16.0			ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ		ヨコナデ	穴4カ所
288	高杯C	SDBIB区下層			17.0			ハサ			ヘラケズリ ヨコナデ	蓋に軸用 穴4カ所
289	高杯C	SDBIA区下層			19.0			ヘラミガキ			ハサ ヨコナデ	穴4カ所
290	高杯C	SDBIB区下層			17.5			ヘラミガキ			ハサ ヨコナデ	蓋に軸用 穴4カ所
291	高杯C	SDBIA区			17.0			ハサ→ ヘラミガキ			ハサ	穴4カ所
292	高杯C	SDBIA区下層 B区下層			19.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラケズリ ハサ ヨコナデ	
293	高杯C	SDBI			18.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ		ハサ	穴4カ所
294	高杯C	SDBIE区上層			15.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ ヘラケズリ ヨコナデ	蓋に軸用 穴4カ所
295	高杯A	SDBIC・D区下層			24.5				ヘラミガキ		ハサ	蓋に軸用 穴2個1対 4カ所
296	高杯A	SDBIC区中層			22.0				ヘラミガキ		ハサカ	穴4カ所
297	高杯A	SDBIA区			24.0				ヘラミガキ		ハサ	蓋に軸用 穴4カ所
298	高杯A	SDBIE			20.0				ヘラミガキ		ハサ	蓋に軸用
299	高杯A	SDBI			21.0				ヘラミガキ		ハサ	穴4カ所
300	高杯B	SDBIK			21.0				ヘラミガキ		ハサ ヨコナデ	穴4カ所

番号	器種	出土区	法量			或形・調整						備考	
			口径径	胴部径	脚底径	唇高	外面			内面			
							口部部	胴上部	胴下部	脚・底部	口部部	胴上部	脚・底部
301	高杯B	S DOL区上層			21.5				ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヨコナダ			ヨコナダ 穴4ヶ所
302	高杯B	S DOL区上層			20.5				ハケ→ ヘラミガキ			ハケ	ハケ
303	高杯B	S DOL			18.5				ハケ→ ヘラミガキ				ハケ→ ヨコナダ 脚部内面に凹痕
304	高杯B	S DOL S・C・D区 下層			22.0					ヘラミガキ			ハケ ヨコナダ 穴4ヶ所
305	高杯D	S DOL S DOL B・D区下層			28.0					ヘラミガキ			ヘラミガキ 脚部にS字スタンプ 文
306	高杯D	S DOL C			19.0					ヘラミガキ			ハケ→ ヨコナダ 脚部にS字スタンプ 文
307	高杯D	S DOL S DOL区上層			23.5					ヘラミガキ			ヨコナダ 脚部にS字スタンプ 文
308	高杯D	S DOL区下層			20.0					ヘラミガキ			ハケ 脚部にS字スタンプ 文
309	高杯D	S DOL			26.0					ヘラミガキ			ヨコナダ 脚部に通越斜突
310	高杯D	S DOL B区大・16 S DOL C区			22.0					ヘラミガキ			ヨコナダ 脚部に通越斜突
311	高杯D	S DOL			22.0					ヘラミガキ			ハケ 脚部に5条の沈線
312	高杯D	S DOL C区下層			17.5					ヘラミガキ			ヘラミガキ ヨコナダ 脚部に通越斜突
313	器台C	S DOL区下層	22.0		20.5	19.0	ヨコナダ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヨコナダ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ ヨコナダ 穴4ヶ所
314	器台C	S DOL区下層	20.5		16.5	18.5	ヨコナダ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヨコナダ	ハケ→ ヘラミガキ	ヨコナダ
315	器台C	S DOL B区	12.5		11.5	10.5	ヨコナダ	ヨコナダ	ハケ	ナダ	ヨコナダ	ハケ	ハケ→ ナダ 脚部に1条の沈線
316	器台C	S DOL B・C区	18.0		14.5	16.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ ヨコナダ
317	器台C	S DOL区上層	19.5		15.5	17.5	ヨコナダ	ハケ	ハケ	ナダ	ハケ	ハケ	ハケ
318	器台C	S DOL区下層	22.5		18.5	16.0	ヨコナダ	ハケ	ハケ	ハケ→ ヨコナダ	ヨコナダ	ハケ	ハケ ヨコナダ 脚部内面にヘラ抹文
319	器台D	S DOL区	23.0		19.0	19.5	ヨコナダ	ハナ ナダ	ヘラミガキ	ナダ ハナ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ ハナ 穴4ヶ所・2段
320	器台D	S DOL D区中層	22.0				ヨコナダ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナダ	ヘラミガキ	ヘラミガキ 脚部に2条の沈線 穴4ヶ所・2段
321	器台D	S DOL区上層	27.0		22.0	22.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナダ 脚部に1条の沈線 穴4ヶ所・2段
322	器台D	S DOL C区下層	21.5				ヨコナダ	ハケ	ハケ		ヨコナダ	ハケ	ハケ
323	器台C	S DOL区下層	20.0				ヨコナダ	ヘラミガキ			ヨコナダ	ヘラミガキ	脚部に2条の沈線
324	器台A	S DOL区中・下層			17.0				ハケ	ナダ ハケ→ ヘラミガキ			ハケ ヨコナダ 穴4ヶ所
325	器台A	S DOL上層			19.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ハケ	ハケ ヨコナダ 穴4ヶ所
326	器台B	S DOL上層	22.5	18.5	18.0	20.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ ヨコナダ 大3ヶ所	脚部と脚部内面を升 降する窓
327	器台A	S DOL A・C区中層	26.5	6.5	19.0	21.5	ヨコナダ	ヨコナダ	ハケ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ	ハケ ヨコナダ 穴4ヶ所
328	器台A	S DOL C区中層	25.0	19.0	19.0	23.5	ヨコナダ	ヨコナダ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヨコナダ	穴4ヶ所小4ヶ所
329	器台A	S DOL区上層	27.0	21.0	18.0	23.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナダ 脚部が弱く、脚部内面 に凹痕がある。脚部 内面に1条の沈線。
330	器台A	S DOL区中・下層	24.5	17.5	17.5	20.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナダ	ヘラミガキ	ヨコナダ

番号	器種	出土区	法量				成形・調整						備考	
			口径	脚部径	脚底径	器高	外面			内面				
							口部	脚上部	脚下部	脚底部	口部	脚上部	脚下部	
331	器台B	S D01B区下層	23.0	16.5			ヨコナデ ハラミガタ	ハケ	ハケ	ハラミガタ	ハラミガタ	ハラミガタ	ハラミガタ	大4分類
332	器台A	S D01B区下層 E区上層			21.0				ハケ	ハラミガタ				ハラミガタ 外觀外觀
333	器古D	S D01F区上層			22.0					ハラミガタ	ヨコナデ			ハラミガタ ヨコナデ 六四分類
334	蓋	S D01B区下層	14.5		5.5	9.0	ヨコナデ	ハケ	ナデ	ヨコナデ	ハケ			
335	蓋	S D01B区	13.5		2.5	3.5				ハケ	ナデ	ナデ		
336	蓋	S D01				6.0			ナデ			ナデ		
337	蓋	S D01B区下層					ハケ							
338	把手	S D01D区下層						ハラミガタ						
339	把手	S D01B区												
340	小型体	S D01	10.5		6.0	8.5		ハケ	ハケ		ハラケズリ	ハラケズリ		把手がつく
341	小型体	S D01下層	13.0	13.5			ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	
342	小型體	S D01B区下層	9.5	8.5			ヨコナデ			ヨコナデ				
343	小型體	S D01B区上層	15.0				ヨコナデ	ハケ		ヨコナデ	ハサ ナデ			有孔
344	小型體	S D01C区下層	8.5	7.0	3.5	7.0	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	ナデ		
345	小型體	S D01B区	9.0	8.0	4.5	7.0	ナデ	ハケ	ハケ	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ		
346	小型體	S D01B区	9.0	7.0	2.0	7.0	ナデ	ハマカ	ハケナ	ナデ	ナデカ	ナデカ		
347	小型體	S D01B区上層	10.0	10.0	3.0	10.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	
348	小型體	S D01B区	10.0	8.0			ヨコナデ	ナデ		ヨコナデ	ナデ			
349	小型體	S D01D区下層	9.0	8.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ナデ	ナデ		
350	小型體	S D01B区	9.0	9.0	4.0	6.5	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	ナデ		
351	小型體	S D01B区上層	11.0	8.0	3.5	8.0	ヨコナデ	ハケ		ヨコナデ	ハラケズリ			
352	小型體	S D01 6	6.0	5.5	2.5	5.0	ナデ	ナデ	ナナ	ナデ	ナデ	ナデ		
353	小型體	S D01下層	11.5	9.5	2.0		ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ハラケズリ	ハラケズリ		
354	小型體	S D01D区下層	12.0	9.0	2.0	6.8	ヨコナデ	ハナ		ヨコナデ	ハラケズリ			
355	小型體	S D01B区	12.5			4.0	6.5	ナデ	ハケ	ハケ	ナデカ	ナデカ	ナデカ	
356	小型體	S D01D区下層	11.5		3.0	7.0	ナデ	ナデカ	ハケ	ナデカ	ナデカ	ハケ		
357	小型體	S D01B区	8.0		3.0	6.0	ヨコナデ	ハマカ	ハケカ	ヨコナデ	ハラケズリ	ナデ		
358	小型體	S D01D区下層	6.5		4.0	5.0	ヨコナデ				ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	
359	小型體	S D01B区下層	9.0		3.0	6.5	ナデ	ナデ	ナナ	ナデ	ナデ	ナデ		
360	小型體	S D01X 3 - 4 Y期	7.0		3.5	5.0	ハケ	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整						備 考	
			口 深	脚 部 径	脚 底 径	器 高	外 面			内 面				
							口 頸 部	脚 上 部	脚 下 部	脚 底 部	口 頸 部	脚 上 部	脚 下 部	
361	小型鉢	S D01B区	7.0		5.0	4.0	ナゲ	ナゲ	ナゲ		ハケ	ハケ	ハケ	
362	小型鉢	S D01B区下層	6.5		3.0	4.0	ナゲ	ナゲ	ナゲ	田畠	ハケ	ハケ	ハケ	
363	小型鉢	S D01C区	5.5		1.5	4.0	ナゲ	ナゲ	ナゲ		ナゲ	ナゲ	ナゲ	
364	小型鉢	S D01	4.5			3.0	ナゲ	ナゲ	ナゲ		ナゲ	ナゲ	ナゲ	
365	小型鉢	S D01C区下層	13.5				ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナゲ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナゲ	ナゲ
366	小型鉢	S D01A区	10.5				ハケ	ハケ	ナゲ		ナゲ	ハケ	ハケ	
367	小型鉢	S D01B区下層	9.0		4.5	6.0	ハケ	ハケ	ハケ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
368	小型壺	S D01A区中層	2.5	4.0	3.5	4.5	ナコナデ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
369	小型壺	S D01B区	3.5	5.0	3.5	4.5	ヨコナデ	ナゲ	ナゲ		ナゲ	ナゲ	ナゲ	
370	小型壺	S D01B区下層	3.5	7.0	4.5	4.0	ナゲ	ナゲ	ナゲ		ナゲ	ナゲ	ナゲ	
371	小型鉢	S D01B区下層	5.5		3.5	4.0	ナゲ	ナゲ	ナゲ		ナゲ	ナゲ	ナゲ	
372	壺 G	S D01B区	13.0	19.0	5.0	27.5	ヨコナデ	ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	
373	壺 E	S D01	19.5	22.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ナゲ	ハケ	山脚部・脚上部に通 れ込み
374	壺 A	S D01B区	17.0	16.0	4.0	18.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	
375	壺 B	S D01A区	15.0	15.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	
376	壺 F	S D01B区	30.0	33.0	8.0	36.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	
377	壺 G	S D01B区	12.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ		
378	壺 G	S D01	11.0				ハケ				ハケ			
379	壺 G	S D01	14.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ハケ		
380	壺 I	S D01	9.0	17.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ナゲ	ナゲ	ナゲ	把手がつく
381	壺 A	S D01B区	19.5				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ		腹面に「壺」の焼款
382	壺 A	S D01	15.5				ヨコナデ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ		
383	壺 A	S D01	23.0				ハケ				ハケ			口脚部に押捺
384	壺 F	S D01B区	13.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ		
385	壺 F	S D01B区	16.0											
386	壺 F	S D01B区	20.0				ヨコナデ				ヨコナデ			
387	壺 F	S D01B区下層	18.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ		山脚部に通れ込み
388	壺 F	S D01	18.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ		
389	壺 F	S D01	15.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ		
390	壺 F	S D01A区	17.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ		

番号	器種	出上区	法量			成形・調整						備考	
			口径	胴部径	脚底径	外 国			内 国				
						口型部	脚上部	脚下部	脚・底部	口型部	脚上部	脚下部	
391	康 F	SDBE区	19.0			ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ ハケ				
392	康 F	SDE区	17.0	15.5		ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ ヘラケズリ				
393	成 部	SDEB区			6.0			ハケ					
394	成 部	SDCE区			4.5 6.5			ナヂ			ハケ		
395	鉢 A	SDE区	18.5	14.5		ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ			口縁部内外丹葉
396	高杯 E	SDE区	24.0	19.0		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
397	高杯 B	SDCE区 SDCE区			24.0				ハケ ヨコナヂ ヨコナヂ			ハケ ヨコナヂ	
398	盤台 A	SPG区			21.0								ヨコナヂ 脚部に14条の洗練 法に転用
399	盤台 A	SDCE区 SDCE区	30.0	21.0	24.0	21.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ ヨコナヂ
400	器台 A	SDCE区	25.0	18.5	21.0	25.0		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナヂ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ ヨコナヂ
401	小型鏡	SDE区	12.5		4.5	9.5	ヨコナヂ ハケ ナヂ	ナヂ	ヨコナヂ	ナヂ	ナヂ		
402	小型鏡	SDE区	8.5		3.5	5.0	ナヂ	ナヂ	ナヂ		ハケ	ハケ	
403	壺 A	SDE区	18.0	30.0	7.0	36.0	ヨコナヂ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナヂ	ヘラケズリ ハケ	ハケ	口縁部に外脚・脚部上 部内外丹葉 底盤上部
404	壺 C	SDE区	18.0				ヨコナヂ ナヂ	ハケ		ヨコナヂ	ハケ ナヂ		
405	壺 A	SDCE区	15.5				ヨコナヂ	ハケ		ヨコナヂ	ナヂ		
406	壺 A	SDE区	12.5				ヨコナヂ	ハケ		ヨコナヂ	ナヂ		
407	壺 B	SDE区	10.0	14.0	2.5	12.0	ヨコナヂ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナヂ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部に穴 外脚と内脚丹葉
408	壺 B	SDE区下部	10.5	12.0	3.0	11.0	ヨコナヂ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナヂ	ヘラケズリ ハラミガキ	ヘラミガキ	
409	壺 B	SDCE区	15.5	15.0	2.5	13.0	ヨコナヂ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナヂ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部に14条の洗練 法に転用
410	壺 B	SDCE区 SDCE区	14.0	14.5	3.5	12.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナヂ	ヘラミガキ	ハケ	口縁部に脚部大 幅脚部に5条の洗練 法に転用
411	壺 G	SDE区	13.5	19.0	6.5	34.0	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	口縁部に3条の洗練 法に転用
412	壺 G	SDE区	12.0	17.5			ハケ ナヂ	ハケ ナヂ	ハケ ナヂ	ハケ	ハケ ナヂ	ハケ ナヂ	
413	壺 E	SDE区	13.0	22.0	5.0	26.0	ヨコナヂ ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナヂ ハケ	ナヂ	ハケ	
414	壺 E	SDCE区 SDE区	14.0	20.5			ヨコナヂ ナヂ	ハケ	ハケ	ヨコナヂ ナヂ	ナヂ	ハケ	
415	壺 D	SDE区		29.0	7.0		ハケ ヘラミガキ	ハケ ヘラミガキ			ヘラケズリ	ヘラケズリ	
416	壺 E	SDE区		19.0			ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ナヂ	ハケ	
417	壺 A	SDE区	15.5				ヨコナヂ			ヨコナヂ ハケ	ハケ		
418	壺 G	SDCE区下部 SDE区	13.5				ヨコナヂ ハケ	ハケ		ヨコナヂ ハケ	ヘラケズリ ハケ		脚上部にヘラ
419	壺 G	SDCE区	14.0				ハケ	ハケ		ハケ	ナヂ		
420	壺 G	SDE区	13.5				ハケ	ハケ		ハケ	ヘラケズリ		

番号	器種	出土区	法 量				成 形 調 整						備考	
			LJ径	軸部径	脚底径	器高	外 面			内 面				
							口部部	胴上部	胴下部	脚・底部	口部部	胴上部	胴下部	脚・底部
421	壺 A	S D004R	14.0				ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ハケ				口部部に2条の凹痕
422	壺 A	S D004R	13.0				ヨコナデ ナナ	ハケ		ヨコナデ ハケ				側面に竹葉文と無以上
423	壺 A	S D004区上層	13.5											
424	壺 A	S D004区	12.0				ヨコナデ ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ	チヂ			
425	壺 E	S D004区上層	13.0				ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ハサケズリ				口部部に2条の凸痕 側面に3個の分節文
426	壺 A	S D004区	15.0				ヨコナデ ハケ			ヨコナデ				口部部に2条の凸痕 側面に3個の分節文
427	壺 A	S D004E	15.5				ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラケズリ			口部部に2条の凸痕 側面に3個の分節文
428	壺 A	S D004区上層	18.5				ヨコナデ ヘラミガキ			ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラケズリ			
429	壺 A	S D004F	11.0				ヨコナデ			ヨコナデ				口部部に2条の凹痕
430	壺 F	S D004R	17.5				ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ハケ				
431	壺 H	S D004	9.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ チヂ				
432	壺 A	S D004CT	19.0	25.0			ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	
433	壺 A	S D004E	14.5	16.5	4.5	16.5	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	
434	壺 A	S D004E	17.5	11.5	3.5	19.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
435	壺 C	S D004区上層	13.0	18.5	6.5	25.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	
436	壺 C	S D004区下層	13.5	15.0	4.0	14.5	ヨコナデ ナナ	ハケ→ ナナ	ハケ→ ナナ	ヨコナデ	ハケ→ ヘラケズリ	ヘラケズリ		側面に2個1列の穴 2本所
437	壺 F	S D004区下層	15.5	16.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
438	壺 F	S D004E下層	14.0	14.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		側面に通縫孔み
439	壺 F	S D004区上層	15.5	22.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ハケ ヘラケズリ	ヘラケズリ		側面に通縫孔み
440	壺 A	S D004E	25.5				ハケ	ハケ		ハケ	ハケ			
441	壺 A	S D004区	19.5				ハケ	ハケ		ハケ	ハケ			
442	壺 A	S D004	14.0				ハケ	ハケ		ハケ	ヘラケズリ			
443	壺 A	S D004C-D区中層	18.0	15.5			ヨコナデ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ			
444	壺 A	S D004E中層	19.0				ヨコナデ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ			
445	壺 A	S D004E	14.0	13.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
446	壺 A	S D004	20.0	18.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
447	壺 D	S D004E	18.5				ヨコナデ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ			
448	壺 C	S D004	16.0				ヨコナデ	ハケ		ヨコナデ	ハケ			
449	壺 D	S D004R	16.0	15.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
450	壺 D	S D004R	20.0				ヨコナデ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ			

番号	器種	出土区	法量				成形・調整						備考	
			口徑	側部径	脚底径	器高	外面			内面				
							口部	脚上部	脚下部	脚・底部	口部	脚上部	脚下部	
451	甕 C	S DOME 区	14.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ ハケ	ナヂ			
452	甕 C	S DOME 区下層	16.0	15.0			ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ナヂ			
453	甕 B	S DOME 区	10.0	9.5			ヨコナヂ ハケ	ハケ		ヨコナヂ	ナヂ	ナヂ		
454	甕 B	S DOME 区上層	10.0	9.5			ヨコナヂ ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	口縁部に2条の凹痕	
455	甕 B	S DOME 区	10.5	10.0	3.5	10.5	ヨコナヂ ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	
456	甕 D	S DOME 区	16.0	14.0			ヨコナヂ ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	
457	甕 D	S DOME 区	13.0	12.0			ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			
458	甕 D	S DOME 区	16.0	15.5			ヨコナヂ ハケ	ハケ		ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
459	甕 D	S DOME 区上層	14.0	13.5			ヨコナヂ ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナヂ	ハケ	ハケ		
460	甕 B	S DOME 区	15.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			口縁部に1条の凹痕
461	甕 B	S DOME 区下層	18.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			口縁部に1条の凹痕
462	甕 E	S DOME 区上層	16.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ				
463	甕 E	S DOME 区上層	20.0	23.0			ヨコナヂ ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナヂ	ハケ	ハケ		
464	甕 F	S DOME 区下層	14.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			
465	甕 F	S DOME 区上層	15.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			
466	甕 F	S DOME 区	15.0	13.5			ヨコナヂ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			
467	甕 F	S DOME 区	16.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ナヂ			
468	甕 F	S DOME 区	21.0				ヨコナヂ			ヨコナヂ				
469	甕 F	S DOME 区	18.0				ヨコナヂ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			
470	甕 F	S DOME 区	18.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			
471	甕 F	S DOME 区	19.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			
472	甕 F	S DOME 区	18.5	20.0			ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ハケ			口縁部に2条の凹痕
473	甕 E	S DOME 区	18.5	18.5			ヨコナヂ ナヂ			ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
474	甕 F	S DOME 区上層	17.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			口縁部に2条の凹痕
475	甕 F	S DOME 区	17.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			口縁部に2条の凹痕
476	甕 F	S DOME 区	18.5				ヨコナヂ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			口縁部に4条の凹痕
477	甕 F	S DOME 区	18.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			口縁部に4条の凹痕
478	甕 F	S DOME 区	17.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ				口縁部に過渡期み
479	甕 F	S DOME 区	15.5				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ハケ			口縁部に上部に過渡期み
480	甕 F	S DOME 区	17.0				ヨコナヂ ハケ			ヨコナヂ	ヘラケズリ			上部に過渡期み

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整						備 考		
			口 径	胴部径	脚底径	器 高	外 面	内 面	外 面	内 面	脚上部	脚下部	脚上部	脚下部	
481	甕 F	S DODDE西上層	19.0				ヨコナヂ ハケ		ヨコナヂ ハケ						内脚部と脚上部に通 れ凹み
482	甕 F	S DODCE	19.0				ヨコナヂ ハケ		ヨコナヂ ヘラケズリ						内脚部に4条の凹溝 と脚上部に通れ凹み
483	甕 F	S DODAK西 C区	34.0	34.0			ヨコナヂ ハケ		ヨコナヂ ヘラケズリ						脚上部に溝状凹み
484	甕 F	S DODAK下層	29.0				ヨコナヂ ハケ		ヨコナヂ ヘラケズリ						
485	甕	S DOD		15.5	2.0		ハケ	ハケ			ヘラケズリ	ヘラケズリ			
486	甕	S DODDE東上層		14.0	4.0		ハケ	ハケ			ヘラケズリ	ヘラケズリ			
487	鉢 A	S DODCE	18.5	15.5	4.0	10.0	ヨコナヂ タヂカ	ヘラケズリ	ヨコナヂ タヂカ	ヘラケズリ					
488	鉢 A	S DODCE	18.0	15.0			ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ					内脚部に3条の凹溝
489	鉢 A	S DOD	25.0	19.5	3.0	12.0	ヨコナヂ ハケ→	ハケ→	ヨコナヂ ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ			内脚部に3条の凹溝
490	鉢 A	S DODAK	18.0	14.0			ヨコナヂ ハケ	ハケ	ヨコナヂ	ヘラケズリ					内脚部に3条の凹溝
491	鉢 A	S DODCE下層	15.0	13.5	2.5	11.0	ヨコナヂ		ヘラケズリ	ヘラケズリ					
492	鉢 A	S DODAK	17.5				ヨコナヂ ハケ		ヨコナヂ ヘラケズリ	ヘラケズリ					
493	小型壺	S DODAK	12.0	16.5	3.0	11.5	ヨコナヂ ハケ→	ハケ→	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ			内脚部に3条の凹溝
494	鉢 A	S DODAK	20.5	17.5			ヨコナヂ ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ			
495	小型壺	S DODAK下層	12.5	18.0			ヨコナヂ ハケ	ハケ	ヨコナヂ	ヨコナヂ ハケ	ヨコナヂ ハケ	ヨコナヂ ハケ			
496	鉢 C	S DODCE	15.0		4.0	14.0	ハケ	ハケ	ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ			
497	壺 I	S DODAK下層	7.0	14.0			ヨコナヂ ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナヂ	ナヂ	ナヂ	ナヂ			
498	壺 I	S DODCE	17.0	18.5	12.0	15.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ			
499	壺 I	S DODAK	8.0	11.5											
500	高杯A	S DODAK下層 E区	32.0	25.0	25.0	28.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナヂ	泡がつく 穴とかく	
501	高杯A	S DODAK下層 S DODCE F区	32.0	25.0	23.5	25.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ハゲ→	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ハケ	泡がつく 穴とかく
502	高杯C	S DOD	24.0	19.5	18.0	17.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナヂ	穴とかく	
503	高杯C	S DODAK	25.5	19.5			ヨコナヂ ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ			
504	高杯A	S DODAK	30.5	22.0			ヨコナヂ ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ			
505	高杯A	S DODAK	27.0				ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ			
506	高杯F	S DODAK	14.0		14.0	13.0	ヨコナヂ ハケ	ハケ	ヨコナヂ ハケ	ヨコナヂ ハケ	ヨコナヂ ハケ	ヨコナヂ ハケ	ハケ	ヨコナヂ	
507	高杯F	S DODCE	16.5		13.5		ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ナヂ	泡がつく	
508	高杯F	S DODCE	15.0		10.0	9.5	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ナヂ		内脚部外側に月牙型
509	高杯F	S DODCE	14.0				ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		内脚部外側に月牙型
510	高杯F	S DODAK	15.0				ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		

番号	器種	出土区	法量			成形・調整						備考	
			口径	腹部径	脚底径	外観			内観				
						口部	胴上部	胴下部	脚・底部	口部	胴上部	胴下部	
511	高杯F	SD08AK	16.0			ヨコナ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナ	ヘラミガキか ヘラミガキ	ヘラミガキか ヘラミガキ	
512	高杯C	SD08AK下層			16.5			ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ		ヘラミガキか ヨコナ	ヨコナ	穴あき
513	高杯C	SD08CK			11.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキか ハセ		穴あき
514	高杯A	SD08AK			20.0			ヘラミガキか ヘラミガキ	ヘラミガキか ヘラミガキ		ヘラミガキか ハセ		穴あき
515	高杯C	SD08AKJ下層			17.5			ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ		ヘラミガキか ハセ		
516	高杯C	SD08CK			14.5			ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ		ハセ	ヨコナ	
517	高杯C	SD08BK			14.0			ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ		ハセ		蓋に輪型 穴あき
518	高杯F	SD08DK			13.0			ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ		ナダか	ハセ	
519	高杯D	SD08DK						ヘラミガキ			ハセ		蓋部・通航制空
520	高杯D	SD08AK						ヘラミガキ			ハセ		外底舟中 脚部・通航制空
521	高杯D	SD08AK						ヘラミガキ			ハセ		外底舟中 脚部・通航制空
522	器台C	SD08AK	19.5	17.0	15.5	ヨコナ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヨコナ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヨコナ	穴あき
523	器台C	SD08AK C下層	17.0	13.5	14.5	ヨコナ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヨコナ	ハケ→ ヘラミガキ	ヨコナ	片面・軸部内部凹凸 穴あき
524	器台C	SD08DK上層			24.0	ヨコナ	ハセ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヨコナ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヨコナ	口縁にも蓋の凹部
525	器台B	SD08DK	23.0	13.5	16.5	20.5	ヨコナ	ヘラミガキか ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ハケ→ ヨコナ	ヨコナ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ナダか
526	器台A	SD08AK下層	26.0	18.5	19.0	23.0	ヘラミガキか ヘラミガキか	ヘラミガキか ヘラミガキか	ヘラミガキか ヘラミガキか	ヘラミガキか ヘラミガキか	ヘラミガキか ヘラミガキか	ヘラミガキか ヨコナ	脚上部に2条の丸輪 穴あき
527	器台A	SD08AKJ下層 C下層	26.5	21.0	19.5	25.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ハセ	穴あき
528	器台A	SD08DK上層	25.0	17.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハセ	蓋に輪型
529	器台A	SD08BK	27.5	22.0			ハケ→ ヘラミガキか	ハケ→ ヘラミガキか	ハケ→ ヘラミガキか	ハケ→ ヘラミガキか	ハケ→ ヘラミガキか	ハセ	
530	器台B	SD08DK上層 D区			15.0			ハケ→ ヘラミガキ				ハセ	
531	器台C	SD08AK下層			17.5			ヘラミガキ				ハセ	
532	器台A	SD08DK			19.0			ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ			ヨコナ	穴あき
533	器台B	SD08DK			21.0			ハセ	ハセ→ ヘラミガキ		ハセ	ハセ	
534	器台D	SD08AK			18.0			ヘラミガキ				ハセ	穴あき2段
535	器台C	SD08BK			18.0			ヘラミガキ ヨコナ	ヘラミガキ ヨコナ			ヨコナ	脚部に3条の丸輪
536	蓋	SD08	14.0	4.5	5.0	ハセ	ハセ	ハセ	ナダ	ハセ	ハセ	ハセ	
537	蓋	SD08CK上層	11.0	4.0	5.0	ナダか	ナダか	ナダか	ナダか	ナダか	ナダか	ナダか	穴井部有孔
538	蓋	SD08AK下層			3.5			ハセ					天井部有孔
539	小型高杯	SD08DK	8.0	7.0	6.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナダか	
540	把手	SD08DK上層											

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整						備 考	
			口 径	側部径	脚底径	器 高	外 面			内 面				
							口 頂 部	脚 上 部	脚 下 部	脚・底 部	口 頂 部	脚 上 部	脚 下 部	脚・底 部
541	把手	SD04CE					ハケ ナデ							
542	小型鉢	SD04AK	11.0		2.0	7.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
543	小型鉢	SD04BK	11.5	9.5	3.5	8.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
544	小型鉢	SD04DK	8.0		3.5	7.0	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		
545	小型鉢	SD04BK	13.0		3.5	7.0	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ		
546	小型鉢	SD04BK下層	11.0		4.5	8.0	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ヨコナデ	ハケ	ハケ		
547	小型鉢	SD04C區上層	9.0		3.5	5.5	ナデカ	ナデカ	ナデカ	ナデカ	ナデカ	ナデカ		
548	小型鉢	SD04BK	8.0	7.0	4.0	5.5	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	ナデ		
549	小型鉢	SD04	7.0		3.5	5.0	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		
550	小型鉢	SD04A區下層	11.0	12.0			ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ	ナデ		
551	小型鉢	SD04A區下層	8.5	11.0	5.0	9.0	ナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	ヘラミガキ	ヘラケズリ		
552	小型鉢	SD04D区	8.5	9.5	5.0	6.0	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	ナデ		
553	小型鉢	SD04D区	8.5		3.0	4.5	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	ナデ		
554	小型鉢	SD04BK	9.0		4.5	5.0	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ハケ	ハケ		
555	小型鉢	SD04BK	10.0		4.0	6.0	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		
556	小型鉢	SD04BK	12.0		5.0	7.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
557	小型鉢	SD04	10.0		5.0	7.5	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ハケ	ハケ		
558	小型鉢	SD04BK区	10.5		4.0	7.5	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	ハケ	ハケ		
559	小型鉢	SD04BK	9.0		4.5	8.5	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ	ハケ	ハケ		
560	壺 A	SD04	11.5	24.5			ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ ハケ→	ヘラミガキ	ヨコナデ	ハケ	ハケ		
561	壺 G	SD04CE	12.0	16.5	15.5	27.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ハケ	ナデ	ヘラケズリ	
562	壺 C	SD04CE	15.0	20.5			ヨコナデ	ハケ		ヨコナデ	ハケ			
563	壺 C	SD04	16.0	20.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ハケ→	ナデ		
564	壺 F	SD04	22.0				ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ハケ				口縁部に3条の凹溝
565	壺 E	SD04B区上・中層	24.0				ヨコナデ			ヨコナデ				
566	壺 E	SD04	22.0				ヨコナデ			ヨコナデ				
567	壺 F	SD04	18.0				ヨコナデ			ヨコナデ				
568	壺 F	SD04CE	20.0				ヨコナデ			ヨコナデ				
569	壺 C	SD04AK	14.0				ヨコナデ			ヨコナデ	ハケ			
570	壺 E	SD04CE	15.0				ヨコナデ			ヨコナデ	ハケ			

番号	器種	出土区	法 量				成 形 - 調 整						備考	
			口 径	胴部径	脚底径	器 高	外 面			内 面				
							口部	腰上部	胴下部	脚・底部	口部	腰上部	胴下部	
571	甕 E	S D04A区	18.5	20.5			ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ヘラケズリ				
572	壺 G	S D04C区		19.0	4.0		ハケ	ハケ			ハラケズリ ヘラケズリ			
573	壺 G	S D04C区			9.0			ナデ			ナデ			
574	甕 A	S D04C区		11.0	4.0		ハケ	ハケ		ハケ ヘラケズリ	ヘラケズリ			
575	底 部	S D04C区			3.5			ハケ				ハラケズリ		
576	高杯 C	S D04C区	23.0	16.0			ヨコナデ ヘラミガキ ヘラミガキ			ヨコナデ ヘラミガキ ヘラミガキ				
577	甕 F	S D10	20.5	22.5	4.0	25.0	ヨコナデ ハケ ハケ			ヨコナデ ヘラケズリ ヘラケズリ				
578	甕 B	S D10	16.5				ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ヘラケズリ			出土部に遺物貼り	
579	甕 E	S D10	21.5				ヨコナデ ハケ			ヨコナデ				
580	甕 B	S D10	17.0	19.0			ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ナデ ハケ			口縁部に遺物貼り	
581	高杯 D	S D05A区							ハラミガキ			ナデ	背内側に通縫割込み	
582	壺 F	S D05 S D05A区		21.5			ヨコナデ ハケ ハケ			ヨコナデ ハケ ナデ ナデ				
583	甕 G	S D05A区	10.0	18.0			ハケ ハケ ハケ			ハケ→ナデ ハケ ハケ				
584	甕 E	S D05B区	15.0	16.0			ヨコナデ ハケ ハケ			ヨコナデ ヘラケズリ ヘラケズリ				
585	甕 C	S D05B区	16.0	15.0			ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ハケ				
586	壺 G	S D05B区	11.5				ヨコナデ			ヨコナデ ヘラケズリ				
587	鉢 C	S D05B区	13.5				ヨコナデ ナデ			ヨコナデ ナデ ヘラケズリ				
588	小型鉢	S D05A区	6.0		8.5	10.0	ヨコナデ ヘラミガキ ヘラミガキ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ ヘラミガキ ヘラミガキ ナデ				
589	甕 C	S D05B区	16.0				ヨコナデ			ヨコナデ				
590	甕 E	S D05B区	18.0				ヨコナデ			ヨコナデ				
591	鉢 A	S D05A区	22.0				ヨコナデ ヘラミガキ			ヨコナデ ヘラミガキ			口縁部に1巻の泥塗	
592	小型甕	S D05A・B区	9.0	11.5	3.0	6.5	ヨコナデ ナデ ナデ			ヨコナデ ハラカ ハラカ				
593	小型甕	S D05	4.0	5.0	3.0	5.0	ナデ ナデ ナデ			ナデ ナデ ナデ				
594	小型鉢	S D05B区	6.5		4.5	5.0	ナデ ナデ ナデ			ナデ ナデ ナデ				
595	壺 G	S D23	13.5				ヨコナデ ハケ			ヨコナデ ハケ				
596	甕 F	S D23	19.0				ヨコナデ			ヨコナデ ヘラケズリ				
597	高杯 F	S D23	16.0				ハラミガキ ハラミガキ ハラミガキ			ハラミガキ ハラミガキ ハラミガキ				
598	高杯 C	S D23			19.0			ハラミガキ ハラミガキ ハラミガキ				ハラミガキ	口縁部に1巻の泥塗	
599	小型鉢	S D23	5.5		3.0	3.0	ナデ ナデ ナデ			ナデ ナデ ナデ				
600	底 部	S D23			3.5			ハケ				ハラケズリ		

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整						備 考	
			口 径	腹部径	脚底径	器 高	外 当			内 面				
							口部	臍上部	臍下部	脚・底部	口部	臍上部	臍下部	
601	小型鉢	S D06	9.5		4.5	4.0	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ハケ	ハケ	ハケ		
602	小型鉢	S D06	12.5		3.0	7.0	ヨコナゲ	ハケ	ハケ	ヨコナゲ	ナゲ	ナゲ		
603	壺 A	S D06-C区	17.0				ヨコナゲ							口縁部に1条の沈線
604	壺 F	S D06-C区	19.5				ヨコナゲ	ハケ		ヨコナゲ				
605	土師器 杯底部	S D12B区			6.0					掘削記号				
606	壺 G	S E26	12.0	15.0	3.0	27.0	ヨコナゲ	ハケ	ハケ	ヨコナゲ	ナゲ	ナゲ		腹部に1条の沈線
607	器台D	S E26			14.5					ハケ→ ヘラミガキ				ハケ ヨコナゲ
608	壺 A	S K27	16.0				ヨコナゲ			ヨコナゲ				
609	底 部	S K27 S D01B区下層			5.0				ハラミガキ					リテ
610	壺 C	S K28	15.0	20.0			ヨコナゲ	ハケ	ハケ	ヨコナゲ	ハケ	ハケ		
611	壺 F	S K28	21.5				ヨコナゲ			ヨコナゲ				口縁部に2条の沈線
612	高杯C	S K28			13.5				ハラミガキ					ナゲ 大きさ
613	鉢 A	S K31	14.0	14.5	4.0	13.0	ヨコナゲ	ヘクミガキ ヘクミドロ	ヘクミドロ	ヨコナゲ	ナシカ	ナシカ		外蓋口側部内面を付 せり
614	壺 F	S K39	15.5				ヨコナゲ	ハケ		ハケ	ハケ			
615	小型鉢	S K39	6.0		3.5	3.5	ヨコナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	ナゲ	ナゲ		
616	壺 G	S D08	14.0	21.0			ヨコナゲ	ハケ	ハケ→ ナゲ	ハケ	ナゲ	ハケ		
617	壺 G	X11・12 Y41・42	12.0	16.5	2.5	26.5	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ヘラミガキ ヘラミガキ			腹部に竹割文
618	壺 G	X10 Y40	11.0	17.5	6.5	23.0	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ナゲ	ハケ		
619	壺 G	S D08	15.0				ハラミガキ	ハラミガキ		ヨコナゲ	ハケ			
620	壺 G	S D08	16.5				ヨコナゲ	ハケ	ハケ	ヨコナゲ	ナゲ			口縁部に5~6条の 深い溝の付せり
621	壺 G		12.0				ヨコナゲ	ハケ		ヨコナゲ	ハケ			腹部に1条の沈線
622	壺 G	X11・12 Y41・42	13.5				ヨコナゲ	ハケ		ヨコナゲ	ナゲ	ヘラミガキ		腹部に部分的に付 せり
623	壺 F	X11・12 Y41・43	14.0				ヨコナゲ	ハケ		ヨコナゲ	ハケ	ナゲ		
624	壺 A	X17・18 Y30	18.0				ヨコナゲ	ヘラミガキ		ヨコナゲ	ハケ			腹部に1条の沈線
625	壺 A	X30 Y27	15.5				ヨコナゲ	ハケ→ ヘラミガキ		ヨコナゲ	ナゲ			腹部に1条の沈線
626	鉢 A		24.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ			
627	鉢 A	X13 X49 Y49	19.5	15.0	4.0	10.0	ヨコナゲ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナゲ	ヘラミガキ ヘラミドロ			口縁部に1条の沈線
628	鉢 A	X30 Y26	27.5				ヨコナゲ	ハケ		ヨコナゲ	ハケ→ ナゲ			
629	小型鉢	B区	14.0	13.0			ヨコナゲ	ハケ	ハケ	ヨコナゲ	ナゲ	ナゲ		
630	壺	X30 Y26	15.5	13.0			ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ナゲ→ ナゲ			口縁部内面が広く 小底部になると

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整						備 考	
			口 径	腹部径	脚底径	器 高	外 面			内 面				
							口部	脚上部	脚下部	脚・底部	口部	脚上部	脚下部	
631	甕	X22 Y31	18.0		4.5		ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ		口縁部内側に凹状模様
632	631の 底 部	X22 Y31												
633	甕 B	X11・12 Y41・42	18.0		5.0		ヨコナギ ハケ	ハケ	ハケ		ヨコナギ ハケ	ハケ	ハケ	
634	甕 E	X11・12 Y41・42	19.0	19.0			ヨコナギ ハケ	ハケ	ハケ		ヨコナギ ハケ	ハケ	ハケ	
635	甕 E	X16・26 Y35	17.5	15.0			ヨコナギ ハケ	ハケ	ハケ		ヨコナギ ナギ	ナギ	ナギ	口縁部内側に凹状模様 及底部に凹状模様
636	甕 A	X11・12 Y21・42	17.5				ハケ	ハケ			ハケ	ハケ	ハケ	
637	甕 C	14-328	17.5				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハケ			
638	甕 C	0R	15.0				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハケ			
639	甕 A	X16・6 Y25・79	13.5	12.5			ハケ	ハケ			ハケ	ナギ		
640	甕 A	X16 Y28	16.0	14.0			ハケ	ハケ			ハケ	ハラケズリ		
641	甕 B	X10 Y37・38	15.5				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハケ			
642	甕 B	X7-11 Y32・34	19.0				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハケ			口縁部に溝状模様
643	甕 B	X11・12 Y41・42	16.0				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハケ			
644	甕 E		18.0				ヨコナギ ハケ				ハケ	ヨコナギ ハラケズリ		
645	甕 F		17.5				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハラケズリ			
646	甕 E	X21 Y25	19.0				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハラケズリ			
647	甕 E	X19 Y35・39	15.0				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハラケズリ			口縁部に1条の凹痕
648	甕 E	X21・22 Y35 上層	15.0	11.5			ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハケ			
649	甕 E	X14 Y32	14.0				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ナギ			
650	甕 F	X18 Y28	15.0	15.5			ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハラケズリ			
651	甕 F	X13-15 Y15-15	18.0				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハラケズリ			
652	甕 E	X13-15 Y30-38	16.0				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハラケズリ			
653	甕 C	D14-78	17.0				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハケ			
654	甕 F	X21 Y31-32	17.5				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハラケズリ			
655	甕 F	X11-12 Y20-21	21.5				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハラケズリ			
656	甕 F	X13-12 Y41-42	16.5				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハラケズリ			甕上部に透視好み
657	甕 F	X21 Y31-33	19.0				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハラケズリ			
658	甕 E	X9 Y36-39	15.5				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ヨコナギ			口縁部に3条の凹痕
659	甕 F	X20 Y25	24.0				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ヨコナギ			口縁部に3条の凹痕
660	甕 F	X13-14 Y26-27	17.5				ヨコナギ ハケ				ヨコナギ ハラケズリ			口縁部に3条の凹痕

番号	器種	出土区	法量				成形・調整				備考	
			口径	側部径	脚底径	器高	外面		内面			
							口頭部	肩上部	肩下部	脚・底部		
661	甕 F	X 7 - 8 Y 30 - 31	19.5				ヨコナヂ	ハケ		ヨコナヂ	ヘラケズリ	口頭部に5条の武縄
662	甕 F	X 17 Y 23	19.5				ヨコナヂ			ヨコナヂ	ヘラケズリ	口頭部に連続折み
663	高杯 A	X 19 Y 39	32.5	26.0			ヨコナヂル	ヨコナヂル	ハケ→ ハクミガキ	ハラミガキ	ヘラミガキ	把手がつく
664	高杯 C	S.D.Ⅱ	28.5	24.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
665	高杯 C	X 19 - 20 Y 35 - 36	26.0	19.5			ヨコナヂル	ヘラミガキ	ハラミガキ	ヨコナヂ	ヘラミガキ	
666	高杯 C	X 13 - 14 Y 26 - 27	30.0	24.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
667	高杯 C		28.0	22.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
668	器台 A	X 2 - 4 Y 30 - 39			16.0			ナヂ	ヘラミガキ ナヂ		ナヂ	火打力附
669	器台 B				17.5			ハケ	ハケ			ハケ ヨコナヂ
670	高杯 D	C.IV下層							ナヂ			ハケ 脚部に連続剥脱
671	高杯 D	X 5 - 6 Y 28 - 30 X Y 34 - 35							ナヂ			ナヂ 脚部に連続剥脱
672	蓋	X 5 - 6 Y 26 - 30	10.5		3.0	4.5	ハケ ナヂ	ハケ ナヂ		ハケ ハケ		裏面に穴
673	蓋	X 19 Y 28 - 29	15.5		4.0	4.0	ハケ	ハケ		ハケ ハケ		裏面に穴
674	蓋				2.5		ハケ ナヂ			ハケ		裏面に穴
675	蓋	X 16 Y 33 - 35			4.5		ハケ			ハケ		
676	蓋	X 16 Y 25			4.5		ナヂ			ヘラケズリ		
677	蓋	X 16 - 17 Y 35			3.0		ナヂ			ハケ		裏面に孔
678	蓋	X 17 - 18 Y 32			2.5			ナヂ				
679	蓋	X 17 Y 35			3.0							裏面に孔
680	把手	X 19 Y 37						ナヂ				環状
681	把手	X 19 Y 27 - 28						ナヂ				
682	小型鉢	X 16 - Y 35 X 11 - 15 Y 35 下層	11.5		4.0	6.5	ヨコナヂ	ハケ	ナヂ	ヨコナヂ ハケ ナヂ	ナヂ	
683	小型鉢	X 26 Y 29	11.5		5.5	6.5	ヨコナヂ	ハケ	ハケ	ヨコナヂ	ヘラケズリ ヘラケズリ	
684	小型鉢		11.5		5.5	7.0	ハケ	ハケ		ハケ ハケ	ハケ	
685	小型鉢	X 11 Y 29 - 40	10.5		4.0	6.0	ナヂ	ナヂ	ナヂ	ナヂ ナヂ	ナヂ	
686	小型鉢	X 9 - 10 Y 33 - 34	10.5	8.5	6.0	4.5	ナヂ	ナヂ	ナヂ	ナヂ ナヂ	ナヂ	
687	小型鉢	X 11 Y 38 - 39	9.0		5.5	3.5	ナヂ	ナヂ	ナヂ	ナヂ ナヂ	ナヂ	
688	小型鉢	X 9 - 10 Y 26 - 28	5.0		3.5	4.5	ナヂ	ナヂ	ナヂ	ナヂ ナヂ	ナヂ	
689	小型鉢	X 22 Y 29	8.0		3.0	5.0	ナヂ	ナヂ	ナヂ	ナヂ ナヂ	ナヂ	
690	小型鉢		6.0		3.0	5.5	ナヂ	ナヂ	ナヂ	ナヂ ナヂ	ナヂ	

番号	器種	出土区	法 量				成 形 · 調 整						備 考	
			口 径	輪部径	脚底径	器 高	外 面			内 面				
							口部	脚上部	脚下部	脚・底部	口部	脚上部	脚下部	
691	小型壺	S D C M	7.5	10.0	4.0	8.5	ヨコナデ	ナテ	ナテ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ナテ	
692	小型甕	X 16 Y 26 S D	9.5	9.5	2.5	10.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	
693	小型高杯	X 5 - 6 Y 26 - 30			12.5					ヨコナデ			ヨコナデ	
694	小型甕	S D 01 C M X 16 Y 26	8.5	11.5	3.0	8.5	ヨコナデ	ナテ	ナテ		ヨコナデ	ナテ	ナテ	
695	小型鉢	X 9 - 10 Y 26 - 28			7.5	8.5	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ヘラケズリ	
696	小型鉢	X 16 - 22 Y 26	4.5	5.5	4.0	4.0	ナテ	ナテ	ナテ		ナテ	ナテ	ナテ	
697	小型甕	X 19 - 20 Y 26 - 30	3.5	4.0	3.0	4.0	ナテ	ナテ	ナテ		ナテ	ナテ	ナテ	
698	小型鉢	X 18 - 19 Y 26	5.0	5.5	3.5	4.0	ナテ	ナテ	ナテ		ナテ	ナテ	ナテ	
699	須恵器 杯 身	X 7 - 8 Y 26 - 31	11.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		
700	須州甕		9.0				ヨコナデ	タケ			ヨコナデ	円約丸て瓶底		

表13 江上B遺跡土師器観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整						備考	
			口径	肩部径	脚底径	高さ	外表面			内表面				
							口部部	肩上部	肩下部	脚・底部	口部部	肩上部	肩下部	
31	盃	S D030	12.5				ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハラケズリ		
32	盃	S D030	12.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ			ヘラ底による文様 あり
33	盃	S D030	15.2				ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハラケズリ		
34	盃	S D030	17.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ			
35	盃	S D030	15.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ	ハラケズリ		基面あり
36	盃	S D030	17.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ	ハラケズリ ナダ		
36	盃	S D030	15.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ハケメ		
38	盃	S D030	16.6	23.8			ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ	ハラケズリ ナダ		外底スリ付箒
39	盃	S D030	18.8				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ	ハケメ		
40	盃	S D030	19.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ナダ			平行縞文類似あり
41	盃	S D030					ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハケメ		輪部に捲折による 文様あり
42	盃	S D030	14.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ			
43	盃	S D030	14.0				ヨコナデ ハケメ ナダ				ヨコナデ ハケメ	ナダ		
44	盃	S D030	15.5				ヨコナデ ハケメ ヘラミガキ				ヨコナデ ハケメ シボリ	ハラケズリ		
45	盃	S D030		15.6			ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハラケズリ ナダ		外底スリ付箒
46	盃	X12 Y43	15.6	21.9			ヨコナデ ハケメ ヘラミガキ	マツノ ヘラミガキ			ヨコナデ ハケメ	ハラケズリ		基面あり
47	盃	S E051	15.0	17.0			ハケメ ナダ	ハケメ ナダ	ハケメ		ハケメ	ハラケズリ		内底脚下部も無い 外底スリ付箒
48	盃	S D046	12.2											
49	盃	S D046	12.0				ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ハラケズリ		基面文あり
50	盃	S D033	15.0				ヨコナデ ハケメ ナダ				ハケメ	ナダ		
51	盃	S D032	18.6				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ			工縫封となる円形網 文あり
52	盃	X16-20 Y36-40	12.8				ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハラケズリ		外底スリ付箒
53	盃	X16-20 Y36-40	14.2				ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハラケズリ		
54	盃		12.8				ヨコナデ ハケメ ヘラミガキ				ヨコナデ ハケメ ヘラミガキ			外底スリ付箒
55	盃	X21-25 Y41-45	13.0				ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハラケズリ		
56	盃	X16-20 Y36-40	19.0				ハケメ	ハケメ			ハケメ ナダ	ナダ		
57	盃	X15 Y41-45					ハケメ	ハケメ			ハケメ ナダ	ナダ		外底スリ付箒 基面文あり
58	盃	S D066	14.0				ヨコナデ				ヘラミガキ			内底脚下部も無い 外底スリ付箒
59	盃	S D019-030	14.7	17.6			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ		内底脚下部も無い 外底スリ付箒
60	盃		16.8				ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ハケメ		外底スリ付箒

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整						備 考		
			口 仕	側部径	脚底径	器 高	外 面			内 面					
							口頭部	脚上部	脚下部	脚・底部	口頭部	脚上部	脚下部		
61	壺	S D 008	9.6				ナゲ?				ヘラミガキ			馬鹿目による瓦条の 汎用。片面スリ付箇	
62	壺	X 21-25 Y 41 14	14.0				ハケメ ヘラミガキ	ハサメ ヘラミガキ			ハケメ ヘラミガキ	ヘラケズリ		口縁部大内出張り、 平行縁太	
63	壺	S D 009			9.5		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ		黒面あり	
64	壺	S D 020					ヘラミガキ	ヘラミガキ			ハケメ	ハサメ		脚部に突唇あり	
65	壺	S D 020		11.0	4.0		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒面あり	
66	壺	S D 008	10.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ		口縁部膨らヘラミガキ	
67	壺	S D 008		16.6				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ハケメ	ハサメ		脚部最大の内出張りと 脚部大内出張りと脚部 脚部に並び付ける
68	壺			7.0	2.1		ヘラミガキ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ		
69	壺	S D 008	15.0	20.6		20.0	ハケメ	ハサメ	ハケメ	ハケメ	ヘラケズリ	ヘラケズリ			
70	甕	S D 008	12.5				ヨコナゲ	ハケメ			ヨコナゲ	ヘラケズリ		片面スリ付箇	
71	甕	S D 009	16.0				ヨコナゲ	ハサメ			ヨコナゲ	ヘラケズリ			
72	甕	S D 020	15.5				ナゲ	ハケメ			ハケメ	ヘラケズリ		片面スリ付箇	
73	甕	S D 009	14.8				ヨコナゲ	ハサメ			ヨコナゲ	ヘラケズリ		片面スリ付箇	
74	甕	S D 008	16.0				ヨコナゲ	ハケメ			ヨコナゲ	ハケメ	ナゲ	片面スリ付箇	
75	甕	S D 008	14.4				ヨコナゲ	ハサメ			ヨコナゲ	ナゲ		片面スリ付箇	
76	甕	S D 008	14.4				ヨコナゲ	ハサメ			ヨコナゲ	ヘラケズリ		片面スリ付箇	
77	甕	S D 008	14.5				ヨコナゲ	ハサメ			ヨコナゲ	ヘラケズリ		片面スリ付箇	
78	甕	S D 020	19.3				ヨコナゲ				ヨコナゲ				
79	甕	S D 008	20.5				ヨコナゲ ナゲ				ヨコナゲ			片面スリ付箇 口縁部外張りと脚部 脚部に並び付ける	
80	甕	S D 008	17.6				ヨコナゲ	ハサメ			ヨコナゲ	ハサメ		口縁部に脚部上部外 部に透底斜向あり	
81	甕	S D 008	20.2	20.0			ヨコナゲ	ハサメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナゲ	ヘラケズリ		片面スリ付箇	
82	甕	S D 008	17.0				ヨコナゲ	ハサメ			ヨコナゲ	ヘラケズリ		片面スリ付箇	
83	甕	S D 008	16.8				ヨコナゲ	ハサメ			ヨコナゲ	ハケメ	ナゲ	片面スリ付箇	
84	甕	S D 008	16.2				ヨコナゲ				ヨコナゲ	ヘラケズリ		片面スリ付箇	
85	甕	S D 008	15.2				ヨコナゲ				ヨコナゲ	ヘラケズリ		片面スリ付箇	
86	甕	S D 008	24.0				ヨコナゲ	ハサメ			ヨコナゲ	ヘラケズリ		片面スリ付箇	
87	甕	S D 008	20.8				ヨコナゲ	ハサメ			ヨコナゲ	ヘラケズリ		片面スリ付箇	
88	甕	S D 008	24.0				ヨコナゲ	ヨコナゲ			ヨコナゲ	ヘラケズリ		片面スリ付箇	
89	甕	S D 008	27.6	32.0			ヨコナゲ	ハサメ			ヨコナゲ	ヘラケズリ		片面スリ付箇 脚部に透底斜向あり	
90	甕	S D 008	17.2				ヨコナゲ	ヨコナゲ			ヨコナゲ	ヘラケズリ		3条の平行縁文	

番号	器種	出土区	法量				成形・調整						備考
			口径	脚部径	脚底径	器高	外面			内面			
							ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ	ハケメ	
101	縹	S D039	17.9				ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ	ハケメ	
102	縹	S D030	16.8				ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ		外蓋入付箋 2条の平行縞文
103	縹	S D030	15.2				ヨコナヂ			ヨコナヂ	ハラケズリ		4条の平行縞文
104	縹	S D030	19.4				ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ		外蓋入付箋 2条の平行縞文
105	縹	S D030	18.3	14.4	11.0	16.9	ヨコナヂ	ハケメ ナヂ	ハケメ ナヂ	ハケメ	ヨコナヂ	ナヂ	ハラケズリ ナヂ
106	縹	S D030	15.7				ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ		外蓋入付箋 斜面上に施紋剥落あり
107	縹	S D079	14.0				ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ		外蓋入付箋 2条の平行縞文
108	縹	S D070	18.0				ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ		外蓋入付箋 2条の平行縞文
109	縹	S D050	17.2				ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ		外蓋入付箋 5条の平行縞文
110	縹	S D029	17.5	18.3	4.0	18.3	ヨコナヂ	ハケメ	ハケメ	ハラケズリ	ヨコナヂ	ハラケズリ	外蓋入付箋 無縫あり
111	縹	S D053	16.6				ヨコナヂ	ヨコナヂ		ヨコナヂ	ハラケズリ		外蓋入付箋
112	縹	S D039	16.3				ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ		外蓋入付箋
113	縹	S D029	18.2				ヨコナヂ	ヨコナヂ		ヨコナヂ	ハラケズリ		3条の平行縞文
114	縹	S D029	17.5				ヨコナヂ	ハケメ			ハラケズリ		外蓋入付箋 1条の平行縞文
115	縹	S D066	18.8				ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ		外蓋入付箋
116	縹	S D018	17.6	21.0			ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ		外蓋入付箋
117	縹	S D025	16.8	20.8			ヨコナヂ	ヨコナヂ	ハケメ	ヨコナヂ	ハケメ		
118	縹	S D070	16.8				ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ		外蓋入付箋 2条の平行縞文
119	縹	S D012	17.0				ヨコナヂ	ハケメ		ヨコナヂ	ハラケズリ		2条の平行縞文
120	縹		19.4	6.2			ハケメ	ハケメ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	外蓋入付箋
121		S D020			2.0								
122		S D030			4.0				ナヂ			ハラケズリ	無縫状況あり
123		S D030			6.0							ハラケズリ	無縫状況あり
124		S D030			3.3				ハケメ			ハラケズリ	文縫あり
125		S D030			3.0				ハケメ			ハラケズリ	試器外側ハケメ
126		S D030			4.0				ハケメ			ハケメ	「メ」記号あり
127		S D030			4.8				ハケメ			ハケメ	無縫状況あり
128		S D029			5.2				ハケメ			ハラケズリ	底縫外側ハケメ
129		S D029			4.4				ハケメ			ハケメ	ハラ記号あり
141	鉢	S D039	14.8				ヨコナヂ	ハケメ ハラメガタ		ヨコナヂ	ハラメガタ		

番号	器種	出土区	法量				成形・調整						備考
			口径	瓶頸径	脚底径	器高	外表面			内表面			
							口部	肩上部	胴下部	脚・底部	口部	肩上部	胴下部
142	鉢	SD030	11.8	13.2			ヨコナメ ハラミガキ	ナメ	ハケタ		ヨコナメ ハラミガキ	ハラミガキ	ナメ
143	鉢	SD030	20.0	16.0			ヨコナメ ハラミガキ ヘラミガキ				ヨコナメ ハラミガキ	ヘラミガキ	
144	鉢	SD030	14.0				ヨコナメ ナメ				ヨコナメ ナメ		ナメ
145	鉢	SD030	17.0				ハケタ	ハケタ				ハラミガキ ナメ	
146	鉢	SD030	9.2	14.0	10.8	19.0	ナメ	ハケタ ナメ	ハケタ ナメ	ハケタ ナメ	ハケタ ナメ	ナメ	ハケタ
147	瓶	SD030	19.2		3.0		ヨコナメ ナメ	ハケタ ナメ		ハラミガキ ナメ	ヨコナメ ナメ	ナメ	ナメ
148	瓶	SD030			2.0			ハケタ	ハケタ ナメ		ハラミガキ ナメ	ナメ	ナメ
149	瓶	SD030			6.0			ハケタ	ハケタ		ハラミガキ ナメ	ナメ	ナメ
150	瓶	SD030			3.0			ハケタ	ナメ		ハラミガキ ナメ	ハラミガキ	ナメ
151	瓶	SD030			3.0			ナメ	ナメ		ナメ	ナメ	ナメ
152	瓶												
153	鉢	X16 Y41-48	17.8	16.8			ヨコナメ ナメ	ハケタ	ハケタ	ハケタ ナメ	ハラミガキ ナメ	ハラミガキ ナメ	ナメ
154	鉢	SD066	20.0										
155	鉢	X16-18 Y41-49	20.0	15.0			ヨコナメ ハラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ ナメ	ヘラミガキ ナメ	ヘラミガキ ナメ	ナメ
156	瓶	SD030			4.0			ハケタ	ナメ				ナメ
157	瓶	SD048			5.0			ハケタ	ハケタ ナメ		ハラミガキ ナメ	ハラミガキ ナメ	
158	瓶	SD030			4.0			ハケタ	ハケタ ナメ		ナメ	ナメ	ナメ
161	蓋	SD028	4.0		4.5		ハケタ ナメ	ヨコナメ ナメ		ハケタ ナメ	ナメ	ナメ	
162	蓋	SD052	4.5		3.0		ナメ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナメ	ヘラミガキ ナメ	ナメ	
163	蓋	X16-20 Y36-40	5.0		3.0		ハケタ ナメ	ハケタ ナメ		ナメ	ナメ		
164	蓋	X16-20 Y26-30	3.0		2.0		ナメ	ナメ		ナメ	ナメ		
165	蓋	X25-30 Y26-35	4.0		4.6		ナメ			ナメ	ナメ		
166	蓋	SD024	3.2		3.0					ナメ	ナメ		蓋に施度前の穴あり
167	蓋	X16-20 Y26-40	5.4		3.6		ハケタ ナメ	ハケタ ナメ		ナメ	ナメ		
168	蓋	SD022			3.8	3.0	ハケタ ナメ	ハケタ ナメ		ハケタ ナメ	ナメ		
171	高杯	SD030-060	31.0		23.0	22.8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	シカクゼリ 施度前の間に穴あ る蓋は杯に蓋をせ てある
172	高杯	SD030			18.4	5.5	ヘラミガキ						
173	高杯	SD030			18.1	5.7		ヘラミガキ					ハケタ
174	高杯	SD030			18.6	13.0		ヘラミガキ					ヨコナメ
175	高杯				16.4	12.8							

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整						備 考	
			口 径	脚部径	脚底径	器 高	外 面			内 面				
							口部	脚上部	脚下部	脚・底部	口部	脚上部	脚下部	脚・底部
176	高杯				13.5	9.5								
177	高杯	SD000			16.3	10.7			ヘラミガタ					ハゲメ
178	高杯	X20 Y43			10.0	5.0			ヘラミガタ					ナテ
179	高杯	SD008							ヘラミガタ					ヨコナデ
180	高杯	SD009												
181	高杯	SD010			16.0	4.0			ヘラミガタ					ハゲメ
182	高杯	SD002							ヘラミサカ					
183	高杯	SD004							ヘラミガタ					
184	高杯	SD002							ヘラミガタ					
185	高杯	SD002-008							ヘラミガタ					
186	高杯	SD002			22.0	3.7								
187	高杯	SD005	27.5			2.5								
188	高杯	X11-14 Y42-43			12.8	7.3								
189	高杯	X11-13 Y41-45												
190	高杯	X17-18 Y42			19.8	3.8								
191	高杯				11.6	7.7								
192	高杯	X16-20 Y26-40			13.2	11.0								
193	高杯	X18 Y43	10.0		6.8	4.6								
194	高杯	SD000	14.5			6.8								

表14 江上B遺跡珠洲觀察表

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整						備 考	
			口 径	脚部径	脚底径	器 高	外 面			内 面				
							口部	脚上部	脚下部	脚・底部	口部	脚上部	脚下部	脚・底部
221	甕	SD009 SD006	47.5	52.5			ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			
222	甕	SD004 B型	49.5				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			
223	甕	SD004	37.5				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			
224	甕	SD004	40.5				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			
225	甕	X11-15 Y36-36 2型	48.0				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			
226	甕	RE	44.0				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			
227	甕	SD004	67.0				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			

番号	器種	出土区	法量				成形・調整						備考	
			口径	側部径	脚底径	器高	外面			内面				
							口部	脚上部	脚下部	脚・底部	口部	脚上部	脚下部	脚・底部
228	甕	S D014	68.0				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			前面に漆付書
229	甕	S K106	38.5	45.5	15.0	51.4	ヨコナデ	タタキ	タタキ	タタキ	ヨコナデ			腹実錆を辨認している
230	甕	S D014					ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			
231	甕	S D018					ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			
232	甕	XII-19 Y42-43 1層					ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			
233	甕	S D014					ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			
234	甕	S D014					ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			
236	甕	XII-28 Y24-29 1層												
237	甕	S K007 1曲												
238	甕	S D014 砂留												
240	壺	S K005	7.8	12.6	6.8	10.2	ヨコナデ				ヨコナデ			外底面に鋸歯水切り 模様あり
241	壺	XII-25 Y46-50 1層					ヨコナデ				ヨコナデ			
242	壺	S D018		12.7			ヨコナデ				ヨコナデ			
243	壺	XII-15 Y33-35 1層		10.3			ヨコナデ				ヨコナデ			
244	壺	S D014					ヨコナデ							前面に2条のクレジ き状状あり
245	壺	S D004 と S D004 との合成立					ヨコナデ				ヨコナデ			背面に2条のクレジ き状状あり
246	壺	XII-15 Y41-46 2層			9.0									
247	壺	S D008			10.7						ヨコナデ			外底面に鋸歯水切り 模様あり
248	壺	S D014 砂留	23.0				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			外底面に鋸歯水切り 模様あり
249	壺	S D008 S D014	24.1	33.2			ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			瓦質
250	壺	S D014					ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ			
253	鉢	S D014	21.0		8.8	9.2	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			外底面に鋸歯水切り 模様あるか?
254	鉢	S D008 XII-28 Y24-29 1層	20.5		10.0	8.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ				
255	鉢	S D008 XII-20 Y35-45 1層					ヨコナデ				ヨコナデ			オロシメあり
256	鉢	S D014 S D004	25.3				ヨコナデ				ヨコナデ			
257	鉢	S D007 XII-30 Y31-35 1層	32.0				ヨコナデ				ヨコナデ			オロシメあり
258	鉢	S D009					ヨコナデ				ヨコナデ			オロシメあり
259	鉢	S D007					ヨコナデ				ヨコナデ			11条のオロシメあり 裏面に2条のクレジ き状状あり
260	鉢	S K007					ヨコナデ				ヨコナデ			オロシメあり
261	鉢	S D014 砂留					ヨコナデ				ヨコナデ			オロシメあり 口付周囲に2条のク レジき状状あり

番号	器種	出土区	法量			成形・調査						備考	
			口径	器部径	脚底径	外 面			内 面				
						口縁部	肩上部	制下部	脚・底部	口縁部	体 部	頂 部	脚・底部
262	鉢	S D108脚舌				ヨコナヂ			ヨコナヂ				11条のオロシメあり 口縁部に凹みのクレバ付記あり
263	鉢	X26-30 Y26-40 1号				ヨコナヂ			ヨコナヂ				8条のオロシメあり 口縁部に凹みのクレバ付記あり
264	鉢	S D106				ヨコナヂ			ヨコナヂ				口縁部にクレバ付記あり
265	鉢	X26-38 Y25-30 1号				ヨコナヂ			ヨコナヂ				オロシメあり 口縁部にクレバ付記あり
266	鉢	S D107 S K08		13.3		ヨコナヂ	ヨコナヂ		ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	11条のオロシメあり 内部に復性瘤
267	鉢	S D109 S D107			11.5	ヨコナヂ	ヨコナヂ		ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10条のオロシメ 内部に凹み
268	鉢	S D108			12.9	ヨコナヂ	ヨコナヂ		ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	12条のオロシメあり
269	鉢	X26-30 Y21-75 3号		13.3		ヨコナヂ	ヨコナヂ		ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	12条のオロシメあり 内部に凹み
270	鉢	X21-22 Y26-30 内側 S D107			11.1	ヨコナヂ	ヨコナヂ		ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10条以上のオロシメ あり
271	鉢	S D104			9.5	ヨコナヂ	ヨコナヂ		ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	12条のオロシメあり
272	鉢	S D104 X26-30 Y26-40 1号			12.3	ヨコナヂ	ヨコナヂ		ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	11条のオロシメあり 内部に付瘤
273	鉢	X21-25 Y40-30 3号			9.5	ヨコナヂ	ヨコナヂ		ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	ヨコナヂ	12条のオロシメあり
274	鉢	S D104											内部に付瘤 オロシメあり
275	鉢	X16-25 Y61-65 2号											内部に付瘤 オロシメあり
276	鉢	S D104			13.0				ヨコナヂ			ヨコナヂ	12条のオロシメあり
277	鉢	S K08				ヨコナヂ			ヨコナヂ				16条のオロシメあり
278	鉢	S D109				ヨコナヂ			ヨコナヂ				内部に「0」の押印 あり
279	鉢	S D106				ヨコナヂ			ヨコナヂ				内部に「三」の押印 あり
280	鉢	X26 Y35 1号				ヨコナヂ			ヨコナヂ				7条のオロシメあり 内部に付瘤

表15 江上B遺跡土師質小皿観察表

番号	出土区	法量			成形・調整						備考		
		口径	外 面		内 面		外 面			内 面			
			口縁部	底 部	口縁部	底 部	口縁部	底 部	口縁部	底 部	口縁部	底 部	
290	X24-38 Y24-29 3号	9.6	1.3	ヨコナヂ	ナヂ	ヨコナヂ	ナヂ	301	S D104	11.6	1.6	ヨコナヂ	ナヂ
291	X24-28 Y24-28 3号	7.8	1.5	ヨコナヂ	ナヂ	ヨコナヂ	ナヂ	302	S D107	11.8	2.1	ヨコナヂ	ナヂ
292	X24-28 Y24-26 2号	7.6	1.2	ヨコナヂ	ナヂ	ヨコナヂ	ナヂ	303	S D108	12.6	2.8	ヨコナヂ	ナヂ
293	S D104	7.8	1.9	ヨコナヂ	+ナ	ヨコナヂ	+ナ	304	X26-30 Y41-45 3号	12.8	2.6	ヨコナヂ	+ナ
294	S D107	7.8	1.7	ヨコナヂ	ナヂ	ヨコナヂ	ナヂ	305	S D106	12.8	2.0	ヨコナヂ	ナヂ
295	S D104	8.0	2.0	ヨコナヂ	ナヂ	ヨコナヂ	ナヂ	306	S D106	13.3	2.6	ヨコナヂ	ナヂ
296	X24-28 Y24-28 3号	9.0	1.5	ヨコナヂ	ナヂ	ヨコナヂ	ナヂ	307	X23 Y41 3号	13.2	2.4	ヨコナヂ	ナヂ
297	X21-25 Y32 2号	8.2	1.6	ヨコナヂ	ナヂ	ヨコナヂ	ナヂ	308	S D102	13.2	1.4	ヨコナヂ	ナヂ
298	S D107	8.8	1.8	ヨコナヂ	ナヂ	ヨコナヂ	ナヂ	309	X26 Y21-33 1号	14.0	1.7	ヨコナヂ	ナヂ
299	S D104	8.8	1.8	ヨコナヂ	ナヂ	ヨコナヂ	ナヂ	310	S D106	15.3	2.2	ヨコナヂ	ナヂ
300	S D106	11.4	2.0	ヨコナヂ	ナヂ	ヨコナヂ	ナヂ			-	-		

表16 江上日遺跡 S K106出土渡来鉄觀察表

番号	式 文	中国での初鋤年代	西	雇	直径	重さ	厚さ	書体	分類(枚数)	備考	
1	開光通寶	唐 武德4年	6	2	1	2.5	3.2	0.12	縦 A ( 8 )	元の字の1箇が短く、2箇が左端に並びのもの。内部外縁が大きいもの。	
2					7.5	3.1	0.12	縦 B ( 2 )	Aより4文字とも小さい。		
3					2.3	2.6	0.39	縦 C ( 2 )	Bより4文字がやや大きい。内部外縁が小さいもの。		
4					2.5	3.7	0.18	縦 D ( 2 )	元の字の1箇が長く、2箇が左端に並びのもの。内部外縁が小さいもの。		
5					2.4	3.7	0.15	縦 E ( 2 )	Dよりやや文字が大きい。内部外縁がやや大きいもの。		
6					2.3	3.7	0.15	縦 F ( 1 0 )	Eの半の字とEとは違う。		
7					2.3	2.3	0.09	縦 G ( 2 )	内部外縁がふつ。文字はDと同じ大きさ。		
8					2.4	3.4	0.15	縦 H ( 1 )	元の字の2箇は左端の上に並びかたが、Gより直立する。他の文字はHに似る。		
9					3.1	2.5	0.12	縦 I ( 1 )	内部外縁がやや大きい。文字はIを小さくした感じ。		
10					2.3	3.1	0.08	縦 J ( 1 )	内部外縁が小さい。文字もJより小さい。		
11					2.5	3.4	0.10	縦 K ( 1 )	元の1箇が長く、2箇が右端に並ぶもの。		
12					2.3	3.7	0.17	縦 L ( 1 )	背の上に「一」の記号あり。太くて細い。文字はDに似る。		
13					2.4	3.4	0.11	縦 M ( 1 )	背の上に「一」の記号あり。太くて細い。文字はDに似る。		
14					2.4	2.6	0.10	縦 N ( 3 )	背の上に「一」の記号あり。太くて細い。文字はMをやや小さくした感じ。		
15					2.4	3.3	0.14	縦 O ( 2 )	背の上に「一」の記号あり。長い。文字はEに似る。		
16					2.5	3.4	0.17	縦 P ( 1 )	背の上に「一」の記号あり。太くて細い。文字はPに似る。		
17					3.5	3.7	0.18	縦 Q ( 1 )	背の上に「一」の記号あり。Oより長い。文字はPに似る。		
18					2.5	3.1	0.17	縦 R ( 1 )	背の上に「一」の記号あり。細くて短い。文字はRに似る。		
19					2.5	3.4	0.11	縦 S ( 1 )	背の下に「一」の記号あり。太くて長い。文字はEに似る。		
20					2.5	3.8	0.15	縦 T ( 1 )	背の下に「一」の記号あり。細くて長い。文字はEに似る。		
21					2.4	3.6	0.13	縦 U ( 1 )	背の下に「一」の記号あり。細くて短い。文字はUに似る。		
22	開元通寶	唐 会昌5年	8	4	5	3.4	3.2	0.10	縦 V ( 1 )	背の下に「清」の文字あり。文字はDに似る。紀地鉄。	
23					2.4	3.2	0.14	縦 W ( 1 )	背の上に「名」の文字あり。文字はWに似る。紀地鉄。		
								小計(49)	不明2枚を含む。		
24	乾元通寶	唐 乾元2年	7	5	9	2.5	2.8	0.12	縦 A ( 1 )	背の下に「一」の記号あり。細いもの。	
25						2.4	2.6	0.09	縦 B ( 2 )	背の下に「一」の記号あり。長いもの。	
26						2.5	3.2	0.13	縦 C ( 1 )	背の記号なし。	
27	成康元寶	前蜀 成康元年	9	2	5	2.3	3.2	0.10	縦 A ( 1 )		
28	唐國通寶	南唐 交泰元年	9	8	5	2.4	3.5	0.10	縦 A ( 1 )		
29						2.4	3.2	0.11	縦 A ( 1 )	唐・国の字は文形が違う。通・寶の字は、Aより小さい。	
30	宋通元寶	北宋 建隆元年	9	6	0	2.4	3.5	0.11	縦 A ( 3 )	通の字は隸書か。	
31						2.4	3.5	0.11	縦 B ( 1 )	通・寶の字は小さい。元の字は文形が違う。通の字は隸書か。	
32	太平通寶	北宋太平興國元年	9	7	6	2.4	3.2	0.17	縦 A ( 3 )	通の字は隸書か。	
33	淳化元寶	北宋 淳化元年	9	9	0	2.4	3.8	0.12	縦 A ( 1 )	通の字は隸書か。	
34	嘉道元寶	北宋 嘉道元年	9	9	5	2.5	3.3	0.10	縦 A ( 2 )		
35						2.4	3.5	0.11	行 B ( 2 )		
36						2.5	2.4	0.12	草 C ( 2 )		
37	咸平元寶	北宋 咸平元年	9	9	8	2.5	3.6	0.12	楷 A ( 1 1 )		
38	景德元寶	北宋 景德元年	1	0	4	2.4	2.9	0.09	楷 A ( 1 )	内郭外縁が大きい。文字が、内部と外縁との間にすきがある。	
39						2.4	3.7	0.11	楷 B ( 2 )	内郭外縁が小さい。特に、豈・元の文字が外輪と接している。	
40	祥符元寶	北宋大中祥符元年	1	0	8	2.5	3.2	0.09	楷 A ( 1 )	元の字の3箇が長い。大きい字。内部外縁はやや大きい。	
41						2.5	3.3	0.11	楷 B ( 2 )	元の字の3箇が長い。文字はAよりも大きい。内部外縁は大きい。	
42						3.0	2.5	0.10	楷 C ( 6 )	元の字の3箇がやや長い。元の字はCよりも大きい。内部外縁は小さい。	
43						2.1	2.3	0.10	楷 D ( 1 )	元の字の3箇がやや長い。元の字の3箇がCと違う形。	
44						2.0	4.1	0.11	楷 E ( 3 )	元の字の3箇がCと違う。内部外縁は大きい。表に舟舟の筋が見える。	
45						2.8	4.0	0.11	楷 F ( 6 )	元の字の3箇がやや短い。内部外縁は小さい。	
46						2.5	2.7	0.08	楷 G ( 1 )	元の字の3箇がやや短い。文字はFよりも大きい。	
47						2.5	2.8	0.09	楷 H ( 1 )	元の字の3箇がやや短い。文字はGよりも大きい。	
								小計(21)			
48	祥符通寶	北宋大中祥符元年	1	0	8	2.4	3.3	0.11	楷 A ( 2 )	大きい文字。内部外縁は大きい。	
49						2.5	3.7	0.11	楷 B ( 5 )	文字はAよりも小さい。内部外縁は大きい。	
50						2.4	3.5	0.11	楷 C ( 5 )	通の字はBよりも細い。内部外縁は小さい。	
51	天禧通寶	北宋 天禧元年	1	0	1	2.5	3.9	0.12	楷 A ( 5 )	文字が大きい。内部外縁が大きい。	
52						2.5	4.0	0.17	楷 B ( 6 )	Aよりも、縦の半が小さく質の字は大きい。表の1・2箇が這い。	
53						2.4	4.1	0.12	楷 C ( 3 )	文字がやや小さい。内部外縁は小さい。	
54	天聖元寶	北宋 天聖元年	1	0	2	3	2.6	3.5	0.10	楷 A ( 1 )	内部外縁が大きい。
55						2.5	4.8	0.13	楷 B ( 1 )	文字はAと同じ大きさ。内部外縁がやや大きい。Bは離別される可能性あり。	
56						2.5	3.8	0.10	楷 C ( 3 )	文字はBよりも小さい。内部外縁は小さい。	
57						2.5	3.5	0.13	楷 D ( 5 )		

番号	錢文	中国での初鑄年代	西暦	直径	重さ	厚さ	書体	分類(枚数)	備考	
									E ( - )	F ( - )
5 6	天聖元寶	北宋	天聖元年	1 0 2 3	2.6	3.6	0.11	篆	E ( - )	内郭外径がDより大きいもの。
5 9					2.4	3.5	0.11	篆	F ( - )	内郭外径はDと同じ大きさだが、型・質の字がやや上の位置にある。
								小計(3枚)		
6 0	明道元寶	北宋	明道元年	1 0 3 2	2.5	3.3	0.11	楷	A ( - )	
6 1 A					2.6	3.8	0.10	篆	B ( - )	
6 2	景祐元寶	北宋	景祐元年	1 0 3 4	2.5	4.1	0.12	楷	A ( - )	内郭外径が大きい。
6 3					2.5	3.7	0.12	楷	B ( - )	Aよりも、元・質の字が小さい。幣の5周の横神が長い。
6 4					2.3	3.1	0.10	楷	C ( - )	Hより文字が小さく、細い。
6 5					2.3	3.1	0.10	篆	D ( - )	質・牠の字が斜めに傾いている。
6 6					2.5	3.8	0.12	篆	E ( - )	質・牠の字が鄰に接している。
6 7	皇宋通寶	北宋	寶元2年	1 0 3 8	2.4	4.7	0.10	楷	A ( - )	通の字が内郭内径の真中にくる。内郭外径は大きい。
6 8					2.5	3.8	0.10	篆	B ( - )	Aより質の字が横広で、質の字が小さい。内郭外径はやや大きい。
6 9					2.5	3.8	0.11	楷	C ( - )	文字はAをやや小さくした感じ。内郭外径はふつう。
7 0					2.4	3.4	0.10	楷	D ( - )	通・質の字がCより大きい。内郭外径はふつう。
7 1					2.4	3.8	0.10	楷	E ( - )	通の字がよりやや上の位置にある。内郭外径は大きい。
7 2					2.5	3.2	0.11	楷	F ( - )	どより宋の字は横広で、質の字は小さい。内郭外径はふつう。
7 3					2.5	3.4	0.12	楷	G ( - )	内郭外径は小さい。文字は太い。
7 4					2.5	3.2	0.09	楷	H ( - )	内郭外径は小さい。文字は細い。
7 5					2.5	4.0	0.12	篆	I ( - )	4文字は大きくて太い。内郭外径はふつう。
7 6					2.4	3.6	0.10	篆	J ( - )	4文字は大きくて細い。内郭外径はふつう。
7 7					2.4	3.4	0.20	篆	K ( - )	文字はIより小さい。孔形が大きい。内郭外径は大きい。
7 8					2.4	3.8	0.11	篆	L ( - )	皇・宋の字はEより小さい。内郭外径はふつう。
7 9					2.5	3.3	0.10	篆	M ( - )	文字が鄭から離れている。内郭外径は大きい。
8 0					2.5	2.8	0.08	篆	N ( - )	文字がやや小さい。内郭外径も小さい。
8 1					2.5	3.6	0.12	篆	O ( - )	大きな字。
8 2					2.5	3.8	0.11	篆	P ( - )	宋・寶の字がOより大きい。
8 3					2.5	3.1	0.11	篆	Q ( - )	宋・寶の字はPと同じ。皇・通はPよりやや小さい。
8 4					2.4	3.7	0.11	篆	R ( - )	文字がPよりやや小さい。
8 5					2.5	4.0	0.11	篆	S ( - )	皇・通の字がHより小さい。内郭外径は小さい。
8 6					2.4	3.2	0.09	篆	T ( - )	文字がSより細く、鍾が広い。
								小計(6枚)		
8 7	至和元寶	北宋	至和元年	1 0 5 4	2.4	3.2	0.10	楷	A ( - )	
8 8					2.4	3.9	0.13	篆	B ( - )	
8 9					2.5	2.9	0.12	篆	C ( - )	質の字がBより小さい。
9 0					2.4	3.9	0.12	篆	D ( - )	文字がBより小さい。内郭外径が大きい。
9 1	至和通寶	北宋	至和元年	1 0 5 4	2.5	3.1	0.10	篆	A ( - )	内郭外径が大きい。
9 2					2.2	2.8	0.10	篆	B ( - )	内郭外径が小さい。
9 3	嘉祐元寶	北宋	嘉祐元年	1 0 5 6	2.5	2.9	0.10	楷	A ( - )	大きい字。
9 4					2.4	3.2	0.20	楷	B ( - )	小さい字。
9 5					2.3	3.9	0.12	篆	C ( - )	内郭外径が小さい。質の字は大きい。
9 6					2.5	3.6	0.10	篆	D ( - )	内郭外径が大きい。通の字は小さい。
								小計(1枚)		
9 7	嘉祐通寶	北宋	嘉祐元年	1 0 5 6	2.5	3.1	0.10	楷	A ( - )	
9 8					2.4	3.2	0.11	楷	B ( - )	通の字は鍾書。
9 9					2.4	3.4	0.20	楷	C ( - )	通の字は鍾書。質の字がBよりやや小さい。
1 0 0					2.3	3.4	0.10	篆	D ( - )	大きい字。
1 0 1					2.3	3.8	0.12	篆	E ( - )	小さい字。
								小計(1枚)		
1 0 2	治平元寶	北宋	治平元年	1 0 6 4	2.4	3.5	0.12	楷	A ( - )	元の3・4画が「丸」。
1 0 3					2.4	4.7	0.14	楷	B ( - )	内郭外径はAより小さく、鍾が広い。
1 0 4					2.5	4.7	0.13	楷	C ( - )	元の3・4画が「丸」。
1 0 5					2.4	2.9	0.11	篆	D ( - )	
1 0 6					2.4	2.9	0.10	篆	E ( - )	平の字がDより小さい。
								小計(8枚)		
1 0 7	治平通寶	北宋	治平元年	1 0 6 4	2.4	3.6	0.11	篆	A ( - )	
1 0 8	熙寧元寶	北宋	熙寧元年	1 0 6 8	2.4	2.6	0.14	楷	B ( - )	A ( - ) 内郭外径がやや大きい。
1 0 9					2.5	3.2	0.12	楷	C ( - )	通の字が鍾書。質の字がBより大きい。
1 1 0					2.4	3.0	0.11	楷	D ( - )	元の3・4画が「丸」。その他の文字はBと同じ。
1 1 1					2.4	3.3	0.14	楷	E ( - )	Bより質の字は大きい。質・寶の字はBと同じ。

番号	裁文	中国での初年年代	西暦	直徑	重さ	厚さ	書体	分類(枚数)	備考
112	熙寧通寶	北宋 熙寧元年	1068	2.5	3.6	0.15	楷	E ( 3 )	文字はB-Dよりもやや小さい。内部外縁はやや大きい。
113				2.5	4.0	0.15	楷	F ( 4 )	Eより、他の字は小さく、他の字は粗長で、元の字はやや弱に極まる。
114				2.4	3.8	0.15	楷	G ( 1 )	内部外縁は小さく、他の字の2箇所は左端上上がり。
115				2.5	3.2	0.12	楷	H ( 1 )	元の字はBと同じ。内部外縁は大きい。
116				2.5	4.4	0.15	篆	I ( 4 )	質の字の「し」は長い。内部外縁はやや大きい。
117				2.4	3.8	0.10	篆	J ( 3 )	質の字の「し」は短い。内部外縁はやや大きい。
118				2.0	3.6	0.11	篆	K ( 5 )	質の字の「し」は長いが、他の字はやや小さい。
119				2.4	3.7	0.15	篆	L ( 4 )	質の字の「し」はより小さい。他の字もより小さい。
120				2.4	4.6	0.16	篆	M ( 6 )	内部外縁はふつう。質の字の「し」はしと同じ長さ。寧の字はMと違う。
121				2.3	4.0	0.15	篆	N ( 4 )	内部外縁はやや小さい。寧の字の「へ」はMと同じ長さ。寧の字はMと違う。
122				2.2	3.5	0.15	篆	O ( 1 )	内部外縁は小さい。文字も小さい。
123				2.1	3.6	0.15	篆	P ( 7 )	寧・寧の字はI～Oとは違う。元の字2箇所は右端上上がる。
124				2.4	3.2	0.10	篆	Q ( 1 )	内部外縁はよりやや小さい。
								小計(59)	
125	元祐通寶	北宋 元祐元年	1078	2.5	3.8	0.12	行	A ( 1 )	文字は大きい。内部外縁も大きい。元の字の3画がはねる。
126				2.5	3.3	0.15	行	B ( 4 )	元の字の3箇所はわずかにはねる。質の字はAよりも小さい。
127				2.5	3.9	0.12	行	C ( 2 )	内部外縁はやや大きい。質の字の2箇所は内側にはねる。他の字はBに似る。
128				2.5	3.8	0.10	行	D ( 2 )	内部外縁はやや大きい。質の字の18・19画は内側にはねる。他の文字はBに似る。
129				2.5	3.7	0.11	行	E ( 4 )	内部外縁はふつう。Dよりも通・質の字が大きい。質の字の18・19画は内側にはねる。
130				2.4	3.9	0.14	行	F ( 7 )	豈・通・質の字はEに似る。元はDに似る。
131				2.4	4.0	0.15	行	G ( 2 )	豈・通・質の字はDに似る。元はEに似る。
132				2.4	3.4	0.17	行	H ( 1 )	豈・通の字はCに似る。元の字の3・4画がG・Dとは違う。
133				2.5	3.3	0.12	行	I ( 2 )	文字はGに似るが、元・質の字は違う。
134				2.4	3.5	0.15	行	J ( 2 )	元の字の4箇所が上にはねる。
135				2.4	3.6	0.15	行	K ( 3 )	内部外縁は小さい。文字もDをやや小さくした感じ。
136				2.5	3.2	0.12	篆	L ( 2 )	文字が大きい。内部外縁はやや大きい。
137				2.5	3.3	0.11	篆	M ( 4 )	豈・質の字はより小さい。元の字の3箇所はより長い。内部外縁はやや大きい。
138				2.5	3.8	0.11	篆	N ( 3 )	文字が都に似ている。質の文字に似る。内部外縁はふつう。
139				2.4	3.6	0.14	篆	O ( 1 )	内部外縁はふつう。文字は質に似て左にやや離れている。元の字の2箇所はOに似る。
140				2.5	4.1	0.18	篆	P ( 8 )	元の字の4箇所が左に似る。文字は質よりも右に寄っている。通は質よりもやや離れている。他の2字はOに似る。
141				2.5	3.4	0.12	篆	Q ( 1 )	質の字の「し」はOより短い。内部外縁も小さい。
142				2.2	2.8	0.10	篆	R ( 1 )	質の字の「へ」はOと同じくらい。内部外縁は小さい。
143				2.5	3.8	0.13	篆	S ( 1 )	文字はQと同じ大きさだが、縁が広い。
144	元祐通寶	北宋 元祐元年	1086	2.5	3.9	0.14	行	A ( 5 )	内部外縁は大きい。蓋に片後の痕が残っている。
145				2.4	4.3	0.14	行	B ( 6 )	質の字はAよりも大きい。
146				2.4	2.9	0.15	行	C ( 3 )	質の字の3箇所は内側にはねない。元の字の3箇所は上にはねる。
147				2.5	3.6	0.10	行	D ( 2 )	内部外縁はふつう。
148				2.4	3.9	0.12	行	E ( 3 )	内部外縁はふつう。質の字がDよりもやや大きい。元の字がDと少し違う。
149				2.4	3.5	0.11	行	F ( 3 )	内部外縁は小さい。
150				2.4	3.7	0.12	篆	G ( 4 )	内部外縁は大きい。
151				2.4	3.6	0.12	篆	H ( 2 )	元の字の3箇所が併れがまがる。
152				2.4	3.9	0.14	篆	I ( 2 )	元の字の2箇所はより長い。
153				2.4	3.4	0.12	篆	J ( 5 )	内部外縁はふつう。龍・質の字がやや上の位置にある。文字はIに似る。
154				2.4	4.1	0.13	篆	K ( 1 )	内部外縁は小さく。縁が広い。文字は細く大きい。
155				2.5	3.4	0.12	篆	L ( 5 )	文字は小さく縁が広い。文字は細く小さい。
								小計(96)	
156	紹聖通寶	北宋 紹聖元年	1094	2.4	4.2	0.15	行	A ( 1 )	大きい字。内部外縁は大きい。
157				2.4	4.2	0.14	行	B ( 2 )	
158				2.4	3.8	0.12	行	C ( 1 )	聖の字はBと違う。他の文字はBに似る。
159				2.4	3.9	0.14	行	D ( 1 )	質の字はB・Cよりも大きい。
160				2.5	3.8	0.12	行	E ( 2 )	内部外縁は小さい。前の字はB～Oよりも横幅である。
161				2.5	3.5	0.12	篆	F ( 1 )	大きい字。
162				2.5	3.8	0.12	篆	G ( 2 )	
163				2.4	3.8	0.12	篆	H ( 2 )	Gより、他の字は小さいが、聖の字は大きい。
164				2.4	4.3	0.13	篆	I ( 2 )	内部外縁は、やや小さい。元の字がEよりも小さい。
165				2.4	3.8	0.14	篆	J ( 2 )	元の字がEよりも偏平である。
166				2.3	3.6	0.11	篆	K ( 1 )	内部外縁は小さい。

番号	銘文	中国での初鋳年代	西暦	古往	重さ	厚さ	書体	分類(枚数)	備考		
167	新聖元寶	北宋	紹聖元年	1094	2.4	3.6	0.13	篆 L (3)	初・寶の字はKよりも小さい。縁が広い。		
								小計 (2枚)			
168	元符通寶	北宋	元符元年	1098	2.4	2.9	0.13	行 A (1)			
169					2.4	3.9	0.13	行 B (1)	元の字はより偏平。		
170					2.4	3.6	0.13	行 C (1)	Aよりも符の字は小さく、寶の字は大きい。		
171					2.4	3.3	0.13	行 D (1)	内部外縁が小さく、縁が広い。符・通・寶の字はBに似る。		
172					2.3	3.2	0.13	篆 E (2)	大きい字		
173					2.4	3.8	0.13	篆 F (1)			
174					2.4	4.1	0.14	篆 G (3)	Fより、元の字は常に接している。符の字は違う。内部外縁は小さい。		
175					2.4	3.1	0.13	篆 H (1)	内部外縁が小さい。Gよりも符の字は大きい。通の字は小さい。		
176	聖宋元寶	北宋	建中靖国元年	1101	2.5	3.5	0.12	行 A (1)	孔形が大きい。内部外縁はやや大きいが、4文字とも字形が違う。聖の字は強調。		
177					2.4	3.5	0.13	行 B (1)	孔形が大きい。内部外縁はやや大きいが、4文字とも字形が違う。聖の字は強調。		
178					2.4	3.6	0.15	行 C (1)	孔形が小さい。内部外縁はやや大きいが、4文字とも字形が違う。聖の字は強調。		
179					2.4	3.2	0.12	行 D (4)			
180					2.4	2.7	0.15	行 E (4)	文字はCの字を小さくした感じ。		
181					2.5	3.6	0.11	行 F (1)	聖の字はよりも小さい。		
182					2.4	3.8	0.12	行 G (2)	Eより、型の字の「L」が小さく、宋の字は小さい。型は楷書。		
183					2.4	3.8	0.15	行 H (1)	内部外縁は小さく、縁が広い。聖の字は強調。		
184					2.4	3.7	0.12	篆 I (1)	内部外縁はやや大きい。		
185					2.4	3.7	0.13	篆 J (4)	元の字のIの画がIより長い。		
186					2.5	3.4	0.12	篆 K (2)	内部外縁はふつうで、縁が広い。文字は細い字、元の字が特徴的。		
187					2.5	3.6	0.11	篆 L (3)	文字が弱く接している。内部外縁はふつう。		
188					2.4	3.1	0.13	篆 M (2)	文字が小さい。		
189					2.4	3.5	0.11	篆 N (2)	宋の字がMよりも大きい。内部外縁は小さい。		
								小計 (3枚)			
190	大觀通寶	北宋	大觀元年	1107	2.4	3.1	0.14	楷 A (5)			
191					2.5	3.9	0.16	楷 B (2)	通の字は、Aよりも上の位置にある。		
192					2.6	3.9	0.12	楷 C (2)	人の字のIの画がA・Bよりも短く、弱に接している。		
193	政和通寶	北宋	政和元年	1111	2.4	2.7	0.12	楷 A (1)			
194					2.5	2.5	0.12	篆 B (1)	初の字は隸書か。大きい字。		
195					2.5	2.8	0.14	篆 C (1)	文字はよりもやや小さい。孔形は大きい。		
196					2.4	3.4	0.12	篆 D (2)	文字はやや小さい。孔形は大きい。		
197					2.5	3.5	0.10	篆 E (2)	和の字は内部に接している。縁が広い。政の字のIの画が長い。		
198					2.5	3.7	0.12	篆 F (1)	和の字のIの画はFよりも長い。他の文字はEに似る。縁が広い。孔形は大きい。		
199					2.4	4.0	0.14	篆 G (1)	通・寶の字はDよりもやや長方形した感じ。他の文字はDに似る。和の字の「口」は小さい。		
200					2.4	4.2	0.14	篆 H (1)	和の字がB・Gよりもやや左寄りの位置にある。		
201					2.5	4.2	0.12	篆 I (1)	文字は確かに苦っている。		
202					2.5	4.0	0.18	篆 J (3)	和の字のIの画が長い。		
203					2.5	4.0	0.15	篆 K (5)	和の字のIの画が短い。		
204					2.5	2.7	0.11	篆 L (4)	文字はKに似るが過・寶の字がやや上の位置にある。		
205					2.4	3.1	0.13	篆 M (10)	和の字のIの画が短い。文字はK・Lよりも小さい。		
								小計 (3枚)			
206	宣和通寶	北宋	宣和元年	1119	2.4	3.3	0.12	篆 A (1)	大きい字		
207					2.4	3.1	0.11	篆 B (1)	小さい字		
208					2.4	4.0	0.19	篆 C (1)			
209	嘉定通寶	南宋	嘉定8年	1115	2.5	3.8	0.12	楷 A (1)	背に「八」の記号あり。		
210	淳熙通寶	南宋	淳熙元年	1174	2.4	3.2	0.12	楷 A (1)	背の上に半円形あり。		
211					1.182	2.4	4.5	0.12	楷 B (1)	背の上に「ん」の記号あり。	
212					1.186	2.4	3.1	0.11	楷 C (1)	背の上・下に「一二」の記号あり。	
213					淳熙16年	1.189	2.5	3.6	0.12	楷 D (1)	背の上・下に「十六」の記号あり。
214	嘉泰通寶	南宋	嘉泰元年	1201	2.3	3.4	0.11	篆 A (1)	背の上に「元」の文字あり。		
215	開禧通寶	南宋	開禧2年	1206	2.5	2.9	0.12	楷 A (1)	背の上に「二」の記号あり。		
216					1.207	2.4	3.5	0.16	楷 B (1)	背の上に「三」の記号が見えるか?	
								総計 559枚			

註 直径は上・下の長さ、厚さは縁の厚さを示す。

表17 東江上遺跡須恵器觀察表

番号	器種	出土区	法量				式形・調整						備考	
			口徑	体部径	底径	器高	外曲			内圓				
							山根部	体部	頂部	山根部	体部	頂部		
1	壺A I	X38 Y34	18.0				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
2	壺A I	本庄遺跡	17.4				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ			ヨコナギ内 ルナゲ	ヨコナギ	かえりあり	
3	壺A I	X42-45 Y30-33	18.0				ヨコナギ			ヨコナギ			かえりあり	
4	壺A I	X32-35 (X41-156内門)	18.0				ヨコナギ			ヨコナギ			かえりあり	
5	壺A I	東武トレンシオカ	17.0				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
6	壺A I	X36 Y31	17.0				ヨコナギ	ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
7	壺A I	X31-33 Y18-20	17.0				ヨコナギ	ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
8	壺A II	S-K109	16.0				ヨコナギ	ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
9	壺A II	X46-47 Y29-30	14.8				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギの ルナゲ	ヨコナギ	かえりあり	
10	壺A III	X37 Y47	14.0				ヨコナギ	ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
11	壺A III	X45-49 Y39 M.L.	14.0				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
12	壺A III	(東武入溝A)	X46-47 Y29-32	13.0			ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
13	壺A III	X48 Y29	13.4				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
14	壺A III	X36 Y27	14.0				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
15	壺A III	X32 Y21	13.0				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
16	壺A III	X41-42 Y26-29	13.0				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
17	壺A III	X50-55 Y30-45 青土	12.0				ヨコナギ	ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
18	壺A III	X44-45 Y27-28	11.6				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
19	壺A III	X31 Y25	12.4				ヨコナギ	ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
20	壺A IV	X19-20 Y18-19	10.0				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	かえりあり	
21	壺A IV	S-K15	9.6				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギの ルナゲ	ヨコナギ	かえりあり	
22	壺B I	X33 Y25	18.0				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ		
23	壺B I	X27-28 Y17-18	18.3				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ		
24	壺B I	X47-49 Y32-36 (東武入溝A)	18.2				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ		
25	壺B I	X31-32 床灰	18.2				ヨコナギ	ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ		
26	壺B I	X43-45 Y32-36 (東武大津A)	18.2				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギの ルナゲ	ヨコナギ		
27	壺B I	箱瓶	18.0				ヨコナギ			ヨコナギ				
28	壺B I	X34-35 (東武大津A)	18.0				ヨコナギ			ヨコナギ				
29	壺B I	X30-31 Y30	17.0				ヨコナギ	ヘラケズリ ヨコナギ		ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ		
30	壺B I	X30-31 Y30	17.4				ヨコナギ			ヨコナギ				

番号	器種	出土区	法 量				成 形 調 整						備 考	
			口 径	体 部 徑	底 径	器 高	外 面			内 面				
							口縁部	体 部	頂 部	底 部	口縁部	体 部	頂 部	
31	蓋B I	X24・25 Y17・18	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ			
32	蓋B I	X45・59 Y40・45	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ			
33	蓋B I	X25・59 Y25・40	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ			
34	蓋B I	X31・52 Y31・32 底上	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ			
35	蓋B II	X29 Y45	16.6				ヨコナデ	ヘラケズリ ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		
36	蓋B II	X25・50 Y26・40	16.6				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		
37	蓋B II	X43・45 Y32・36 (東区大通内)	16.4				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		
38	蓋B II	X35・36 Y34・35	16.4				ヨコナデ	ヘラケズリ ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		
39	蓋B II	X35・50 Y36・40	16.4				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		
40	蓋B II	X35・59 Y36・40	16.4				ヨコナデ				ヨコナデ			
41	蓋B II	X31・53 Y31・33	16.4				ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ			
42	蓋B II	X36・37・38 61	16.4				ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ		
43	蓋B II	X33 Y21	16.2				ヨコナデ	ヘラケズリ ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデの もナゲ		
44	蓋B II	X35・50 Y36・40	16.0				ヨコナデ				ヨコナデ			
45	蓋B II	X39・50 Y38・49	16.0				ヨコナデ				ヨコナデ			
46	蓋B II	X43・50 Y40・45	15.4				ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ			
47	蓋B II	X40・41 Y46・49	15.4				ヨコナデ				ヨコナデ			
48	蓋B II	X31・52 Y30・31	15.0				ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ			
49	蓋B III	61・62	14.4				ヨコナデ	ヘラケズリ ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		頂面内凹に蓋板込み 軽量試として利用
50	蓋B III	X40 Y34	14.2				ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ			
51	蓋B III	X43・46 Y38・38	14.0				ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ			
52	蓋B III	X43・Y37 底上	14.0				ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ			
53	蓋B III	X31 Y20	12.6				ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ			
54	蓋B III	X31 Y19	11.9		2.5	ヨコナデ	ヘラケズリ ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
55	蓋B III	X31 Y25	12.0				ヨコナデ				ヨコナデ			
56	蓋B III	X47・47 Y39・39 底上	11.6				ヨコナデ				ヨコナデ			
57	蓋X	X25 Y26	18.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		蓋の直
58	杯A II (b種)	X47・48 Y37・38	16.0	10.8	3.5	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケ		ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデの もナゲ
59	杯A II (b種)	X42 Y34	16.0	10.0	3.6	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			底面深
60	杯A III (b種)	X42・Y51 (東区大通)	14.0	9.2	3.6	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ 底面深

番号	器種	出土区	法量				成形・調整						備考	
			外		内									
			口縁部	体部	頂部	底部	口縁部	体部	頂部	底部	口縁部	体部	頂部	
61	杯AⅢ (a種)	X34 Y20	13.0		9.8	4.8	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリの ちナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデの ちナデ	径高指數26.9
62	杯AⅢ (b種)	X40-41 Y40-40	13.0		7.0	3.8	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外側面にヘラ凹りあ る高指數25.2
63	杯AⅢ (b種)	X36 Y36	13.0		9.3	3.5	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	径高指數26.9
64	杯AⅢ (b種)	X25 Y18	13.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		杯口直か
65	杯AⅢ (b種)	S.K20	13.0		7.8	3.5	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	径高指數26.9
66	杯AⅢ (a種)	X34 Y20	12.6			4.0	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	径高指數25.7
67	杯AⅢ (b種)	東區レシテ3	12.2		9.0	3.0	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		径高指數25.4
68	杯AⅢ (b種)	S.D.2	12.0		8.4	3.3	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		径高指數27.5
69	杯AⅢ (b種)	X46-43 Y31-25	12.0		6.4	3.5	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		径高指數26.3
70	杯AⅢ (b種)	X25 Y15-16	12.0		8.0	3.4	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		径高指數27.5
71	杯AⅢ (b種)	X37-38 Y36	12.0		8.0	3.3	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ		径高指數27.2
72	杯AⅢ (a種)	X46-50 Y36-35	11.8		8.0	3.8	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	径高指數26.8
73	杯AⅣ (b種)	X19 Y13	11.2		6.0	3.0	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ		径高指數25.1
74	杯AⅣ (b種)	逆縮	11.0		8.0	3.2	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	径高指數25.1
75	杯AⅣ (b種)	東區トレンド4	11.0		8.0	3.2	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	径高指數25.2
76	杯AⅣ (a種)	S.O.5	10.8		7.2	3.9	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		径高指數27.0
77	杯AⅣ (a種)	X46-47 Y42-43	10.0		6.6	3.7	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	径高指數24.5
78	杯AⅣ	S.K19	11.0		4.6	3.8	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	径高指數24.5
79	杯B I	X45-56 Y26-35	推定 20.0		14.4	5.2	ヨコナデ		ヘラキリの ちナデ		ヨコナデ	ヨコナデ		
80	杯B I	X39-40 Y58-60	推定 18.8		14.0	5.0	ヨコナデ		ヘラキリ		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	径高指數24.5
81	杯B I	逆縮	17.4		12.2	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデの ちナデ	
82	杯B II	X28 Y18	推定 17.2		13.4	3.5	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		
83	杯B I	X27 Y16				14.4						ヨコナデ		
84	杯B	X21-32 Y15-16				14.4						ヨコナデの ちナデ		
85	杯B	X33 Y36				14.4						ヨコナデ		
86	杯B	X31 Y25				13.2						ヨコナデの ちナデ		
87	杯B	X41-43 Y48-50				13.2						ヨコナデの ちナデ		
88	杯B	X43-45 Y36-37	X32-36 (東區大廣内)			12.8						ヨコナデの ちナデ		
89	杯B	X43 Y42				12.8		ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデの ちナデ
90	杯B II	X47 Y42	16.6		10.0	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデの ちナデ

番号	器種	出土区	法量				成形・調整						備考	
			外観			内面								
			口縁部	体部	頂部	底部	口縁部	体部	頂部	底部	口縁部	体部	頂部	
91	杯BII	X45 Y34	16.4		11.6	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデの もナデ
92	杯BII	X22 Y31 (西端)レンチ1	推定 16.0		11.2	4.1	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ のちナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデの もナデ
93	杯BII	X20-21 Y18-19	15.6		11.6	4.4	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデの もナデ
94	杯B	X44-47 Y37-33			13.4				ヘラケズリ のちナデ					ヨコナデの もナデ
95	杯B	X21 Y25			12.6				ヘラケズリ					ヨコナデの もナデ
96	杯B	X26 (西端)レンチ1			12.4		ヨコナデ			ヨコナデ				ヨコナデの もナデ
97	杯B	X27 Y34 (西端)レンチ1			11.6		ヨコナデ			ヨコナデ				ヨコナデ
98	杯B	X43-45 Y32-36			12.2									ヨコナデの もナデ
99	杯B	X43-45 Y32-35	推定 14.1		10.4	推定 3.1	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデの もナデ
100	杯BII	S D O S	推定 15.3		9.6	推定 3.1	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ
101	杯BII	X23 Y16	推定 15.0		10.2	推定 4.0	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ
102	杯BII	X26 Y12	14.8		10.0	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデの もナデ
103	杯BIII	丸盤	推定 14.0		9.7	4.3	ヨコナデ			ヨコナデ				ヨコナデの もナデ
104	杯B	X31-32 Y31-32			11.0		表面に押 し出しが ある部分はへ らけずり		ヘラケズリ		ヨコナデ			ヨコナデの もナデ
105	杯B	X30 Y15			11.0									ヨコナデ
106	杯B	X31-32 Y14-15			11.4				ヨコナデ					ヨコナデの もナデ
107	杯B	X27-28 Y17-18			10.6				ヘラケズリ					ヨコナデの もナデ
108	杯B	X36-53 Y31-35			10.2		ヨコナデ			ヨコナデ				ヨコナデ
109	杯B	X46-50 Y26-35			10.2		ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ				ヨコナデの もナデ
110	杯B	X43 Y26-37			9.6									ヨコナデ
111	杯BIII	X31-32 Y15-16	14.2		ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ					後頭部裏の中ほどに 押し出しがある (杯Bと推定)
112	杯BIII	X30-31 Y15-16	14.0			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ				後頭部裏の中ほどに 押し出しがある (杯Bと推定)
113	杯BIII	X21-22 Y28 8	14.2		7.4	4.8	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ
114	杯BIII	X46-53 Y26-35	推定 15.6		8.4	推定 3.9	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデの もナデ
115	杯B	X23 Y11			10.0				ヘラケズリ					ヨコナデの もナデ
116	杯B	X23 Y29			10.0		ヨコナデ			ヨコナデ				ヨコナデの もナデ
117	杯B	X31-32 Y21-32			9.8		ヨコナデ		ヨコナデ					ヨコナデの もナデ
118	杯B	X41 Y26-27			9.4				ヘラケズリ					ヨコナデの もナデ
119	杯B	S D O S			9.6									ヨコナデの もナデ
120	杯B	X37-38 Y27-28			9.4									ヨコナデ

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整				備 考	
			口 径	体 部 深	脚底径	器 高	外 面		内 面			
							口縁部	体 部	頂 部	脚・底部		
121	杯B	S K20				10.0					ヨコナデ	
122	杯B III	X45 Y34 灰土	推定 13.4			10.2	推定 4.1	ヨコナデ			ヨコナデの もナデ	
123	杯B III	X38-39 Y39-40 灰土	13.2			8.6	4.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
124	杯B III	X44-47 Y38-32 (東大山内)	13.0					ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
125	杯B III	X44-47 Y38-32 (東大山内)	13.0			9.0	3.8	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
126	杯B III	法鉢33レシテ				9.0		ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	
127	杯B	X45 Y34 灰土				9.2					ヨコナデの もナデ	
128	杯B	X45 Y34 灰土				8.4					ヨコナデの もナデ	
129	杯B	X36-39 Y42-45				8.4					ヨコナデの もナデ	
130	杯B	RIMトレンチS				8.0		ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	
131	杯B	X46 Y37-38				8.8					ヨコナデ	
132	杯B	S K20				8.6		ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデの もナデ	
133	杯B III	X38 Y38	12.2			7.4	3.6	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデか 軸周縁として利用か	
134	杯B IV	X46-50 Y38-35	11.0					ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
135	杯B IV	X31 Y38	10.2			7.6	4.1	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
136	杯B IV	X43-48 Y35-40 灰土	8.6			6.0	3.7	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
137	杯B IV	X23 Y23 灰土									ヨコナデの もナデ	
138	杯B IV	X15 Y14				6.6		ヨコナデ	ヘラカリ	ヨコナデ	ヨコナデ	
139	杯B IV	X41-42 Y36-37				6.6					ヨコナデ	
140	杯B IV	X35-50 Y26-40				6.4		ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデの もナデ	
141	杯B IV	X30-55 Y30-45 灰土				6.8					ヨコナデの もナデ	
142	杯B IV	透窓				6.4					ヨコナデ	
143	杯B IV	X29 Y21-22				6.2					ヨコナデ	
144	杯B IV	X51 Y30-31 灰土				6.0		ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	
145	壺	X31 Y25 灰土	12.0	19.6		18.8	ヨコナデ	ヨキメ	不定方向の 横ヘタケ	ヨコナデ		
146	壺	S D O S	14.0				ヨコナデ			ヨコナデ	瓶底以下をよく	
147	壺	X43-48 Y35-40 灰土	14.0				ヨコナデ			ヨコナデ	瓶底以下をよく	
148	壺	X33-48 Y35-40	12.6				ヨコナデ			ヨコナデ 円心円太	瓶底以下をよく	
149	壺	X29 Y31 Y11	15.0				ヨコナデ			ヨコナデ 円心円太	瓶底以下をよく	
150	壺	透窓 (素K)	14.0				ヨコナデ			ヨコナデ 円心円太	瓶底以下をよく	

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考	
			口径	体部径	脚底径	器高	外 面				内 面					
							口縁部	体 部	頂 部	脚・底部	口縁部	体 部	頂 部	脚・底部		
151	壺	X25 Y20	10.0				ヨコナギ				ヨコナギ					口縁外周に1条の 瓦溝あり。体部有り
152	短頸壺	X31 Y20	7.0				ヨコナギ				ヨコナギ					
153	短頸壺	追跡	9.0				ヨコナギ				ヨコナギ					
154	壺	X32 Y57		8.5												白絵器。底部を少く 側面外周に2条の瓦 溝あり。
155	壺		10.3				ヨコナギ				ヨコナギ					156と同 個体
156	壺			8.0			ヨコナギ				ヨコナギ					155と同 個体
157	壺	X56-37 Y36		17.2			ヨコナギ				ヨコナギ					体部外周に2条の瓦 溝あり。側面の開口 部から2条の瓦溝あり
158	穴付壺	X54-55 Y38-40			10.3		ヨコナギ				ヨコナギ					
159	舌付壺	X45-50 Y25-30			11.0		ヨコナギ				ヨコナギ					
160	擂 体	X25 Y27			15.0		ヨコナギ				ヨコナギ					
161	円面鏡	X40-45 Y25-30	外縁深 17.0		圓合径 23.8	8.0	ヨコナギ				算定に丁度 あらぬ透しあり				ヨコナギ	底部は施作中の擦毛 によりふくらむ
162	甕	X53-44 Y26-27	復原 底上	31.0			ヨコナギ							ヨコナギ	体部多く	
163	甕	試掘66トレント	復原 40.0				ヨコナギ						ヨコナギ		白絵器外周に3条の 瓦溝あり(文)	
164	大 甕	S D O S 罐	60.6	83.4		91.4	ヨコナギ ノ	ヨコナギ ノ	ヨコナギ ノ	ヨコナギ ノ	平行ナギ ノ	ヨコナギ ノ	内孔円突		円孔円突 白絵器外周に2条の 瓦溝あり。側面波立 文あり	

表18 東江上遺跡土師器観察表

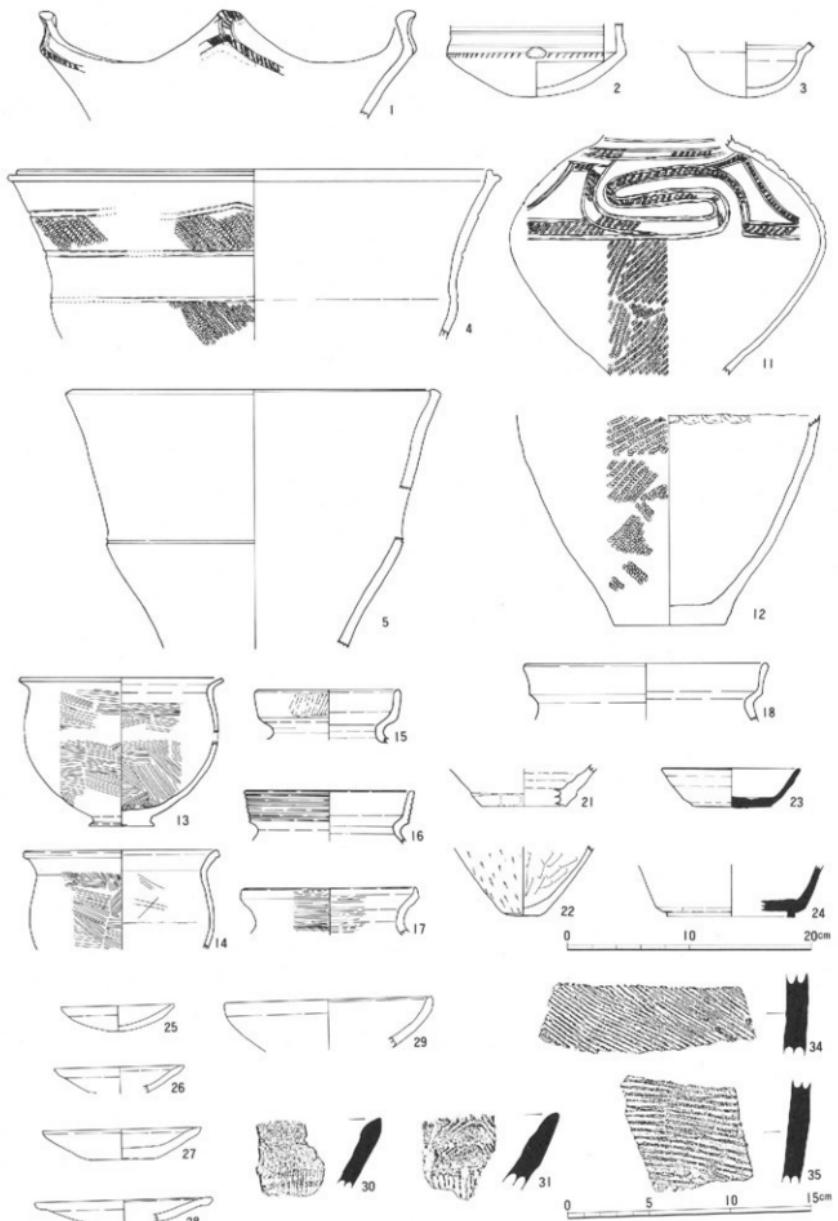
番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考	
			口径	側部径	底径	器高	外 面				内 面					
							口縁部	脚上部	脚下部	底 部	口縁部	脚上部	脚下部	底 部		
201	甕 A	X59 Y36 (S K10の内)	19.6	20.6		推定 27.0	ナギ ノ	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)		
202	甕 A	X56 Y36	24.0	23.4		推定 24.5	ナギのち 部ハケメ	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ナギ	ナギ	ナギのち 部ハケメ (縁)			
203	甕(A)	X47-48 Y37-38	24.0				ナギ	ハケメ (縁)			ハケメ (縁)	ハケメ (縁)				
204	甕(A)	S D O S	23.8				ハケメ (縁)	ハケメ (縁)			ハケメ (縁)	ナギ				
205	甕(A)	X19 Y18	23.0				ハケメ ナギ ノ				ハケメ (縁)					
206	甕 B	X30 Y39 (S K10の内)		17.8				ハケメ ノ	ハケメ ノ		ハケメ ノ		ハケメ ノ	ハケメ ノ		
207	甕 B	X50 Y36 (S K10の内)	19.6	18.6		22.5	ナギ、一部 にハケメ ノ	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ ノ	ナギ、一部 にハケメ ノ	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	外腹蓋及び脚部上半 の内面に平行脊	
208	甕 B	X59 Y38 (S K10の内)	17.0	17.2		23.0	ナギ ノ	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ ノ	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ ノ	外腹蓋及び脚部下半 の内面に平行脊	
209	甕 B	X47 Y38 X50 Y36土	18.2	17.5		21.5	ナギ ノ	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ ノ	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ ノ	ハケメ ノ		
210	甕 B	X43-48 Y38-40 土	16.0	15.5		推定 22.5	ナギ、一部 にハケメ ノ	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ ノ	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ ノ	ハケメ ノ	外腹下部及び脚部上半 の内面に平行脊	
211	甕 B	X48 Y38 土	13.0	13.8		13.8	ナギ ノ	ハケメ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ ノ	ナギ	ナギ (縁)	ハケメ (縁)	ハケメ ノ		
212	甕 C	X47 Y40 土	14.2	14.2			ナギ ノ	ハケメ (縁)			ナギ ノ	ハケメ (縁)				

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整								備 考	
			口 径	製部深	底 径	器 高	外 面				内 面					
							口頸部	肩上部	肩下部	底 部	口頸部	肩上部	肩下部	底 部		
213	甕 C	X50 Y36 (S.K19の高)	12.8	14.4		推定 15.7	ナゲ (高)	ハケメ (高)	ハケメ (高)	ハケメ (高)	ハケメ (高)	ハケメ (高)	ハケメ (高)	ハケメ (高)	外蓋及び瓶身下部の 内部に焼付痕	
214	甕 C	X47 Y40 H.上	14.2	14.2			ナゲ	ハケメ			ナゲのちハ メ(高)	ハケメ				
215	甕 C	X36-27 Y47-49	14.4	13.0			ナゲのちハ メ(高)	ハケメ	ハケメ (高)	ハケメ (高)	ハケメ	ハケメ (高)	ハケメ (高)	ハケメ (高)	瓶形半央に縫合痕を とどめる	
216	甕 C	S.K19	14.0	12.0			ナゲ	ハケメ			ナゲ	ナゲ (高)				
217	甕 C	X45-50 Y49-45	12.0	14.8			ナゲ	ハケメ			ハケメ	ナゲ (高)				
218	壺	試B17レンチ	13.6	15.2		18.0	ナゲの 高	壺柄にナゲ 高	(高)	不規	ハケメ (高)	ハケメ (高)	ハケメ (高)	ハケメ (高)		
219	壺	X31 Y26 H.上	10.0	10.7		8.5	ナゲ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	素地土質	
220	壺	X43-45 Y32-36		12.5		5.4	ナゲ	ナゲのちハ メのちハ メ(高)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ		
221	高 杯	X30 Y38 (S.K19の高)		15.2		9.8	10.2	ナゲのちハ メ	ハケメ	ハケメ	調節部ナゲ	調節部により 壺底より 不規、へラ 【カカ】	ハケメ	ハケメ	ハケメ(ナ ゲ) 壺底部はナ ゲ	
222	支 脚	X34-35 Y25-18				6.6				ハケメ	ナゲ		ナゲ		上平を欠く	
223	支 脚	X36-37 Y18				8.0				ハケメ					上平を欠く	
224	壺	S.005		15.0				ハケメのち ハラミガタ	ハケメのち ハラミガタ	ハケメのち ハラミガタ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ		
225	甕 B	X48 Y28 H.ナ	16.8					ハケメ			ハケメ				口部部焼付	
226	甕	S.K19	19.8				ナゲ			ナゲ					口部部焼付	
227	甕	X20-21 Y20	20.0				ナゲ			ハケメ	ハデのちハ メ(高)					
228	甕 B	X48 Y38 A.25	17.8	20.0			ナゲのちハ メ(高)	ハケメ (高)	ハケメ (高)	ナゲ	ハケメ (高)	ハケメ (高)	ハケメ (高)	ハケメ	壺形を欠く	
229	甕	X31 Y30								ハケメ (高)	ハケメ		ハケメ	ハケメ	調節の大差を欠く	
230	壺	X30 Y12 H.ナ	25.0	29.0			ナゲ	ハケメ (高)			ハケミガタ (高)	ハケメのち ハラミ	ハケメ	ハケメ	側面?	
231	製 塩 器	X47 Y40						調節ヘラケ メナリ			調節ナゲ あり				既成式製塩土器焼付	
232	製 塩 器	S.K19管造						調節により 不規			調節ナゲ あり				既成式製塩土器焼付	
233	製 塩 器	S.K19管造													シゴリあり 既成式製塩土器焼付 器	
234	小 盆	S.K18	11.6			推定 2.6	ヨコナゲ	ヨコナゲ	ヨコナゲ	ヨコナゲ	ヨコナゲ	ヨコナゲ	ヨコナゲ	ヨコナゲ	土質質小皿 (縫合時代)	

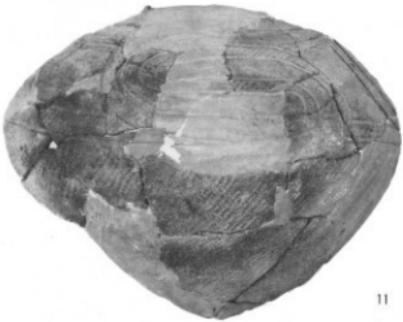
表19 東江上遺跡珠洲觀察表

番号	器種	出土区	法 量				成 形・調 整								備 考	
			口 径	体部深	脚底径	器 高	外 面				内 面					
							口頸部	体 部	頂 部	脚・底部	口頸部	体 部	頂 部	脚・底部		
301	縦 体	S.K18					ヨコナゲ	ヨコナゲ			ヨコナゲ	ヨコナゲ オクシメ				
302	縦 体	X15 Y10						ヨコナゲ				ヨコナゲ オクシメ				
303	縦 体	試B17レンチ22					ヨコナゲ				調節状況	ヨコナゲ オクシメ				
304	壺	瓦壺							「壺體女」 「瓦體女」 「瓦體女」 「瓦體女」			内側アテ込 前				

# 図 版



図版 I 下経田遺跡



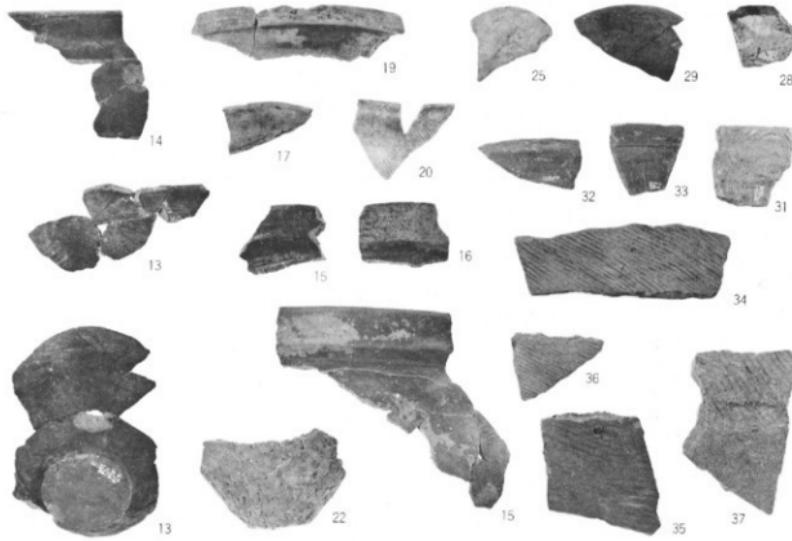
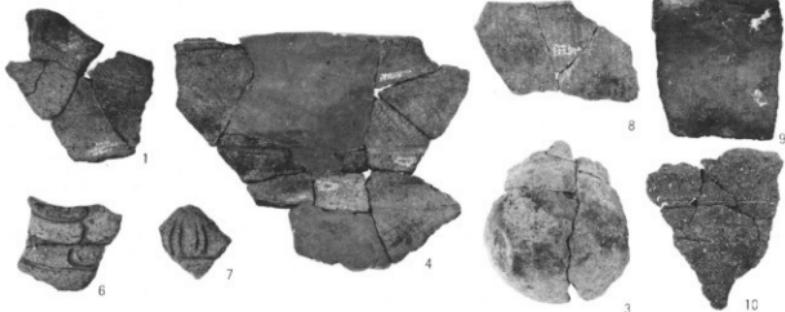
11

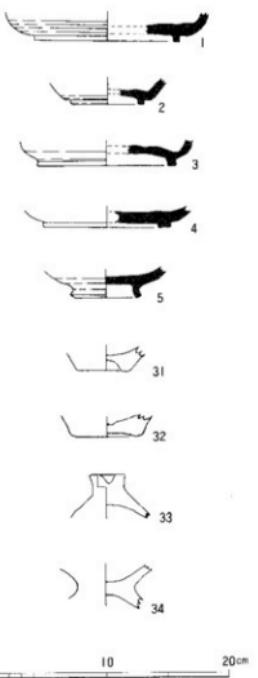


2



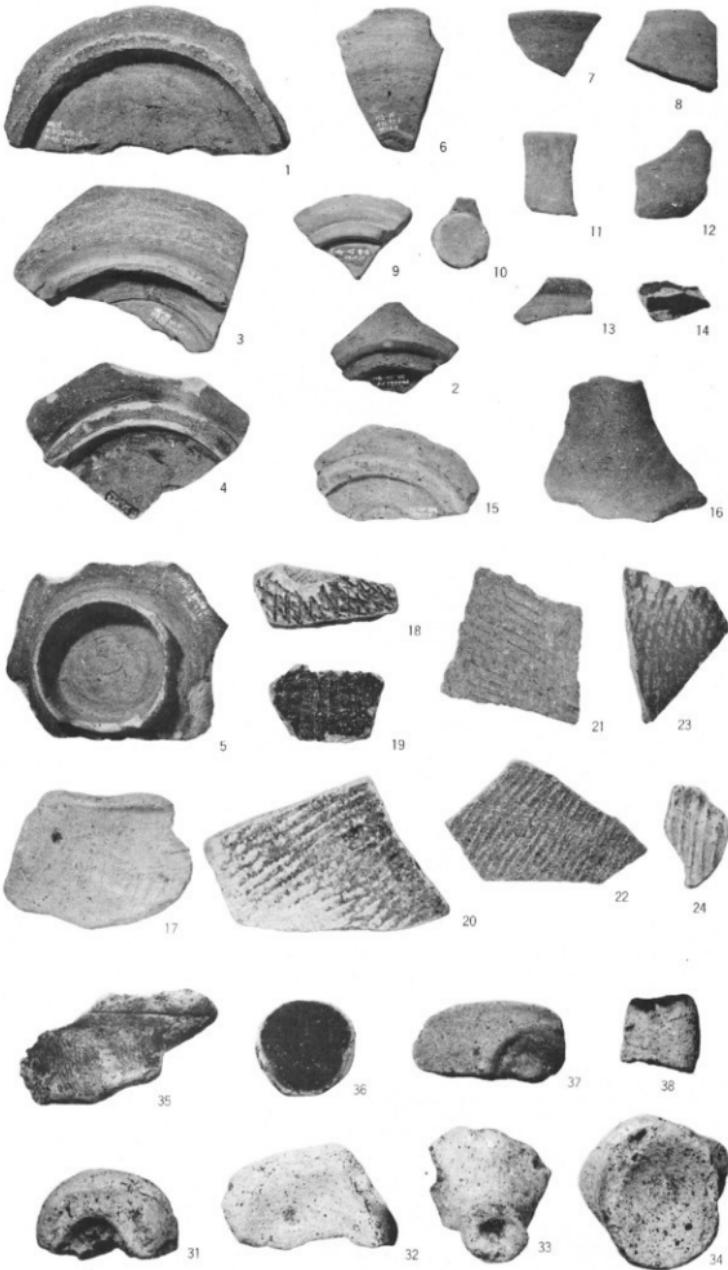
27

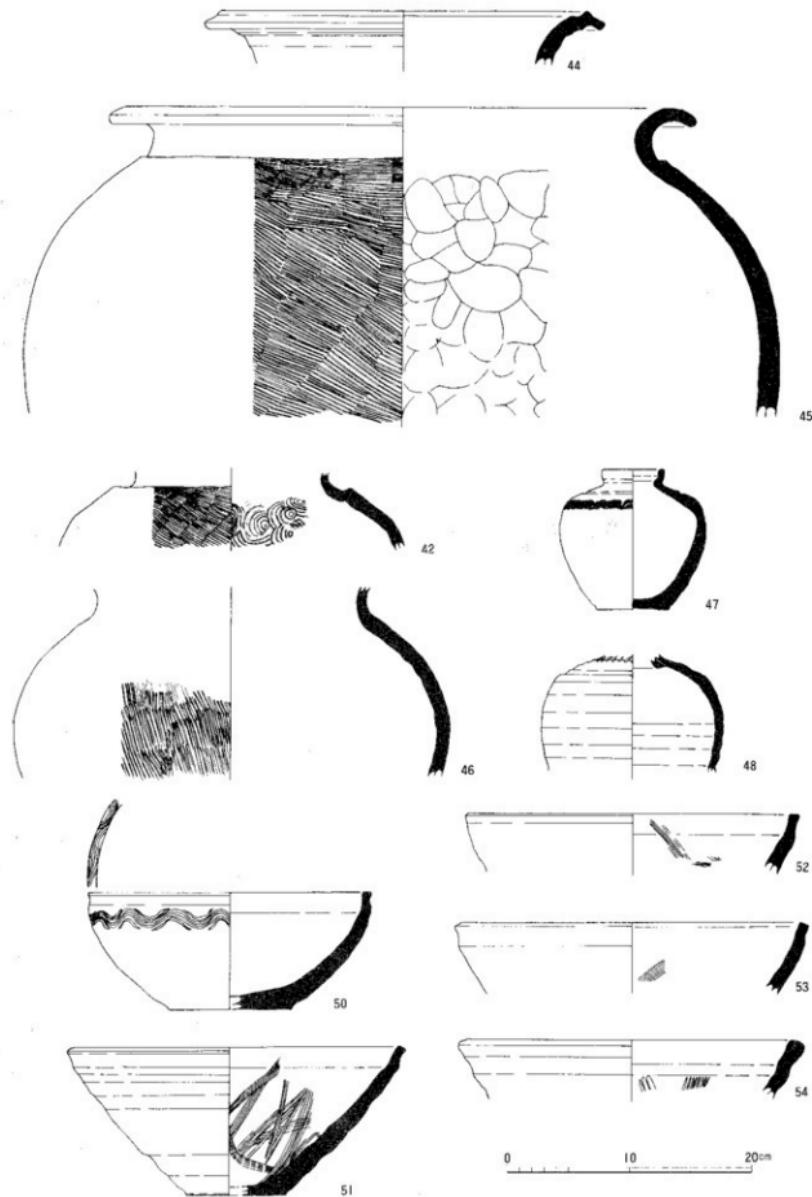




0 10 20cm

図版2 神田遺跡 14.SX113 24.SE081





図版3 神田遺跡 42・47.SK 103



41



42



43



44



43

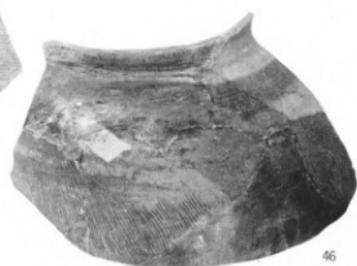
1 : 2



45



44



46

1 : 4



49

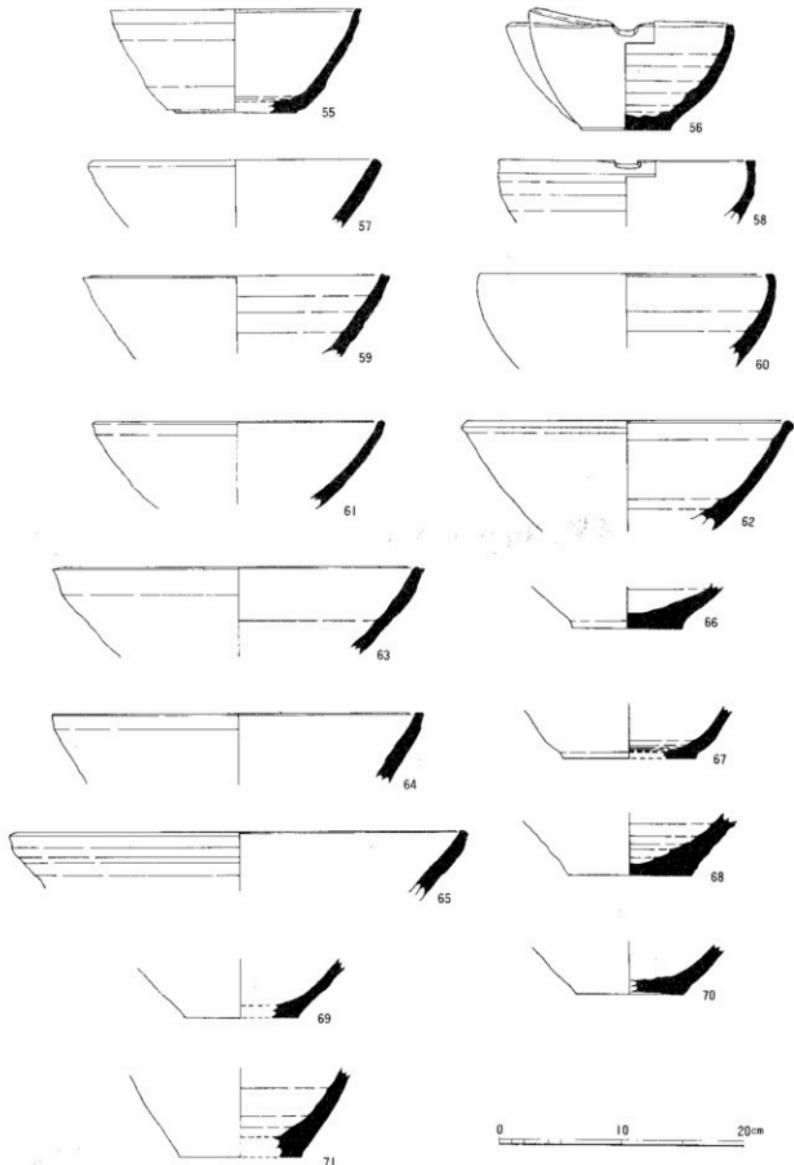


48

1 : 2



47



図版4 神田遺跡 55.SB003 71.SB006 73.SK103



55



56



50



53



52



54



73



74



72



51



76



75



60



59



63



58



66



61



77



62



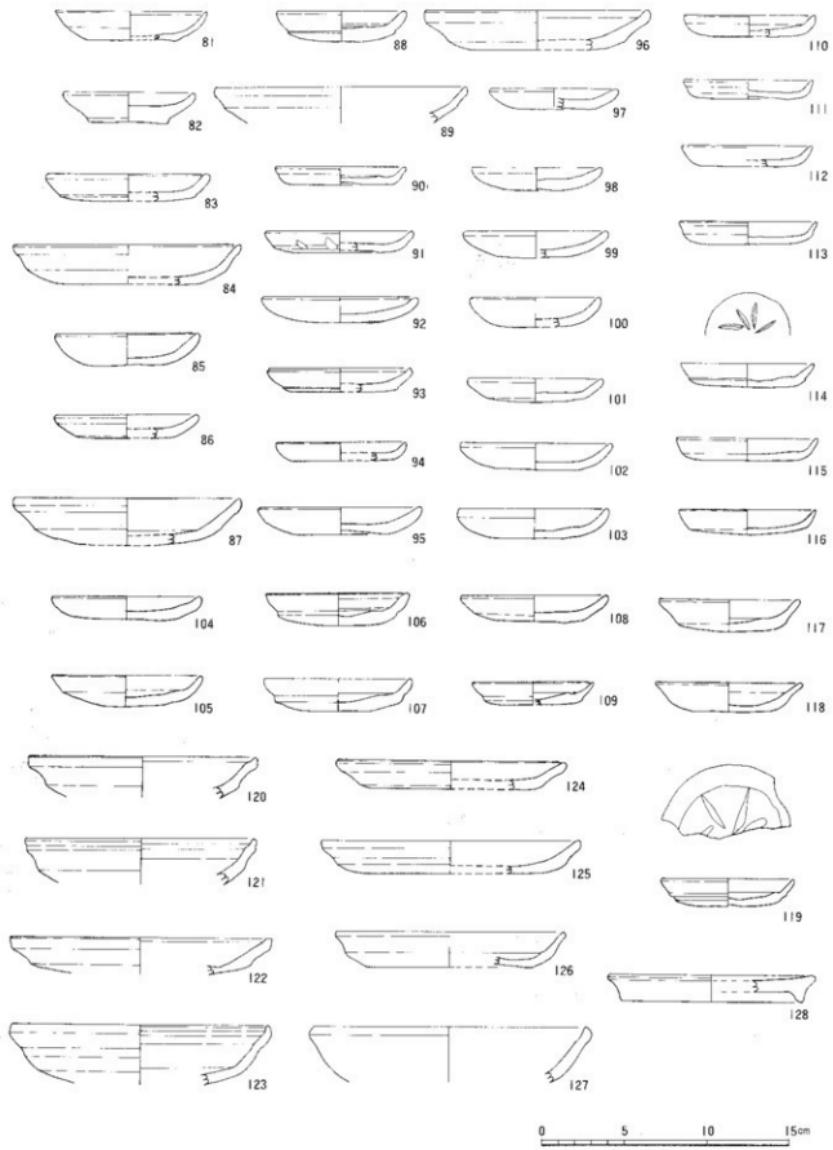
68



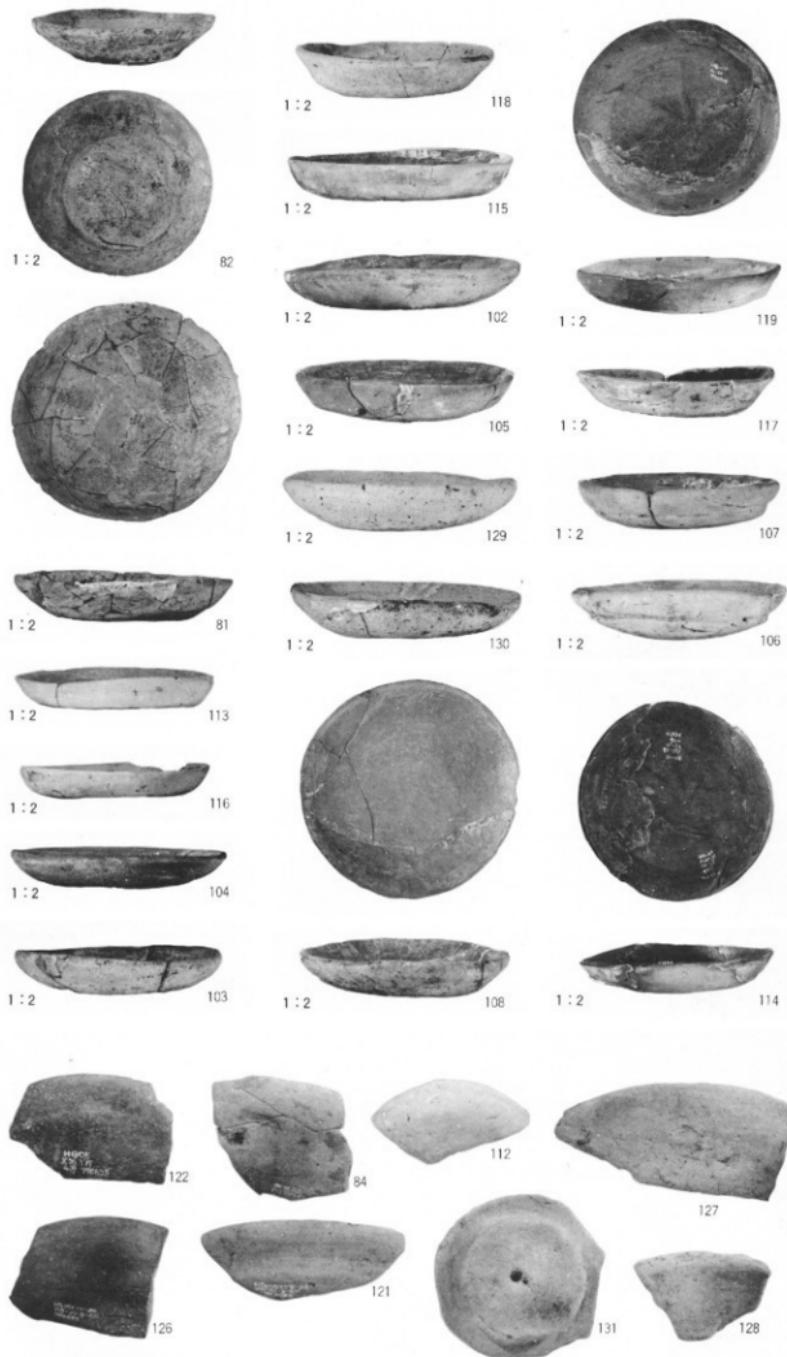
70

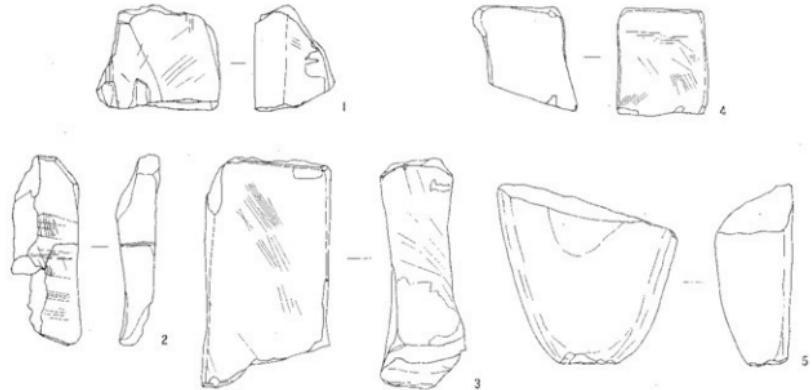
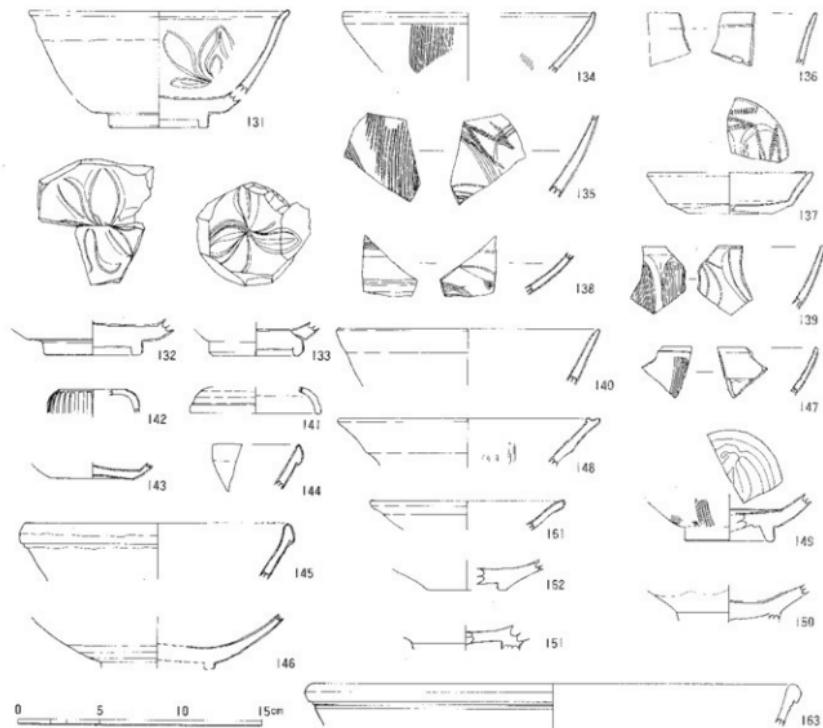


78

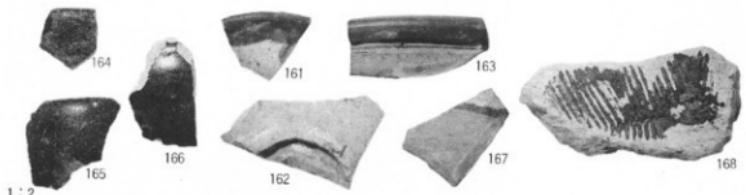
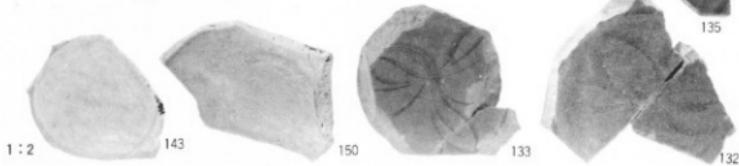
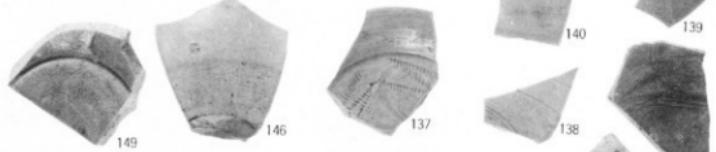
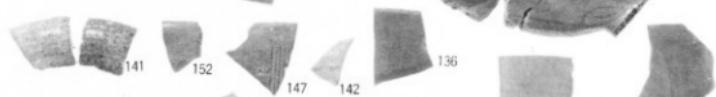


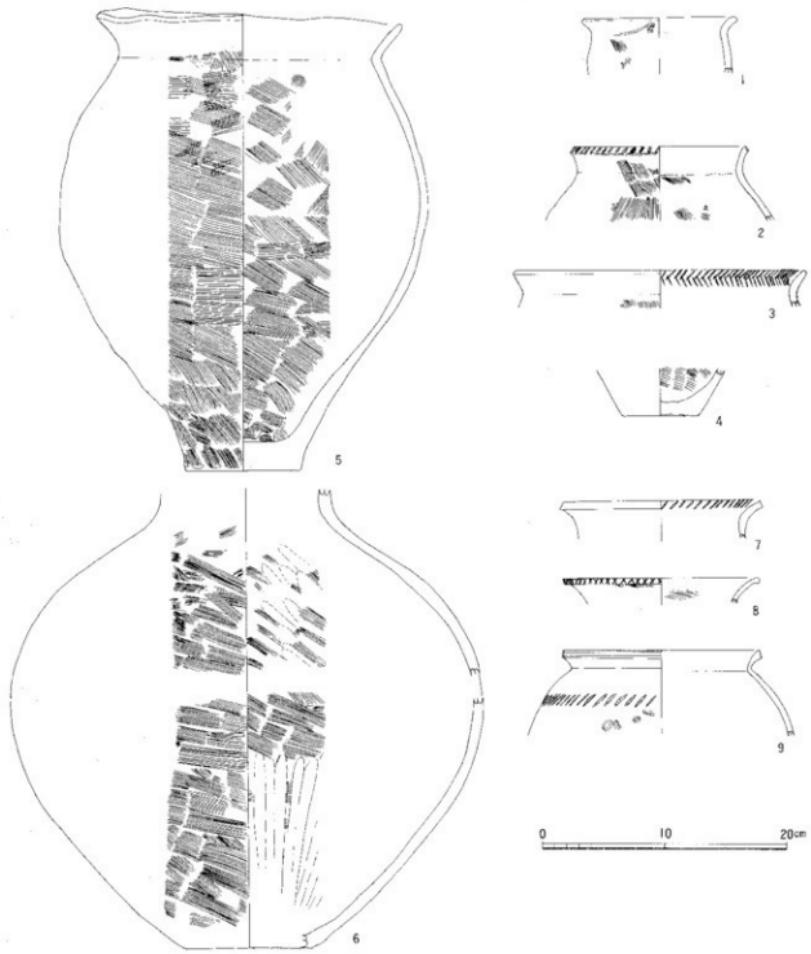
図版5 神田遺跡 83.SX113 84.SB013 85.SB011 86・87.SB010 88・89.SD121 90-93.SB006 94・95.SX114  
96.SA057





図版 6 神田遺跡 141.SK103 1・2.SB013





図版 7 正印新遺跡 1.SK31 2~4.SK33 5~9.SK34



25



24



11



45



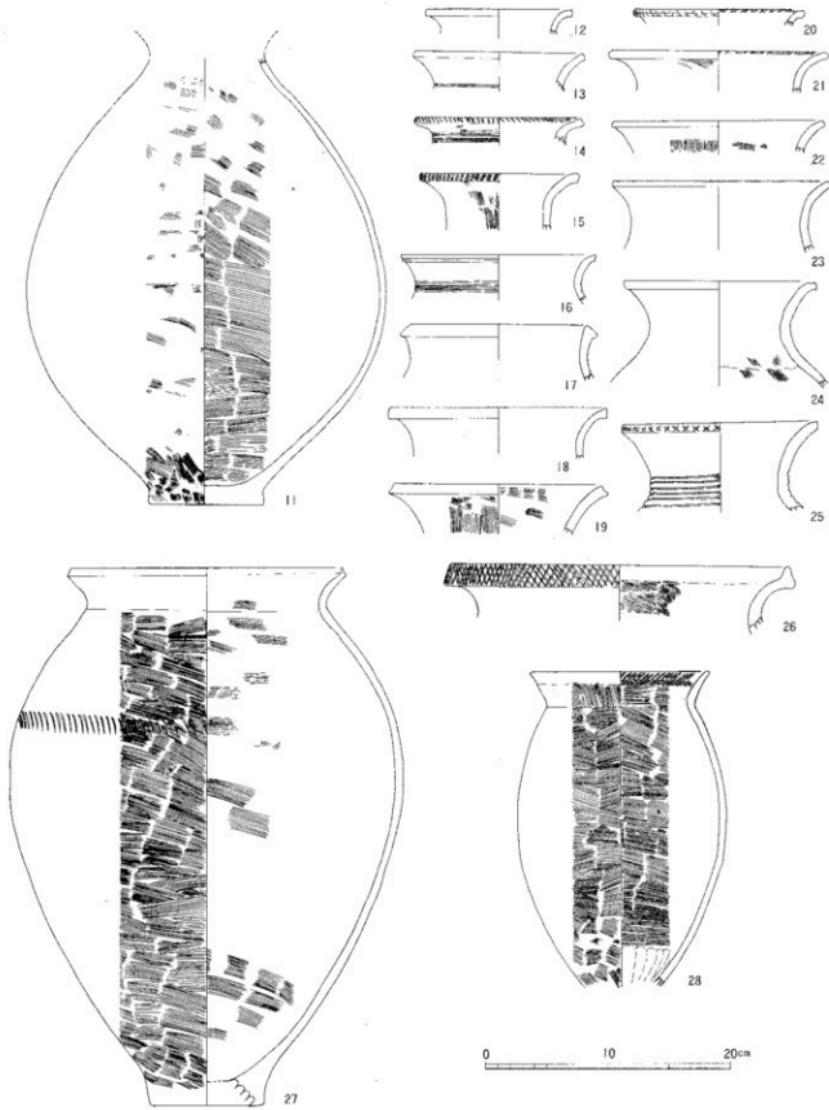
28



5



31



図版 8 正印新遺跡 第7・8層出土



48



30



32



46



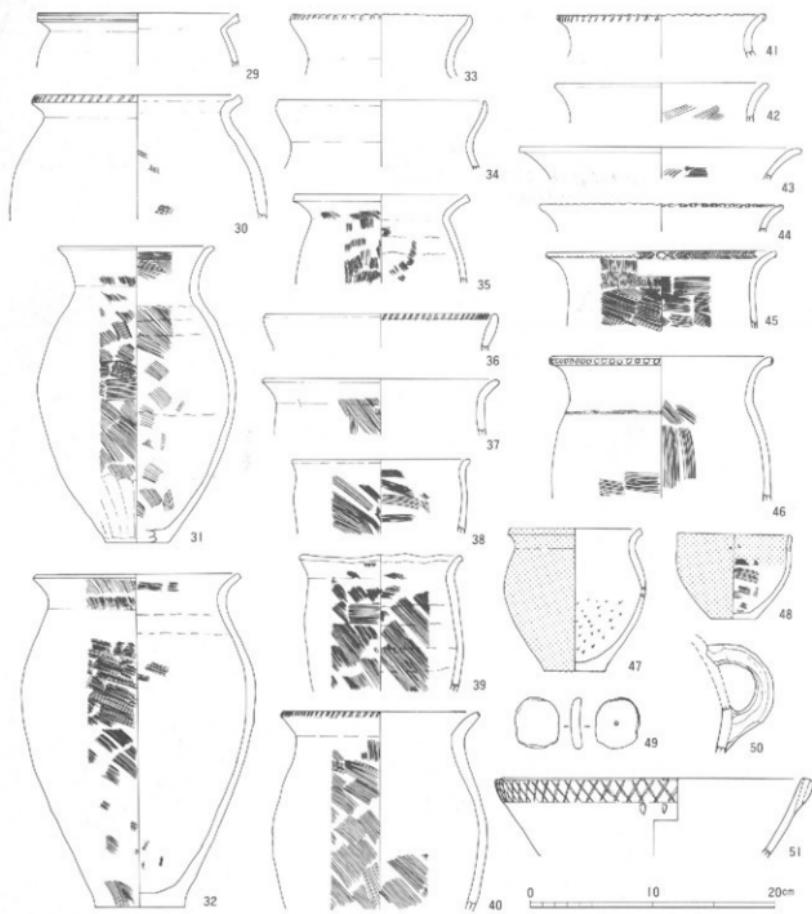
27



40



39



図版9 正印新遺跡 第7・8層出土



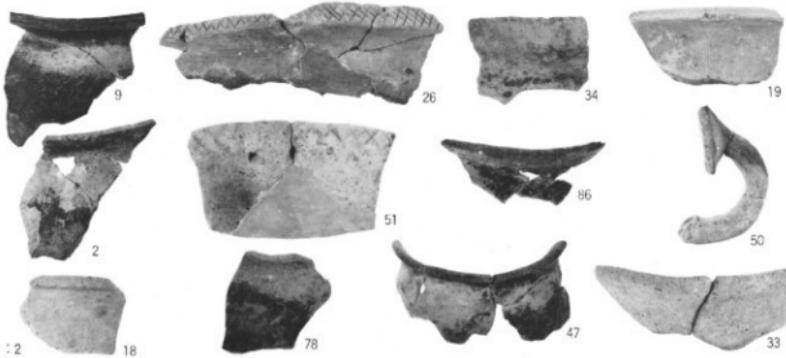
63



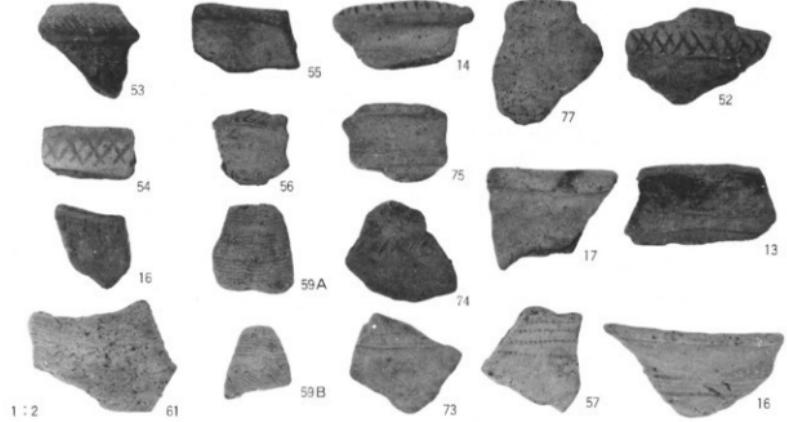
64



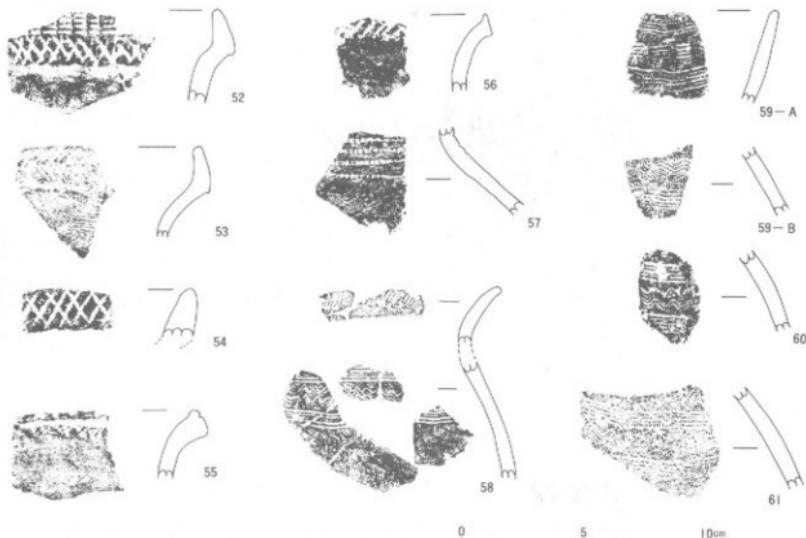
62



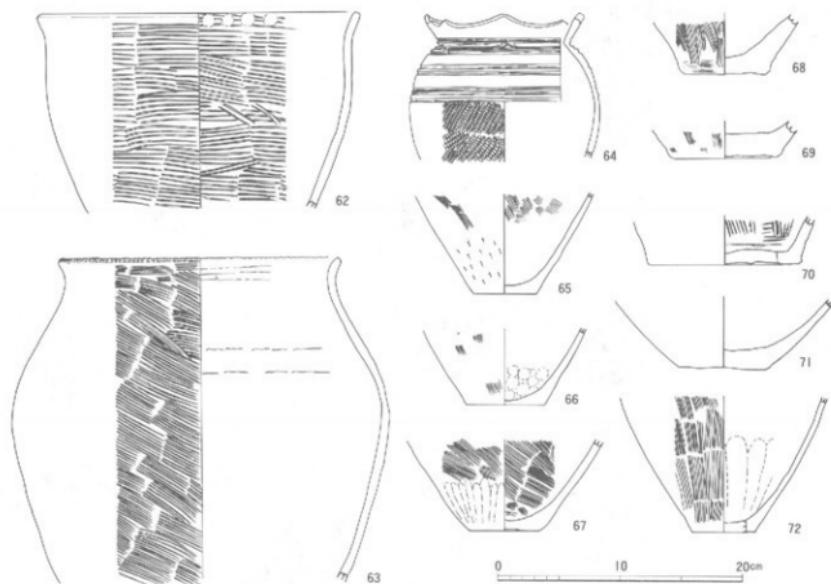
1 : 2



1 : 2

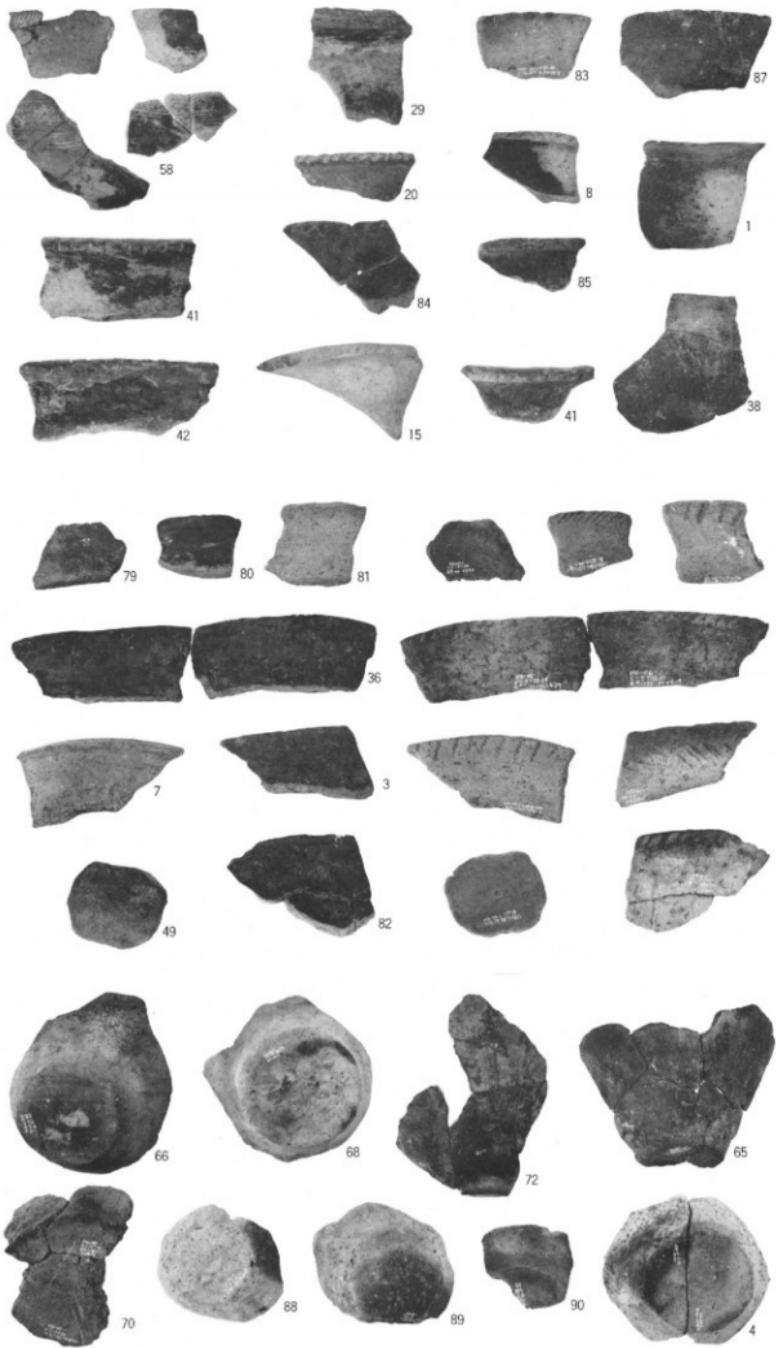


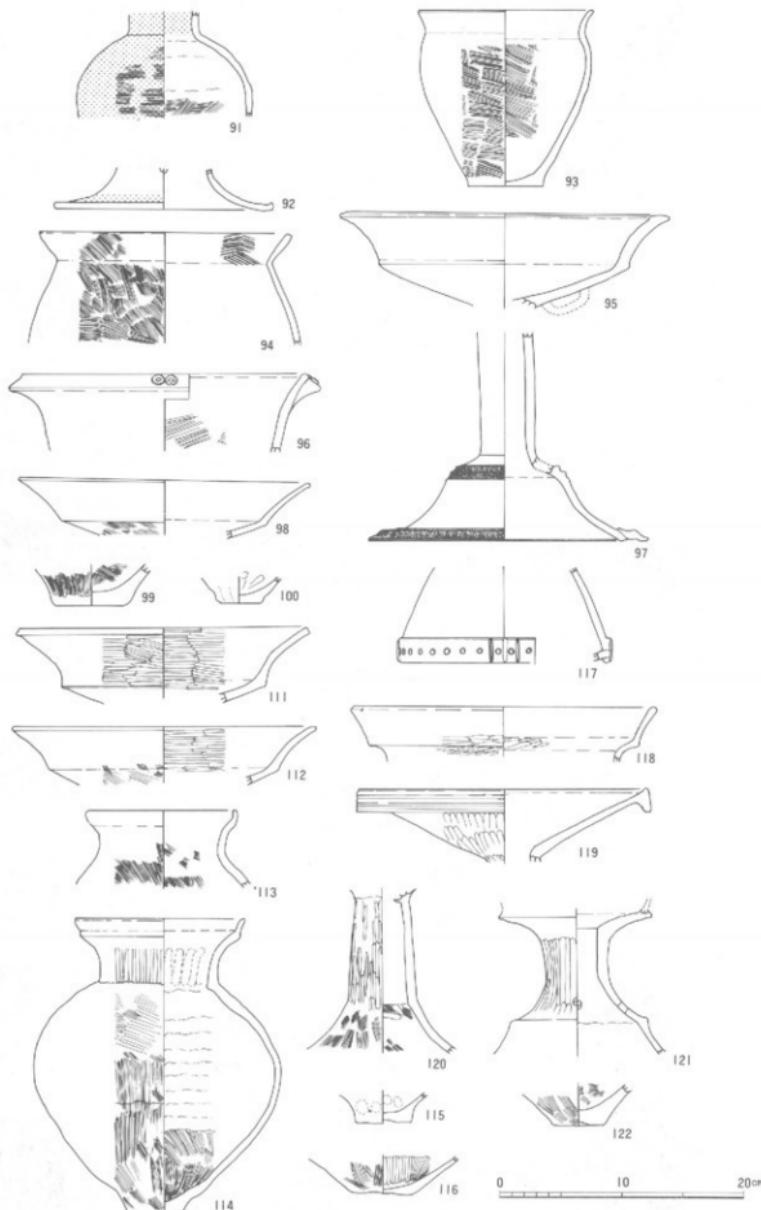
0 5 10cm



0 10 20cm

图版10 正印新遗迹 第7·8层出土

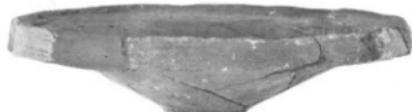




図版II 正印新遺跡 上層構内出土 91.SD02 92~97.SD03 125.SD04 98~100・112・113・123.SD05  
111~116・120・124.SD10 117・118.SD11 119・121・122・126.SD14



93



119



111



97



114



91



120



123



124



118



125



96



117



94



121



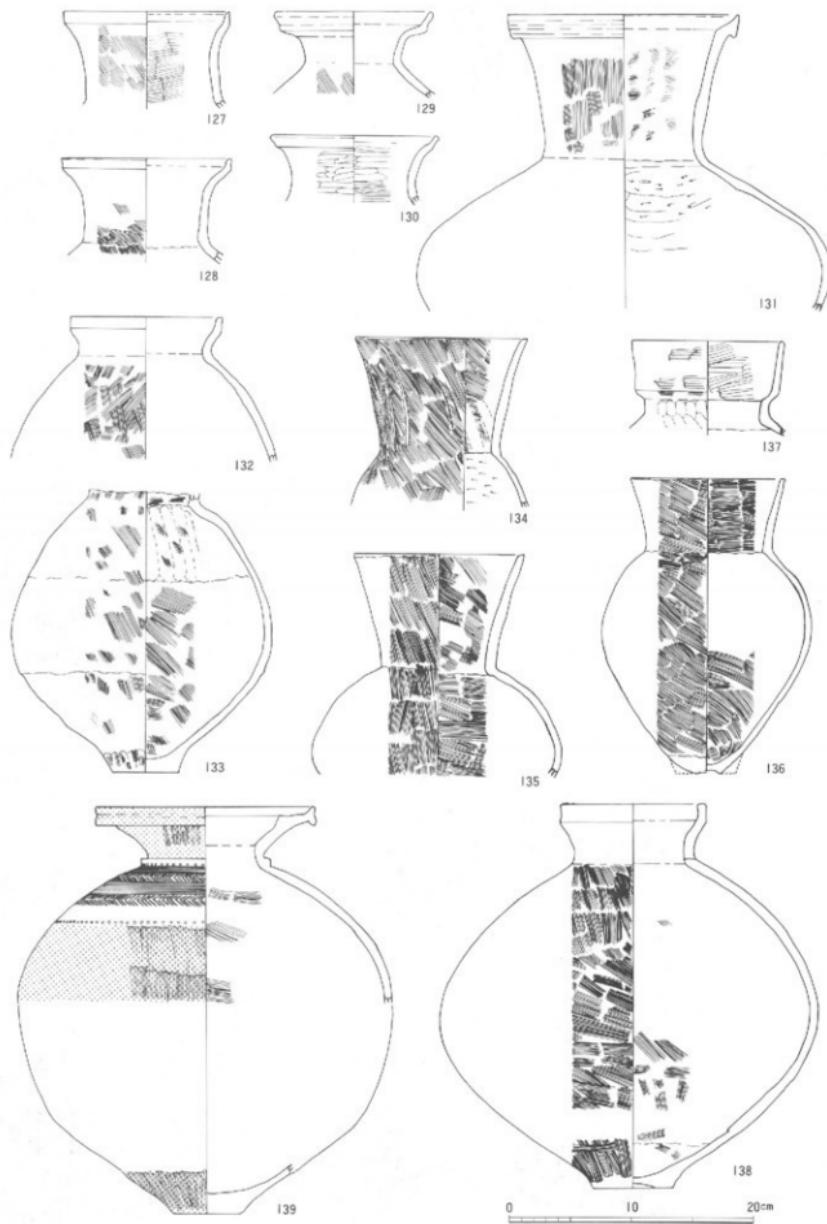
126



92



116



図版12 正印新遺跡 第3・5層出土



139



135



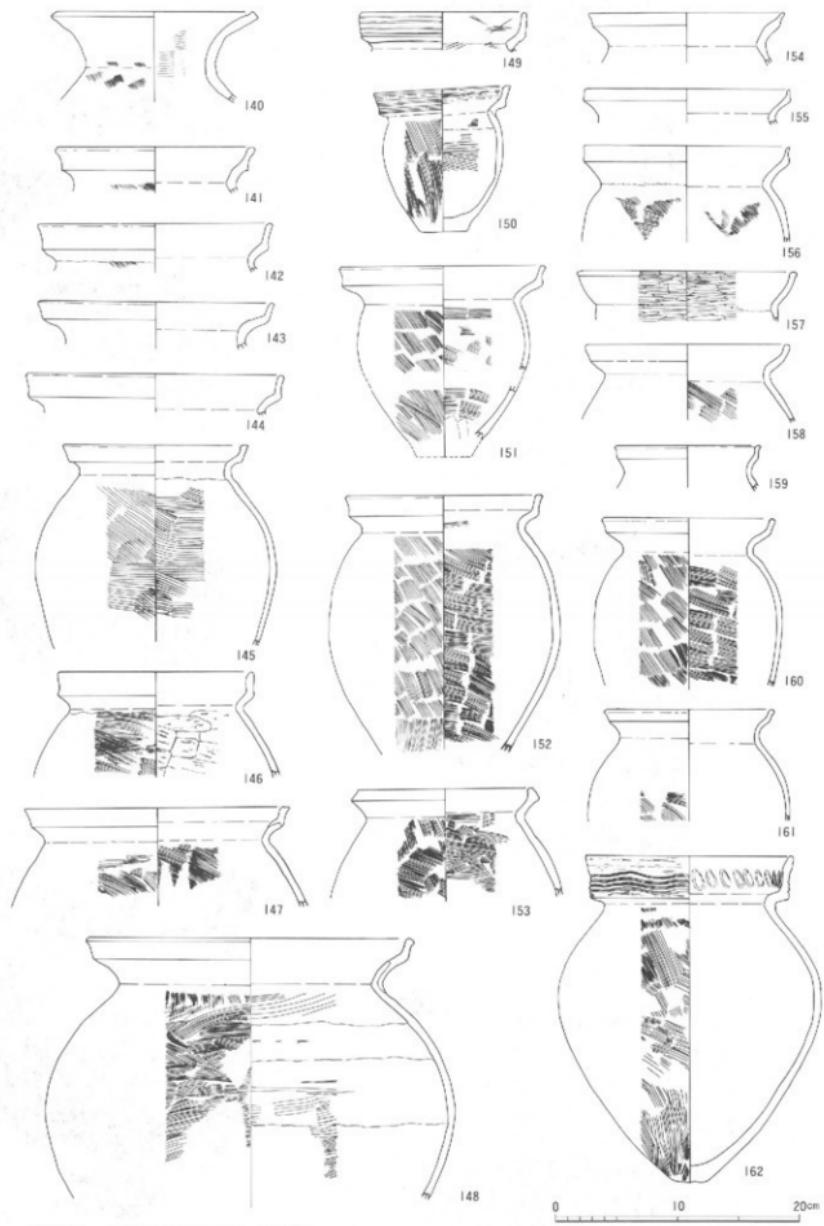
138



136

138<sup>a</sup>

133



图版I3 正印新遗址 第3·5层出土



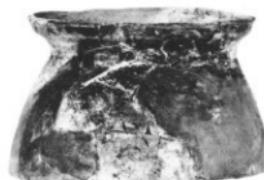
140



150



132



161



145



198



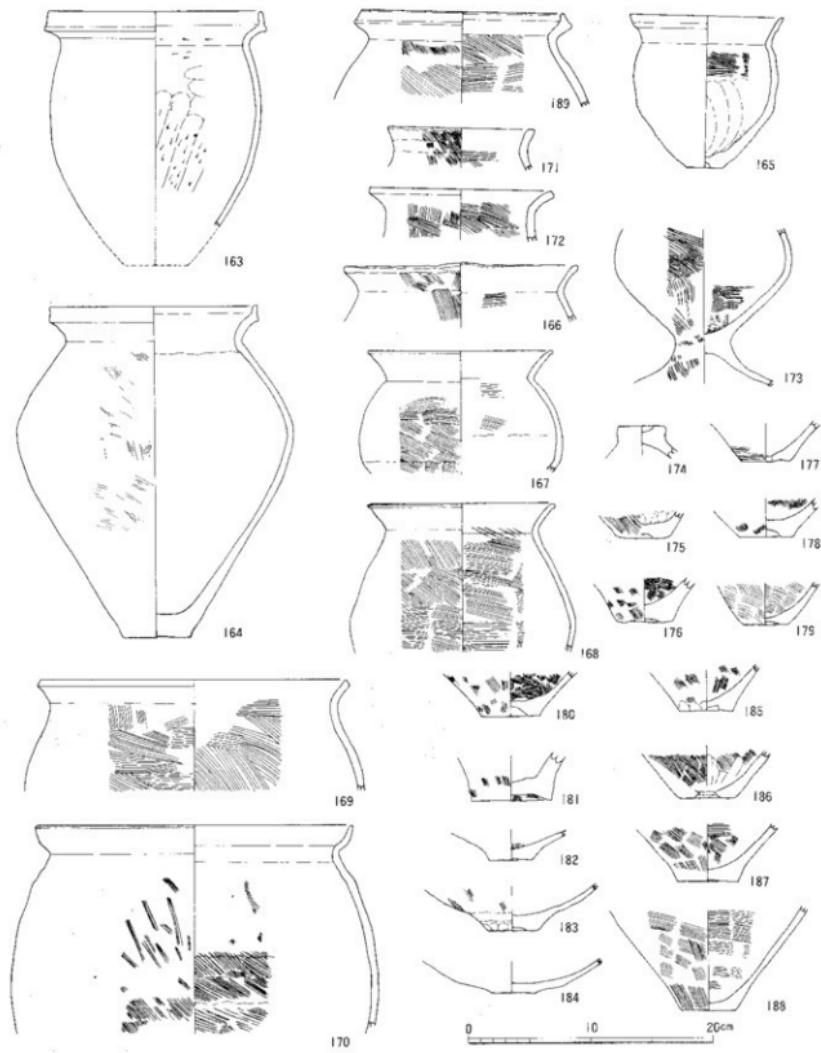
199



146



169



図版14 正印新遺跡 第3・5層出土



189



168



163



167



152



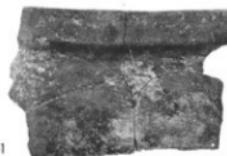
166



218



151



146



134



153



216



215



217

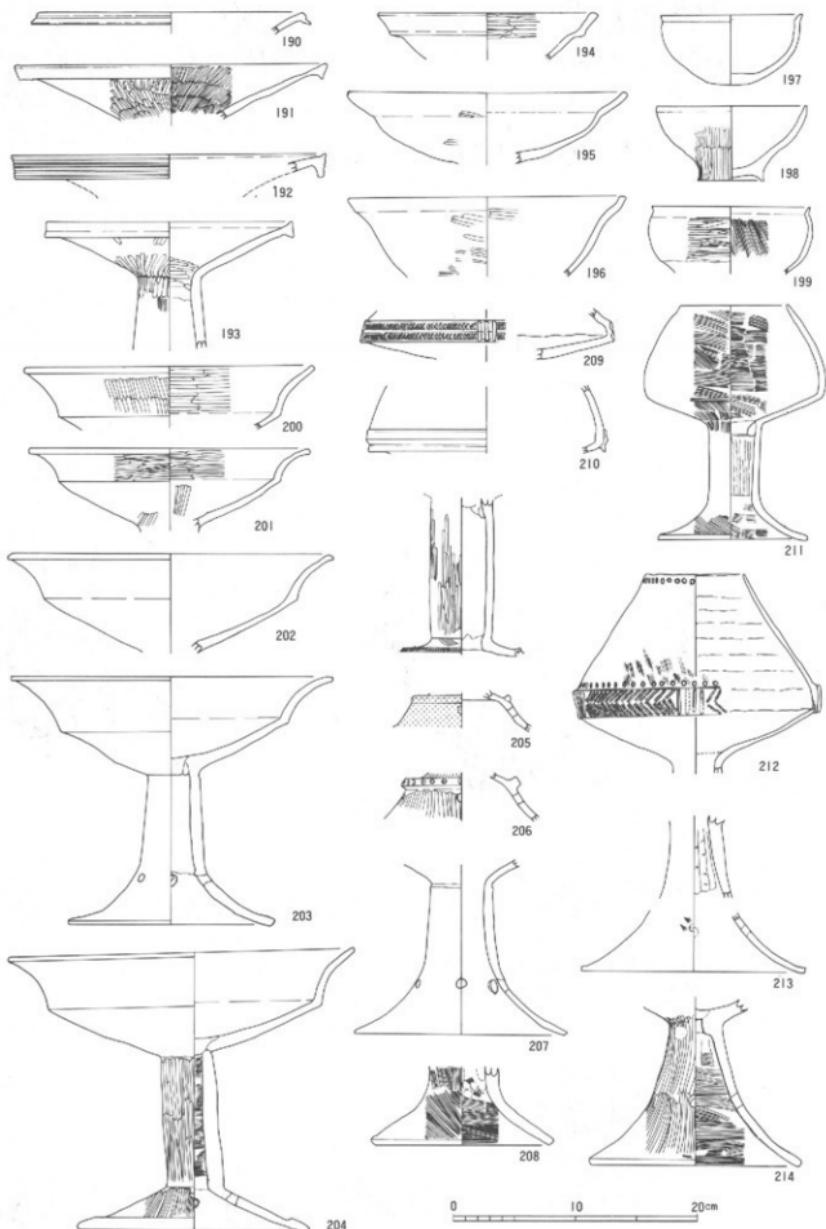


174

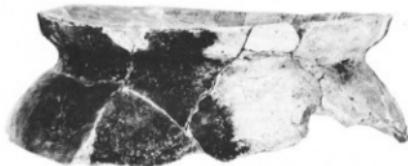


177

178



図版15 正印新遺跡 第3・5層出土



147



164



203



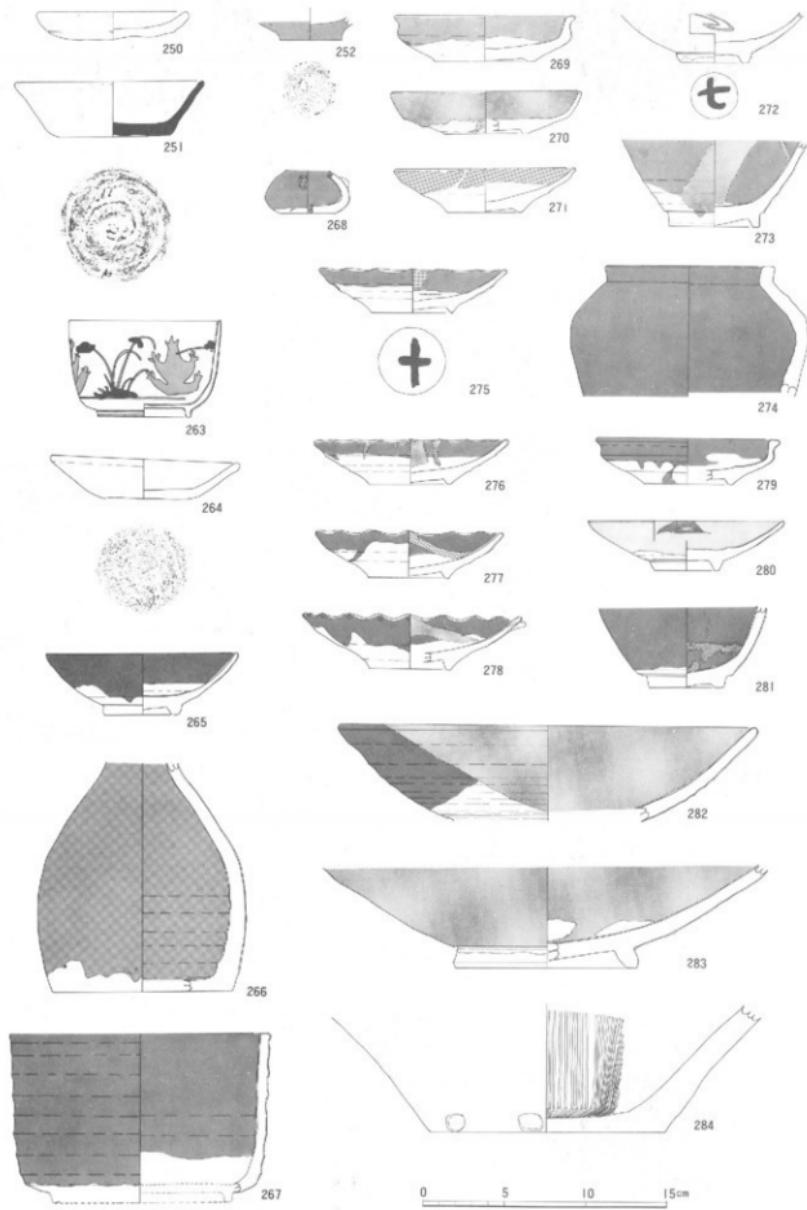
212



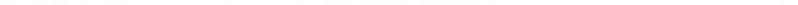
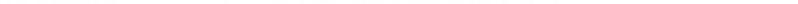
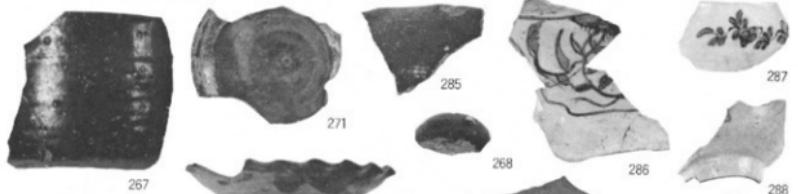
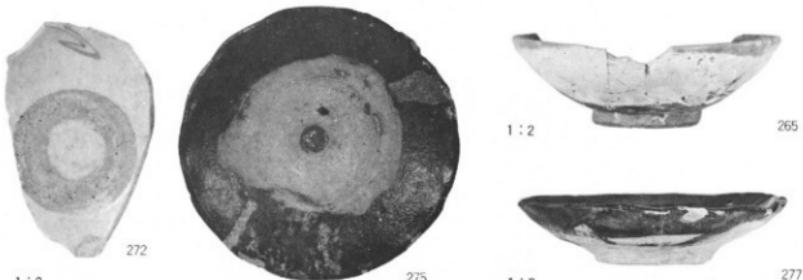
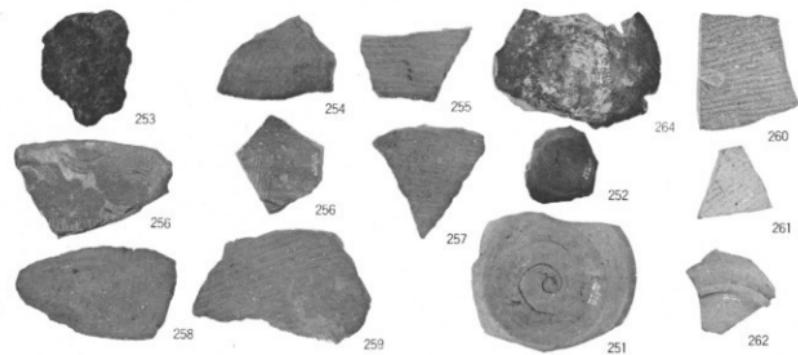
204

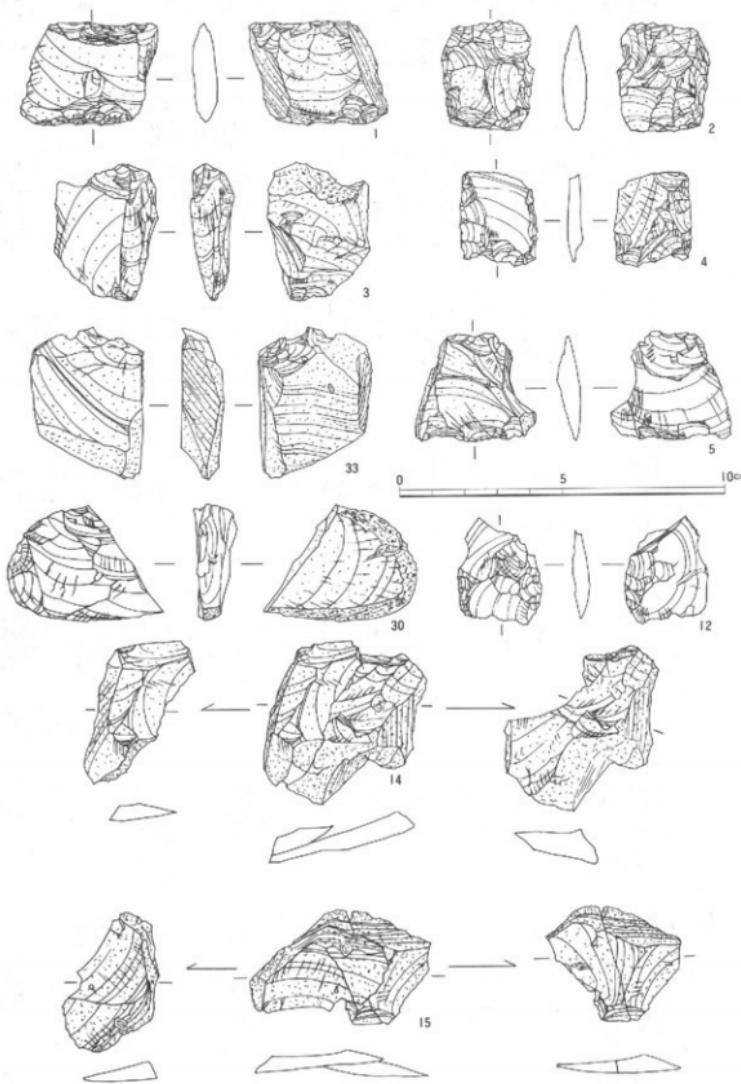


211

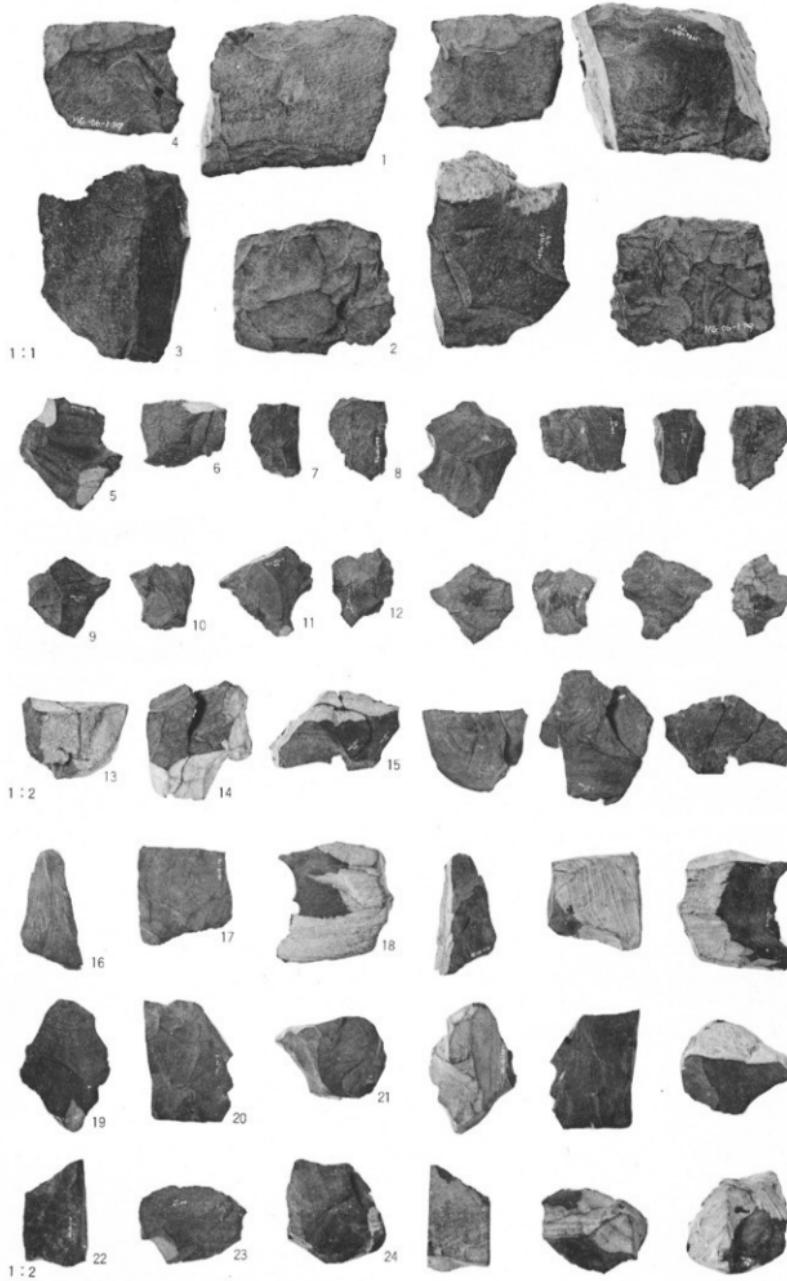


図版16 正印新遺跡 264~266・284・286・287・289.SD01 250・251.SD02 263.SE35 252.SK29 269~271・273  
・275~283.SK26



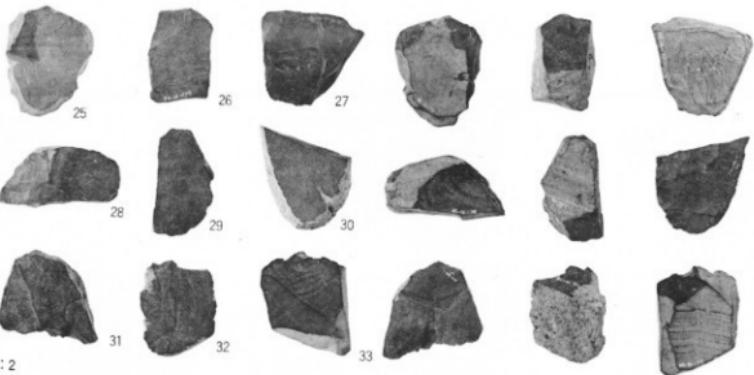


図版17 正印新遺跡

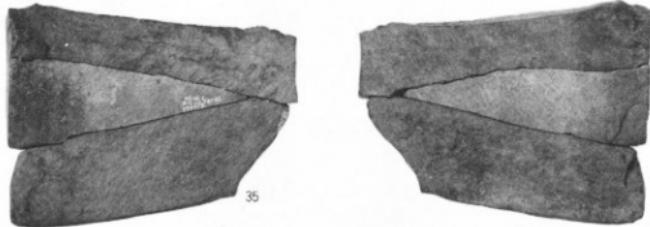




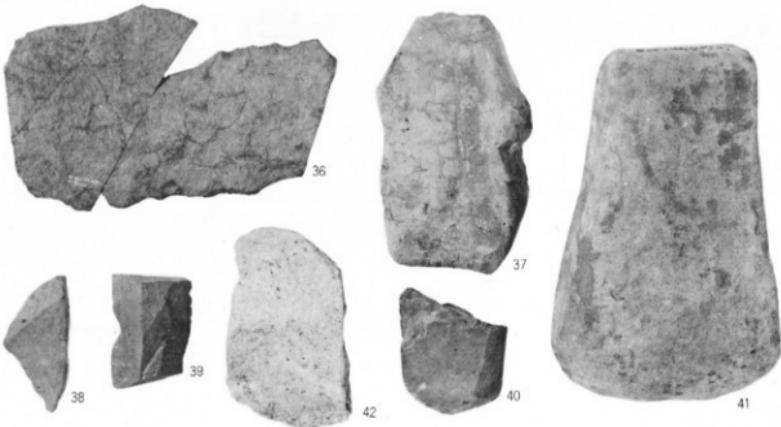
图版18 正印新遺跡

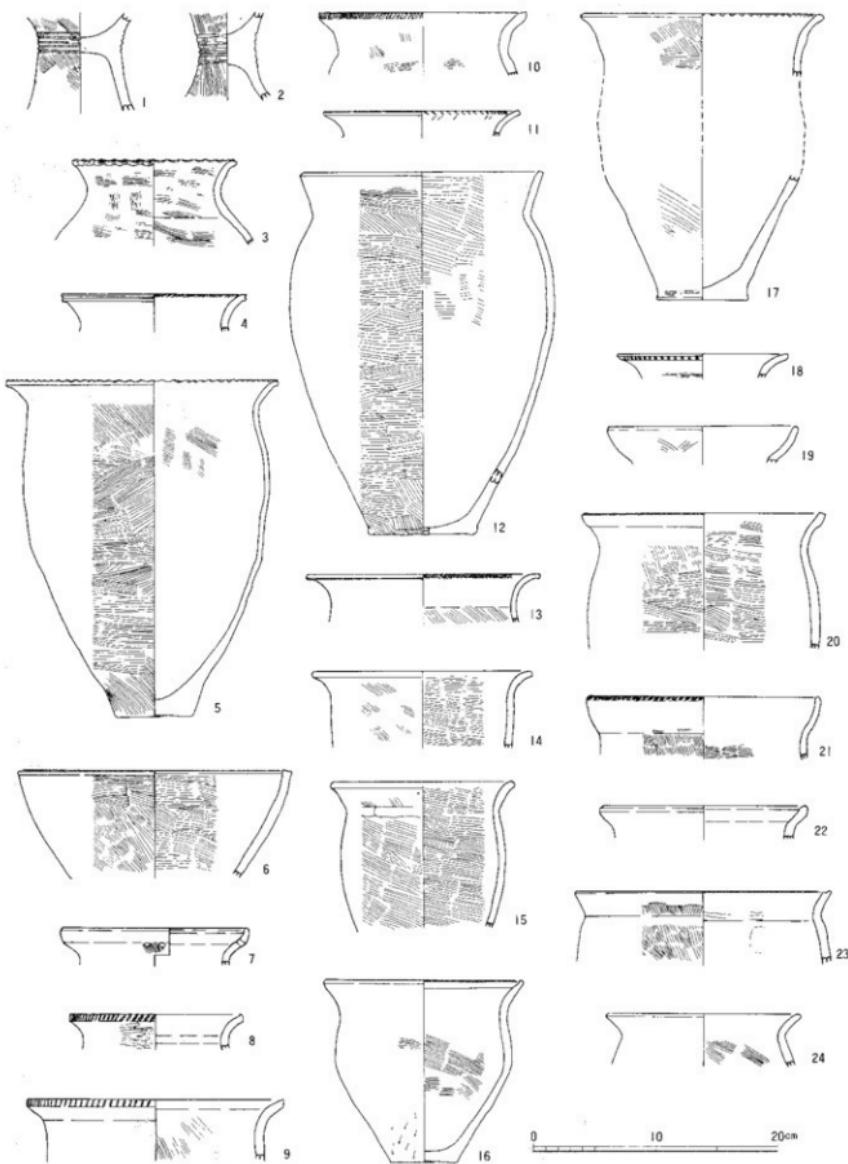


1 : 2



1 : 2





图版19 中小泉遗址 1~6.SD 33 7~10·16·17.SD 36 11·12.SK 56 13~15.SD 39 18·19.SD 27



2 : 3



1

2 : 3



15



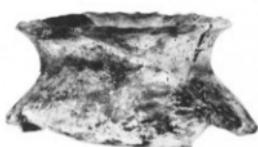
5



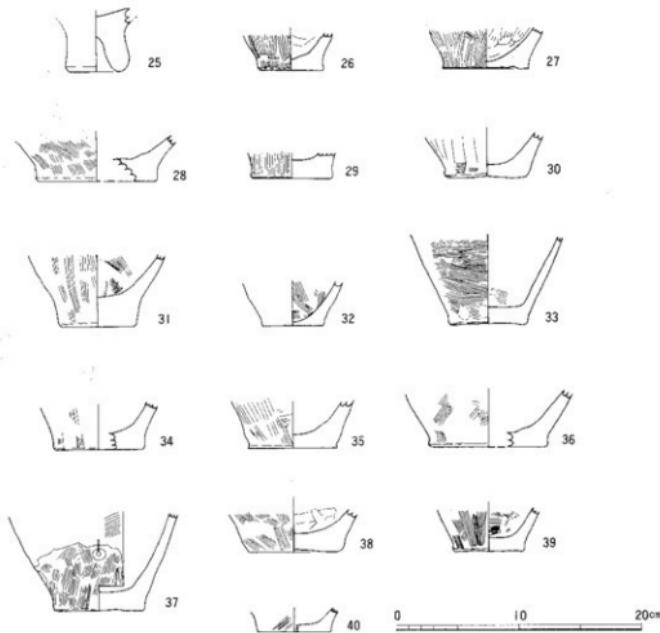
16



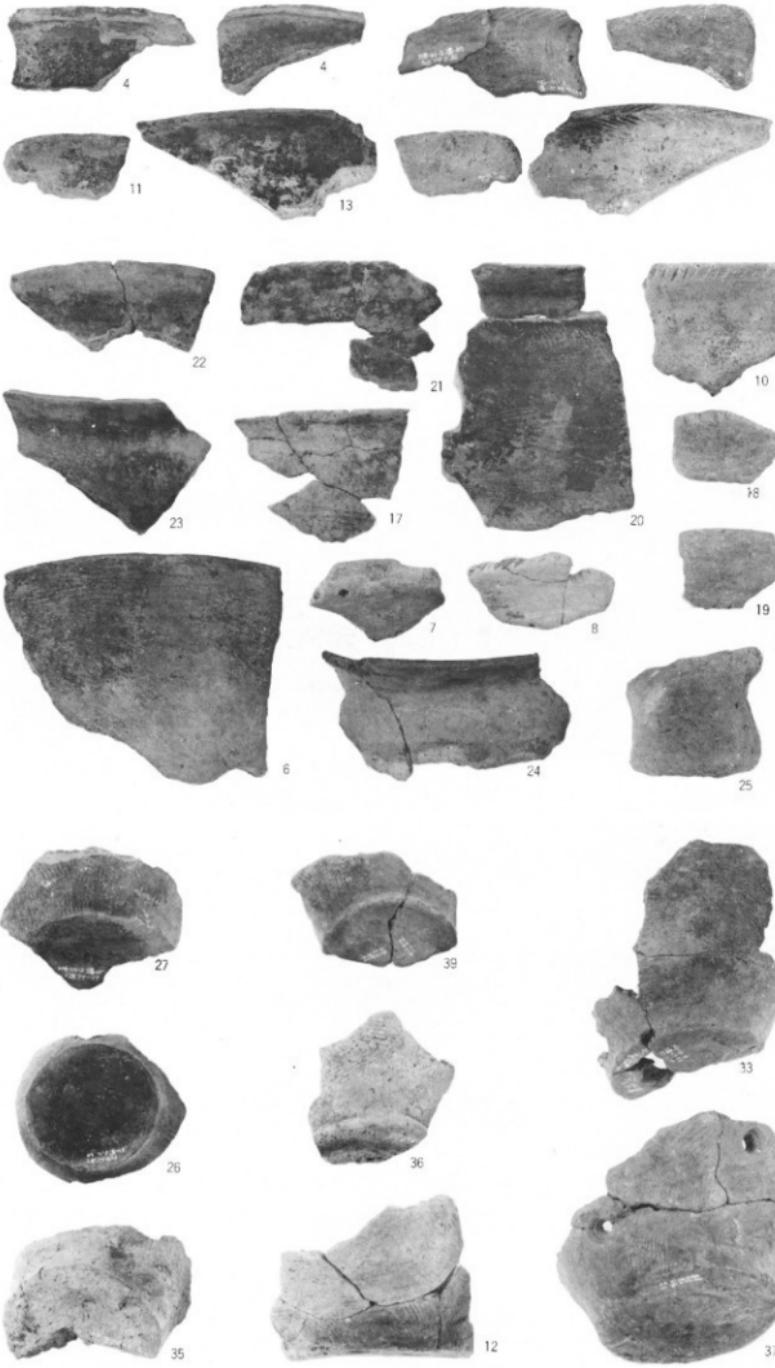
12

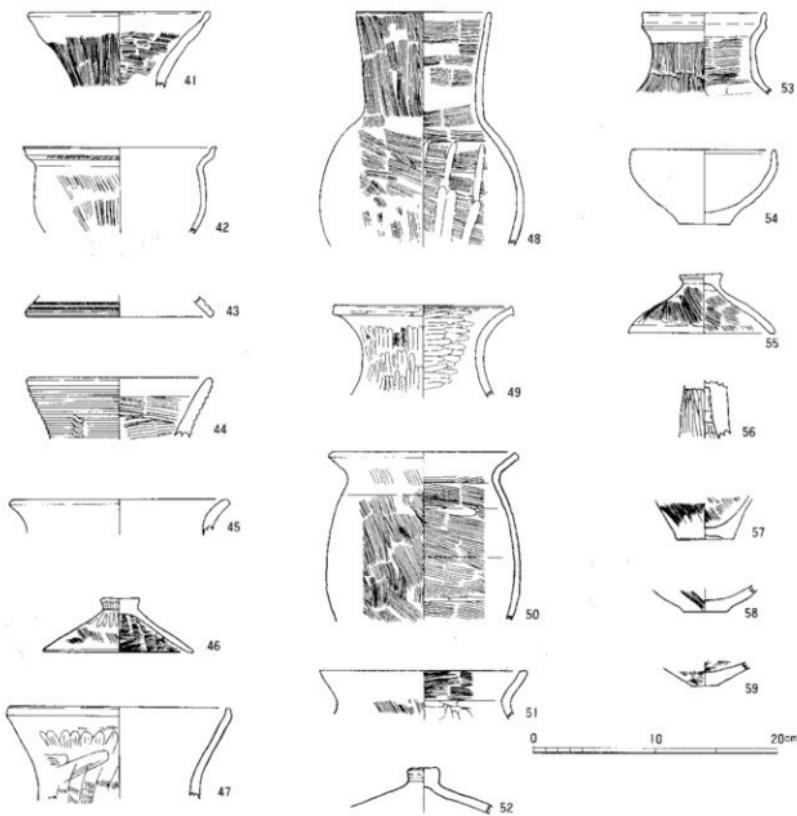


3



図版20 中小泉遺跡 26~32.SD 33 33・34.SD 36 35・36.SD 35 37.SK 56





图版21 中小泉遗址 41~43·48·57.SD 36 44~46·49.SD 27 47.SD 04 50.SD 37 51.SD 01 52.SD 41 57.SD 46



1 : 2

54



48



1 : 2

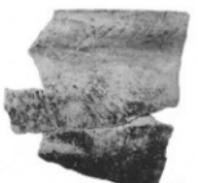
46



50

1 : 2

55



42



51



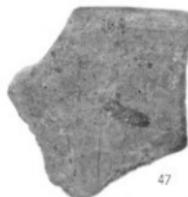
45



44



41



47



49



53



56

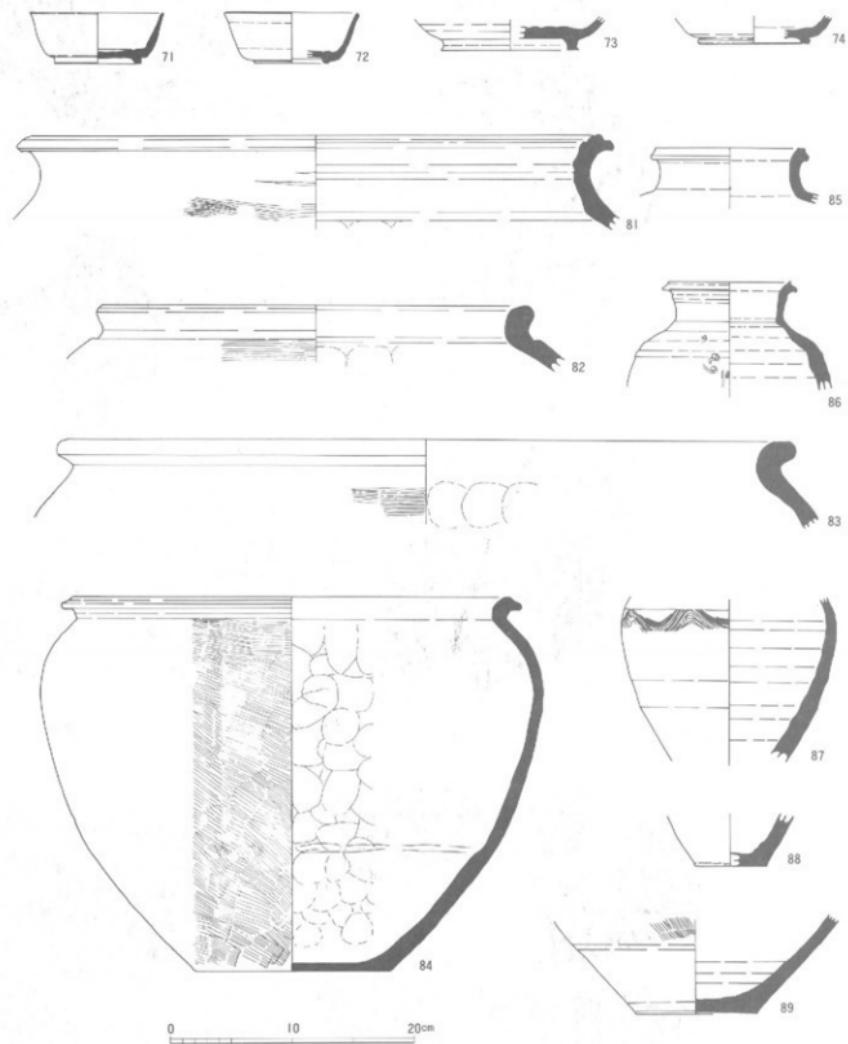


52



57

1 : 2

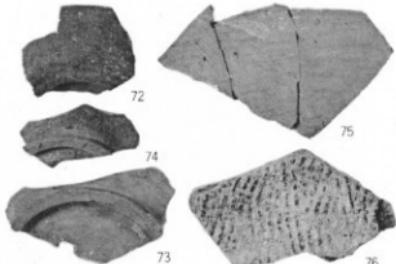


図版22 中小泉遺跡 84.SE 52 89.SE 51



1:2

71



72

74

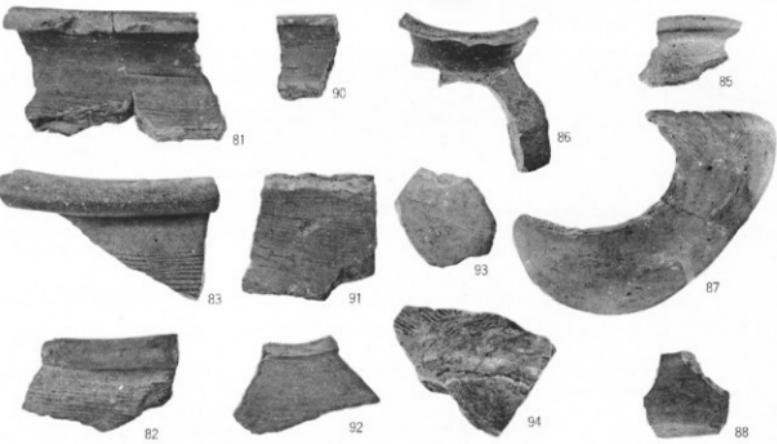
73

75



1:5

84



81

90

86

85

83

91

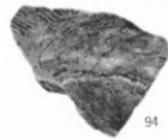
87

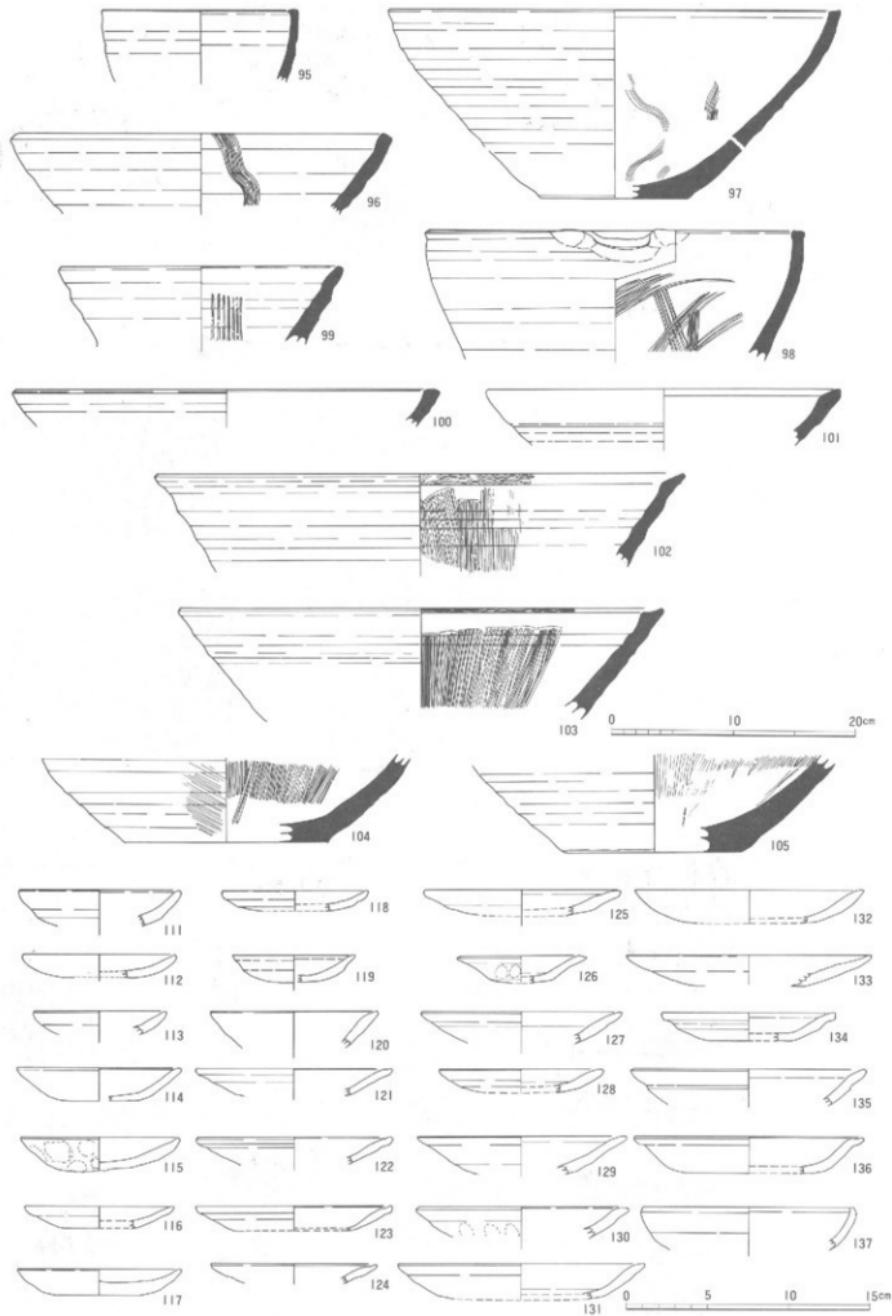
82

92

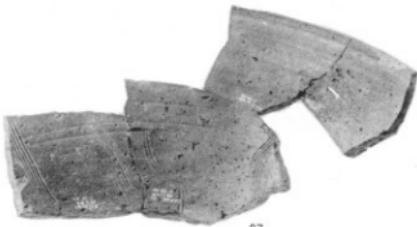
94

88





図版23 中小泉遺跡 97.SE 51・52 102・103・112・119・124・133.SD 01



97



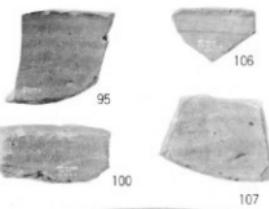
98



95

96

97

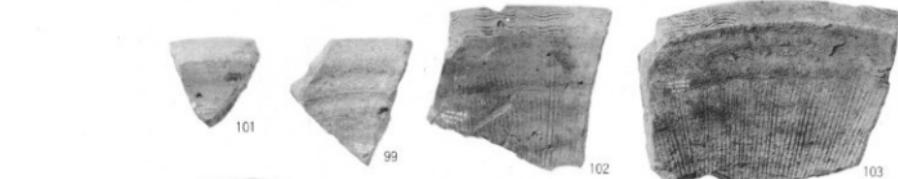


106

107



100

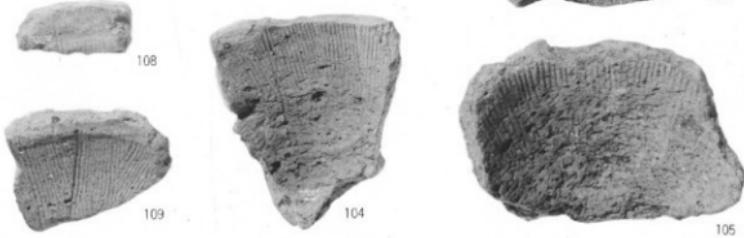


101

99

102

103



109

104

105



133

119

124

112

122



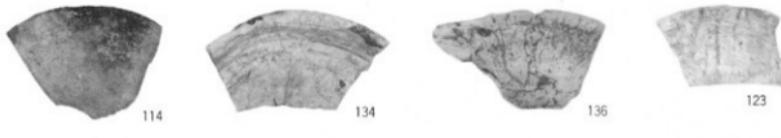
135

121

118

128

130

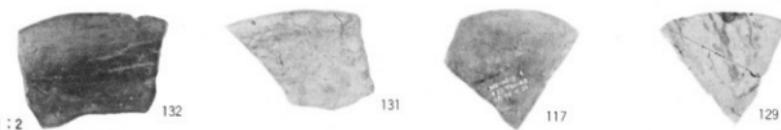


114

134

136

123



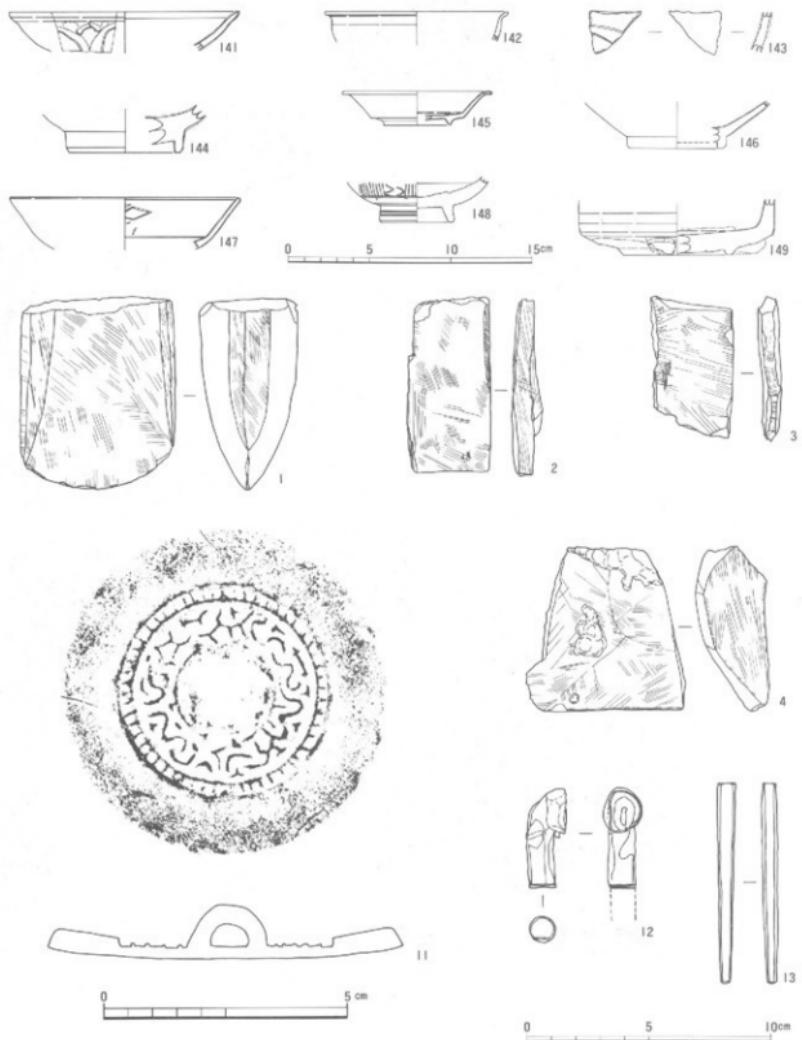
132

131

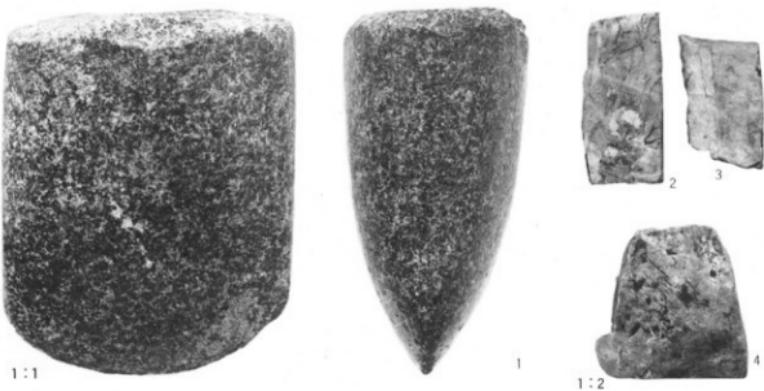
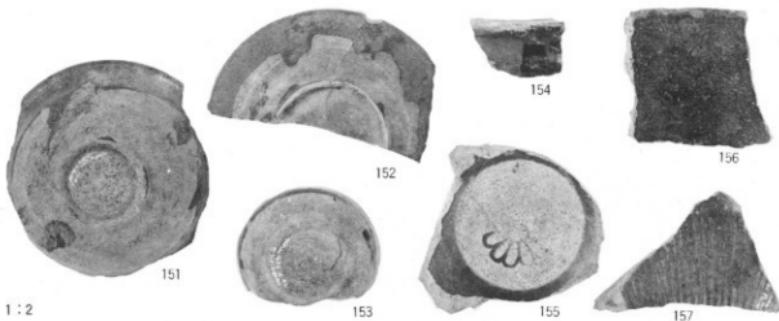
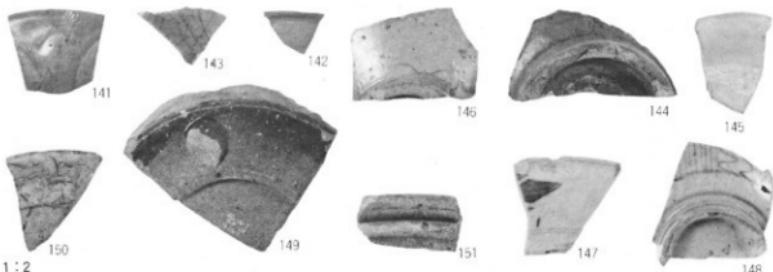
117

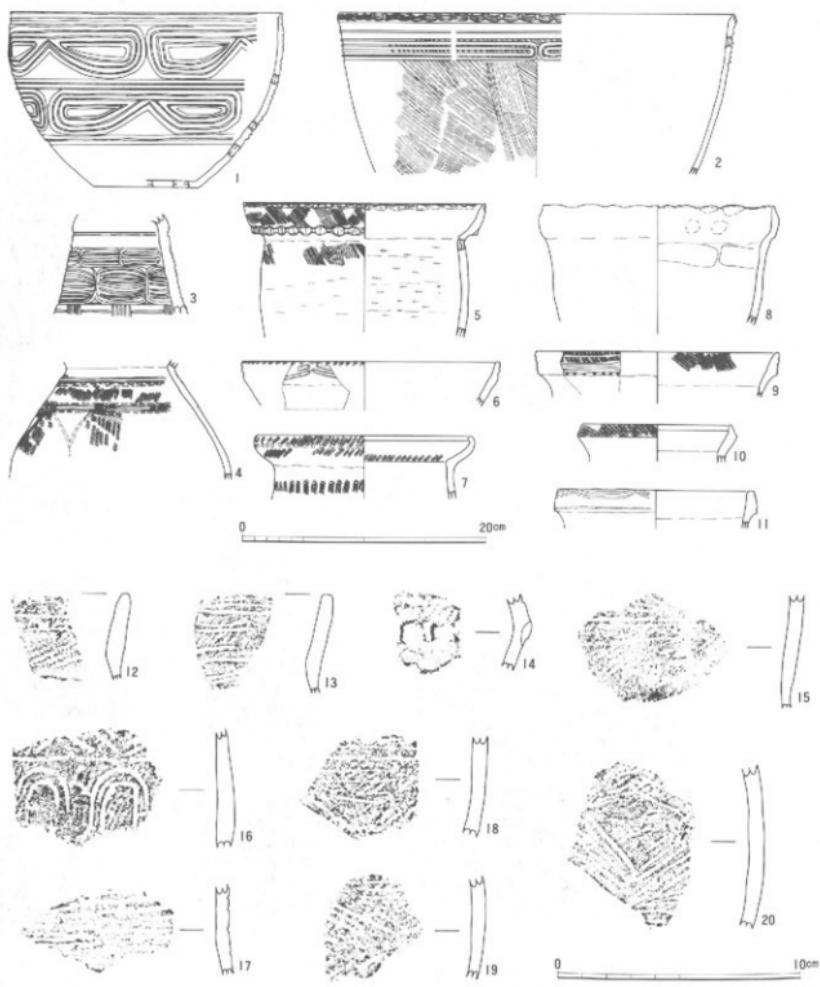
129

1:2

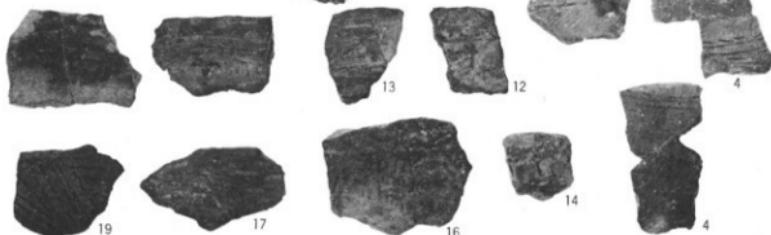
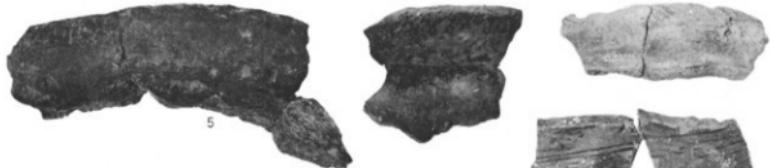
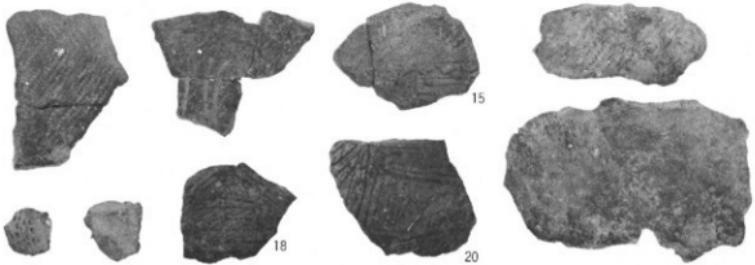


图版24 中小泉遗址 149.SK 59 1.SD 46 11.SD 39



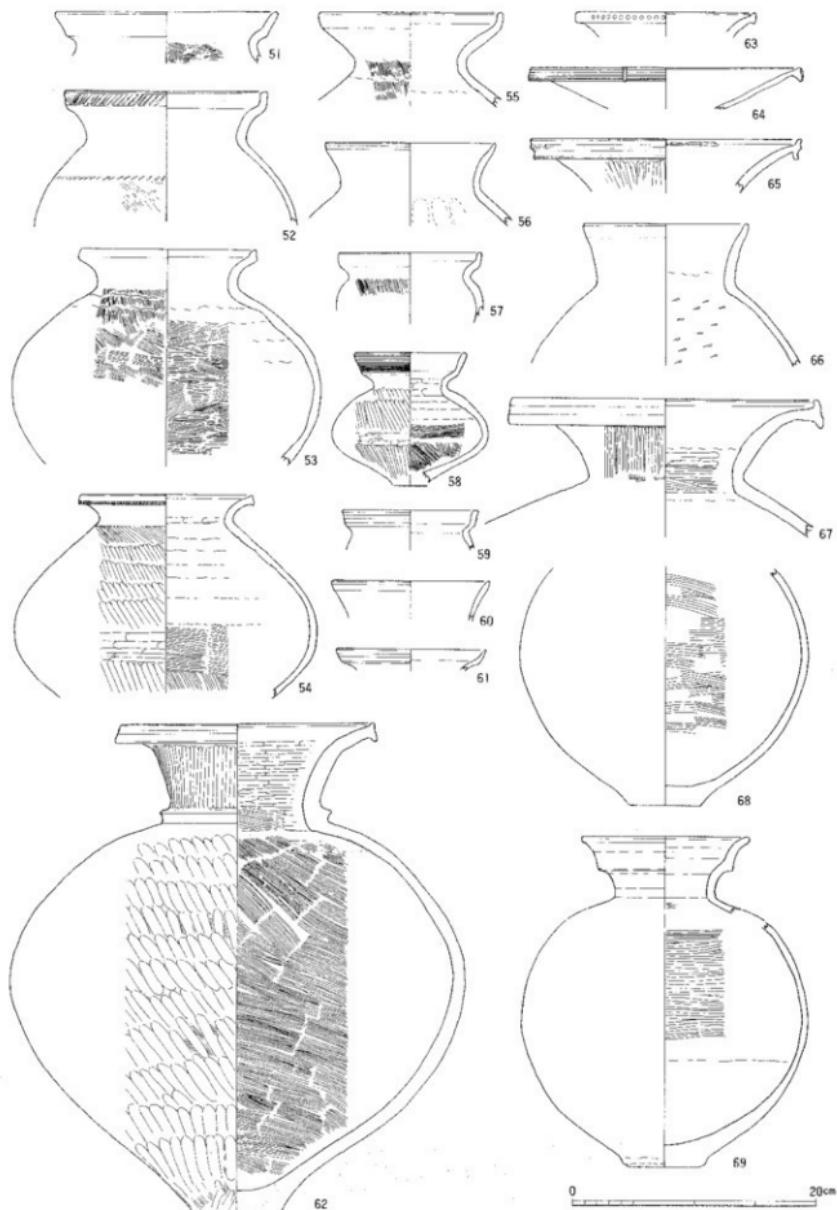


図版第25 飯坂遺跡 4~7, 9~11, 16~20. 3号方形周溝墓墳丘下層, 12~15. 7号方形周溝墓溝



2 : 1

4



图版26 饭板遺跡 59. 2号方形周溝基 53・62・65・67. 3号方形周溝基 58. 5号方形周溝基



54



58



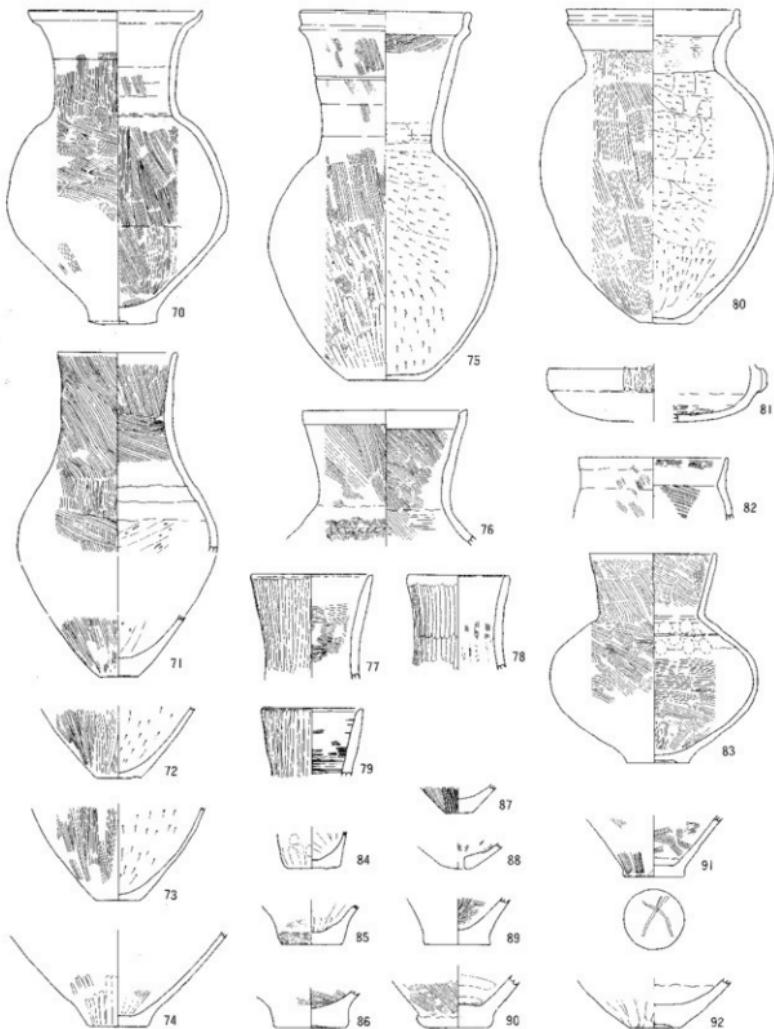
66



68



62



図版27 飯坂遺跡 78. 1号方形周溝墓 84・90. 3号方形周溝墓 75・80.  
7号方形周溝墓 70・8号方形周溝墓

0 20cm



70



75



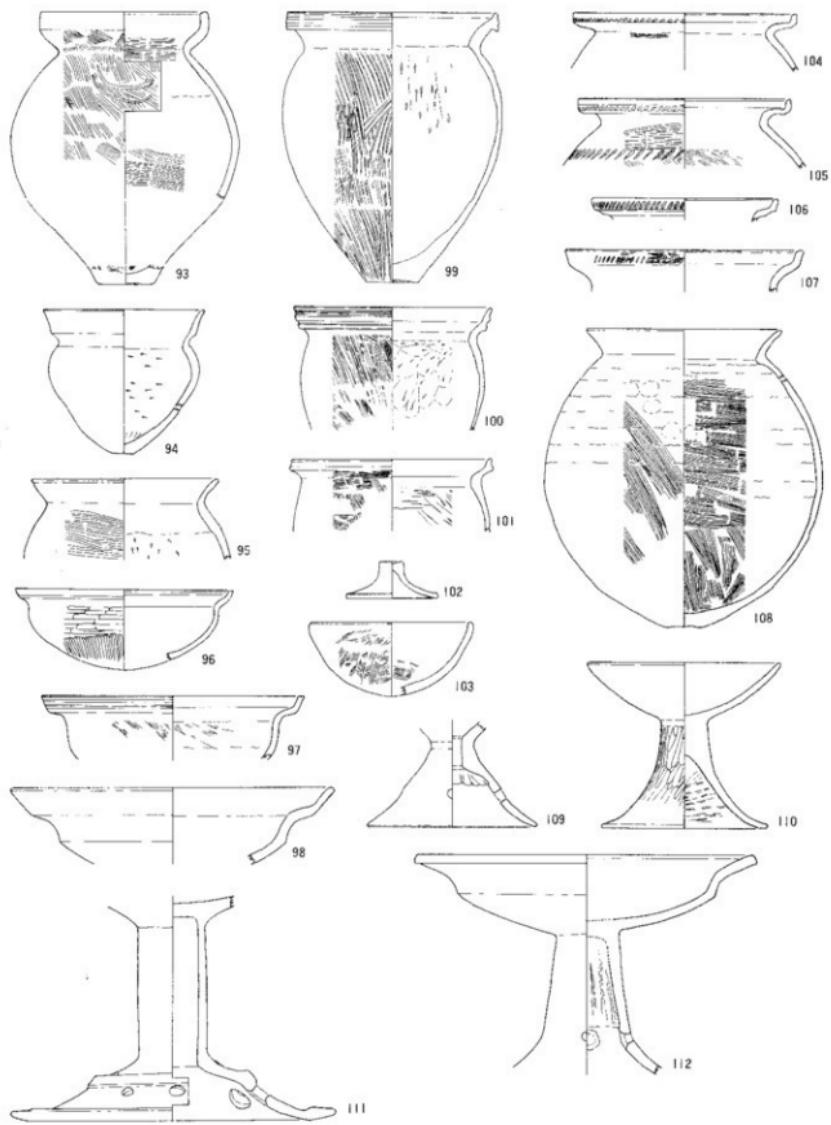
80



83



71



図版28 飯坂遺跡 93・97・111・112. 3号方形周溝墓 102. 5号方形周溝墓

0 20cm



93



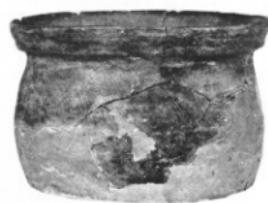
96



95



111



101



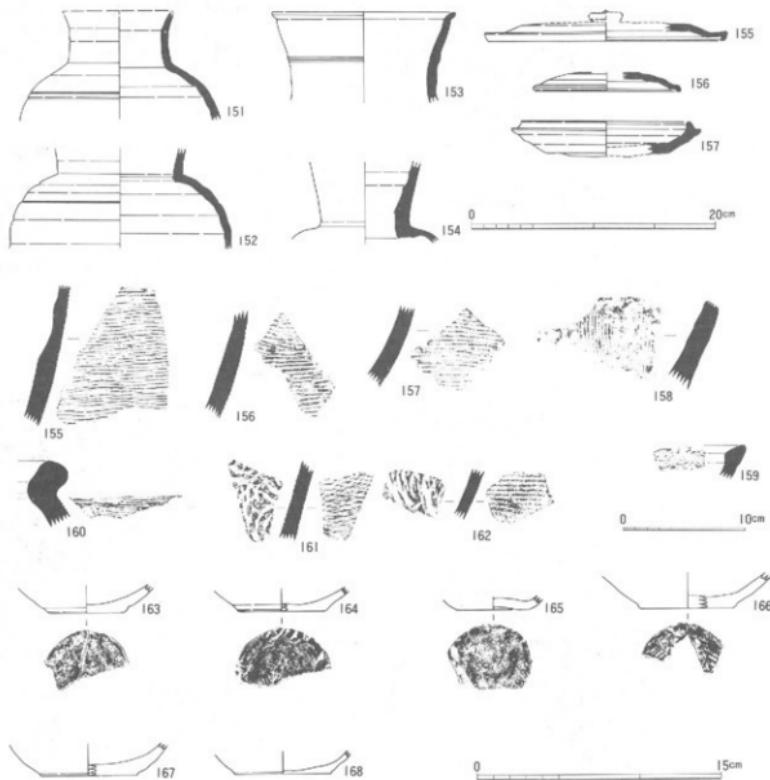
103



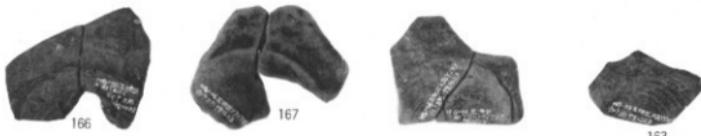
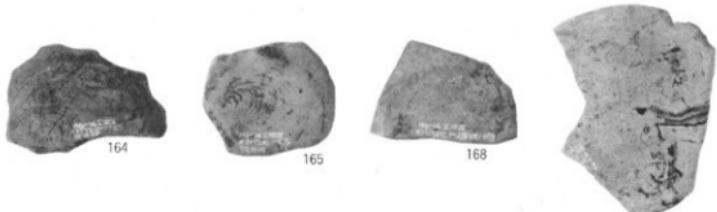
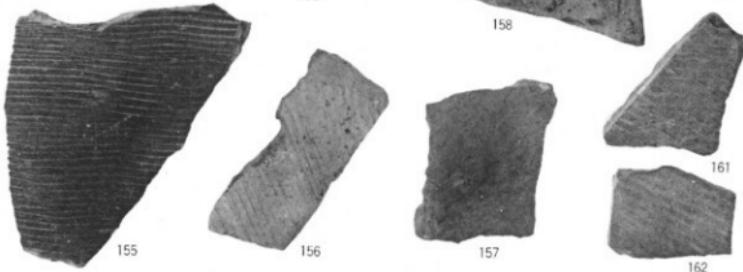
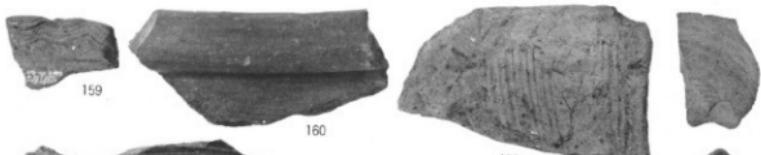
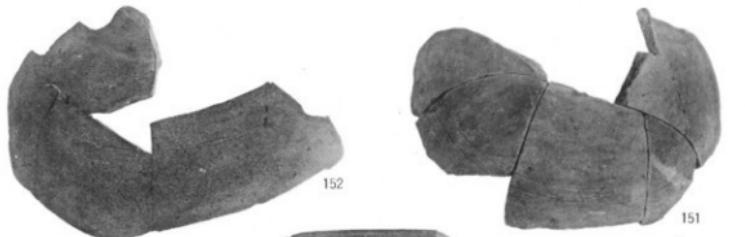
112

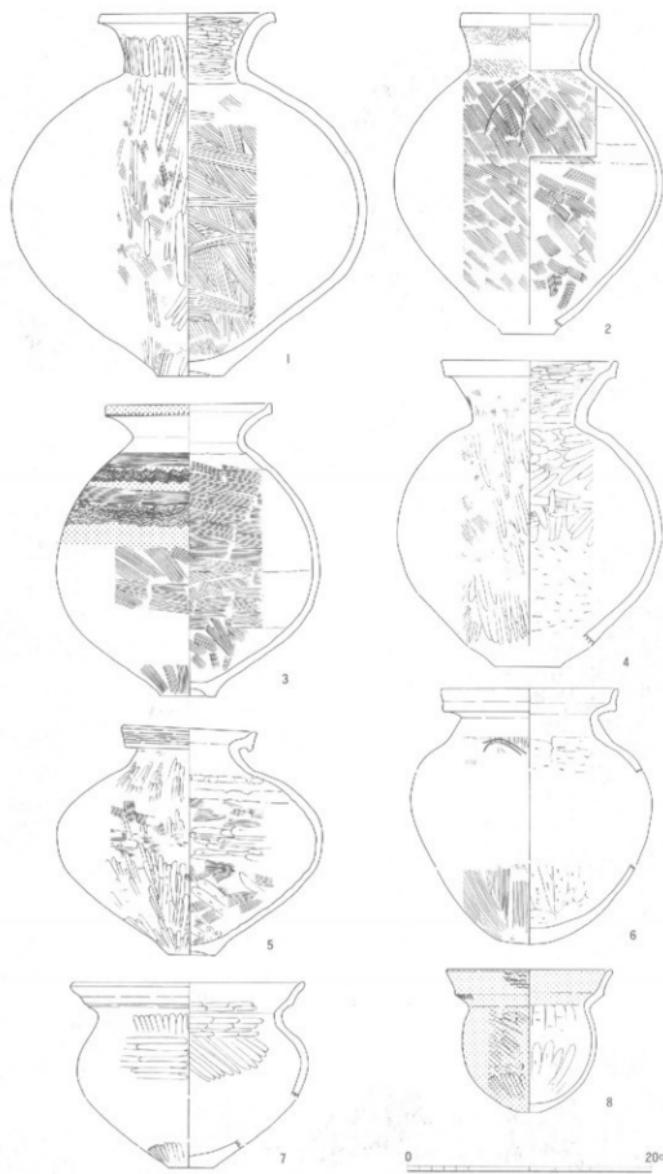


110



図版29 飯板遺跡





図版30 江上A遺跡 SD01



1



2



4



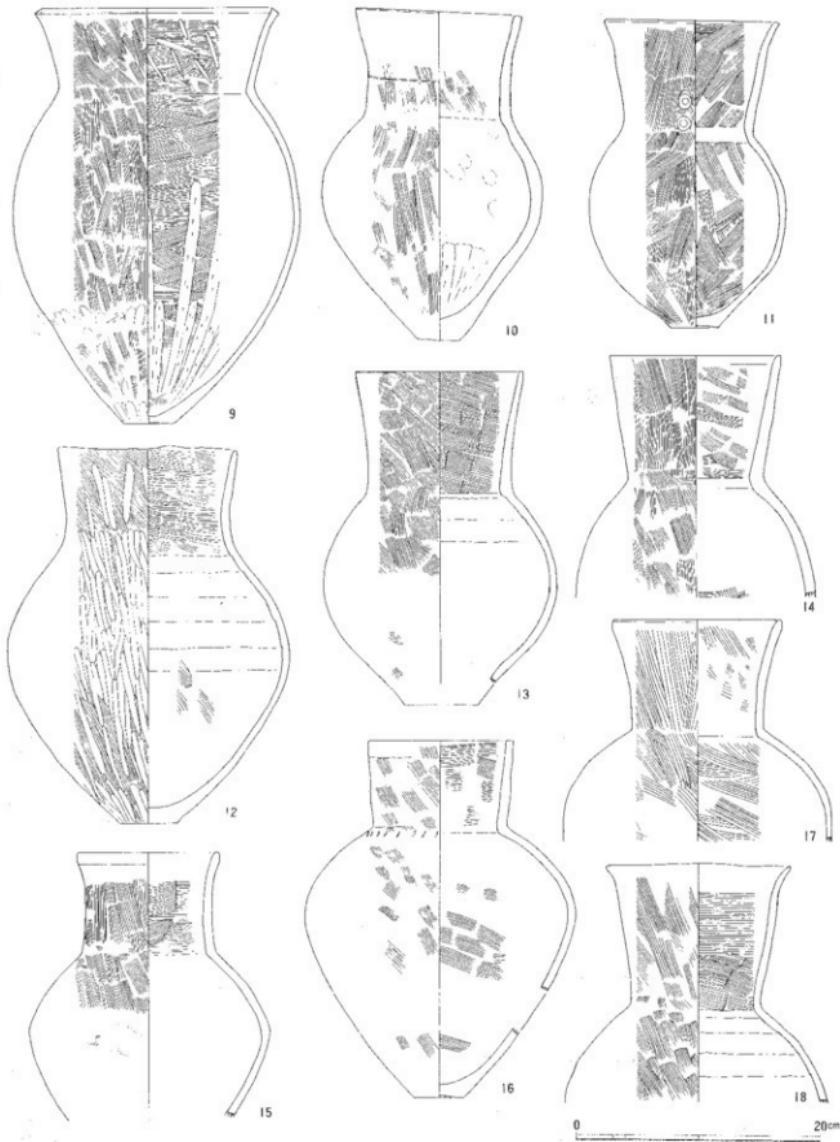
3



7



5



图版31 江上A遗迹 SD01



11



9

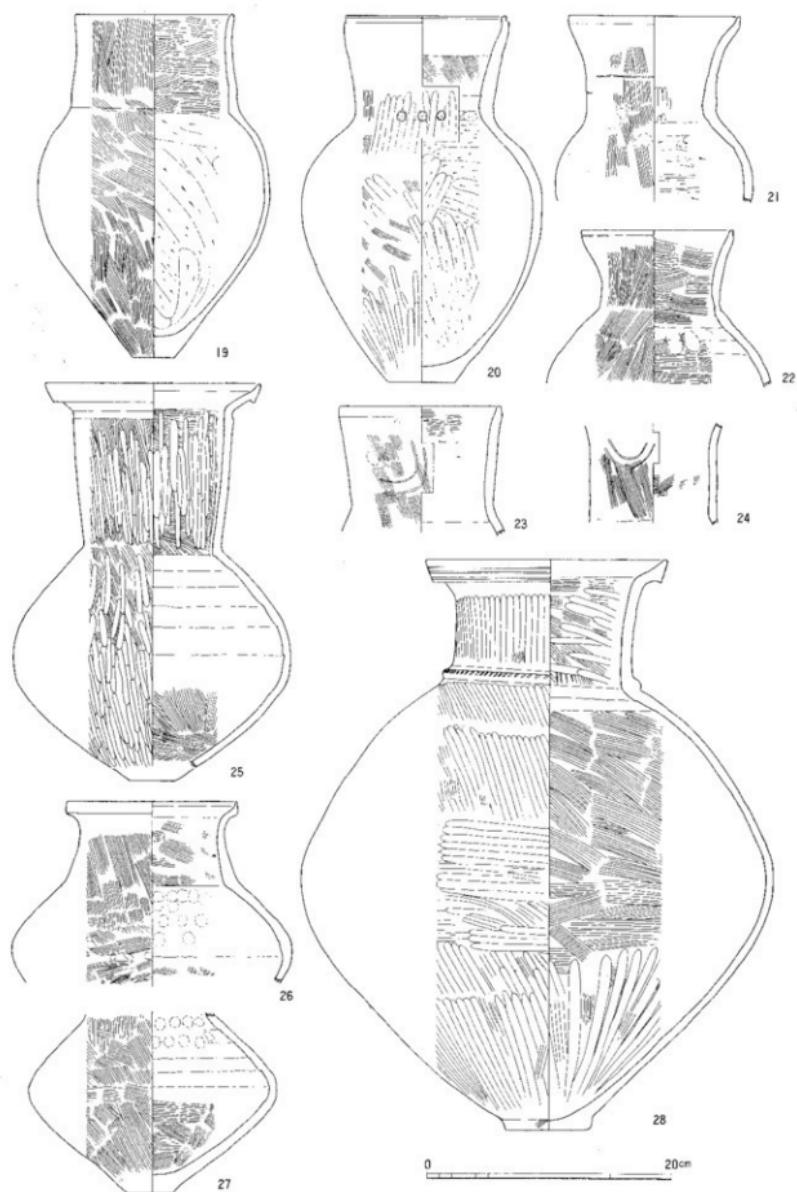


10



8

12



図版32 江上A遺跡 SD01



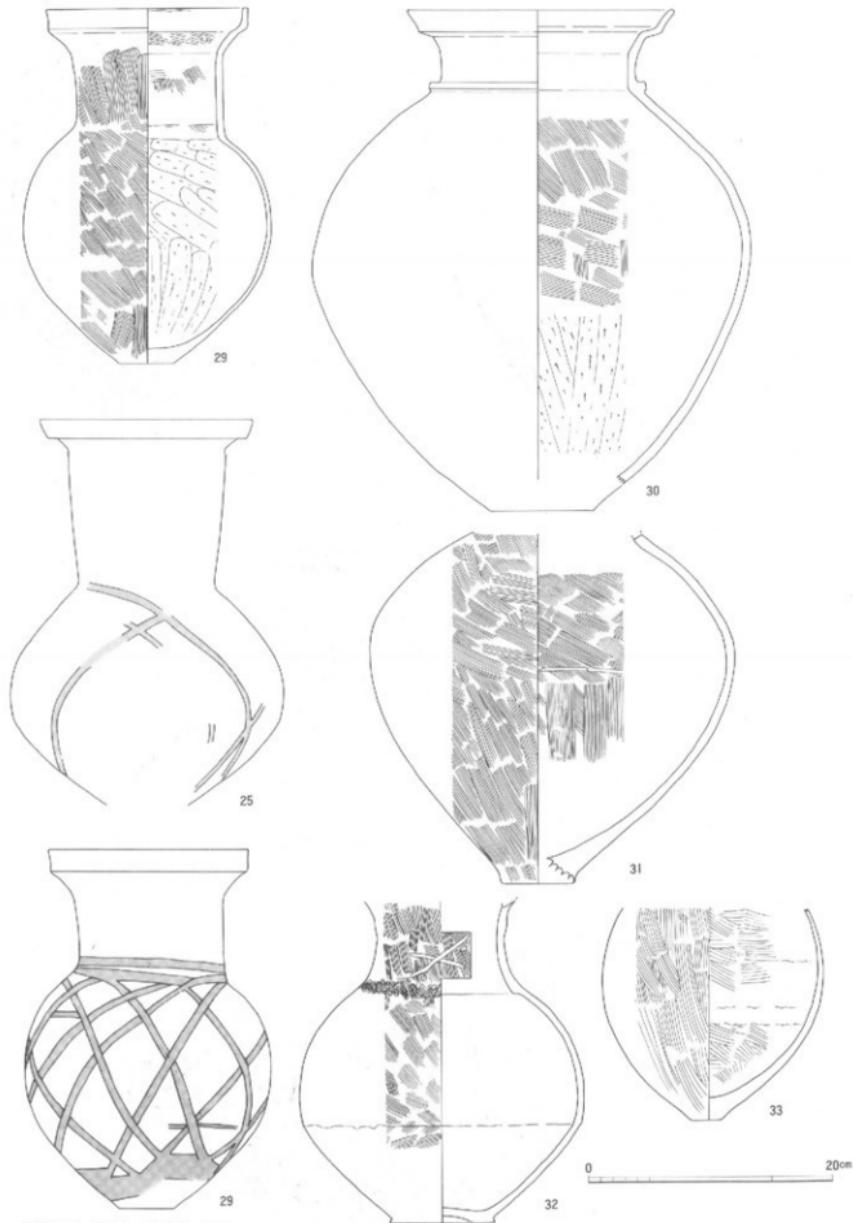
19



20



28



図版33 江上A遺跡 SD01



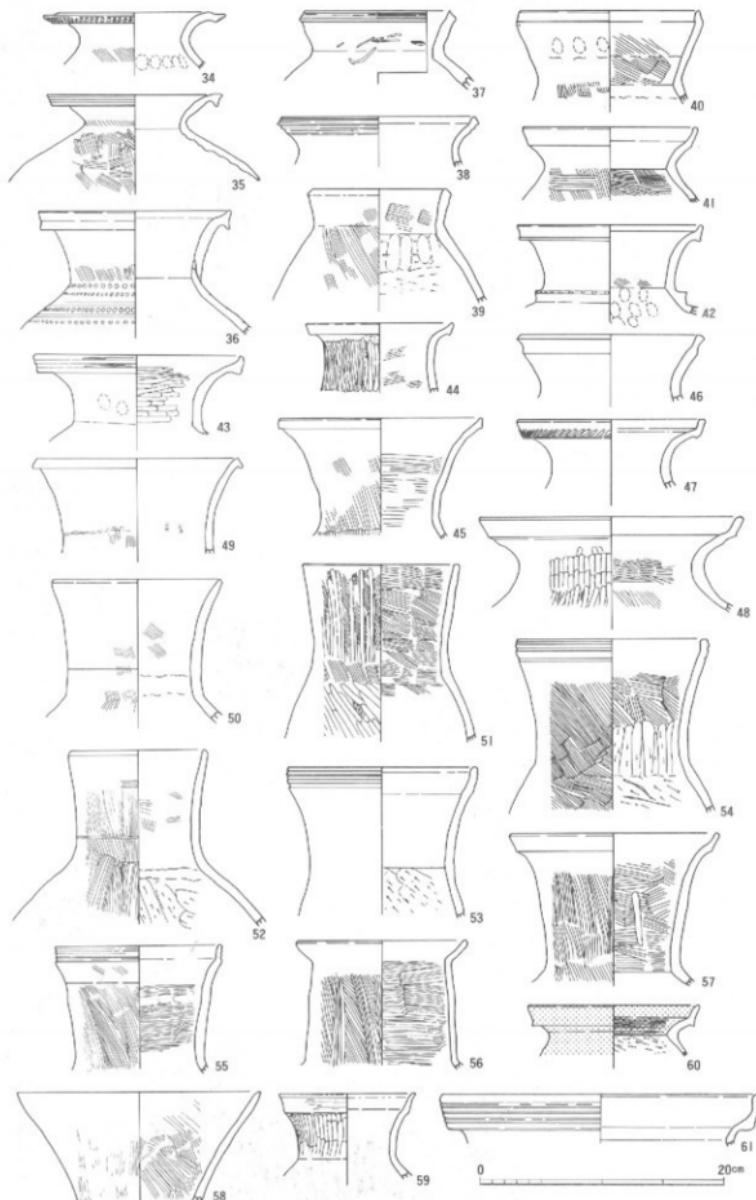
25



29



30



图版34 江上 A 遗踪 SD01



15



13



16



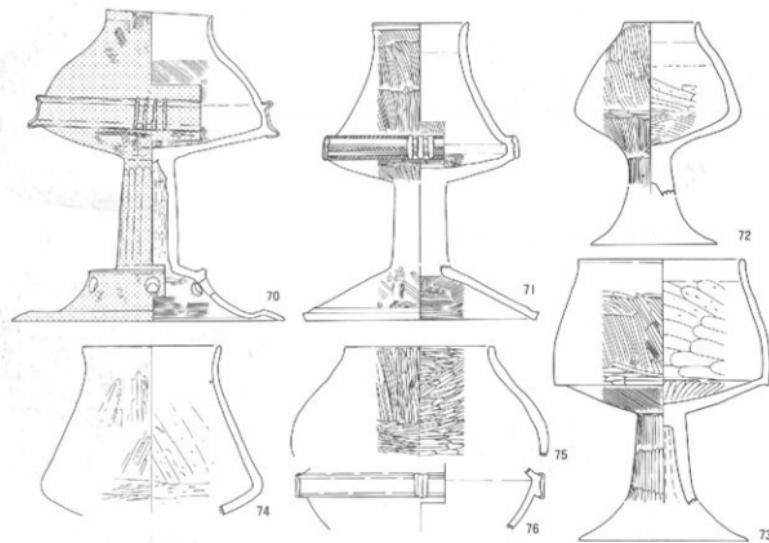
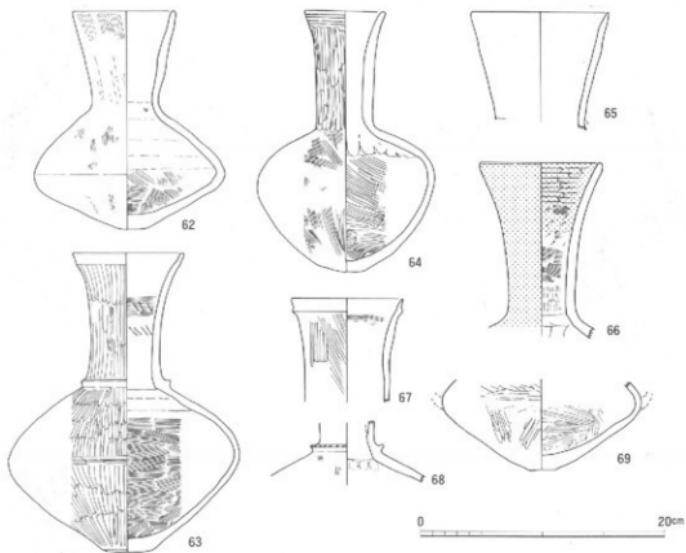
54



21



18



図版35 江上A遺跡 SD01



64



62



63



71



73



70

図版36 江上 A 遺跡



72



32



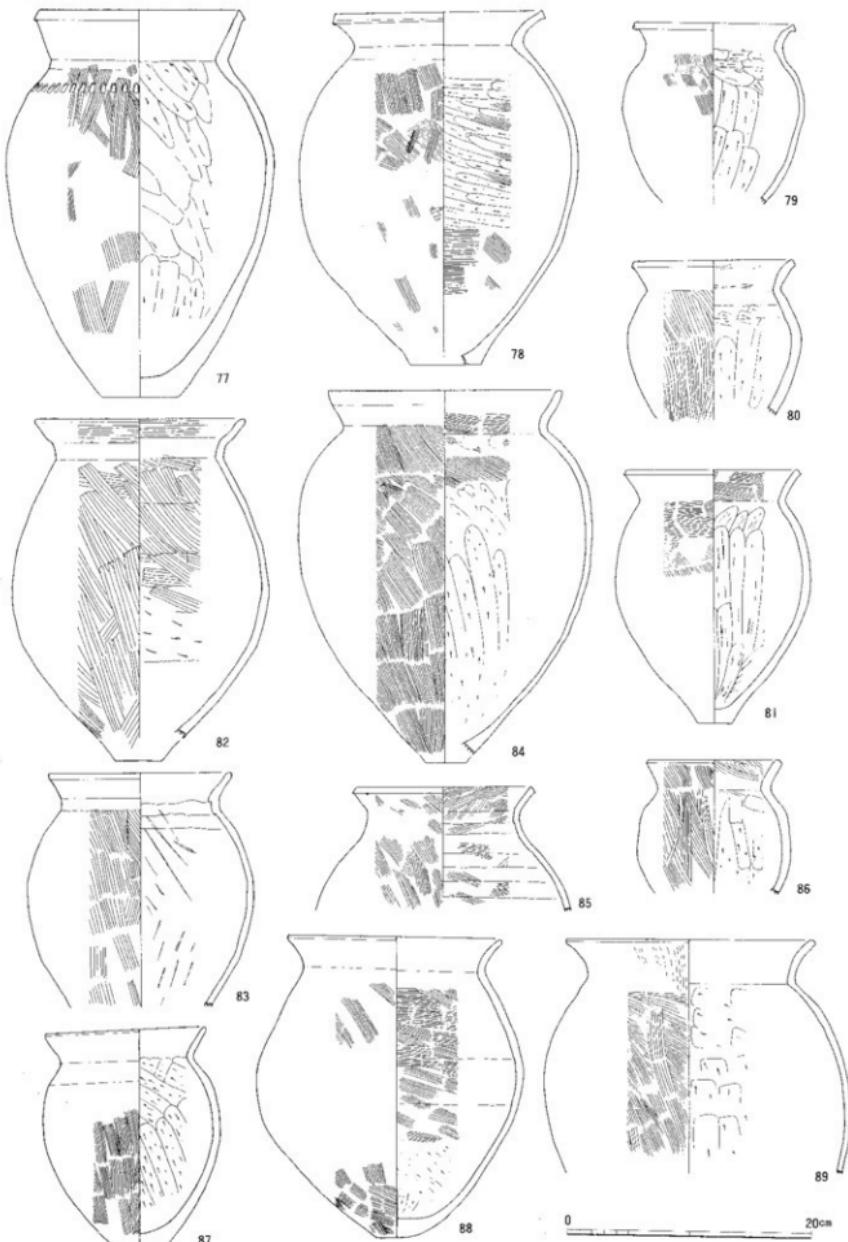
234



27



235



図版37 江上A遺跡 SD01



77



78



83



82



92



80

図版38 江上 A 遺跡



84



88



81



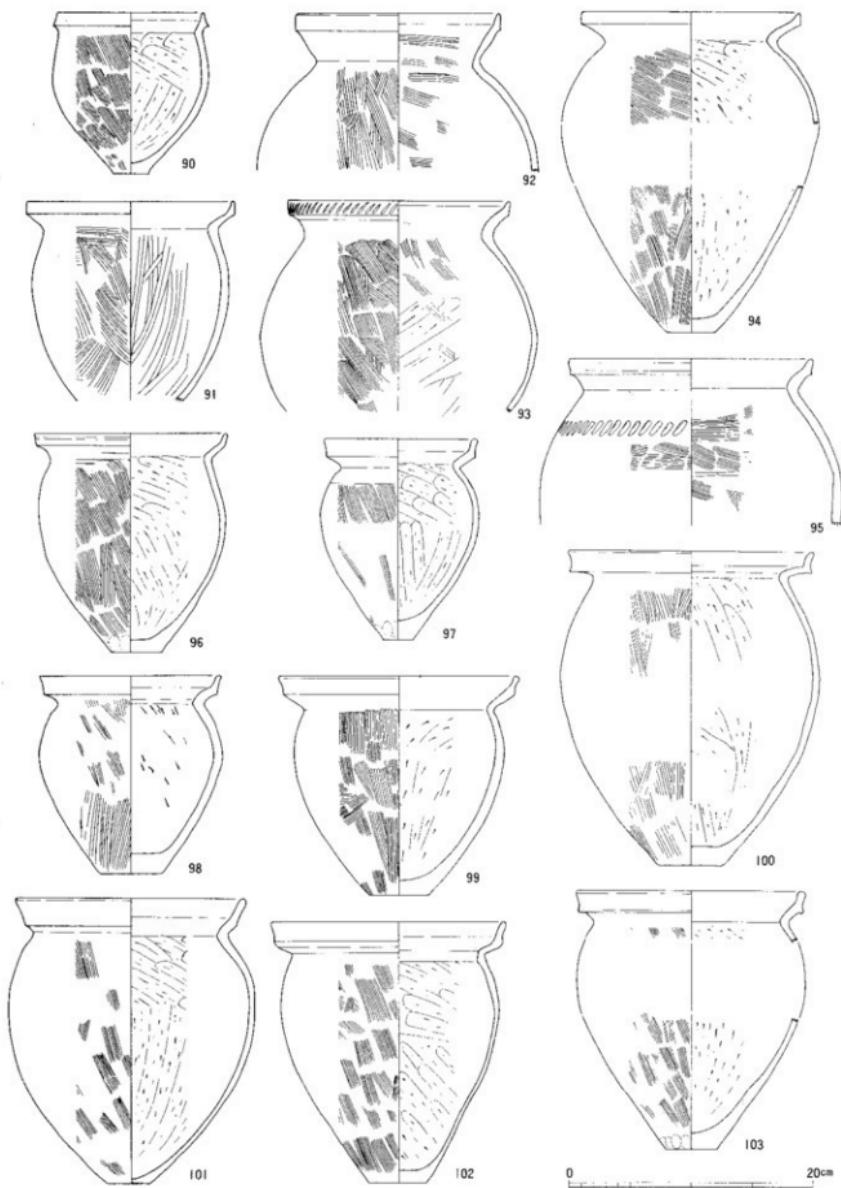
102



89



96



图版39 江上 A 遗迹 SD01